

序

東日本大震災から9年が経過した令和2年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動が続けるなど、震災に起因する課題が山積しています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の一斉臨時休業により、夏季休業期間を短縮しての授業実施や「新しい生活様式」に基づく学習活動を余儀なくされ、令和3年2月の福島県沖地震等では多くの学校において休校となるなど、通常の教育活動の実施が困難な年でもありました。

一方で、新しい時代の学びに対応するため、ICT環境の整備や研修の充実に取り組むとともに、指定する高校に地域コーディネーターを配置して地域課題探究活動の充実を図るなど、子どもたちにとってより良い教育環境の充実に努めてきたところです。

このような中、県教育委員会では、「第6次福島県総合教育計画(改定版)」及び「頑張る学校応援プラン」が最終年度を迎えることから、本プランに掲げた5つの主要施策を推進するとともに、県総合計画の進捗状況を踏まえながら、次期総合教育計画の策定に取り組んでまいりました。

さて、本教育年報は、令和2年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和4年3月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。また、敬称は省略しています。

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 令和2年度の本県教育の概要	1
2 第6次福島県総合教育計画及び 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組	1
3 新しい県立高校改革計画の概要	5
4 福島県地域学校活性化推進構想の概要	8

第2章 教育行政

第1節	教育委員会	11
	1 教育委員会	11
	2 審議事項	11
第2節	教育庁組織	14
第3節	企画調整	15
	1 教職員現職教育計画の策定	15
	2 調整事務	15
第4節	広報・広聴	16
	1 教育委員会だより	16
	2 教育年報	16
	3 福島県の教育	16
	4 ふくしま教育ニュース	16
	5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	17
	6 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	18
	7 教育フォーラム	19
	8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業	19
	9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	19
第5節	調査統計	19
	1 学校統計要覧	19
	2 地方教育費調査（一般統計）	19
	3 子供の学習費調査（一般統計）	19
	4 進路状況等に関する調査	20
第6節	教職員の給与	20
	1 諸手当関係	20
第7節	附属機関等	21
	1 福島県社会教育委員の会議	21
	2 福島県文化財保護審議会	22
第8節	市町村教育委員会	23
	1 概要	23
	2 組織	23
	3 令和2年度市町村教育委員会援助指導の概要	24
第9節	職員団体との話し合い	24
	1 福島県教職員組合	24
	2 福島県高等学校教職員組合	24
	3 福島県立高等学校教職員組合	25
	4 福島県学校事務労働組合	25
第10節	審査請求事件及び訴訟事件	25
	1 審査請求事件	25
	2 訴訟事件	25

第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	26
	1 公益法人等	26
	2 公益信託	26
第12節	表彰及び叙勲	26
	1 教育・文化関係表彰	26
	2 文部科学大臣表彰	27
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	27
第13節	奨学育英	29
	1 福島県奨学資金	29
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	29

第3章 教育財政

第1節	令和2年度決算	31
	1 歳入	31
	2 歳出	32
第2節	学校教育施設	34
	1 県立学校	34
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）	35
第3節	産業教育設備整備事業	36
	1 産業教育施設・設備の整備	36
第4節	理科教育振興法補助事業	36
	1 理科設備	36
	2 算数・数学特別設備	36
第5節	情報処理設備整備事業	36
	1 県単独事業	36
第6節	体育施設	37
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	37
	2 社会体育施設整備費補助	37

第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	39
第2節	人材の育成・活用	39

第5章 義務教育

第1節	概要	41
第2節	学校管理	41
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	41
	2 教職員人事・任用	44
	3 教育職員免許状の授与状況	44
	4 学校の設置及び統廃合	45
	5 学校防火	45
	6 へき地対策	46
第3節	学校教育	47
	1 概要	47
	2 現職教育	50
	3 教育課程	52
	4 学力向上等	53
	5 放射線教育（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）	53

6	防災教育（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）	53
7	道徳教育	54
8	特別活動	55
9	生徒指導・進路指導	55
10	幼稚園教育	55
11	へき地教育	56
12	環境教育	56
13	教科用図書	56
14	教育研究団体	58
第4節	国際化・科学技術の進展等への対応	61
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	61
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	62

第6章 高等学校教育

第1節	概要	63
第2節	学校管理	64
1	生徒数と教職員数	64
2	教職員人事・任用	69
3	学校の設置及び統廃合 - 公立高等学校の設置・廃止等(令和3年度) -	72
第3節	学校教育	73
1	概要	73
2	現職教育	81
3	教育課程	82
4	学力向上対策等	83
5	生徒指導・進路指導	84
6	学校行事	84
7	産業教育	85
8	学校訪問	85
9	県立学校学校教育指導委員	85
10	教科用図書	86
11	教育研究団体	86
第4節	文化活動の振興	88
1	文化活動の振興	88

第7章 特別支援教育

第1節	概要	91
第2節	学校管理	91
1	児童生徒数と教職員定数	91
2	特別支援学校及び特別支援学級の実態	94
3	教職員人事・任用	96
第3節	学校教育	97
1	概要	97
2	現職教育	99
3	教育課程（特別支援学校教育課程運営改善講座）	100
4	訪問教育	101
5	生徒指導・進路指導	101
6	特別活動	102
7	学校訪問	102
8	県立学校学校教育指導委員	102
9	就学指導	102

10 教科用図書	103
11 教育研究団体	103

第8章 体育・健康

第1節	概要	105
	1 学校体育の充実	105
	2 学校保健・学校安全の充実	105
	3 食育の推進	105
	4 学校給食の充実	106
第2節	表彰	106
	1 体育関係	106
	2 学校保健・学校安全関係	106
	3 学校給食関係	109
第3節	学校体育	109
	1 学校体育関係各種研修	109
	2 福島県高等学校体育連盟	110
	3 福島県中学校体育連盟	112
第4節	学校保健・学校安全	113
	1 学校保健・学校安全研修会等	113
	2 児童・生徒の健康管理費補助	113
	3 福島県学校保健会	113
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	113
第5節	学校給食	114
	1 学校給食に関する研修会	114
	2 学校給食用パン品質調査	114
	3 食育等に関する研修会等	114
	4 学校給食関係の国庫助成実績	115

第9章 社会教育

第1節	概要	117
	1 社会教育一般	117
	2 地域コミュニティの再生	117
	3 家庭教育	117
	4 青少年教育	117
	5 成人教育	117
	6 子どもの読書活動推進	117
	7 ユネスコ活動	117
	8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	117
第2節	社会教育一般	118
	1 社会教育推進体制の充実	118
	2 社会教育施設の整備充実	118
	3 社会教育関係職員の研修	118
	4 社会教育研究集会	118
	5 社会教育指導員の設置	119
	6 社会教育主事の市町村派遣	119
	7 社会教育研修会	119
	8 福島県公民館研究集会	119
	9 社会教育職員研修派遣	119
	10 出版資料	119

第3節	地域コミュニティの再生	119
	1 地域学校協働活動事業	119
	2 放課後子ども教室事業	120
	3 学校支援活動事業	120
	4 学校・家庭・地域連携サポート事業	120
	5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	121
第4節	家庭教育	121
	1 地域でつながる家庭教育応援事業	121
第5節	青少年教育	123
	1 地域学校協働本部事業	123
	2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業	124
第6節	成人教育	124
第7節	子どもの読書活動推進	124
	1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	124
第8節	ユネスコ活動	125
	1 ユネスコ協会事務局一覧	125
	2 福島県ユネスコ活動研修会	125
第9節	チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	126
	1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業	126
	2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業	126
	3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業	127
第10節	公民館等社会教育施設	127
	1 公民館を除く主な社会教育施設	127
	2 文化施設の整備充実	132
第11節	福島県立図書館	132
	1 概要	132
	2 資料の収集・整理	133
	3 館内奉仕	134
	4 館外奉仕	138
	5 図書館協力	139
第12節	福島県立美術館	140
	1 概要	140
	2 美術品の収集・保存	141
	3 展示事業	141
	4 調査研究事業	144
	5 普及事業	144
	6 施設・設備の整備	147
第13節	福島県立博物館	147
	1 概要	147
	2 資料収集事業	148
	3 保存管理事業	149
	4 展示事業	150
	5 調査研究事業	155
	6 教育普及事業	157
	7 文化財・自然資料レスキュー	163
	8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト	163
	9 ライフミュージアムネットワーク	164
	10 三の丸からプロジェクト	164
	11 歴史博物館・自然史博物館・美術館における認知症対応プログラム実践事業	165
第14節	福島県自然の家	165
	1 概要	165
	2 教育目標及び基本的視点	166
	3 新型コロナウイルスの影響	166

第15節	福島県郡山自然の家	166
	1 概要	166
	2 施設・設備の概要	167
	3 利用状況	168
	4 企画事業	168
第16節	福島県会津自然の家	170
	1 概要	170
	2 施設・設備の概要	171
	3 利用状況	172
	4 企画事業	172
第17節	福島県いわき海浜自然の家	173
	1 概要	173
	2 施設・設備の概要	175
	3 利用状況	176
	4 企画事業	176

第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	179
	1 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）	179
	2 文化財保護指導者研修会	179
	3 市町村文化財保護担当者会議	179
第2節	埋蔵文化財の保護の充実	179
	1 埋蔵文化財保護体制	179
	2 開発事業地内の保護対策	179
	3 令和2年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況	180
	4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修	180
	5 埋蔵文化財保護普及活動	180
	6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	180
	7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数	181
	8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査	181
	9 令和2年度 試掘・確認調査	182
	10 令和2年度 発掘調査	183
第3節	文化財保存助成の充実	183
	1 文化財保存助成事業	183
	2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）	184
	3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）	184
第4節	文化財の保護と公開の推進	185
	1 第62回北海道・東北ブロック民俗芸能大会	185
	2 文化財保護強調週間の実施	185
	3 文化財防火デーの実施	185
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	185
	1 登録審査委員	185
	2 登録審査会の実施状況	185
	3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況	186
第6節	福島県文化財センター白河館の運営状況	186
	1 入館者数	186
	2 入館者の内訳と傾向	186
	3 団体利用者の内訳と傾向	186
	4 情報発信事業の利用者	187
	5 資料管理業務	187
	6 研修事業の状況	187
	7 体験学習事業の状況	188

8 講演会・講習会	189
9 常設展事業	189
10 企画展事業	189
11 ボランティア運営事業	189
12 市町村への技術支援の状況	189

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節 概要	191
第2節 事業実績	191
1 教職員の健康管理	191
2 保健事業	193
3 厚生事業	194
第3節 貸付事業	196
1 共済組合	196
第4節 宿泊・保養施設	196
第5節 児童手当（特例給付を含む）	196
第6節 財産形成貯蓄制度	196

[福利給付事業]

第7節 概要	196
第8節 短期給付	197
1 共済組合	197
2 互助会	197
第9節 長期給付	198
1 恩給	198
2 退職手当	198
3 年金	199

第12章 福島県教育センター

第1節 概要	201
1 調査・研究事業	201
2 研修事業	201
3 情報教育事業	201
4 教育相談事業	201
5 教育図書・資料事業	201
第2節 調査・研究事業	202
1 調査・研究	202
2 長期研究員制度による研究	203
第3節 研修事業	203
1 研修講座の概要	203
2 研修講座	205
3 指導主事派遣等	208
第4節 情報教育事業	208
1 研修講座の概要	208
2 施設利用概況	209
第5節 教育相談	209
1 対象別	209
2 区分別	209
3 地区別来所相談件数	209

	4 月別相談件数・回数	209
第6節	教育図書・資料事業	209
	1 教育図書・教育資料の収集	209
	2 教育資料の刊行	209

第13章 福島県特別支援教育センター

第1節	概要	211
	1 教育相談事業	211
	2 教職員研修事業	211
	3 調査研究・教育研究事業	211
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	212
	5 広報・啓発事業	212
	6 情報教育事業	212
第2節	教育相談事業	212
	1 相談対象	212
	2 形態	212
	3 現状と課題	212
第3節	教職員研修事業	213
	1 教職員の研修講座	213
第4節	調査研究・教育研究事業	214
	1 調査研究	214
	2 教育研究	216
	3 長期研究員制度による研究	217
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	217
	1 教育図書・資料の収集・整理	217
第6節	広報・啓発事業	217
	1 所報「特別支援教育」(73号)	217
	2 研究紀要「第34号」	218
第7節	情報教育事業	218
	1 ICT活用支援	218
	2 情報機器活用	218
	3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実	218

第1章 教育行政の概観

1 令和2年度の本県教育の概要

東日本大震災、原子力発電所事故から9年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、富岡支援学校の双葉郡内での再開に向けて整備を進めるなど、本県教育の復興に向けて着実に取り組んだ。また、本県の教育をめぐる課題に対応するため、県立高等学校改革基本計画前期実施計画に基づく改革懇談会を開催するとともに、第二次福島県特別支援学校全体整備計画に基づく特別支援学校の整備を進めた。

このような中、県教育委員会においては、平成29年3月に策定し、令和2年3月に一部改定した教育政策の骨太の方針「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により福島県総合計画の策定が令和3年度に延期されたことを受け、その部門別計画である第7次福島県総合教育計画も策定を延期することとなった。これに伴い、切れ目なく施策を展開するための指針として、年度末には「頑張る学校応援プラン」を1年限りの取扱いとし、次期総合教育計画を見据えながら一部を改定した。

GIGA スクール構想により義務教育段階における1人1台端末の整備が進むとともに、その環境で学んだ中学生が高校に進学することを踏まえ、高校段階での個人所有端末の導入に向けた制度設計や無線LAN環境整備、モデル校での活用事例の研究等を行った。

「ふくしま創生人材育成事業」については、会津地区の県立高校2校に地域コーディネーターを配置し、人材ネットワークバンクによる地域人材活用の仕組みの構築等を進めるなど、地域課題探究活動の充実を図った。また、県立高校3校にコミュニティ・スクールを設置、更に3校への導入準備を進めるなど、福島県地域学校活性化推進構想に掲げる地域との連携・協働を進めた。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、年度当初から臨時休業が行われ、学びの保障に向けた取組の必要性が高まるとともに、一人一人の学習内容の定着度や学力の伸びを把握するための「ふくしま学力調査」が中止となるなど、大きな影響があった。

2 第6次福島県総合教育計画及び「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

(1) 第6次福島県総合教育計画

ア 基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

イ 基本目標

- 基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- 基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

基本目標3 豊かな教育環境の形成

本計画の運用に当たっては、毎年度重視する観点を定め、これに基づく事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価することとしている。平成29年度からの4年間の重視する観点を「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策とし、これらに沿った事業を重点的に推進することにより、本県教育の充実を図った。

(2) 「頑張る学校応援プラン」

ア 性質



第6次福島県総合教育計画の後半4年間の取組を加速化させるべく、教育政策の骨太の方向性と必要な主要施策を厳選して打ち出したもの。

イ 特徴

本県の教育をめぐる現状について、データによる分析を行い、本県の強みや課題を「見える化」した。

課題等に応じた有効な「手立て」として5つの主要施策を掲げ、戦略的に実行することとした。

ウ 主要施策及び対応する主な取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

- 取組1 ふくしま学力調査やリーディングスキルテストを用いた学力向上
- 取組2 「授業スタンダード」による授業力の向上
- 取組3 苦手分野の指導の充実
- 取組4 学力向上と生徒の志の育成につながる高校入試（ふくしま中高接続改革）
- 取組5 探究的な学びの推進等による学力向上（SDGsの視点も活用）
- 取組6 ICTを活用した新しい時代にふさわしい教育

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

- 取組1 学校における達成目標や特色の明確化
- 取組2 多忙化解消アクションプランの推進
- 取組3 新たな職（副校長、主幹教諭）の設置
- 取組4 同僚間で学び合うアクティブ・ラーナーとしての教員へ
- 取組5 教員研修の質の充実

主要施策3 地域と共にある学校

- 取組1 福島県地域学校活性化推進構想の推進
- 取組2 コミュニティ・スクールの導入促進
- 取組3 地域課題探究活動の推進

主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

- 取組1 元気な福島発信と震災の教訓の継承
- 取組2 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成
- 取組3 12市町村の特色ある教育(学校再開支援チーム)
- 取組4 「変革者たれ！」ふたば未来学園の中高一貫教育
- 取組5 小高産業技術高校における小高ならではの教育
- 取組6 「新」双葉地区教育構想の推進

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

- 取組1 子どもたちの心のケアの充実
- 取組2 健康長寿に向けた子どもたちの健康教育の推進
- 取組3 家庭の経済状況等に関わらない学びの環境整備
- 取組4 特別支援教育の環境の充実
- 取組5 スマートフォン・インターネットとのつきあい方

(3) 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

継続 道徳教育総合支援事業・人権教育開発事業(ピュアハートサポートプロジェクト)

大震災の経験を踏まえ、「いのち」「家族愛」「郷土愛」等について系統的に学ぶため、福島県独自の読み物資料の活用促進や、ゲストティーチャーの派遣を行った。

人権意識を培うため幅広い観点から実践的な研究を行い、指導方法等の改善及び充実を図った。

継続 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

県内各地域で活躍できる読書活動支援者を育成することにより、より良い読書環境づくりを進めた。

一部新 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

学習内容の定着度や学力の伸びの把握、学習に対する意識や生活状況を調べる「ふくしま学力調査」を実施し、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止した。

継続 「ふくしま活用力育成シート」実践事業

児童生徒の思考力・判断力・表現力等の活用力の育成状況を把握し、日々の授業改善に活用できる「ふくしま活用力育成シート」を、小学4年生から中学2年生を対象に、8月、11月の年間2回に渡りホームページに掲載した。

新規 ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト

「教科担任制」「タテ持ち」の実施による教員の指導力向上や授業の質的改善、研究協力校での読解力向上に関する指導法の確立やカリキュラムの開発に取り組むなど、教育実践拠点校(キラリ校)が、各学校の魅力化・特色化を図りながら、学力向上に向けた取組への支援を行った。

新規 オールふくしま学力向上推進事業

難関大学への進学を志望する生徒を対象とする合同学習会の開催や、各校における理数教育や思考力等を育む取組を支援することで、高校生の学力向上を推進した。

継続 未来へはばだけ！イノベーション人材育成事業

福島の復興に資する地域に根ざした新たな産業を創出する人材育成のため、「福島イノベーション・コースト構想」による児童生徒へのキャリア教育を加味した理数教育の推進を図った。

継続 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

災害や放射線に関する問題と取組について児童生徒に考えさせ、安全・安心な社会づくりに貢献する態度を育成した。

継続 ふくしまの未来を拓く産業人材育成事業

学校と受け入れ企業が連携し、「基礎的・汎用的能力」の育成により、生徒の職業観、勤労観を醸成、生徒の主体的な進路選択の能力と態度を育成した。

継続 ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業

生徒面談や講話などを通して、社会人として自立するためのサポートを行った。また、県外に避難している高卒就職希望者の帰還を支援するため、求人情報等の提供を行った。

継続 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業

医療に携わることで復興や社会に貢献したいと考える高校生の夢を実現させるため、地域医療現場の体験学習等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

新規 新時代の学校における ICT 環境研究開発事業

新学習指導要領及び新時代の学びに必要な ICT 環境の整備を進めるため、指導力向上開発校を中心に指導法の開発・検証や事例の蓄積を行った。

新規 GIGA スクール構想実現事業

県立学校に無線 LAN 環境を導入するとともに、義務教育段階の児童生徒1人1台端末の整備を行った。

継続 教育用コンピュータ整備事業

情報化教育を実践するため、県立高等学校に教育用コンピュータを整備した。

一部新 英語でつなぐ復興の架け橋支援事業

本県の復興を担うグローバルな人材を育成するため、高校の海外研修の旅費の一部を支援する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により渡航を中止した。英語プレゼンテーションコンテストは予定通り実施した。

継続 グローバル人材を育成する英語教育強化事業

生徒の資格試験受検と結果データ分析及び各種研修を行い、4技能のバランスのとれた生徒の英語力を向上させるとともに、教員の英語指導力の向上と充実を図った。

継続 語学指導等を行う外国青年招致事業

県立学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、訪問による指導を行い、生徒の英語コミュニケーション能力の向上や、国際理解の深化を図った。

継続 少人数教育推進事業

小学校、中学校において30人学級、30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

継続 学校すこやかプラン(後掲)

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

継続 学校すこやかプラン

児童生徒の現代的健康課題を解決するため、地域の保健関係機関や保護者との効果的な連携を図り、支援体制の整備充実や健康教育担当教員の資質向上に係る研修会を行った。

継続 県立学校 IT 環境整備事業

県立学校等への Microsoft Office 等の包括ライセンスの提供、令和元年度までに更新し不用になった教職員用パソコンの整理を行った。

一部新 統合型校務支援システム整備事業

情報セキュリティの向上や、調査書の電子化への対応など、学習成績を含む児童生徒の個人情報等を一元管理するシステムの運用を開始した。

継続 教職員の資質向上に向けた研修の充実

今日的な教育課題や教職員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に行い、教職員の資質向上を図った。

継続 優秀教職員による学校のチーム力向上事業

優秀教職員に表彰された教職員を対象に、研修会や先進校視察等に参加させ、個々の教員が持つ長所の更なる伸長を図るとともに、研修成果を広く普及・啓発させた。

継続 優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を挙げている教職員を表彰し、教職員の志気を高め、教育活動全体の活性化を図った。

継続 福島スクール・サポート・スタッフ事業

年度当初は小学校 87 校、年度途中からはコロナウイルス感染対策として小・中・高・特別支援学校計 576 校へスクール・サポート・スタッフを配置した。学習プリントの印刷等教員の補助業務や消毒作業等を担い、勤務時間の削減等に寄与した。

継続 部活動指導員配置促進事業

適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を推進するため、部活動指導員を中学校に 64 名、高校に 57 名を配置し、担当する教員の支援及び部活動の質的向上を図った。

継続 学校評議員制度の導入の促進

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善し、開かれた学校づくりを進めるため、学校評議員制度の導入を促進した。

継続 学校評価の充実

市町村立学校が教育活動の成果等について適切に説明責任を果たし、学校経営を改善することにより、開かれた学校づくりを進めるため、学校評価の適切な実施と効果的な活用を促進した。

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善することにより開かれた学校づくりを進めた。

継続 新任校長・副校長・教頭・主幹教諭研修会

学校管理、学習指導、生徒指導等に関する諸問題について、教職員のリーダーとして全校的視野に立つ指導力の深化を図る研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

継続 校長・教頭のためのマネジメント講座

校長及び教頭の管理職としての資質を向上させ、学校経営、運営面での体制を強化する研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により校長のためのマネジメント講座は中止した。

継続 児童生徒の体力向上推進事業（後掲）

一部新 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業（再掲）

継続 「ふくしま活用力育成シート」実践事業（再掲）

新規 ふくしまの学校キ拉里学力向上プロジェクト（再掲）

新規 オールふくしま学力向上推進事業（再掲）

継続 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業（再掲）

継続 グローバル人材を育成する英語教育強化事業（再掲）

主要施策 3 地域と共にある学校

継続 児童生徒の体力向上推進事業

小・中・高等学校の教員に対し、体育授業等における指導力向上のための研修を行った。

一部新 地域学校協働本部事業

地域の窓口となる「地域コーディネーター」の配置と学校の窓口となる地域連携担当教職員を任命し、地域と学校の連携・協働のもと、社会全体で子どもたちの成長を支える体制づくりを促進した。

継続 福島県地域学校協働本部事業

学校支援ボランティアの登録と活動のコーディネート等を進め、地域で教育を支える仕組み作りを進めた。

継続 地域でつながる家庭教育応援事業

P T A と連携して親自身が学ぶ機会を充実させたほか、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

継続 県立高校コミュニティ・スクール推進事業

導入した 3 校と導入予定の 3 校において、教職員、地域住民対象の研修会や講演会、生徒対象のワークショップを開催した。

継続 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（後掲）

継続 ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト（再掲）

継続 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト（後掲）

継続 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業（再掲）

一部新 未来へつなぐ子育て・教育充実事業（後掲）

継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業（後掲）

一部新 福島スクール・サポート・スタッフ事業（再掲）

継続 部活動指導員配置促進事業（再掲）

継続 学校評議員制度の導入の促進（再掲）

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施（再掲）

新規 ふくしま創生人材育成事業（後掲）

主要施策 4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

継続 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

子どもたちが充実した自然体験活動等を行う機会を通し、心身共に健康で豊かな人間性を育成するとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与するたくましい子どもたちの育成を図る取組を支援した。

継続 オリンピック・パラリンピック教育推進事業

各学校で、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、県全体の機運醸成を図るとともに、スポーツの価値や国際・異文化の理解等の多面的な教育を通じて児童生徒の育成を図った。

継続 福島イノベーション人材育成支援事業

福島イノベーション・コースト構想推進機構に委託し、対象校と企業・大学等との連絡調整や課題等に対する相談・助言、成果発表会、生徒間交流会を実施した。

継続 福島イノベーション人材育成実践事業

構想を担う人材育成のため、新たな教育プログラムの実施に必要な環境を整備し、大学や企業、自治体と連携し、魅力あるプログラムを実践した。

継続 福島イノベーション人材育成広域連携事業

浜通り地区に限らず、県内全域において構想に関わる企業等と専門高校が連携し、産業人材の育成を組織的に展開した。

継続 福島未来の農業者GAP教育実践事業

農業に誇りと自信を持ち、国際的に通用する人材育成のため、農業高校生が、GAP等の先進的な取り組みをしている県内の農業高校生との交流や県外での農産物販売会等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止した。

新規 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

ふたば未来学園高校が企業や大学等と連携し、地域の課題解決に向けた探究活動と海外研修を体系的に位置づけた質の高いカリキュラムの開発・実践に取り組んだ。

継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて国際社会に貢献できるグローバル人材の育成等を図るため、スポーツ交流事業や国際理解事業に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止した。

一部新 福島を十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からの更なる復興などを綴った十七音の作品を募集し、県内外に広く発信した。

継続 ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業

ふたば未来学園中学校・高等学校の施設を整備し、生徒の学習環境や生活環境の確保を図った。

一部新 ふたば未来学園運営管理事業

ふたば未来学園高等学校の寮及び食堂の施設を運営するための事業を行った。

継続 小高統合高等学校教育環境整備事業

小高産業技術高校の通学バスを運行し、通学時における安全、安心を確保した。

継続 福島県教育復興推進事業

「ふるさと創造学」を始めとする双葉郡8町村の小中学校での教育活動を、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局と連携し支援した。ふたば未来学園中学校・高校及び南相馬地域高校において、外部講師の招へい、講演会や研修授業、フィールドワーク等の教育活動を支援した。

継続 福島県教育復興推進事業（避難地域12市町村における小中学校教育等復興推進事業）

避難地域12市町村において、魅力ある学校づくりのために必要な教職員研修等を実施した。

新規 福島創生人材育成事業

全県立高校で地域課題探究活動を推進するため、ふくしま創生サミットや社会貢献活動コンテストを開催した。また、モデル事業として、会津地区の拠点校2校に「地域コーディネーター」を配置し、該当校の探究学習を充実させたほか、県立高校22校を指定し特色ある様々な教育活動を支援した。

継続 学校改革推進事業

高校の統合、募集停止等に係る関係者からの意見を聴く機会とするための懇談会を開催したほか、中高一貫教育を推進するための協議会の開催、交流授業や地域理解教育等を行った。

継続 道徳教育総合支援事業（ピュアハートサポートプロジェクト）（再掲）

継続 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業（再掲）

継続 福島未来を医療で担う夢応援事業（再掲）

一部新 英語でつなぐ復興の架け橋支援事業（再掲）

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

継続 不登校・いじめ等対策総合推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

東日本大震災・原発事故以降、不登校等生徒指導上の諸課題やいじめ等の問題行動の原因が複合化・多様化しており、学校と関係機関が連携・協力できる体制を整え、効果的な援助体制の充実を図った。

継続 教育相談推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣、24時間電話相談体制の整備など、子どもたちの心や生活のケアに当たった。

継続 スクールカウンセラー活用事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

大震災で被災した高校生等の心のケアや、生徒指導の諸課題の未然防止と的確な対応、SNSを活用した相談体制の整備などを行った。また、震災の影響で安定した生活環境や学習環境を取り戻せていない生徒に対して、心のサポートに資する学習支援を実施した。

継続 福島未来キッズワクワクプロジェクト

自然の家においてアスレチック等の様々な体験活動を楽しめる事業を開催し、自然体験や体を動かすことの魅力を伝え、運動不足解消や体力増進につなげた。

継続 福島っ子体力向上総合プロジェクト

震災後の子どもたちの体力低下や肥満傾向児出現率の増加などの健康課題を解決するため、自分手帳の活用や体育専門アドバイザー、栄養教諭等の派遣により、運動能力の向上や食育等による健康増進に向けた取組を行った。

一部新 福島から はじめよう。元気な福島っ子食環境整備事業

元気な福島っ子を育むため、関係部局等と連携して、学校、家庭、地域が一体となった食育推進体制を整備した。

一部新 未来へつなぐ子育て・教育充実事業

特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制構築のため、小・中学校等や関係機関との連携強化を図りながら養育や教育に関する相談体制の充実を図った。

継続 身体に障がいのある生徒に対する支援事業

肢体不自由等の重度の障がいのある生徒が在籍する高等学校に対し、介助員を配置した。

継続 高等学校学習支援推進事業

学習の遅れや東日本大震災による環境の変化への不応等が見られる発達障がい等のある生徒が多く在籍する高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた手厚い学習支援を行った。

継続 特別支援学校における医療的ケア実施事業

障がいの重度・重複化に伴い医療的ケアを必要とする児童生徒等が、健康で安全・安心な学校生活を送ることができるよう医療的ケアを実施し、保護者の負担を軽減した。

継続 教員研修の充実

特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、特別支援教育コーディネーター等の教員を対象に、より専門的な研修を実施し、指導力の向上を図った。

継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業

特別支援学校高等部に在籍する生徒の自立と社会参加を促すため、「特別支援学校作業技能大会」を開催した。

継続 夜間中学調査・研究事業

義務教育未了者の就学機会、不登校等で通学できなかった既卒者への学びなおしの機会、外国籍の方への就学機会の確保のため、設置を目的とした調査研究を行った。

継続 大規模改造事業

老朽化が進んでいる県立学校・特別支援学校の校舎等の大規模改修、天井等の落下防止対策を行った。

継続 県有施設維持補修事業

施設の老朽化により、正常な運営に著しい支障が生じている施設の補修改修を行った。

一部新 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災による被災や、原子力発電所の事故により避難している児童生徒、及び台風19号により被災した児童生徒等に就学支援等を行った。

継続 高校等奨学資金貸付事業

経済的理由により就学困難と認められる高校生等に奨学資金の貸与を行った。

継続 大学等奨学資金貸付事業

経済的理由や東日本大震災の被災により就学困難と認められる大学生等に奨学資金の貸与を行った。また、大学等へ入学しようとする生徒へ入学一時金の貸与を行った。

継続 高校等奨学資金給付事業

低所得世帯の高校生等の授業料以外の教育費負担を軽減するため、奨学資金を給付した。

継続 特別支援学校特別支援教育就学奨励費

特別支援学校に就学する幼児児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じて必要な費

用を交付した。

継続 県立学校空調設備整備事業

児童生徒の健康管理や安全を確保するため、熱中症対策として県立学校のエアコンを整備した。

継続 学校給食安全・安心対策推進事業

学校給食の食材に対する保護者等の不安を軽減し、学校給食の一層の安全・安心を確保するため、放射性物質検査を実施した。

継続 聴覚支援学校寄宿舎整備事業

生徒の安全安心な住環境を確保するため、建物の老朽化が著しい聴覚支援学校寄宿舎の改築を行った。

一部新 特別支援学校整備事業

特別支援学校への入学希望者の増加による教室の過密化や遠距離通学による負担軽減を図るため、学校や分校を設置し、教育環境の充実を図った。

一部新 県立特別支援学校学習環境整備事業

特別支援学校の学習環境整備のため、新たな施設の供用開始に伴う物品の整備、老朽化した遊具の撤去・更新を行った。

継続 復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災で被災した児童生徒に対し、日常的な心のケアやきめ細かな学習支援をするための教員を配置した。

継続 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（後掲）

継続 地域学校協働本部事業（再掲）

3 新しい県立高校改革計画の概要

これまで県教育委員会では、1997年（平成9年）6月に「県立高等学校改革計画第一次まとめ」（以下、「一次まとめ」という。）、1999年（平成11年）3月に「県立高等学校改革計画第二次まとめ」（以下、「二次まとめ」という。）を策定し、すべての県立高等学校における男女共学化や学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、新しいタイプの定時制単位制高等学校の配置などの取組を進めてきた。

「一次まとめ」及び「二次まとめ」が策定された後も、グローバル化や高度情報化が進展し、産業構造や就業構造の変化等が急速に進む中で、高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、キャリア教育の充実、地域との連携の一層の推進などが求められてきた。

さらに、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災及び原子力災害などにより、児童生徒数の減少が震災前の予測を大きく上回り、今後10年間で中学校卒業見込者は約5,300人減少することが見込まれており、教育を取り巻く様々な状況は、「二次まとめ」の策定時から大きく、急激に変化している。そこで、今後の急激な社会情勢の変化も考慮しながら長期的な改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進する必要性が生じてきた。

このような中、県教育委員会は、福島県学校教育審議会に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、部会を含めて10回にわたる審議の後、2017年（平成29年）6月に答申を受けた。この答申を踏まえ、県教育委員会では、県立

高等学校改革を着実に推進するために、「一次まとめ」及び「二次まとめ」の取組・現状や成果・課題を土台として、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す基本計画（長期計画）を2018年（平成30年）5月に策定し、併せて、再編整備の具体的な対象校名を含む前半5年間の実施計画（短期計画）を2019年（平成31年）2月に策定した。

(1) 県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）

ア 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」

イ 計画の概要

上記の理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとし、そのために、各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進することを目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとした。

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進
- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進
- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

(2) 県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）

ア 県立高等学校改革前期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画を実効的、計画的に推進し、計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む前期5年間の方向性を示したものである。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮した。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととした。

イ 計画の概要

○本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案
以下の再編整備案を公表した。

【統合】25の対象校に係る12の統合案

梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・塙工業（併せて修明高校への農業科の集約）、喜多方・喜多方東、耶麻農業・会津農林、大沼・坂下、田島・南会津、湯本・遠野、小名浜・いわき海星、相馬東・新地、保原（定時制）・福島中央

【分校の募集停止】2校の募集停止案

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
川俣、湖南、猪苗代、西会津、川口、只見（湖南、西会津、川口は平成30年度に先行実施）
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、すべての県立高校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」

「地域協働推進校」「職業教育推進校」「定時制・通信制高校」の6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開できるよう、前期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。

(3) 中高一貫教育後期実施計画

ア 中高一貫教育後期実施計画策定の趣旨

中高一貫教育は、中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うことにより、生徒一人一人の能力・適性、幅広い年齢集団の中での様々な活動により社会性や豊かな人間性を育てていくとともに、学校選択の幅を拡大することを目指して、1999年（平成11年）4月に制度化された。

本県においては、福島県学校教育審議会答申（2001年（平成13年）12月）及び第5次福島県長期総合教育計画（2001年（平成13年）3月）に基づき、本県の教育目標を達成するための施策のひとつである「学びの環境づくり」の一環として、中高一貫教育の導入にかかる基本的な考え方や、中高一貫教育校の形態、配置計画等を示すものとして、2003年（平成15年）3月に「中高一貫教育実施計画」（以下「前期実施計画」という。）を策定した。

前期実施計画に基づき、中高一貫教育校の配置については、広い県土を持つ本県において、児童、生徒、保護者が希望に応じて選択することができるよう配慮し、第5次福島県長期総合教育計画の目標年次である2010年度（平成22年度）までの期間を前期とし、併設型中高一貫教育校として会津学鳳高等学校に併設中学校を開設したほか、連携型中高一貫教育校を東白川郡塙町（塙工業高等学校）、南会津郡南会津町（田島高等学校）、相馬市（相馬東高等学校）に配置した。前期実施計画の期間後、東日本大震災・原子力災害等の影響により後期実施計画の策定は中断していたが、震災等の発生に伴う復興・再生に向けた取組を進めていく中、ふたば未来学園高等学校及び併設中学校を開設するとともに、県内4地区において連携型中高一貫教育を推進してきた。

このような中、県教育委員会は、「6年間を通した計画的・継続的な教育をより魅力的・効果的に展開する特色ある中高一貫教育に関する取組を充実するべきである」との、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を受け、2018年（平成30年）5月に策定した「県立高等学校改革基本計画」の基本方針及び2019年（平成31年）2月に策定した「県立高等学校改革前期実施計画」に基づき、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、改めて本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方角性を示すものとして、「中高一貫教育後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を策定した。

イ 中高一貫教育に関する基本的な考え方

- (ア) 後期実施計画の策定に当たっては、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を尊重し、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019年（平成31年）2月）等との整合性を図る。
- (イ) これまでの中高一貫教育校での取組を踏まえ、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな中高一貫教育校を検討する。
- (ウ) 新たな中高一貫教育の実施形態の選択に当たっては、中高一貫教育校の教育理念や地域の実情等を考慮して柔軟に対応する。
- (エ) 連携型中高一貫教育校については、県立高等学校改革の動向等を踏まえながら、より良い在り方について引き続き検討する。
- (オ) 中高一貫教育については、本県の未来を担う人材育成の観点から、その在り方について引き続き検討していく。

ウ 計画期間

計画期間は、2018年（平成30年）に策定した「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」に合わせて、2019年度（令和元年度）から2028年度（令和10年度）までとする。

エ 配置計画

○ 新たな併設型中高一貫教育校の設置

新たな併設型中高一貫教育校を設置するに当たっては、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応する必要があり、難関大学への進学実績が豊富である高等学校へ併設することが重要である。また、公共交通機関の利便性の良さにより児童生徒の志願がより広範囲から可能であることや、施設整備が可能となる敷地面積を有することなどの点を踏まえる。

さらに、これまで併設型中高一貫教育校を会津と浜通りに配置しており、地域のバランスを踏まえ、今後、全県的な中高一貫教育を展開するためには、中通りへの設置が必須である。以上のことを総合的に判断し、県立高等学校改革に取り組んでいる現状に鑑み、既設の安積高等学校に県立中学校を2025年度（令和7年度）（予定）に併設することとする。

併設中学校は、安積高等学校の同一敷地内に設置することとし、6年間を見通した教育課程に基づく教育活動などを適切に展開するために必要な施設、設備等を整備する。また、募集定員については、一定の人数を確保しつつ、周辺の市町村立中学校への影響を踏まえ、1学級30名の2学級編制とし、通学区域を県下一円とする。

接続する高等学校は、将来の多様な大学への進路希望に対応が可能となるよう、単位制による「普通科」とし、併設中学校と同様に通学区域を県下一円とする。

これらを踏まえ、以下のとおり設置することとした。

(仮称) 福島県立安積中学校・高等学校

- ・ 開校(予定) 2025年度（令和7年度）

- ・ 設置場所 福島県立安積高等学校（郡山市）
- ・ 生徒募集定員 中学校 60 名（2 学級）
- ・ 通学区域 県下一円

○ 連携型中高一貫教育校

これまで東白川郡塙町、南会津郡南会津町、相馬市及び双葉郡に配置していた連携型中高一貫教育校については、以下の点を踏まえるとともに、「県立高等学校改革前期実施計画」の再編整備の状況を踏まえ、連携の新たな仕組みづくりを進め、連携先の中学校の拡充を図ることとした。

- ・ 中学校及び高等学校の連携の柱となる特色ある教育活動を展開するために活用可能な地域の自然環境等の教育資源の状況。
- ・ 対象となる高等学校の教育課程や学科の特色。
- ・ 中学校・高等学校双方において生徒、教員の人的交流等による連携活動をより緊密に行うための中学校と高等学校の立地状況。
- ・ 各中学校から対象となる高等学校への入学者数の状況。
- ・ 地域バランス等。

4 福島県地域学校活性化推進構想の概要

少子化や過疎化、核家族化などが進行し、地域コミュニティの希薄化や分断により、地域や家庭の教育力が低下しており、東日本大震災及び原子力発電所事故の影響がこれらに拍車をかける状況となっている。このような中、地域が学校を支援するという従来の一方向の関係だけでなく、学校も地域に貢献していくことで、地域と学校が強固なパートナーシップを構築し、社会に開かれた教育課程を実施しながら、地域づくりと一体となった社会総がかりによる教育の実現を目指すために、「福島県地域学校活性化推進構想」を平成31年2月に策定した。令和2年度から、県立高校3校（湖南高校、西会津高校、川口高校）へコミュニティ・スクールを導入するとともに、会津地区の県立高校2校に地域コーディネーターを配置するなど、地域と学校の連携・協働を推進した。

(1) 構想が目指すもの

- ・ 地域の大人と子どもが交流する場を意図的に設け、子どもの社会性や郷土愛などを育むとともに、大人も子どもから学び、互いに育ち合うことのできる体制を構築する。
- ・ 体験活動などで地域が学校を支援し、ボランティア活動などで学校も地域に貢献する、双方向で連携・協働する活動を通して、学校教育の充実と併せて学校を核とした地域の活性化を推進する。
- ・ 教科書だけでなく、ふるさと学習や地域を学びのフィールドとした探究活動など、地域と連携した教科横断的な学習を取り入れながら、社会に開かれた教育課程を編成する。
- ・ 障がいのあるなしに関わらず、地域で安心して子どもたちが学び、保護者が子どもを育てることができる環境の実現を図る。

(2) 構想を進めるための4本柱（12の方策）

ア 地域に根ざした学校運営

(7) 学校評議員制度の活用

学校外の地域住民等を構成員とする学校評議員制度を活用し、保護者や地域の意向を把握し、協力を得ることで地域に根ざした教育活動を推進する。

(4) コミュニティ・スクールの導入促進

学校や地域の実状に応じて地域住民等が構成員の学校運営協議会を設置し、地域と一体となった学校づくりを進める。県立学校へのコミュニティ・スクールの導入を進める。

(7) 学校を核とした地域との連携

副校長や主幹教諭の設置、地域住民のスクール・サポート・スタッフや部活動指導員への就任で、学校の組織体制を強化し、地域との連携の強化による地域ぐるみの教育体制を構築する。

イ 地域と学校の協働活動

(7) 地域学校協働活動の推進

県内8つの市町村で実施している地域学校協働活動を、フォーラムの開催などで発信し、県内全域に普及する。

(4) 地域コーディネーターの機能充実

地域側の窓口として地域コーディネーターの配置を促進し、地域と学校の協働活動を効率的に展開する。

(7) 地域連携担当教職員の任命

学校側の窓口となる地域連携担当教職員を2019年度からすべての公立学校において任命し、学校の組織体制の整備、担当者の研修を実施する。

ウ 地域の課題解決に向けた創造的復興教育

(7) 地域課題探究活動の推進

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を図り、「総合的な探究の時間」等において、地域が抱える課題等をテーマに課題解決型学習を県立高等学校で実施する。

(4) 地域との連携による県立高等学校の特色化

教科横断的な教育課程の編成、生徒会活動や部活動における地域との連携等、県立高等学校改革に合わせた学校の特色化を進め、魅力ある県立高等学校づくりを地域と連携しながら進める。

(7) 福島県地域学校協働本部によるマッチング

学校と地域が双方向で連携・協働するためのマッチング調整を行う「福島県地域学校協働本部」の仕組みを新たに構築し、地域課題探究活動や地域学校協働活動の充実を図る。各地方振興局の協力を得ながら調整し、創造的復興教育を進める。

エ 地域で共に学び、共に生きる特別支援教育

(7) インクルーシブ教育システムの推進

障がいのある子ども一人一人のニーズに応じた指導の充実を図り、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムを進める。

(4) 地域支援センターによる切れ目のない支援

2018年度から全ての県立特別支援学校に地域支援センターを設置して、障がいのある子どもに対する就学前から卒業後までの切れ目のない支援体制を構築し、学校種間、市町村や関係機関との連携を支援する。

(7) 地域との連携による自立と社会参加の促進

特別支援教育体制促進協議会の活性化や企業と連携した実習の充実、作業技能大会の開催等、障がいのある子どもたちの地域における自立と社会参加の促進を支援する。

(3) 構想を進める体制

・ **福島県地域学校活性化推進会議**

構想の理念を共有し、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら構想を推進するため、教育委員会を始めとする地域の多様な関係機関の代表者が、構想の推進に向けた意見交換等を行うための組織。

・ **地域と学校の活性化推進会議**

構想の進捗状況の確認や構想の推進のための意見交換等を行うための会議。

第2章 教育行政

第1節 教育委員会

1 教育委員会

令和2年10月19日付けで大村雅恵氏が蜂須賀禮子委員の後任として、成澤勝蔵氏が岩本光正委員の後任として教育委員に任命された。

また、同日付けで教育長職務代理者に浅川なおみ委員が指名された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
教育長	鈴木 淳一	平成31年 4月1日 (2期目)		福島市
委員 教育長職務代理者 (R2.10.19~)	浅川 なおみ	平成31年 4月1日 (2期目)	ピアノ 教室 主宰	白河市
委員	成澤 勝蔵	令和2年 10月19日	自営業	会津若松市
委員	吉津 健三	令和元年 12月27日	弁護士	郡山市
委員	正木 好男	平成29年 12月24日	会社 顧問	いわき市
委員	大村 雅恵	令和2年 10月19日	代表 取締役 社長	福島市
委員 教育長職務代理者 (R1.12.27 ~R2.10.18)	蜂須賀 禮子	平成28年 10月19日 (2期目) ※令和2年10 月18日まで	生花 販売	大熊町
委員	岩本 光正	平成28年 10月19日 ※令和2年10 月18日まで	会社 取締役	会津美里町

2 審議事項

4月定例会

開催取り止め

5月定例会(R2.5.22)

○ 審議事項

- (1) 福島県社会教育委員の任命について
- (2) 福島県いじめ問題対策委員会委員の委嘱について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について

- (6) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (7) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 令和3年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
- (2) 訓告処分等について

6月定例会(R2.6.19)

○ 審議事項

- (1) 令和2年度6月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (2) 工事請負契約案について
- (3) 工事請負契約の一部変更案について
- (4) 令和3年度使用教科用図書調査研究資料について
- (5) 令和2年度市町村公立学校長の人事について
- (6) 教育職員免許状の取上げについて
- (7) 教職員の懲戒処分に関する基準について

○ 報告事項

- (1) 令和3年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項の変更について
- (2) 訓告処分等について

7月定例会(R2.7.10)

○ 審議事項

- (1) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

8月定例会(R2.8.21)

○ 審議事項

- (1) 令和元年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
- (2) 令和3年度福島県立中学校入学者選抜について
- (3) 令和3年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (4) 令和3年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (5) 令和3年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
- (6) 令和3年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の教科用図書の採択について
- (7) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (10) 教科用図書採択地区を設定した件の一部改正について

○ 報告事項

- (1) 令和3年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項の変更について
- (2) 訓告処分等について

9月定例会(R2.9.14)

- 審議事項
 - (1) 福島県立美術館運営協議会委員の任免について
 - (2) 令和2年度福島県指定重要文化財の指定に係る諮問について
 - (3) 令和2年度9月補正予算案（教育委員会関係部分）について
 - (4) 工事請負契約案について
 - (5) 工事請負契約案について
 - (6) 令和2年度教育・文化関係表彰について
 - (7) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (8) 令和3年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び令和3年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

10月定例会(R2.10.16)

- 審議事項
 - (1) 令和3年度福島県立学校生徒募集定員について
 - (2) 教職員の懲戒処分について
 - (3) 教職員の懲戒処分について
 - (4) 令和3年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
 - (5) 令和3年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について
 - (6) 令和2年度教育・文化関係表彰について
 - (7) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (8) 処分取消請求訴訟について
- 報告事項
 - (1) 県立学校のGIGAスクール構想に係る補助金の申請状況について
 - (2) 訓告処分等について

11月定例会(R2.11.27)

- 審議事項
 - (1) 福島県教育委員会における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部を改正する規則について
 - (2) 令和2年度12月補正予算案（教育委員会関係部分）について
 - (3) 公の施設の指定管理者の指定案について
 - (4) 教育職員免許状の取上げについて
 - (5) 令和2年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
 - (6) 令和2年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

12月定例会(R2.12.25)

- 審議事項
 - (1) 福島県教育委員会に係る福島県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律施行条例施行規則の一部を改正する規則について
 - (2) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
 - (3) 「令和3年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針」の新型コロナウイルス感染症に係る特例措置の改定について
 - (4) 福島県立美術館運営協議会委員の任命について
 - (5) 教職員の懲戒処分について
 - (6) 教職員の懲戒処分について
 - (7) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (8) 退職手当の支給制限について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について
- 協議事項
 - (1) 県立高等学校改革計画における令和4年度統合校について

1月定例会(R3.1.22)

- 審議事項
 - (1) 令和3年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
 - (2) 令和3年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
 - (3) 令和2年度教育・文化関係表彰について
- 報告事項
 - (1) 令和3年度人事異動（教員系）について
 - (2) 訓告処分等について

2月定例会(R3.2.5)

- 審議事項
 - (1) 福島県立学校に勤務する教育職員が業務を行う時間の上限に関する規則について
 - (2) 福島県自然の家条例の一部を改正する条例の福島県会津自然の家に係る施行期日を定める規則について
 - (3) 福島県自然の家条例施行規則を廃止する規則について
 - (4) 福島県郡山自然の家及び福島県いわき海浜自然の家に係る福島県自然の家条例施行規則の一部を改正する規則について
 - (5) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
 - (6) 福島県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
 - (7) 令和3年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
 - (8) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
 - (9) 福島県教育関係職員定数条例等の一部を改正する条例案について
 - (10) 工事請負契約の一部変更案について

- 報告事項
 - (1) 教職員多忙化解消アクションプランについて
 - (2) 訓告処分等について

- 協議事項
 - (1) 令和3年度人事異動（教員系）について

臨時会 (R3. 2. 25)

- 審議事項
 - (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (2) 令和3年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長（教員系）の人事について
 - (3) 令和3年度市町村公立学校長の人事について
 - (4) 令和3年度県立学校長の人事について
- 報告事項
 - (1) 令和3年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
 - (2) 令和3年度市町村公立学校副校長及び教頭の人事について
 - (3) 令和3年度県立学校副校長及び教頭の人事について
 - (4) 令和4年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

3月定例会 (R3. 3. 22)

- 審議事項
 - (1) 頑張る学校応援プランについて
 - (2) 福島県指定重要文化財の指定について
 - (3) 福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する規則等の一部を改正する規則について
 - (4) 福島県教育関係職員倫理規則の一部を改正する規則について
 - (5) 福島県水産高等学校練習船設置規則の一部を改正する規則について
 - (6) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
 - (7) 福島県自然の家組織規則を廃止する規則について
 - (8) 福島県立図書館利用規則の一部を改正する規則について
 - (9) 博物館法施行細則の一部を改正する規則について
 - (10) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
 - (11) 福島県立博物館運営協議会委員の任命について
 - (12) 教職員の懲戒処分について
 - (13) 教職員の懲戒処分について
 - (14) 教職員の懲戒処分について
 - (15) 福島県文化財保護審議会委員の委嘱について
 - (16) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (17) 教科用図書選定審議会委員の任命について
 - (18) 令和3年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長の人事について

- (19) 令和3年度市町村公立学校長の人事について
- (20) 令和3年度県立学校長の人事について
- (21) 令和2年度教育・文化関係表彰について

- 報告事項
 - (1) 令和3年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
 - (2) 令和3年度市町村公立学校教職員の人事について
 - (3) 令和3年度県立学校教職員の人事について
 - (4) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

政策監 本田 伸雄
 教育次長（業務） 鈴木 芳人
 県立高校改革監 白石 孝之
 教育庁参事（人事・企画） 上楯 治男

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長 庁主幹兼副課長 庁企画主幹兼副課長	高瀬 智美 工藤 宇裕 田母神 賢一
財務課	課長 主幹兼副課長	青木 浩司 長島 和則
施設財産室	室長 主幹	渡邊 昌明 佐藤 信夫
職員課	課長 主幹兼副課長 主幹	奥寺 洋暁 原田 大輔 菅野 与彦
福利課	課長 主幹兼副課長	穂積 由勝 高橋 篤
社会教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	鈴木 基之 新井 里美 大和田 康夫
文化財課	課長	本田 智枝
義務教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	福地 裕之 情野 貴之 鈴木 正和 西牧 泰彦
高校教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	丹野 純一 武藤 正久 近東 昇 箱崎 兼一
県立高校改革室	室長	小林 寿宣
特別支援教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	郷家 俊哉 赤坂 剛 柳沼 徹
健康教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	佐藤 文男 坂詰 康 佐藤 隆宏

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 長谷川浩文 次長（総） 佐藤裕一郎 次長（業） 丹治 光夫	総務社会教育（兼） 佐藤裕一郎 学校教育（兼） 丹治 光夫
県中	所長 石幡 良子 次長（総） 柳沼 正一 次長（業） 富岡 信	総務社会教育（兼） 柳沼 正一 学校教育（兼） 富岡 信
県南	所長 板橋 竜男 次長（総） 固山 博之 次長（業） 菊池 淳一	総務社会教育（兼） 固山 博之 学校教育（兼） 菊池 淳一
会津	所長 横山 修 次長（総） 曳地 敏治 次長（業） 渡部 朋史	総務社会教育（兼） 曳地 敏治 学校教育（兼） 渡部 朋史
南会津	所長 埴 広治 次長（総） 鈴木 康德 次長（業） 栗木 孝直	総務社会教育（兼） 鈴木 康德 学校教育（兼） 栗木 孝直
相双	所長 佐藤 由弘 次長（総） 佐藤 繁光 次長（業） 武口 隆行	総務社会教育（兼） 佐藤 繁光 学校教育（兼） 武口 隆行
いわき	所長 塚本 英樹 次長（総） 山口 聖一 次長（業） 大内 克之	総務社会教育（兼） 山口 聖一 学校教育（兼） 大内 克之

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	渡辺 惣吾	次長 菅野 昭人 総務管理部長（兼） 菅野 昭人 研究・研修部長 猪俣 一教
福島県特別支援教育センター	杉山 裕恵	主幹兼事務長 長沢 智司 企画事業部長 熊谷 賀久
福島県立図書館	齋野 和則	副館長 島田 淳
福島県立美術館	長根由里子	副館長 荒木 康子
福島県立博物館	鈴木 晶	副館長 川延 安直
福島県会津自然の家	高橋 伸明	主幹兼次長 加藤 竜

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、令和3年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	2.6.11	自治会館 8階801 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度教職員現職教育計画作成日程について ○令和3年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○令和3年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第2回	2.9.4	自治会館 8階801 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○令和3年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査、管理主事

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

特別支援教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部
 - 行財政改革推進本部、総合教育会議、風評・風化プロジェクトチーム、内部統制推進本部会議
- イ 危機管理部
 - 安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議
- ウ 企画調整部
 - 県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、電子社会推進本部会議、政策調整会議、新生ふくしま復興推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、復興対策推進プロジェクトチーム
- エ 生活環境部
 - ユニバーサルデザイン推進本部会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、野生鳥獣被害対策庁内連絡会議、男女共同参画推進本部会議
- オ 保健福祉部
 - 高齢社会対策推進本部会議青少年健全育成推進本部
- カ 商工労働部
 - 商業まちづくり推進調整会議
- キ 農林水産部
 - ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動、ふくしま植樹祭実行委員会
- ク 警察本部
 - 福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ

イ 部数 4,000部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

令和元年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

令和元年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 228ページ

イ 部数 150部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー

イ 部数 950部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月・11月の年2回発行した。

(2) 内容

ア 第54号(7月発行)

令和3年4月開校の統合校

県立相馬支援学校新校舎完成

ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト

ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト

ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業募集

中学生・高校生の科学・技術研究論文「野口英世賞」募集

中学生・高校生の国際理解・国際交流論文「朝河貫一賞」募集

福島県文化財センター白河館(まほろん)企画展の案内

ふくしま子どもLINE相談

ダイヤルSOS等相談窓口のお知らせ

相談窓口の案内

イ 第55号(11月発行)

ふくしま創生人材育成事業

第7次福島県総合教育計画の策定

「学びの保障」ICT活用事例の紹介

ふくしま外国語教育推進リーダー

「ふくしま高校生リーダー育成プロジェクト」アドバンスセミナー

特別支援学校作業技能大会

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業ワークショップ

令和3年度県立高等学校入学者選抜の案内

スクール・サポート・スタッフ

相談窓口の案内

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー

イ 部数 第54号 230,000部

第55号 225,000部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	950	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	228	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	第 54 号 230,000 第 55 号 225,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	20,16 12	各 22,500	全教職員（5月、7月） （11月、2月）
社会教育課	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A 4	12	—	Web サイトに掲載
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	160	教育関係機関等
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A 4	8	—	Web サイトに掲載
	研究紀要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	75	1,000	学校、教育関係機関等
	リーフレット	小・中学校初任者研修メンター方式による校内研修について	1	A 4	4	2,000	学校、教育関係機関等
特別支援教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A 5	4	100	来所者 Web サイトに掲載
	所報特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A 4	30	180	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	16	50	関係機関
	研究紀要	調査研究・教育研究及び長期研究員の個人研究の成果報告	1	A 4	70	100	関係機関 Web サイトに掲載
図書館	館報あづま	図書館業務の広報	1	A 4	10	500	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	22	—	Web サイトに掲載
	福島県郷土資料情報	郷土文献の研究情報誌	1	A 4	17	100	図書館・関係機関 Web サイトに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
美術館	県立美術館年報	前年度の事業実績	1	A 4	65	500	関係機関
	ミュージアムカレンダー	年間事業紹介	1	B 5		32,000	関係機関、来館者等
	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各 11,000	関係機関、来館者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	B 5	81	600	関係機関
博物館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	98	400	関係機関
	県立博物館紀要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	135	600	関係機関
	広報紙なじよな	行事予定、企画展案内、講演要旨等	6	A 2 四折	4	各 20,000	学校、関係機関
	企画展ポスター・リーフレット	企画展 3 回分・次年度企画展 1 回分	4	ポスターB 2 リーフレットA4		12,500 286,000	学校、関係機関 関係機関、来館者等
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	220×400 観音折り		45,000	関係機関、来館者等
自然の家	企画事業案内(郡山)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	Web サイトに掲載
	会津自然の家だより(会津)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	Web サイトに掲載
	しおね(いわき)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	4	2,000	関係機関
白文化財センター	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	34	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習	4	A 4	4	各 4,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	104	500	関係機関

6 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
資料提供	25	12	18	28	19	17	34	29	33	35	23	43	316

7 教育フォーラム

(1) タイトル

令和2年度教育フォーラム
「高校生ワークショップ～第7次福島県総合教育計画の策定に向けて～」

(2) 主催

福島県教育委員会

(3) 目的

県民各層との対話を通して、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施した。

今年度は、次期福島県総合教育計画の策定（令和3年秋策定予定）を見据え、県内の高校生が本県の教育の在り方等についてオンラインによるワークショップ形式で協議し、得られた提案や意見を教育長や教育委員等に発表した。

(4) 開催日時

令和2年12月25日（金）9:00～12:00

(5) 会場

教育委員室（高校生等は所属校又は自宅等）

※オンライン開催

(6) 開催形態

グループディスカッション（3グループ編成）

グループごとの発表・質疑応答

(7) 各グループの発表内容

Aグループ 「僕らが願う未来の学び方」

Bグループ 「個人を尊重できる社会へ向けて」

Cグループ 「学校の内と外をつなぐ」

(8) 出席者

ア 高校生

Aグループ 喜多方桐桜高校、安積高校御館校、葵高校、あさか開成高校

Bグループ 相馬高校、いわき光洋高校、福島東高校、修明高校鮫川校

Cグループ 清陵情報高校、修明高校、小名浜高校、白河第二高校

イ 大学生メンター

鈴木 理久（福島大学 人間発達文化学類3年）

毛塚 猛大（福島大学 人間発達文化学類4年）

加藤 恵美（東京学芸大学 教育学部初等教育教員養成課程社会選修4年）

ウ アドバイザー

長谷川 勇紀（認定特定非営利活動法人カタリバ）

エ ファシリテーター

青砥 和希（策定懇談会委員・一般社団法人未来の準備室理事長）

オ 福島県教育委員会

浅川 なおみ（県教育委員会委員）

正木 好男（県教育委員会委員）

吉津 健三（県教育委員会委員）

成澤 勝蔵（県教育委員会委員）

大村 雅恵（県教育委員会委員）

鈴木 淳一（県教育委員会教育長）

本田 伸雄（政策監）

鈴木 芳人（教育次長）

白石 孝之（県立高校改革監）

上檜 治男（教育庁参事）

高瀬 智美（教育総務課長）

丹野 純一（高校教育課長）

8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日～7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。なお、新型コロナウイルス感染拡大を受け、大幅な予定変更等も想定されたため、福島県教育委員会ウェブサイトへの実施計画の掲載は見合わせた。

9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちの郷土愛を育み、将来の復興の担い手としての意識を喚起することを目的として、子どもたちが知事や教育長等の前で発表する機会を設けているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により中止した。

第5節 調査統計

令和2年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧

令和2年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果及び県独自に実施している進路状況等に関する調査結果に基づき、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項や県内の中学生・高校生の進路状況等を収録した「学校統計要覧」を作成し、県教委ホームページで公開した。

2 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、令和元会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 子供の学習費調査（一般統計）

この調査は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ中止となり、翌年（令和3年度）に文部科学省が実施予定となった。

4 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

令和2年度の教職員の給与改定については、令和2年10月26日及び11月9日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料月額及び諸手当について、令和2年12月県議会及び令和3年2月県議会において、給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 諸手当関係

(1) 通勤手当（令和3年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められた。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動 機付きの交通用具
2km以上 4km未満	2,500円	2,000円
4km以上 6km未満	3,800円	2,000円
6km以上 8km未満	5,100円	2,600円
8km以上 10km未満	6,400円	3,200円
10km以上 12km未満	7,600円	3,800円
12km以上 14km未満	8,900円	4,500円
14km以上 16km未満	10,200円	5,100円
16km以上 18km未満	11,400円	5,700円
18km以上 20km未満	12,700円	6,400円
20km以上 22km未満	14,000円	7,000円
22km以上 24km未満	15,300円	7,700円
24km以上 26km未満	16,500円	8,300円
26km以上 28km未満	17,800円	8,900円
28km以上 30km未満	19,100円	9,600円
30km以上 32km未満	20,400円	10,200円
32km以上 34km未満	21,600円	10,800円
34km以上 36km未満	22,900円	11,500円
36km以上 38km未満	24,200円	12,100円
38km以上 40km未満	25,400円	12,700円
40km以上 45km未満	28,200円	14,100円
45km以上 50km未満	30,800円	15,400円
50km以上 55km未満	33,400円	16,700円
55km以上 60km未満	35,800円	17,900円
60km以上 65km未満	37,600円	18,800円
65km以上 70km未満	40,500円	20,300円

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動 機付きの交通用具
70km以上 75km未満	43,300円	21,700円
75km以上 80km未満	46,200円	23,100円
80km以上 85km未満	49,100円	24,600円
85km以上 90km未満	52,000円	26,000円
90km以上 95km未満	54,900円	27,500円
95km以上	57,800円	28,900円

(2) 期末・勤勉手当（令和2年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められた。

◎一般職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.275ヶ月	1.275ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.45ヶ月
改正後 (2年度)	期末手当	1.275ヶ月	1.225ヶ月	2.50ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.40ヶ月
(3年度)	期末手当	1.25ヶ月	1.25ヶ月	2.50ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.40ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.075ヶ月	1.075ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.45ヶ月
改正後 (2年度)	期末手当	1.075ヶ月	1.025ヶ月	2.10ヶ月	計
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.40ヶ月
(3年度)	期末手当	1.05ヶ月	1.05ヶ月	2.10ヶ月	計
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.40ヶ月

(3) 特殊勤務手当（令和3年4月1日適用）

教員特殊業務手当について、週休日等の部活動指導業務に係る手当（部活動指導手当）の支給区分及び手当額が次のとおり改められた。

（改正前）

支給区分	手当額
4時間程度	3,600円
2時間以上4時間程度未満	1,800円

（改正後）

支給区分	手当額
4時間程度（大会引率等に限る）	3,600円
3時間程度	2,700円
2時間以上3時間程度未満	1,800円

第7節 附属機関等

1 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員

任期 令和2年6月20日から令和4年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	小林 雄	小学校長会（大玉村立玉井小学校長）	
	土屋 好二	中学校長会（白河市立白河南中学校長）	
	味原 正美	高等学校長協会（福島県立会津学鳳高等学校長）	
社会教育関係団体の関係者	鈴木 圭子	福島県公民館連絡協議会会長	
	中島 功	福島県市町村社会教育委員連絡協議会顧問	
	田代 悦子	福島県PTA連合会母親代表理事	
	齋藤 七重	福島県婦人団体連合会副会長・理事	
	山岸 敦子	ガールスカウト福島県連盟長	
	齋藤 雄一郎	福島県商工会連合会	副議長
	佐藤 靖弘	一般社団法人福島県総合型スポーツクラブ連絡協議会理事長	
家庭教育関係者	星 尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域創造支援センター教授	議長
	前川 直哉	福島大学教育推進機構高等教育企画室特任准教授	
	本多 環	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授	
公募	千葉 登美子	NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会	
	須藤 基子	鏡石町教育委員会学校教育相談員	

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

(ア) 日時 令和2年10月28日(水)

(イ) 場所 自治会館大会議室

(ウ) 内容

a 報告事項

令和2年度社会教育に関する主要施策・事業及び進捗状況について

b 審議事項

本県における社会教育推進のあり方について

イ 第2回定例会

(ア) 日時 令和3年2月26日(金) ※リモート会議

(イ) 内容

a 報告事項

令和2年度社会教育関係事業報告について

令和3年度社会教育関係主要施策・事業（案）について

b 審議事項

「コロナ禍、原発事故、水害、少子化・人口減等現代的課題を乗り越える社会教育の在り方」

2 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 平成31年4月1日～令和3年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	(元)郡山女子大学短期大学部准教授・地方史研究協議会	古文書・歴史資料	
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授・東北史学会・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
伊藤 喜良	福島大学名誉教授・日本経済大学非常勤講師・歴史学研究会・東北史学会・日本史研究会	古文書(中世)・書跡・典籍	会長
丹野 香須美	東北福祉大学兼任講師・いわき市文化財保護審議会委員・広野町文化財保護審議会委員・日本民俗学会・日本社会科教育学会・福島県民俗学会	有・無形民俗文化財	
狩野 勝重	(元)日本大学教授・工学博士・日本建築学会・伝統建築文化推進協議会・文化財景観保全調査室(個人事務所)	建造物・伝統的建造物群	
佐藤 琴	山形大学学術研究院准教授・美術史学会・国際浮世絵学会	絵画	
永広 昌之	東北大学総合学術博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会・地学団体研究会・日本博物科学会	天然記念物(地質鉱物・古生物)	
鈴木 俊行	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会福島空港公園事務所長・樹木医学会・日本造園学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	副会長
高橋 あけみ	仙台市博物館副館長・美術史学会・漆工史学会・茶の湯文化学会	工芸品・染織	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会・福島県考古学会・全日本博物館学会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生生物学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝(庭園)	
守谷 早苗	東北史学会・国史談話会・福島県史学会	歴史資料	
若林 繁	(元)東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (ア) 期日 令和2年10月15日(木)
- (イ) 場所 福島県本庁舎4階 第401会議室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
 - b 報告事項

イ 第2回審議会

- (ア) 期日 令和3年2月8日(月)
- (イ) 場所 福島県西庁舎3階 教育委員室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
 - b 新たな県指定文化財の候補について

第8節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、令和2年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

令和2年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	職務代理人	教 育 長			
県北(8)			会津(13)		
福島市	佐藤 玲子	古関 明善	会津若松市	林 健幸	寺木 誠伸
伊達郡川俣町	高橋 友憲	佐久間裕晴	耶麻郡磐梯町	宮森 優治	田中 靖則
伊達市	高野 保夫	菅野 善昌	耶麻郡猪苗代町	涌井 靖	宇南山忠明
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康	喜多方市	高橋 明子	大場 健哉
伊達郡国見町	高橋 幸子	岡崎 忠昭	耶麻郡北塩原村	斎藤 弘幸	鈴木 力雄
二本松市	佐藤 英之	丹野 学	耶麻郡西会津町	平野マチ子	江添 信城
安達郡大玉村	伊藤 忠和	佐藤 吉郎	河沼郡会津坂下町	田崎ヒロ子	鈴木 茂雄
本宮市	谷 明子	青田 誠	河沼郡湯川村	伊藤 幸喜	五十嵐長孝
県中(12)			河沼郡柳津町	鈴木 礼	神田 順一
郡山市	阿部 亜巳	小野 義明	大沼郡会津美里町	小関れい子	新田 銀一
須賀川市	阿部 昭光	森合 義衛	大沼郡三島町	阿部 和彦	佐藤 孝信
岩瀬郡鏡石町	力丸 次雄	渡部 修一	大沼郡金山町	山口 京子	滝沢 敬樹
岩瀬郡天栄村	小針 克彦	久保 直紀	大沼郡昭和村	齊藤加津代	安藤 哲朗
石川郡石川町	草野 文明	小玉 陽彦	南会津(5)		
石川郡玉川村	石井 隆士	鈴木 文雄	南会津郡南会津町	渡部 謙一	星 英雄
石川郡平田村	三本松久美子	有賀 真道	南会津郡下郷町	白石 光史	星 敏恵
石川郡浅川町	富永 善弘	真田 秀男	南会津郡檜枝岐村	星 茂俊	(空席)
石川郡古殿町	矢内 忠徳	渡邊 宏文	南会津郡只見町	菅家 貞子	渡部 早苗
田村市	船田 隆典	飯村 新市	南会津郡地方広域市町村圏組合	星 敏恵	星 英雄
田村郡三春町	渡辺 勉	添田 直彦	相双(12)		
田村郡小野町	榊原 貞治	西牧 裕司	相馬郡新地町	高崎 義典	佐々木孝司
県南(9)			相馬市	宗形 明子	福地 憲司
白河市	金子 英昭	芳賀 祐司	南相馬市	大石 力彌	大和田博行
西白河郡西郷村	勝又千賀子	鈴木 且雪	相馬郡飯館村	佐藤 眞弘	遠藤 哲
西白河郡中島村	長田 富雄	面川 三雄	双葉郡浪江町	今野 秀則	笠井 淳一
西白河郡矢吹町	水戸 勘十	鈴木 健生	双葉郡葛尾村	東海林幸敏	小野田敏之
西白河郡泉崎村	北澤三知子	鈴木 一正	双葉郡双葉町	山本真理子	舘下 明夫
東白川郡棚倉町	松本 一夫	松本 市郎	双葉郡大熊町	阿部 裕美	木村 政文
東白川郡塙町	大縄 剛	秦 公男	双葉郡富岡町	鈴木 文子	岩崎 秀一
東白川郡矢祭町	富永美智子	片野 宗和	双葉郡川内村	秋元 優子	秋元 正
東白川郡鮫川村	阿久津光市	武藤 誠	双葉郡檜葉町	宇佐神正道	青木 洋
			双葉郡広野町	渡辺 昇	根本 修行
			いわき(1)		
			いわき市	馬目 順一	吉田 尚

3 令和2年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 令和2年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 予定期日 令和2年4月13日(月)
※新型コロナウイルス感染症の感染状況から中止
- ウ 予定会場 本庁舎5階 正庁
- エ 予定出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容
令和2年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明
※説明に係る資料を送付

(2) 令和2年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日 令和2年11月18日(水)
- ウ 会場 中町ビル 大会議室
- エ 参加者
令和元年11月21日以降に就任された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員22名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に求められる構えと職責」
 - ・講師 元福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
 - 講義
 - ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 高橋 哲郎

第9節 職員団体との話合い

令和2年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

(1) 令和2年8月3日

- ア 勤務時間の上限規制について
- イ 教職員の賃金・諸手当・労働条件の改善について
- ウ 教員採用試験について
- エ 教員の人員確保について
- オ 教職員の多忙化解消について
- カ ハラスメント対策について
- キ 特別支援教育の充実について
- ク 新型コロナウイルス感染症対策について

(2) 令和2年11月12日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 部活動手当について
- ウ 教員の人員確保について
- エ 学校事務の共同連携について
- オ 再任用職員の処遇改善について
- カ スクールサポートスタッフの配置拡大について
- キ 学校事務職員の研修について
- ク 教職員の多忙化解消について
- ケ 休暇制度について

(3) 令和2年11月19日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 公務貢献について
- ウ 部活動手当について
- エ 再任用制度について
- オ ハラスメント対策について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 休暇制度について
- ク 事務職員の研修について
- ケ 勤務時間の客観的な把握について

2 福島県高等学校教職員組合

(1) 令和2年8月5日

- ア 県立高等学校改革計画について
- イ 新型コロナウイルス感染症対策について
- ウ 再任用制度について
- エ 人事評価制度について
- オ 諸手当について
- カ 変形時間労働制の導入について
- キ 教職員の多忙化解消について

(2) 令和2年11月13日

- ア 教職員の多忙化解消について
- イ 再任用制度について
- ウ 部活動指導員等の外部人材の配置拡大について
- エ 施設・設備等の整備について
- オ 県立高等学校改革計画について
- カ 人事評価制度について
- キ 諸手当について

(3) 令和2年11月19日

- ア 県立高等学校改革計画について
- イ 部活動手当について
- ウ 人事評価について
- エ 休暇制度について
- オ 再任用職員の任用及び処遇改善について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 実習助手等による部活動指導及び引率について

3 福島県立高等学校教職員組合

(1) 令和2年8月5日

- ア 新型コロナウイルス感染症対策について
- イ 変形時間労働制の導入について
- ウ ハラスメント対策について
- エ 人事評価制度について
- オ 情報環境の整備について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 人事異動について

(2) 令和2年11月13日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 変形労働時間制について
- ウ 宿日直手当について
- エ 部活動指導員について
- オ 会計年度任用職員の導入等について
- カ 人事異動について
- キ 勤務時間の客観的な把握について
- ク 講師希望者の提出書類について
- ケ 教職員の多忙化解消について

(3) 令和2年11月20日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 人事異動について
- ウ 県立高等学校改革計画について
- エ 教職員の多忙化解消について
- オ 勤務時間の管理について
- カ 週休日の業務について

- キ 部活動手当について
- ク ハラスメント対応について

4 福島県学校事務労働組合

(1) 令和2年8月3日

- ア 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- イ 公務貢献について
- ウ 在職者調整の救済措置について
- エ 事務強化加配等について
- オ 再任用職員の任用等について
- カ 学校事務職員の採用制度について
- キ 変形時間労働制の導入について

(2) 令和2年11月12日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- ウ 公務貢献について
- エ 再任用職員の任用等について
- オ 任期付職員の導入について
- カ 給食費の公会計化について

(3) 令和2年11月19日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策について
- エ 再任用職員の任用等について
- オ 事務強化加配等について、職員の配置について
- カ 旅費の支給について

第10節 審査請求事件及び訴訟事件

1 審査請求事件

令和3年3月31日現在、審査請求事件として審理中のものは2件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
退職手当支給制限処分取消請求事件	平 29. 12. 19	平 29. 10. 20 付け退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	元公立学校 教員	審理中
職手当支給制限処分取消請求事件	令 2. 2. 26	令 12. 6 付け退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	元公立学校 教員	審理中

2 訴訟事件

令和3年3月31日現在、訴訟事件として係属中のものは1件、令和2年度中に判決等があったものは1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求事件	平 26. 8. 29 平 27. 1. 14 平 28. 5. 10 令 3. 3. 15	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民 多数	係属中
懲戒免職処分及び退職手当支給制限処分取消請求事件	令元. 8. 14 令 2. 10. 23 令 3. 1. 15	平 29. 10. 20 付け懲戒免職処分及び退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	公立学校 教員	令 3. 3. 24 裁決 (控訴棄却)

第11節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1 公益法人等

令和3年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は50法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	令和2年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	26	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	18	0
一般社団法人	3	0
特例民法法人	1	—
計	50	0

2 公益信託

令和3年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は3件である。

なお、令和2年度新たに引き受けを許可した公益信託はない。

第12節 表彰及び叙勲

令和2年度教育・文化関係表彰式は、11月2日(火)とうほう・みんなの文化センター、令和3年2月3日(水)杉妻会館において、それぞれ行われる予定であったが、どちらも新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は新型コロナウイルス感染拡大のため中止(代替:11月11日(水)、福島県西庁舎9階教育委員室で実施)、また、教育者表彰式は12月3日(木)、ニッショーホールにおいて行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

(前)伊達市教育委員会委員	太田 康一
(前)二本松市教育委員会委員	奥平 紀文
郡山市教育委員会委員	今泉 玲子
(前)相馬市教育委員会教育長	堀川 利夫
南相馬市教育委員会委員	大石 力彌

(2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第四中学校長	佐藤 晃
郡山市立郡山第三中学校長	内田 恒一
石川郡石川町立石川中学校長	塩田 正信
田村市立船引小学校長	有賀 仁一
白河市立白河第一小学校長	菊池 篤志
白河市立白河第三小学校長	小玉 昭男
会津若松市立鶴城小学校長	唐司 和彦
相馬市立中村第一小学校長	午來 勝頭
いわき市立平第一小学校長	水野 達雄
いわき市立平第一中学校長	西内 英理
福島県立福島高等学校長	竹田 真二
福島県立福島明成高等学校長	大和田範雄
福島県立安積高等学校長	小島 稔
福島県立会津高等学校長	廣瀬 敬彦
福島県立聴覚支援学校長	小檜山宗浩

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(3名)	
福島県家庭教育インストラクター理事	星 尚子
ボーイスカウト福島連盟名誉会議議員	長谷川哲意
会津若松市社会教育委員	小野 修
イ 功績顕著な団体・施設(3団体・3施設)	
(社会教育団体)	
田村市立都路小学校父母と先生の会	
喜多市立堂島小学校父母と教師の会	
南会津町立荒海中学校父母と教師の会	
(社会教育施設)	
福島市中央学習センター	
郡山市立薫地域公民館	
郡山市立名倉地域公民館	

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2名)	
福島県文化財保護審議会委員	鈴木 俊行
(元)いわき市文化財保護審議会会長	湯澤 陽一

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(3名)	
(元)いわき市立平第三小学校学校医	児山 孝
いわき市立植田小学校学校薬剤師	三瓶 几典
福島県立福島北高等学校学校薬剤師	石井 恵子

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(2名)	
田村市立船引南小学校長	先崎 力男
耶麻郡西会津町立西会津中学校長	五十嵐正彦
イ 功績顕著な団体(1団体)	
耶麻郡猪苗代町立緑小学校	

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(1名)

もとみや整形外科クリニック院長 武田浩一郎

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	29	21	7		57
教頭、副校長	35	24	13		72
教員等	319	216	188		723
計	383	261	208	24	876

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(6団体)

- 伊達市立伊達小学校吹奏楽部
- 西郷村立小田倉小学校吹奏楽部
- 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部
- 只見町立只見中学校
- 福島県立郡山商業高等学校管弦楽部
- 福島県立湯本高等学校吹奏楽部

イ 優秀教職員の部(23名)

福島市立福島第三小学校	教諭	君島慎一朗
伊達市立梁川小学校	教諭	松原美和子
二本松市立大平小学校	養護教諭	塩田 咲江
本宮市立和田小学校	教諭	浜津とも恵
郡山市立日和田小学校	教諭	白岩 佳世
白河市立白河第一小学校	教諭	大竹 晃司
須賀川市立第三小学校	教諭	佐藤亜里沙
平田村立小平小学校	教諭	渡邊 拓
田村市立船引小学校	教諭	白岩 聡子
西郷村立熊倉小学校	主査	尾又 芳行
西郷村立小田倉小学校	教諭	鈴木美沙歩
喜多方市立第一小学校	養護教諭	長谷川めぐみ
喜多方市立高郷小学校	教諭	豊野 創平
只見町立只見小学校	教諭	長澤 秀弥
南相馬市立鹿島小学校	主査	反畑 香理
会津美里町立本郷中学校	教諭	真壁 伸介
只見町立只見中学校	教諭	目黒 英樹
いわき市立湯本第一中学校	教諭	澤出小百合
郡山市立西田学園義務教育学校	教諭	遊佐 智則
福島県立福島南高等学校	教諭	高橋真由美
福島県立只見高等学校	教諭	阿部 智義
福島県立磐城農業高等学校	主任実習講師	阿部 和宏
福島県立大笹生支援学校	教諭	江田 綾

ウ 若手教職員奨励の部(2名)

福島市立清水中学校	教諭	平 千絵
福島県立会津学鳳高等学校	教諭	上田 彩

エ 優秀教職員(団体)の部(2団体)

小野町立小野中学校教職員
只見町立只見中学校教職員

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(6名)

福島県教育委員会委員 蜂須賀禮子
(前)桑折町教育委員会委員 大波 敏子
(前)矢吹町教育委員会教育長 栗林 正樹
泉崎村教育委員会委員 山田 睦子
(前)昭和村教育委員会教育長 本名 幸平
(前)浪江町教育委員会教育長 畠山熙一郎

(2) 教育者表彰(3名)

白河市立白河第一小学校長 菊池 篤志
石川郡石川町立石川中学校長 塩田 正信
福島県立安積高等学校長 小島 稔

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 令和2年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章
栗村 知(教育功労 元福島県立福島工業高等学校長)
佐治 和則(教育功労 元福島県立安積黎明高等学校長)

イ 瑞宝双光章
二瓶 哲(教育功労 元福島市立福島第二小学校長)
湯田 健一(教育功労 元桑折町立醸芳中学校長)
村上 光一(教育功労 元郡山市立橘小学校長)
川上 闊男(教育功労 元会津若松市立第一中学校長)
渋谷 常範(教育功労 元相馬市立中村第一中学校長)
武内 敏英(教育功労 元大熊町立大熊中学校長)

(2) 令和2年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章
鈴木 仁(教育功労 元福島県立安積高等学校長)
畠山熙一郎(教育功労 元福島県立磐城桜が丘高等学校長)

イ 瑞宝双光章
富岡ケイ子(教育功労 元玉川村立玉川第一小学校長)
村越 秀樹(教育功労 元郡山市立郡山第一中学校長)
高原孝一郎(教育功労 元須賀川市立第一中学校長)
太田 雅信(教育功労 元白河市立白河第一小学校長)
奥貫 洋(教育功労 元棚倉町立棚倉小学校長)
渡部 裕二(教育功労 元会津若松市立第四中学校長)

(3) 高齢者叙勲(令和2年4月1日~令和3年3月1日発令)

ア 瑞宝小綬章(教育功労)
古閑 齊(元福島県立船引高等学校長)
鈴木 章司(元福島県立遠野高等学校長)
菅野 祐一(元福島県立安達高等学校長)
森合 哲夫(元福島県立平養護学校長)

イ 瑞宝双光章(教育功労)
今野 武(元相馬市立飯豊小学校長)
本田 勇(元浪江町立大堀小学校長)
堀金 軍治(元田島町立荒海小学校長)
高橋 善孝(元川俣町立小島小学校長)
松浦 國男(元二本松市立平石小学校長)
古山 一郎(元いわき市立錦小学校長)
野木 三男(元富岡町立富岡第二小学校長)

松崎 好延 (元高郷村立高郷第一小学校長)
佐藤 學 (元新鶴村立新鶴小学校長)
藤田 好一 (元中島村立滑津小学校長)
室井 恒男 (元下郷町立下郷中学校長)
佐藤 村夫 (元三島町立宮下小学校長)
木本 清 (元大玉村立玉井小学校長)
上川 順一 (元いわき市立久之浜第一小学校長)
鎌田 東郎 (元小高町立福浦小学校長)
山本 道雄 (元新地町立尚英中学校長)
佐藤 守男 (元田島町立檜沢小学校長)
永井 俊博 (元桑折町立醸芳小学校長)
野木 忠 (元いわき市立泉小学校長)
星 利弘 (元田島町立田島第二小学校長)
菊地 勝雄 (元矢吹町立矢吹中学校長)
齋藤 公郎 (元いわき市立勿来第一中学校長)
花見 詮 (元会津若松市立第四中学校長)
荒川 幸一 (元いわき市立小玉小学校長)
鈴木 啓司 (元西郷村立羽太小学校長)
猪狩 貞一 (元いわき市立内郷第一中学校長)
増淵 弘志 (元表郷村立表郷小学校長)
渡邊 和郎 (元岩代町立小浜中学校長)
日塔 孝雄 (元いわき市立小名浜第二中学校長)
門馬 孝義 (元小高町立小高中学校長)
小沼 利久 (元郡山市立赤木小学校長)
遠藤 修三 (元伊達町立伊達中学校長)
小泉 泰次 (元浪江町立浪江小学校長)
深谷 恒夫 (元玉川村立須釜小学校長)
鈴木 英夫 (元石川町立石川小学校長)
木戸 勇 (元伊達町立伊達東小学校長)
長谷川浩一 (元柳津町立柳津小学校長)
中目 貞夫 (元大越町立大越中学校長)
伊藤 二雄 (元郡山市立御代田小学校長)
廣田 正 (元いわき市立江名小学校長)
笠間三男也 (元熱塩加納村立会北中学校長)
伏見 裕方 (元鹿島町立鹿島小学校長)
鴨田 喜夫 (元福島市立清明小学校長)
長島 延夫 (元いわき市立玉川中学校長)
渡邊 和夫 (元福島市立大島中学校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《令和2年度》

ア 従五位・瑞宝小綬章

中川 快然 (元福島県立富岡養護学校長)
荒井 勝彦 (元福島県立清陵情報高等学校長)
石田 威 (元福島県立川俣高等学校長)

イ 従五位・瑞宝双光章

高橋 卓夫 (元伊達市立梁川中学校長)
大山 郁 (元西郷村立熊倉小学校長)
藤田 廣彦 (元矢吹町立矢吹小学校長)

ウ 従五位

高橋 薫 (元福島県立福島西女子高等学校長)
大河原博美 (元福島県立長沼高等学校長)
川上 良男 (元猪苗代町立猪苗代中学校長)
鈴木 仁 (元会津若松市立第五中学校長)
粕壁隆二郎 (元福島県立白河実業高等学校長)
渡邊 專一 (元福島県立安積高等学校長)
真部 健雄 (元福島県立会津女子高等学校長)

エ 正六位・瑞宝双光章

井上 忠夫 (元いわき市立江名小学校長)
荒川 吉弘 (元いわき市立小川小学校長)
島貫 昭男 (元二本松市立鈴石小学校長)
福原 靖史 (元郡山市立根木屋小学校長)
松本 哲夫 (元いわき市立入遠野中学校長)
島腹 順一 (元梁川町立梁川小学校長)
高橋 士郎 (元鹿島町立鹿島小学校長)
後藤 幸雄 (元福島市立大森小学校長)
鈴木 幹男 (元棚倉町立棚倉中学校長)
小野 恭二 (元会津坂下町立川西小学校長)
菅野 邦雄 (元古殿町立古殿中学校長)
芳賀 弘一 (元南会津町立田島小学校長)
大野 武男 (元郡山市立開成小学校長)
青田 忠文 (元富岡町立富岡第二中学校長)
佐藤 好正 (元いわき市立平第二中学校長)
中川 雄司 (元いわき市立小名浜第一小学校長)
木幡 清明 (元南相馬市立原町第二小学校長)
添田 和子 (元福島市立清明小学校長)
古川 仁志 (元喜多方市立第一中学校長)
山野辺庄吉 (元須賀川市立須賀川第一小学校長)
伏見 幸弘 (元福島市立荒井小学校長)

オ 正六位

野口 五郎 (元大信村立大信中学校長)
本田 勇 (元浪江町立大堀小学校長)
大和金三郎 (元国見町立森江野小学校長)
安原 滋 (元福島県立安積高等学校長)
國分 幸男 (元二本松市立二本松南小学校長)
坂本 迪郎 (元白河市立白河第一小学校長)
渡邊 仁也 (元いわき市立好間第一小学校長)
本田雄一郎 (元福島市立飯坂小学校長)
菅野 家作 (元二本松市立二本松北小学校長)
永井 俊博 (元桑折町立醸芳小学校長)
松崎 好延 (元高郷村立高郷第一小学校長)
菅野 寅人 (元小高町立小高中学校長)
古川 忠雄 (元岩瀬村立白江小学校長)
小針 信喜 (元西郷村立西郷第一中学校長)
関 新 (元南郷村立南郷第一小学校長)
眞壁 正 (元会津坂下町立広瀬小学校長)
津田 俊晴 (元福島県立会津高等学校長)
大木 友義 (元矢吹町立三神小学校長)
増子 淳 (元滝根町立広瀬小学校長)

鈴木俊三郎（元石川町立石川小学校長）
 齋藤 豊一（元西会津町立西会津中学校長）
 知々田徳衛（元会津坂下町立広瀬小学校長）
 松本 春帆（元白河市立白河第二中学校長）
 佐藤 恵（元福島市立森合小学校長）
 皆川 郁夫（元福島県立福島東高等学校長）

カ 従六位・瑞宝双光章

小林 俊夫（元白河市立関辺小学校長）
 松本 孔一（元小高町立福浦小学校長）
 紺野 幸（元原町市立原町第一小学校長）
 白石 允宏（元福島市立福島第一小学校長）
 山口 一成（元田島町立田島中学校長）
 千葉 保夫（元いわき市立好間中学校長）
 外島 道雄（元会津美里町立本郷中学校長）
 片野 昭彦（元いわき市立小名浜東小学校長）
 高宮 政博（元浅川町立浅川小学校長）
 田村 尚（元いわき市立小名浜第一小学校長）

キ 従六位

古川 登（元会津若松市立城北小学校長）
 村上 武（元福島市立北沢又小学校長）
 草野 美憲（元檜葉町立檜葉北小学校長）
 鈴木 實（元いわき市立豊間小学校長）
 大内 好藏（元いわき市立好間第一小学校長）
 遠藤 秋男（元二本松市立二本松北小学校長）
 佐藤 寛（元福島市立福島第四中学校長）
 永山 忠雄（元いわき市立磐崎小学校長）
 佐々木 廣（元船引町立瀬川中学校長）
 荒川 幸一（元いわき市立小玉小学校長）
 鈴木 健一（元福島市立福島第四小学校長）
 北村 光男（元白河市立白河中央中学校長）

ク 正七位

秋山 茂（元いわき市立平第三中学校長）

第13節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区 分	貸 与 月 額	
高等学校	国公立	自宅 18,000 円
		自宅外 23,000 円
	私 立	自宅 30,000 円
		自宅外 35,000 円
高等専門学校	18,000 円	
大 学	国公立	35,000 円
	私 立	40,000 円
入学一時金 (H25～)	(一括貸与) 500,000 円	

(2) 令和2年度の貸与状況

ア 募集期間

(7) 在学採用

令和2年4月入学以降～6月30日

(4) 震災特例採用

令和2年5月1日～7月31日

イ 奨学生決定

(7) 在学採用

令和2年8月6日（高等学校）

令和2年8月6日（大学・高等専門学校）

(4) 震災特例採用

令和2年9月9日

ウ 貸与状況

区 分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 (うち震災特例)	259人 (144人)	126人 (70人)	121人 (70人)	380人 (214人)
大 学 高等専門学校	231人	54人	45人	276人
大学等 入学一時金	—	53人	47人	47人
計	490人	233人	213人	703人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4学年 14,000 円

通信制課程

1～4学年 14,000 円

(2) 令和2年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0 人	0 人	0 人
2 年 生	0 人	0 人	0 人
3 年 生	2 人	0 人	2 人
4 年 生	1 人	1 人	2 人
計	3 人	1 人	4 人

第 3 章 教育財政

第 1 節 令和 2 年度決算

1 歳入

(1) 一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		4,464,201	9.4
	使用料	4,348,798	9.2
	手数料	115,403	0.2
国庫支出金		35,838,552	76.0
	国庫負担金	27,353,333	58.0
	国庫補助金	8,390,264	17.8
	委託金	94,955	0.2
財産収入		206,800	0.5
	財産運用収入	31,816	0.1
	財産売却収入	174,984	0.4
寄附金		22,155	0.1
	寄附金	22,155	0.1
繰入金		1,221,870	2.6
	特別会計繰入金	0	0.0
	基金繰入金	1,221,870	2.6
諸収入		393,023	0.8
	預金利子	0	0.0
	貸付金元利収入	10,414	0.0
	受託事業収入	135,510	0.3
	収益事業収入	54,238	0.1
	雑入	192,861	0.4
県債		4,998,400	10.6
	県債	4,998,400	10.6
計		47,145,001	100.00

(2) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		86,019	17.9
	一般会計繰入金	79,539	16.5
	基金繰入金	6,480	1.4
繰越金		37,093	7.7
	繰越金	37,093	7.7
諸収入		358,648	74.4
	預金利子	7	0.0
	貸付金元利収入	357,026	74.1
	雑収入	1,615	0.3
財産収入		180	0.0
	財産運用収入	180	0.0
計		481,940	100.0

2 歳出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,441,836,087	100.0	1,828,754,812	100.0	1,472,217,550	100.0
教育費	228,837,164	15.8	230,580,497	12.6	222,229,511	15.1
教育委員会所管分	192,173,973	13.3	195,551,681	10.7	188,173,944	12.8
知事部局所管分	36,663,191	2.5	35,028,816	1.9	34,055,567	2.3
教育委員会所管分総務費	0	0.0	223	0.0	198	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	39,791	0.0	298,355	0.0	34,791	0.0

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	0	0.0	223	0.0	198	0.0
総務管理費	0	0.0	223	0.0	198	0.0
諸費	0	0.0	223	0.0	198	0.0
教育費	192,173,973	100.0	195,551,681	99.8	188,173,944	100.0
教育総務費	27,629,300	14.4	27,517,457	13.9	26,154,785	13.8
教育委員会費	9,906	0.0	9,906	0.0	8,063	0.0
事務局費	4,485,753	2.3	4,351,155	2.2	4,283,297	2.3
財務管理費	2,369,542	1.2	2,540,159	1.3	2,292,851	1.2
義務教育指導費	803,635	0.4	1,069,411	0.5	1,016,257	0.5
教職員福利厚生費	18,689,177	9.8	17,622,979	9.0	17,495,132	9.3
育英費	705,714	0.4	446,136	0.2	364,622	0.2

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
恩給及び退職年金費	55,222	0.0	44,560	0.0	43,037	0.0
教育センター費	500,095	0.3	1,422,895	0.7	642,000	0.3
特別支援教育センター費	10,256	0.0	10,256	0.0	9,526	0.0
小学校費	58,274,366	30.4	58,171,586	29.7	58,013,538	30.7
教職員費	58,274,366	30.3	58,171,586	29.7	58,013,538	30.7
中学校費	37,788,473	19.7	37,469,005	19.1	37,435,347	19.9
教職員費	37,788,473	19.7	37,469,005	19.1	37,435,347	19.9
高等学校費	46,198,097	24.0	49,156,795	25.1	45,707,121	24.3
教職員費	34,887,038	18.2	34,577,504	17.7	34,482,051	18.3
高等学校指導費	1,014,555	0.5	1,082,022	0.6	984,937	0.5
高等学校管理費	9,098,142	4.7	9,999,464	5.1	8,849,737	4.7
施設等整備費	583,585	0.3	2,256,056	1.1	539,576	0.3
農業高等学校実習費	190,591	0.1	188,055	0.1	180,266	0.1
水産高等学校実習費	235,644	0.1	174,397	0.1	167,712	0.1
28～31ふたば未来学園中学・高校整備費	188,542	0.1	879,297	0.4	502,842	0.3
特別支援学校費	18,492,094	9.6	19,958,147	10.3	17,921,312	9.7
特別支援学校費	1,720,719	0.9	1,922,031	1.0	1,663,426	0.9
教職員費	14,048,907	7.3	13,959,915	7.1	13,919,857	7.4
28～32聴覚支援学校福島校整備費	110,000	0.1	387,231	0.2	134,392	0.1
29～32相馬支援学校整備費	250,000	0.1	1,218,223	0.6	157,975	0.1
29～32聴覚支援学校寄宿舎整備費	436,562	0.2	544,841	0.3	416,652	0.2
2～4伊達地区特別支援学校整備費	1,925,906	1.0	1,925,906	1.0	1,629,010	0.9
社会教育費	3,116,329	1.6	2,565,948	1.3	2,327,193	1.3
社会教育総務費	1,350,698	0.7	836,515	0.4	697,331	0.4
図書館費	103,527	0.1	97,463	0.1	94,302	0.1
自然の家費	349,498	0.2	343,955	0.2	337,515	0.2
文化振興費	1,000	0.0	3,000	0.0	3,000	0.0
文化財保護費	321,998	0.2	368,104	0.2	306,596	0.2
美術館費	426,140	0.2	389,731	0.2	386,998	0.2
博物館費	282,660	0.1	235,402	0.1	221,621	0.1
文化財センター費	280,808	0.1	291,778	0.1	279,830	0.1
保健体育費	675,314	0.3	712,743	0.4	614,648	0.3
保健体育総務費	275,522	0.1	272,435	0.1	262,810	0.1
学校保健費	276,557	0.1	316,361	0.2	252,079	0.1
体育振興費	123,235	0.1	123,947	0.1	99,759	0.1
災害復旧費	39,791	0.0	298,355	0.2	34,791	0.0
文教施設災害復旧費	39,791	0.0	298,355	0.2	34,791	0.0
公立文教施設災害復旧費	39,791	0.0	298,355	0.2	34,791	0.0
計	192,213,764	100.0	195,850,259	100.0	188,208,933	100.0

(3) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	496,129	100.0	410,040	100.0	401,764	100.0
奨学資金貸付事業費	496,129	100.0	410,040	100.0	401,764	100.0
貸付金	478,928	96.5	393,739	96.0	386,791	96.3
償還金	200	0.1	200	0.1	0	0.0
事務費	17,000	3.4	16,100	3.9	14,973	3.7
一般会計繰出金	1	0.0	1	0.0	0	0
計	496,129	100.0	410,040	100.0	401,764	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

令和2年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が73.9%、鉄骨その他造が24.4%と非木造建物が98.3%を占めており、木造建物が1.7%となった。

別表 県立学校建物の現況 (R2.5.1) [確定値]

区分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
校舎		m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%
	R	7,586	100.0	667,690	85.1	95,464	93.2	770,740	86.2
	S	0	0.0	101,078	12.9	4,563	4.5	105,641	11.8
	W	0	0.0	15,348	2.0	2,396	2.3	17,744	2.0
	計	7,586	100.0	784,116	100.0	102,423	100.0	894,125	100.0
体育館	R	1,297	100.0	30,158	16.4	5,855	49.1	37,310	18.9
	S	0	0.0	152,589	83.1	6,059	50.9	158,648	80.6
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	183,684	100.0	11,914	100.0	196,895	100.0
	寄宿舍	R	0	0.0	11,304	59.7	4,664	96.7	15,968
S		0	0.0	7,628	40.3	101	2.1	7,729	32.6
W		0	0.0	0	0.0	57	1.2	57	0.2
計		0	0.0	18,932	100.0	4,822	100.0	23,754	100.0
計		R	8,883	100.0	709,152	71.9	105,983	88.9	824,018
	S	0	0.0	261,295	26.5	10,723	9.0	272,018	24.4
	W	0	0.0	16,285	1.6	2,453	2.1	18,738	1.7
	計	8,883	100.0	986,732	100.0	119,159	100.0	1,114,774	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、相馬農業飯館校、富岡支援

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む。

(2) 令和2年度事業実績

ア 高等学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
大規模改造事業	10	福島東、安積、郡山北工業、岩瀬農業、白河実業、修明、田村、いわき海星、相馬、郡山萌世	千円 1,263,297	千円 0	千円 1,154,752	千円 108,545
ふたば未来学園 中学校・高等学校 校整備事業	2	ふたば未来学園中学校、高等学校	千円 502,843	千円 335,255	千円 167,588	千円 0
合 計	12		1,766,140	335,255	1,322,340	18,545

イ 特別支援学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
特別支援学校 整備事業	4	聴覚支援（寄宿舍）、聴覚支援福島校、相馬支援、伊達支援（仮称）	千円 2,634,925	千円 521,264	千円 1,790,900	千円 0

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

令和2年5月1日現在 [確定値]

区 分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	
校 舎	R	1,415,026	97	882,044	96	2,297,070	96	2,528	70	29,662	29
	S	31,816	2	24,252	2	56,068	2	1,090	30	44,647	42
	W	19,593	1	15,999	2	35,592	2	0	0	31,019	29
	計	1,466,435	100	922,295	100	2,388,730	100.0	3,618	100	105,328	100
屋 内 運 動 場	R	155,609	43	139,241	52	294,850	47	391	94	0	0
	S	197,565	55	123,451	47	321,016	52	26	6	0	0
	W	5,313	2	1,812	1	7,125	1	0	0	0	0
	計	358,487	100	264,504	100	622,991	100	417	100	0	0
寄 宿 舎	R	65	100	1,821	79	1,886	80	0	0	0	0
	S	0	0	312	14	312	13	0	0	0	0
	W	0	0	172	7	172	7	0	0	0	0
	計	65	100	2,305	100	2,370	100	0	0	0	0
計	R	1,570,700	86	1,023,106	86	2,593,806	86	3,336	83	29,662	29
	S	229,381	13	148,015	12	377,396	13	1,116	27	44,647	42
	W	24,906	1	17,983	2	42,889	1	0	0	31,019	29
	計	1,824,987	100	1,189,104	100	3,014,091	100	4,035	100	105,328	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

大熊町、双葉町

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村立学校の面積等においては、施設台帳管理システムにて入力された内容を参照した。

※義務教育学校については、前期課程専用部分は小学校に、後期課程専用部分は中学校に、共用部分は各々按分して計上した。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

令和2年度

区分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び 交付金 (千円)	学校数	負担金及び 交付金 (千円)
校舎の 新增築	6	255,383	1	176,903
統合	2	42,099	2	385,792
不適格建 物の改築	9	271,902	—	—
大規模 改造	104	506,925	—	—
地震補強	14	233,421	—	—
危険改築	4	361,165	—	—
公立幼稚 園の新增 築	1	34,767	—	—
防災機能 強化	13	67,093	—	—
ブロック 塀改修、 冷房新設	124	580,782	—	—
太陽光 発電等	3	21,890	—	—
長寿命化 改良	5	226,289	—	—
計	(延べ校数) 285	2,601,716	(延べ校数) 3	562,695

※対象学校種別：幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校等

第3節 産業教育設備整備事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。
令和2年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備 191,764千円

第4節 理科教育振興法補助事業

令和2年度の設備現有状況は次のとおりである。

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

令和3年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校 I	88	9,165,288,000	1,110,908,800	12.1
高校 II	0	0	0	—
小 計	88	9,165,288,000	1,110,908,800	12.1
視覚支援学校	1	170,615,000	5,389,060	3.2
聴覚支援学校	4	149,698,000	9,453,224	6.3
特別支援学校	18	1,033,071,000	36,956,523	3.5
小 計	23	1,353,384,000	51,798,807	3.8

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

令和3年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校 I	88	184,888,000	71,187,745	38.5
高校 II	0	0	0	—
小 計	88	184,888,000	71,187,745	38.5
視覚支援学校	1	3,180,000	42,400	1.3
聴覚支援学校	4	5,951,000	616,445	10.4
特別支援学校	18	40,217,000	4,605,870	11.5
小 計	23	49,348,000	5,264,715	10.7

※規模別の高校 I は学級数合計が 27 学級以下、

高校 II は学級数合計が 28 学級以上の学校が対象となり、
現在は 28 学級以上の学校は無い。

第5節 情報処理設備整備事業

令和2年度における事業実施状況は次のとおりである。

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

県立高校 81校（リース・保守） 347,812千円

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

令和2年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積(m ²)	上屋面積(m ²)	交付金額(千円)
会津若松市	行仁小学校	195	—	27,271

2 社会体育施設整備費補助

令和2年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 地域スポーツセンター

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
国見町	国見町上野台運動公園柏葉体育館	—	1,733
小野町	小野町B&G海洋センター	—	292

(2) 地域武道センター

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

(3) 社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から「うつくしま教育ネットワーク」、平成28年度から「ふくしま教育クラウドサービス」を運用し利便性の維持・向上を図っている。

平成30年度からは県立教育機関向けのネットワーク「FACE (Fukushima Advanced Cloud network for Education)」の運用を開始した。

Webシステムについては、情報発信の強化と作業の効率化を図るため、福島県のWebシステム及びNetCommons3を活用したCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)により運用し、県立学校を含む教育庁機関及び希望する市町村教育機関のWebサイトによる情報公開を支援した。

県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについては、平成21年度までに、県立学校に対して教員1人1台に相当するパソコンの配備を行っていた。平成29年度から令和元年度までにWindows7のサポート期限到来に備え、5,892台の更新・配備を行った。

過去10年間の県立学校校務用パソコンの整備状況

年度	教職員PC配備実績
H23	316台 ※1
H24	1,395台 ※2
H25	814台 ※2
H26	0台
H27	0台
H28	228台 ※3
H29	2,517台 ※4
H30	1,767台 ※4
R1	1,608台 ※4
R2	0台

※1 東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※2 WindowsXPのサポート終了に伴う更新等

※3 Windows Vistaサポート終了に伴う更新等

※4 Windows7サポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況(小・中・高・特別支援学校)

項目	福島県	全国平均
教育用PC1台当たりの児童生徒数	1.5人	1.4人
校務用PCの整備率	123.5%	122.7%
普通教室のLAN整備率	93.2%	95.4%
普通教室の大型提示装置整備率	55.4%	71.6%
インターネット接続率(100Mbps以上)	92.6%	88.8%
統合型校務支援システムの整備率	25.0%	73.5%

文部科学省調べ(令和2年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(R3.3現在)(確定値))

第2節 人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	83.6%	86.3%
授業にICTを活用して指導する能力	65.3%	70.2%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	70.4%	72.9%
情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	81.6%	83.3%

文部科学省調べ(令和2年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(R3.3現在)(確定値))

第5章 義務教育

第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「『ふくしま活用力育成シート』実践事業」、「『学びのスタンダード』推進事業」、「一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業」及び「理数教育優秀教員活用事業」を実施した。少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。なお、「理数コンテスト事業」における、算数・数学ジュニアオリンピック及び科学の甲子園ジュニア福島県大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

生徒指導関係では、「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校135校、中学校211校、義務教育学校3校に文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

さらに、教育相談研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
本校	489	479	472	468	458	452	444	436	428	417
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	6	5	5	5	5	5	5	7	7	6
計	495	484	477	473	463	457	449	443	435	423
前差	△10	△11	△7	△4	△10	△6	△8	△6	△8	△12

(2) 令和2年度の学級数別学校数(小学校) ※休校が7校(分校1校含む)あり、0学級になる(5/1時点)。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	86	187	107	26	5	411
分室	—	—	—	—	—	—
分校	5	—	—	—	—	5
計	91	187	107	26	5	416
構成比	22	45	26	6	1	100

(3) 中学校 ※平成19年度から県立中学校を含む。

年度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
本校	237	236	232	229	224	223	221	219	219	216
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—	—	2	2	2
計	237	236	232	229	224	223	221	221	221	218
前差	0	△1	△4	△3	△5	△1	△2	0	0	△3

(4) 令和2年度の学級数別学校数(中学校) ※休校が3校あり、0学級になる(5/1時点)。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	84	76	43	9	1	213
分 室	—	—	—	—	—	—
分 校	2	—	—	—	—	2
計	86	76	43	9	1	215
構成比	40	35	20	4	1	100

(5) 義務教育学校 ※令和2年度は義務教育学校が1校新設された。

年 度	30	R元	R2
本 校	1	2	3
計	1	2	3
前 差	1	1	1

(6) 令和2年度の学級数別学校数(義務教育学校)

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	—	2	1	—	—	3
計	—	2	1	—	—	3
構成比	0	67	33	0	0	100

(7) 公立幼稚園の設置状況

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
園 数	204	201	193	191	184	166	154	149	133	128
園児数	9,136	8,646	8,320	8,005	7,590	6,603	6,205	6,197	6,010	5,505

(8) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
単 式	4,465	4,301	4,197	4,103	4,019	3,883	3,814	3,716	3615	3,172
複 式	180	204	203	215	209	225	201	199	207	201
特別支援	332	350	377	403	440	492	537	595	636	659

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
児 童	107,043	102,095	99,339	96,776	94,686	92,449	90,657	88,781	86,521	85,862
学 級	4,977	4,855	4,777	4,721	4,668	4,600	4,552	4,510	4,458	4,032

(9) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和 37 年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和 56 年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和 63 年度より再び減少傾向にある。

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
単 式	2,089	2,079	2,050	1,997	1,953	1,861	1,792	1,729	1,670	1,409
複 式	8	8	8	8	8	12	11	12	14	14
特別支援	187	203	218	233	248	254	267	295	308	310

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
生 徒	58,212	56,922	56,262	54,929	53,608	52,194	50,306	48,473	46,992	45,758
学 級	2,284	2,290	2,276	2,238	2,209	2,127	2,070	2,036	1,992	1,733

(10) 義務教育学校児童生徒数・学級数の推移

年 度	30	R元	R2	年 度	30	R元	R2
単 式	13	20	21	児童・生徒	280	432	492
複 式	0	0	3	学 級	17	25	32
特別支援	4	5	8				

(11) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		24	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3
小 学 校	教 員	7,131	7,028	6,979	6,944	6,850	6,812	6,752	6,707	6,634	6,587
	事 務 職 員	474	466	468	467	458	455	443	433	415	408
	充 指 導 主 事	23	23	25	26	27	29	29	28	29	30
	補 充 教 職 員	312	293	332	321	309	257	260	251	236	222
	県単独負担教員	182	171	170	141	155	153	162	153	167	156
	学校栄養職員	128	124	125	123	121	121	122	118	119	124
中 学 校	教 員	4,361	4,399	4,324	4,337	4,241	4,240	4,127	4,075	4,040	3,977
	事 務 職 員	228	227	228	229	244	241	230	219	208	209
	充 指 導 主 事	40	40	38	35	40	40	39	40	39	39
	補 充 教 職 員	160	150	143	167	167	163	132	124	117	103
	県単独負担教員	188	161	160	151	143	144	134	136	118	110
	学校栄養職員	67	65	67	69	70	74	72	67	66	65
市立特別支援学校	教 員	40	46	41	39	32	30	30	60	64	59
	事 務 職 員	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4
	補 充 教 職 員	13	13	13	7	6	6	7	7	6	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

令和2年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 新型コロナウイルス感染症拡大の防止並びに東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。
教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (2) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (3) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。
- 2 令和2年度公立小・中学校人事(令和3年3月末公表)
 - (1) 異動件数
異動件数3,118件(前年度3,119件)で1件の減少となった。
 - (2) 採用について
本年度は456名(小学校教諭284名、中学校教諭122名、養護教諭28名、事務職員20名、栄養職員2名)を新規に採用した。
 - (3) 異動について
各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等にあつて臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相対地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長99名(小学校68名、中学校31名、前年度比18名増)、教頭116名(小学校81名、中学校35名、特別支援学校0名、前年度比18名増)、計215名で、前年度より36名増加した。

イ 副校長は小学校4名、中学校3名、義務教育学校3名の計10名を、主幹教諭は小学校19名、中学校12名(県立中2名を含む)、義務教育学校3名の計34名を登用した。

ウ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長46名、中学校長4名、小学校教頭52名、中学校教頭13名に加え、主幹教諭8名を登用した。

エ 教頭の昇任は受考者304名に対し、107名で昇任率は35.2%となっている。

(5) 退職について

ア 令和2年度末の退職者数は614名で前年度に比べ52名の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者492名、勸奨による退職者79名、普通退職者43名となっている。

ウ 退職者中、校長は130名(小学校79名、中学校51名)、教頭は25名となっている。

3 教育職員免許状の授与状況

令和2年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,630件あり前年度より64件減となっている。

普通免許状は、前年度より76件減で1,458件、臨時免許状は10件増で170件、特別免許状は2件授与を行った。

普通免許状のうち令和2年度大学卒業者の占める割合は、約70%で、1,145件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	15件
同 一種免許状	125件
同 二種免許状	36件
中学校教諭専修免許状	29件
同 一種免許状	213件
同 二種免許状	9件
高等学校教諭専修免許状	32件
同 一種免許状	313件
幼稚園教諭専修免許状	3件
同 一種免許状	82件
同 二種免許状	440件
特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	39件
同 二種免許状	92件

養護教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	2件
同 二種免許状	6件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	14件
同 二種免許状	6件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状	1件
高等学校特別免許状	2件
小学校助教諭免許状	126件
中学校助教諭免許状	13件
高等学校助教諭免許状	20件
幼稚園助教諭免許状	0件
特別支援学校助教諭免許	7件
特別支援学校自立教科助教諭免許状	0件
養護助教諭免許状	4件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止(令和3.3.31)	設置(令和3.4.1)
小 学 校	福島市立大久保小学校 福島市立青木小学校 伊達市立大石小学校 須賀川市立稲田小学校 棚倉町立山岡小学校 会津若松市立河東学園小学校 南相馬市立福浦小学校 南相馬市立金房小学校 南相馬市立鳩原小学校 浪江町立浪江小学校 浪江町立幾世橋小学校 浪江町立請戸小学校 浪江町立大堀小学校 浪江町立荻野小学校 川内村立川内小学校 いわき市立大野第二小学校	
中 学 校	須賀川市立稲田中学校 会津若松市立河東学園中学校 浪江町立浪江中学校 浪江町立浪江東中学校 川内村立川内中学校	
義 務 教 育 学 校		須賀川市立義務教育学校 稲田学園 会津若松市立河東学園 川内村立川内小中学園

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

令和2年度の学校火災は、市町村立小・中・特別支援学校における発生はなく、前年度より2件減少した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

令和2年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 令和2年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他

- ・ 諸表簿の管理状況
- ・ 毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と活用

ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。

イ 学校事故防止対策研究協議会において、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。

※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所	級地	4級		3級		2級		1級		準1級		特 地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小 学 校	県 北					1		1						11		13	0
	県 中					2		3	1	1	1		1	17		23	3
	県 南							1						9		10	0
	会 津					3		4		1				6		14	0
	南会津					7		1						6		14	0
	相 双					3		1						4		8	0
	いわき					2		2			1			8	1	13	1
	計	0	0	0	0	18	0	13	1	3	1	0	1	61	1	95	4
中 学 校	県 北					1								7		8	0
	県 中					2		2		1				9		14	0
	県 南							1						4		5	0
	会 津					1		4		1				6		12	0
	南会津					4								3		7	0
	相 双					3		1						1		5	0
	いわき					2		2		1				4		9	0
	計	0	0	0	0	13	0	10	0	3	0	0	0	34	0	60	0
総計		0	0	0	0	31	0	23	1	6	1	0	1	95	1	155	4
		0	0	0	0	31	0	24	0	7	0	1	0	96	0	159	0

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

級地	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	18	0	18	475	0	475	62	0	62	202	0	202	13	0	13	294	0	294	27	0	27	172	0	172	31	0	31	769	0	769	89	0	89	374	0	374
1級	13	1	14	970	10	980	79	2	81	243	4	247	10	0	10	440	0	440	41	0	41	216	0	216	23	1	24	1410	10	1420	120	2	122	459	4	463
準1	3	1	4	151	0	151	14	0	14	35	0	35	3	0	3	232	0	232	11	0	11	49	0	49	6	1	7	383	0	383	25	0	25	84	0	84
特 地	0	1	1	0	8	8	0	2	2	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	8	8	0	2	2	0	4	4
教育事務所指定	61	1	62	4555	11	4566	370	2	372	943	3	946	34	0	34	3140	0	3140	178	0	178	687	0	687	95	1	96	7695	11	7706	548	2	550	1630	3	1633
合計	95	4	99	6151	29	6180	525	6	531	1423	11	1434	60	0	60	4106	0	4106	257	0	257	1124	0	1124	155	4	159	10257	29	10286	782	6	788	2547	11	2558

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「平成29年度人事異動方針」第1の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実

を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成29年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第2の2の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」とし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

(ア) へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、埴町、会津坂下町、会津美里町、浪江町、富岡町の中心部の学校
- B地域 A及びC地域以外の学校
- C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

(イ) 異動基準

- a へき地学校勤務については次の基準による。
- へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。
 - へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。
 - すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務 所指定の へき地	人事委員会指定へき地				
		特地・ 準1級地	1 級地	2 級地	3 級地	4 級地以上
勤続 年数	4年以上	3年以上		2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の 会津ブロックへき地 勤務年数 (新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準1級地、 1級地以上
	3年以上	2年以上

- b 他管内へき地等への計画的異動
小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

- イ へき地学校教職員の経済的優遇策
人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。
- へき地手当等の支給
勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額+教職調整額 +扶養手当)×支給割合	20/100
3級地		16/100
2級地		12/100
1級地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

- へき地手当に準ずる手当
へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。
 - ・異動日から5年間
(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%
 - ・5年を経過した後の1年間
(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%
- ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置
へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

- ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。
へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。
また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。
- イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。
へき地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

- 平成22年3月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」(平成25年3月改定)では、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、
- ① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
 - ② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
 - ③ 豊かな教育環境の形成
- の3つの基本目標のもと、令和元年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」「豊かな教育環境の形成」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	13	9	13	7	11	6	70
市町村教育委員会 指導主事等数	30	37	9	13	2	16	19	126

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

- 指導担当者研究協議会
- 主任指導主事等会議
- 学力向上担当指導主事会議
- 生徒指導担当指導主事会議
- ふくしま指導担当者会議
- ふくしま教育創造コンソーシアム

(ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから各校1名参加

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等

- ・ 人権教育開発事業 ほか

- 県教育委員会による研究指定校

- ・ ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクトほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

(ア) 小学校、中学校初任者研修の実施

(イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

(ウ) 中央研修講座への派遣

(エ) 長期研修生(内地留学)の派遣

(オ) 教育研究団体に対する援助と指導

(カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 幼稚園等新規採用教員研修

(イ) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

(ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためDVDによる開催

(エ) 幼稚園教育課程研究協議会

(オ) 幼児教育実技研修会

- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

代替研修として「遊びを通じた学びの研修会」を県内3地区で開催

オ 生徒指導の充実に努めた。

(ア) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- 不登校・いじめ等対策域別研修会

(県内7地区開催)

(イ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

- 教育相談体制の充実

- ・ スクールカウンセラー等活用事業
- ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
- ・ 学校教育相談員(教育センターに配置)
- ・ スクールソーシャルワーカー派遣事業
- ・ ふくしま24時間子どもSOS
- ・ サポートティーチャー派遣事業
- ・ ふくしま子どもLINE相談

- 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育総合支援事業
- ・ 道徳教育推進校による実践研究(7地区)

- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(ア) 情報化社会への対応

- 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)

(イ) 国際化への対応

- 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施

- 151名の外国JET青年の受入れ(107名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「令和3年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校（以下「中学校」という。）入学者選抜は、志願者の意欲・能力・適性等を総合的にみる選抜（以下「一般選抜」という。）によって行う。ただし、ふたば未来学園中学校においては、スポーツ選抜を行うことができる。選抜に当たっては、適性検査等の結果及び小学校の校長から提出される調査書を資料として総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ア) 一般選抜

a 一般選抜は、各中学校の特色に配慮しつつ、各中学校の教育を受けるに足る意欲・能力・適性等を総合的に判断する選抜とし、すべての中学校で実施する。一般選抜には、その募集定員の中に各校の特色に応じて地域枠を設けることができる。なお、地域枠の選抜方法の内容は、一般選抜と同じとする。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 適性検査1

問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

(b) 適性検査2

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを文章等で表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況を見る。

(e) その他

志願者の目的意識や地域への思い等について確認するため、志願理由書を用いることを可能とする。

(イ) スポーツ選抜

a スポーツ選抜は、運動能力や、中学校が行おうとする教育への意欲や態度、適性等を総合的にみて判断する選抜とし、ふたば未来学園中学校において実施する。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 実技検査

中学校が求める生徒像に応じて内容を定めて実施し、運動能力をみる。

(b) 作文

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを定められた文字数でまとめ、表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況を見る。

(e) 志願理由書

志願者の目的意識や小学校での各種大会の成績等をみる。

(ウ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

a 一般選抜は、まず、適性検査1及び適性検査2の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とし、次にその他の者については、適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

ただし、学校の特色に応じて、上記によらず適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに志願理由書及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定することを可能とする。

b スポーツ選抜は、志願理由書、実技検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(エ) 選抜結果については、志願者に通知するものとする。

(オ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月9日	第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
7月13日	第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
8月4日	県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
9月29日	入学者選抜実施要綱説明会(会津・南会津地区)実施
9月30日	入学者選抜実施要綱説明会(県北・県中・県南地区)実施
10月2日	入学者選抜実施要綱説明会(相双・いわき地区)実施
10月16日	令和3年度入学者募集定員決定
12月7日～12月11日	出願書類受付
1月9日	一般選抜
1月16日	スポーツ選抜
1月19日	選抜結果通知書の発送
1月20日～1月26日	入学確約書提出
1月27日～2月2日	欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

各地域において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 オンライン研修

オ 期間及び参加者

◇校長研修

9月14日(月)～9月18日(金)

白河市立信夫第一小学校 金子 秀則

11月9日(月)～11月13日(金)

本宮市立白沢中学校 日下部 準一

◇副校長・教頭等研修

10月12日(月)～10月16日(金)

教育センター 石井 亮一

11月9日(月)～11月13日(金)

相馬市立中村第一中学校 志賀嘉津美

11月30日(月)～12月4日(金)

会津美里町立高田小学校 伊達 明美

◇中堅教員研修

9月7日(月)～9月11日(金)

喜多方市立第一小学校 伊藤 大

10月19日(月)～10月23日(金)

磐梯町立磐梯中学校 長谷川 亨公

10月26日(月)～10月30日(金)

田村市立船引小学校 明石 直子

11月9日(月)～11月13日(金)

伊達市立保原小学校 秋山 淳

石川町立石川中学校 緑川 修

12月14日(月)～12月18日(金)

南会津町立南郷小学校 藤 実和

◇次世代リーダー育成研修

9月14日(月)～9月18日(金)

二本松市立二本松第一中学校 草野 洋一

11月9日(月)～11月13日(金)

広野町立広野小学校 奥井 翔太

11月30日(月)～12月4日(金)

平田村立小平小学校 渡邊 拓

12月7日(月)～12月11日(金)

棚倉町立棚倉中学校 神永 友輔

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

※ 新型コロナウイルス対策により、開催方法は管内で異なる。

○ 県北 6月30日(火)

【東和文化センター】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ 県中 7月7日(火)

【郡山市労働福祉会館】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ 県南 7月29日(水)

【白河合同庁舎】 64名

○ 会津 6月24日(水)

【湯川村公民館】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ 南会津 6月23日(火)

【南会津町御蔵入交流館】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ 相双 6月17日(水)

【万葉ふれあいセンター】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ いわき 6月16日(火)

【いわき合同庁舎】

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

イ 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

(エ) 講師

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

ウ 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

(エ) 講師

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

エ 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月7日(火)～5月8日(水) 小学校 95名

5月16日(木)～5月17日(金) 中学校 41名

(エ) 講師 義務教育課主幹 長谷川浩文 他

オ 新任主幹教諭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

- (ウ) 期間・参加人数
(エ) 講師
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。
- カ 校長のためのマネジメント講座
(ア) 主催 福島県教育委員会
(イ) 会場 福島県教育センター
(ウ) 期間・参加人数
(エ) 講師
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。
- キ 教頭のためのマネジメント講座
(ア) 主催 福島県教育委員会
(イ) 会場 福島県教育センター
(ウ) 期間・参加人数
9月1日(火) 79名
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日に短縮して実施した。
(エ) 講師 義務教育課主幹 鈴木 正和 他
- ク 公立小・中学校経験者研修(I、II)
(ア) 経験者研修 I
○ 主催 福島県教育委員会
○ 期間・会場
(小) 6月10日(水)
(中) 1班: 9月30日(水)
2班: 10月7日(水)
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日に短縮して実施した。
○ 参加人数 小学校 91名 中学校 54名
○ 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授
教育センター指導主事等
- (イ) 経験者研修 II
○ 主催 福島県教育委員会
○ 期間・会場
(小) 6月15日(月)
(中) 9月16日(水)
○ 参加人数 小学校 51名 中学校 30名
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日に短縮して実施した。
○ 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授
教育センター指導主事等
- ケ 公立小・中学校初任者研修
(ア) 校内における研修 150時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。
(イ) 校外における研修 22日間
a 地区別研修 A
(7日間、各教育事務所の計画による)
・ 一般研修 1日間
・ 授業研修 2日間
・ へき地校研修 1日間
・ カウンセリング研修 2日間
・ 特別支援学校研修 1日間
- b 地区別研修 B
(9日間、各市町村教育委員会の計画による)
・ 一般研修 1日間
・ 研究発表集会等研修 5日間
・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
・ 他校種園参観研修 1日間
- c 宿泊研修
・ 磐梯青少年交流の家 3日間
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、所属校で実施した。
・ 教育センター 3日間
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日に短縮して実施した。
- (ウ) 参加者数
a 小学校 221名
b 中学校 116名
- コ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修
(ア) 新規採用職員研修
・ 対象 令和2年度新規採用者
・ 日数 前期2日間、後期5日間(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため前期は2日間で実施)
・ 参加人数 20名(小学校15名 中学校5名)
・ 会場 ふくしま自治研修センター
- (イ) 基礎力アップ研修
・ 対象 採用後5年目
・ 日数 3日間
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。
- (ウ) 応用力アップ研修
・ 対象 採用後9年目
・ 日数 3日間
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。
- (エ) 実行力アップ研修
・ 対象 採用後13年目
・ 日数 3日間
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。
- (オ) 新任係長研修会
・ 対象 新任の主任主査
・ 日数 3日間
・ 参加人数 10名
- サ 事務職員研修(小・中学校)
○ 主催 独立行政法人教職員支援機構
○ 期間 小学校: 12月7日(月)~12月11日(金)
中学校: 11月30日(月)~12月4日(金)
○ 参加人数 3名(小学校2名、中学校1名)
○ 実施方法 オンライン研修

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

(ア) 平成31年4月1日～令和3年3月31日

猪苗代町立猪苗代中学校教諭 金田 孝介
 檜枝岐村立檜枝岐中学校教諭 吉村 憲治

(イ) 令和2年4月1日～令和4年3月31日

白河市立大信中学校教諭 三森雄一朗
 南相馬市立石神第二小学校教諭 阿部 緑

イ 福島大学

(ア) 平成31年4月1日～令和3年3月31日

福島市立福島第四中学校教諭 菅野美由里
 天栄村立牧本小学校教諭 菊地 幸恵
 白河市立白河第二小学校教諭 中畑 純
 白河市立白河第一小学校教諭 東城 恵
 会津若松市立一箕小学校教諭 渡部 美沙
 会津若松市立一箕小学校教諭 長峰 健
 いわき市立桶売中学校教諭 吉田 良平

(イ) 令和2年4月1日～令和4年3月31日

二本松市立二本松北小学校教諭 佐藤 智子
 川俣町立山木屋中学校教諭 坂野 恵理
 本宮市立岩根小学校教諭 山本 雄太
 田村市立大越小学校教諭 田川 朗子
 小野町立小野中学校教諭 國友 靖展
 白河市立白河第一小学校教諭 鈴木 隆志
 会津若松市立湊中学校教諭 稲本 重徳
 会津若松市立謹教小学校教諭 佐藤 祐介

(4) 令和2年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
 イ 主催 福島県教育委員会
 ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中(義務教育学校を含む。)・高・特別支援学校等教職員等
 エ 審査委員
 福島大学学校臨床支援センター長 宗形 潤子
 川俣町教育委員会学校教育指導主事 高橋 正之
 前福島県公立学校退職校長会副会長 金澤 武男
 オ 応募数 38点
 カ 入賞者
 (ア) 特選

氏名・学校名	所属
福島市立森合小学校	団体
教諭 千葉 惇	福島県立安積高等学校
主幹教諭 伊東 恭一	白河市立白河第三小学校
教諭 荒井 智	白河市立みさか小学校
福島県立相馬支援学校	団体

(イ) 入選

氏名・学校名	所属
伊達市立保原小学校	団体
主幹教諭 大竹 芙美	郡山市立富田東小学校
田村市立船引小学校	団体
棚倉町立棚倉小学校	団体
只見町立朝日小学校	団体
養護教諭 渡邊 舞香	相馬市立日立木小学校

(ウ) 奨励賞

氏名・学校名	所属
教諭 奥 仁	会津若松市立謹教小学校
教諭 武口隆太郎	新地町立尚英中学校
教諭 田島 裕司	いわき市立高坂小学校

3 教育課程

(1) 令和2年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈令和2年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 9月8日(火)
 県中域内 9月24日(木)
 県南域内 9月1日(火)
 会津域内 9月28日(月)
 南会津域内 9月10日(木) 小中合同
 相双域内 9月18日(金)
 いわき域内 9月8日(火)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 433名
 〈令和2年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 9月1日(火)
 県中域内 9月3日(木)
 県南域内 9月3日(木)
 会津域内 10月6日(火)
 南会津域内 9月10日(木) 小中合同
 相双域内 9月8日(火)
 いわき域内 9月10日(木)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 262名

4 学力向上等

(1) ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト

- ア ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト
- イ AI時代を生き抜く読解力向上事業

(2) 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

(3) 「ふくしま活用力育成シート」実践事業

(4) 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

- ア 理数教育優秀教員活用事業
- イ ふくしまスーパーサイエンススクール事業
- ウ 理数コンテスト事業
- エ 先端技術体験事業

(5) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

- 30人程度学級
- 30人学級編制（小1、小2、中1）

5 放射線教育

（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）

身の回りで起こる災害や放射線等に関する問題、取組等に目を向けながら、未来を拓く地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身に付けるための支援として、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

- 本宮市立白岩小学校
- 南相馬市立太田小学校

(2) 地区別研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日
 - 県北域内 8月4日（火）
 - 県中域内 9月10日（木）
 - 県南域内 8月28日（金）
 - 会津域内 9月15日（火）
 - 南会津域内 11月30日（月）
 - 相双域内 10月27日（火）
 - いわき域内 8月20日（木）
- ウ 参加者数 592名

(3) 運営協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期間 4月～1月（3回）
 - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月に第3回のみ実施
- ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育・防災教育推進委員
- エ 内容 各種放射線教育・防災教育研究協議会の企画・立案、実

践事例集の作成及び事業の総括

(4) 「ふくしま放射線教育・防災教育実践事例」の作成と義務教育課ホームページへの掲載

- ア 掲載者 福島県教育委員会
- イ 掲載 令和3年3月

(5) 学習資料「東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を振り返り3.11に学ぼう」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 令和3年2月
- ウ 部数 210,000部

6 防災教育

（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じた確かな判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

- ア 小学校
 - 須賀川市立西袋第二小学校
 - 下郷町立江川小学校
 - いわき市立久之浜第一小学校
- イ 中学校
 - 白河市立大信中学校
 - 猪苗代町立東中学校

(2) 地区別研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日
 - 県北域内 8月4日（火）
 - 県中域内 9月10日（木）
 - 県南域内 8月28日（金）
 - 会津域内 9月15日（火）
 - 南会津域内 11月30日（月）
 - 相双域内 10月27日（火）
 - いわき域内 8月20日（木）
- ウ 参加者数 592名

(3) 運営協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期間 4月～1月（3回）
 - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月に第3回のみ実施
- ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育・防災教育推進委員
- エ 内容 各種放射線教育・防災教育研究協議会の企画・立案、実践事例集の作成及び事業の総括

(4) 「ふくしま放射線教育・防災教育実践実践事例」の作成と義務教育課ホームページへの掲載

- ア 掲載者 福島県教育委員会
- イ 掲載 令和3年3月

(5) 「防災個人カード」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 令和2年6月
- ウ 部数 30,000部

(6) 学習資料「東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を振り返り3.11に学ぼう」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 令和3年2月
- ウ 部数 210,000部

7 道徳教育

(1) 道徳教育

ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

- (ア) 主催 指導者養成研修（NITSオンライン研修）
独立行政法人教職員支援機構

(イ) 期日

- ①令和2年11月10日～12日
- ②令和2年11月17日～19日
- ③令和2年12月1日～3日
- ④令和2年12月8日～10日
- ⑤令和2年12月15日～17日

氏名	勤務先	職名
柳澤 成	二本松市立東和小学校	教頭
須藤 瑞穂	須賀川市立長沼中学校	校長
須田 英明	郡山市教育委員会	指導主事
本多 正典	県南教育事務所	指導主事
宗田 克枝	会津教育事務所	指導主事
飯塚 敏明	檜枝岐村立檜枝岐中学校	校長
佐藤 大志	双葉町立双葉南小学校	校長
矢作 啓太	いわき市総合教育センター	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む授業の充実」

(イ) 主催

福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか」

(イ) 主催

福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催（6月10日、2回目中止）

ウ 道徳教育地区別推進協議会

各事務所ごとに設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校3校、中学校3校、高等学校1校

オ 「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会

各事務所ごとに設定、1回開催

カ 道徳教育リーフレット等の作成

「道徳のとびら」（保護者、地域住民及び教職員向け）、
「道徳のかけ橋」「道徳の礎」（教職員向け）

(3) 人権教育

ア 人権教育研究開発事業

○ 趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

○ 推進地域

広野町（広野町教育委員会）子ども園・小・中学校（1園2校）

○ 研究テーマ

互いのよさを尊重し、新たな価値観を創り上げる子どもの育成～子どもの「感」でつくる教育活動の推進を通して～

○ 研究期間

令和2・3年度

イ 人権教育指導者養成研修（NITSオンライン研修）

○ 主催 独立行政法人教職員支援機構

○ 期日 令和2年12月1日～3日

令和2年12月15日～17日

○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

○ 参加者 広野町立広野中学校 教頭 寺島 克彦

広野町立広野小学校 教諭 猪狩 香奈

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

ア 趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ 応募期間 令和2年7月22日～9月10日

ウ 応募数

中学校	440点
高等学校	39点
一般	46点

エ 受賞者

【中学校】

最優秀賞	会津若松市立第二中学校	1年	山本 実紀
優秀賞	南会津町立南会津中学校	2年	芳賀愛梨花
	本宮市立本宮第一中学校	2年	鈴木花奈美

【高等学校】

最優秀賞	県立会津農林高等学校	2年	山内 里紗
優秀賞	県立喜多方桐桜高等学校	3年	大塚 愛
	県立四倉高等学校	2年	諸橋 琴音

【一般】

最優秀賞	二本松市在住	鈴木 雅之
優秀賞	矢祭町在住	青砥 泰彦
	福島市在住	長野野々香

8 特別活動

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県小学校教育研究会

イ 研究主題

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 県研究協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県中学校教育研究会

イ 研究主題

学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。

ウ 県研究協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

9 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

ア 生徒指導研究推進協議会

国立教育政策研究所主催

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 生徒指導指導者養成研修（オンライン研修）

○ 期日 令和2年11月10日～12月17日

※受講者が受講できる任意の3日間

○ 参加者 白河市立東北中学校

教諭 戸倉 恵美

郡山市立明健中学校

教諭 佐藤 友則

ウ 教育相談指導者養成研修

○ 期日 令和2年6月4日～6月7日

○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

○ 参加者 郡山市立郡山第六中学校

教諭 伊藤 慧

いわき市総合教育センター

指導主事 泉 翔子

(2) 進路指導・キャリア教育

ア キャリア教育指導者養成研修

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

10 幼稚園教育

令和2年度公立幼稚園数は、128園で、学級数は354学級であった。幼児数減少により、少人数保育になっているところもある。県全体の公立幼稚園における、1学級あたりの平均園児数は、15.6人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県国公立幼稚園・こども園協議会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日

県北域内 9月17日(木)

県中域内 10月1日(木)

県南域内 9月30日(水)

会津・南会津域内 10月2日(金)

相双域内 10月7日(水)

いわき域内 8月24日(月)

ウ 内容

○ 幼稚園教育要領の理解に関する講義

○ 協議主題に関する講義

※新型コロナウイルス感染症対策により、グループ別協議は、資料交換のみとした。

エ 参加者数 193名(7地区合計)

(2) 幼児教育実技研修会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、代替研修として「遊びを通じた学びの幼児教育研修会」を県内3地区で開催した。

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 会津地区 7月29日(水)

浜通り 7月31日(金)

中通り 8月5日(水)

エ 受講者 のべ369名(3地区合計)

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
イ 会場 教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
ウ 日数 園外研修(教育センター) 2泊3日
※ 新型コロナウイルス感染症対策により、1日に変更し資料及び課題で代替し宿泊無しで実施
園外研修(各教育事務所) 3日間
〃 (幼稚園、保育園、小学校参観) 3日間
園内研修(勤務園) 10日間
エ 参加者 研修対象者 公立50名 私立35名 計85名
オ 内容 講義……幼稚園教育の現状と課題
演習……音楽をバックに楽しむ
協議……乳幼児理解にはじまる保育
参観……先進的研究実践園、小学校、保育所
実習……保育実習

(4) 幼稚園経験者研修Ⅱ

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
イ 期日 年間
ウ 日数・内容・会場
○ 園外研修…5日以上
・ 共通研修………1日(各教育事務所)
・ 保育専門研修…(教育センター)1泊2日
※ 新型コロナウイルス感染症対策により、1日に変更し、資料及び課題で代替し宿泊無しで実施
・ 社会体験研修…1日(社会体験を行う各施設等)
・ 選択研修………1日以上(幼児教育実技研修会等)
○ 園内研修…7日以上
・ 保育力の向上に関する研修
・ 教育課題の解決に向けた実践に関する研修
・ パイオニア研修
エ 参加者 研修対象者 公立7名 私立0名 計7名

(5) 幼児教育指導者養成研修

- ア 期日 令和2年11月10日(火)～12月17日(木)
(指定期間において、オンライン研修により開催)
イ 参加者 義務教育課 指導主事 米屋真由美
義務教育課 指導主事 中丸 美穂
福島市教育委員会 指導教諭 渡部友美子
いわき市こどもみらい部 指導教諭 千田 歩
福島大学附属幼稚園 教諭 佐藤久美子
のぞみの花こども園 園長 並河 智子

11 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校101校で23.9%、中学校61校で28%を占め、小・中学校総数に対して25.3%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会

- イ 期日 令和2年5月28日(木)～5月29日(金)
ウ 会場 福島県教育センター
エ 講師 小学校教諭他
オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
イ 期日 令和2年5月11日(月)～5月13日(水)
令和2年5月20日(水)～5月22日(金)
ウ 会場 福島県教育センター
エ 講師 中学校教諭他
オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 全国へき地教育研究大会

第69回全国へき地教育研究大会長野大会

- ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟
長野県教育委員会 他
イ 期日 令和2年10月8日(木)～10月9日(金)
ウ 会場 全体会 富山県民会館
分散会 課題別6分散会
分科会 県内6会場
エ 研究主題
○ 大会主題

「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催

(4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

12 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

13 教科用図書

(1) 令和3年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書、中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条図書を採択した。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 令和2年4月1日～令和2年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 令和2年4月21日
第2回 令和2年5月27日

(エ) 会場 第1回 書面開催
第2回 教育会館

イ 教科書展示会

令和2年6月12日から14日間、県内21の会場で開催した。会場及び来会者は次の表のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書 (該当に○印)			展示会場設置場所 (該当に○印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島地区	○			○			126
伊達教科書センター(伊達市立図書館)	川俣・伊達・安達地区		○		○			125
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			116
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			213
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		29
〃 (須賀川市中央図書館)	〃		○		○			180
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			37
三春教科書センター(大越行政局)	田村地区		○		○			63
〃 (三春小学校)	〃		○		○			57
〃 (小野町 文化の館)	〃		○		○			19
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			82
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			66
会津若松教科書センター(会津若松市歴史資料センター)	会津地区	○			○			29
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			16
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			10
南会津教科書センター(南会津町役場)	〃		○		○			20
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		30
相馬教科書センター(南相馬馬市立中央図書館)	相馬地区	○			○			272
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		○		○			60
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区		○		○			121
県立図書館			○				○	
合 計	(展示会場21箇所) (採択地区11地区)	8	13		18	2	1	1671

ウ 令和3年度使用小学校教科書採択一覧(採択2年目)

採択地区	種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	英語	道徳
福島		東書	東書	東書	帝国	東書	啓林館	東書	教芸	日文	開隆堂	東書	東書	学研
川俣・伊達・安達		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	東書	学研
郡山		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	学研	東書	学研
田村		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
岩瀬		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
西白河・東白川		光村	光村	東書	帝国	東書	教出	東書	教出	開隆堂	東書	東書	東書	光文
会津		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	学研
相馬		光村	光村	東書	帝国	教出	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
双葉		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
いわき		光村	東書	教出	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書

エ 令和3年度使用中学校教科書採択一覧（採択1年目）

採択地区	種目	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽 合奏)	美術	保健 体育	技術 ・家庭 (技術)	技術 ・家庭 (家庭)	英語	道徳
福島		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書	光村
川俣・伊達・安達		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
郡山		光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	東書
田村		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
岩瀬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
石川		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
西白河・東白川		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書	日文
会津		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	日文
相馬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書	東書
双葉		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	東書
いわき		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	教出

(2) 教科用図書無償給与

令和2年度も義務教育諸学校的全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、令和3年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
令和3年2月16日	県北教育事務所	県北
令和3年2月2日	郡山合同庁舎	県中
令和3年2月15日	白河合同庁舎	県南
令和3年2月4日	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	会津
令和3年2月5日	南会津合同庁舎	南会津
令和3年2月3日	環境創造センター	相双
令和3年2月8日	いわき合同庁舎	いわき

14 教育研究団体

(1) 福島県国公立幼稚園・こども園協議会

ア 研究主題（令和2年度）

協議 主題1	幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践について
協議 主題3	障害のある幼児などの状態等に応じた指導を行うための体制について

イ 組織及び財政の状況

- 会長 千葉 桂子（福島大学附属幼稚園長）
- 会員数 745名
- 令和2年度予算額 2,346,940円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

○ 福島県国公立幼稚園・こども園協議会第1回委員

(7) 期日・会場

令和2年4月22日(水)

※ 新型コロナウイルス感染症対策により紙面開催

○ 研究主題研修会

(7) 期日・会場

令和2年6月3日(水)

※ 新型コロナウイルス感染症対策により紙面開催

(1) 講師 福島県教育庁義務教育課指導主事

(2) 福島県小学校教育研究会

ア 基本主題（令和元年度～令和3年度）

(7) 「児童自らあらゆる他者と豊かにかかわり、未来社会の創り手として必要な力をはぐくむ授業の充実」

イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあればよいか。
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科の授業はどうあればよいか。
算数	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、生活や学習に主体的にかかわる子どもの育成
理科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の充実
生活・総合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、深い学びを実感できる子どもの育成

研究部	研究主題
音楽	多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽に親しむ子どもの育成
図画工作	児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を發揮して、表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうことのできる図画工作科の指導
家庭	家族の一員として日常生活の課題を解決する力を養い、家族や地域とかかわりながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をはぐくむ授業の充実
体育	体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成
道徳	自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 川前 照幸(郡山市立明健小学校)

(イ) 会員数

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動休止

(ウ) 令和2年度決算額 103,300円

エ 主な事業

○ 研究協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

(ア) 基本主題

「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」

イ 各部研究主題

研究部	令和2年度の研究主題・研究副主題
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活に生きて働く言葉の力を身に付けさせるための指導はどうすればよいか。 R2 「読むこと」の領域における指導の工夫
社会	主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうすればよいか。 R2 協働的な学びを通して、考えを深めさせる授業の工夫

研究部	令和2年度の研究主題・研究副主題
数学	数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R2 数学のよさを実感させ、学びに向かう力、人間性等を育成する指導の工夫
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R2 思考力・判断力・表現力等を育成するための探求の過程の工夫
音楽	感性を働かせ、様々な音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導はどうすればよいか。 R2 音楽的な見方・考え方を成長させ、音楽と主体的に関わらせる学習活動の工夫
美術	造形活動を通し、多様な価値観や豊かな創造力を育むことで、自己実現の喜びを味わわせる美術教育はどうすればよいか。 R2 自己実現に向かう心を育てる手立ての工夫
保健体育	生涯を通じて心身の健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 R2 自他の健康についての課題を発見し、解決に向けて思考を深め、よりよく解決する資質や能力を育む指導の工夫(保健分野)
技術・家庭	技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか。 R2 学びの変容を実感できる評価の工夫
英語	目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 R2 コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導の工夫
道徳	人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか。 R2 生徒の学びの姿を見取る評価の工夫
特別活動	学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 R2 集団や社会の課題に気づき、解決に迫るための活動の工夫

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 島貫 条司 (福島市立岳陽中学校)
- (イ) 会員数
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動休止
- (ウ) 令和2年度の決算額 200,230 円

エ 主な事業

- 研究協議会
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐藤 秀美 (福島市立福島第三小学校)
- (イ) 会員数 405 名
- (ウ) 令和2年度の決算額 15,806,193 円

イ 主な事業

- 令和2年度福島県小学校長会研究協議会各支会大会
- (ア) 開催期日 各支会の計画による
- (イ) 会場 各支会 15 会場

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐藤 晃 (福島市立福島第四中学校)
- (イ) 会員数 216 名
- (ウ) 令和2年度の決算額 8,526,027 円

イ 主な事業

- 令和2年度福島県中学校長会研究協議会
- (ア) 開催期日 各支会の計画による
- (イ) 会場 各支会 15 会場

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 石井 隆博 (福島市立北沢又小学校)
- (イ) 会員数 630 名
- (ウ) 令和2年度の決算額 11,572,918 円

イ 主な事業

- 令和2年度福島県公立小・中学校教頭会総会及び研修会
- (ア) 開催期日 5月12日(火)
- (イ) 会場
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 古川 次男 (郡山市立三和小学校)
- (イ) 加盟校 629 校
- 令和2年度の決算額 918,418 円

イ 主な事業

- (ア) 第68回福島県学校図書館協議会安達大会
- (イ) 研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」
- (ウ) 開催期日 令和2年11月5日(木)
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催

(8) 福島県公立小中学校事務研究会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 加勢 法子
- (イ) 会員数 541 名
- (ウ) 令和2年度の予算額 2,313,250 円

イ 主な事業

- 学校事務研修会
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖 野口」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和2年9月1日（火）～9月9日（水）

(3) 応募数

中学校 9点（8校）

高等学校 24点（12校）

(4) 審査会

令和2年10月15日（木） 自治会館 301会議室
（審査員長）

福島大学共生システム理工学類長 佐藤 理夫
（審査員）

福島大学准教授 高安 徹

福島大学准教授 兼子 伸吾

郡山女子大学准教授 影山 志保

県中学校教育研究会理科部長 平野 貴浩

福島成蹊中学校・高等学校校長 本田 哲朗

県高等学校教育研究会理科部会長 井関 和明

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	掃部 夏央	南会津町立田島中学校	小名浜港岸壁におけるカキ礁の魚類等による利用
優秀賞	木口 幸音	福島大学附属中学校	乳酸菌の効果と利用
	赤城 智哉	福島市立岳陽中学校	アゲハチョウの幼虫の人工飼料による飼育の研究
入選	本田 颯人	会津若松市立第四中学校	電気に関する研究～ローレンツ力と高電圧の考察～
	飯田 賢	いわき市立平第一中学校	身近なもので納豆作り 3

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	福島市立立子山中学校	私たちの住む立子山の放射線量 その2 ～東日本大震災から9年後の今～
	葛尾村立葛尾中学校	カタクチイワシ（煮干し）の胃の内容物から考える海洋汚染
入選	南相馬市立鹿島中学校	果物と野菜の変色を防ぐための条件

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	錫谷 智	福島県立福島高等学校	乳酸菌の増殖と醗酵の関係
入選	横山 一華	福島県立相馬農業高等学校	ガザニアの花を寝かせない

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
最優秀賞	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部	ダンゴムシの腸内セルロース分解菌の研究
優秀賞	福島県立福島高等学校 S部バクテリアセルロース班	バクテリアセルロースストローの開発と評価 ～福島の伝統産業から世界のプラスチックごみ削減へ～
	福島県立福島高等学校 S部Mg電池班	マグネシウムヨウ素電池の研究
入選	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部物理班	ペロブスカイト太陽電池高性能化に向けて ～TiO ₂ 層膜厚変更実験～
	福島県立安積高等学校 物理部	ビースピを用いた重力加速度の測定において最適な結果を得るための考察

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一 博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校（義務教育学校後期課程を含む。）・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和2年9月1日（火）～9月9日（水）

(3) 応募数

中学校 70点（23校）

高等学校 12点（6校）

(4) 審査会

令和2年10月8日（木） 自治会館 301会議室

（審査員長）

郡山女子大学非常勤講師 ジョン・ティルマント

（審査員）

福島学院大学認定こども園

カウンセラー 玄 永 牧 子

福島大学准教授 真歩仁 しょうん

福島民報社常務取締役・論説委員長 早 川 正 也

福島民友新聞社編集局次長・出版部長

佐 藤 掌

福島県中学校長会生徒指導部会幹事 熊 谷 幸 司

福島県高等学校長協会普通部会長 鈴 木 睦 治

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	大川 桃果	只見町立只見中学校	3	Think globally. Act locally.
優秀賞	大越 由香子	須賀川市立西袋中学校	2	音楽で世界の人達と繋がりたい
	長嶺 拓海	会津美里町立高田中学校	3	夢と可能性をもって
	坂内 小桜	会津美里町立高田中学校	3	未来を創る
	安武 優空	いわき市立平第一中学校	3	自分と、社会と、向き合おう
	福島 眞李愛	いわき市立磐崎中学校	3	格差社会と向き合う
入選	戸梶 璃音	須賀川市立第三中学校	3	地球市民として
	佐藤 璃佳	いわき市立湯本第一中学校	3	カンボジアで学んだこと

【高等学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	二瓶 英恵	福島県立葵高校	2	男女どちらもが生きやすい社会を ～教育による男女格差の解消を考える～
優秀賞	吉田 みか	福島県立白河実業高校	3	未来へ繋げるために
	岩井 呼春	福島県立葵高校	1	積み重ねられた歴史の中で
	高橋 優太	福島県立葵高校	2	有意義なグローバル化・不必要なグローバル化
	吉田 綺羅蘭	福島県立葵高校	2	All Lives Matter
	菅野 美月	福島県立福島南高校	2	未来の学校
入選	錫谷 智	福島県立福島高校	2	未来への想像が明日を照らす
	永井 吉穂	福島県立会津学鳳高校	2	真に世界を変えるもの

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしま創生人材育成事業」

ア ふくしま創生サミットの開催

県立高等学校の生徒が地区ごとに集合し、地域の課題やその解決法、地域の未来像などについて意見を交換した。

イ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

ウ 地域コーディネーターの配置

葵高校と喜多方高校に、学校と地域をつなぐ人材発掘を担う地域コーディネーターをそれぞれ1名ずつ配置し、会津地区の高校における地域課題探究学習を支援した。

エ 特色ある郷土理解教育の支援

○ 対象校 22校

○ 各校の取組内容

・生徒の基礎学力を高める取組

(7) 学ぶ意欲や知識・判断力を高めながら、主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス

(4) 課題探究力養成講座

・3年間の計画的な進学指導体制の充実を図る取組

学力向上連絡協議会の開催

・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組

(7) 地元企業・地域人材との連携による課題探究型ワークショップ

(4) 地域課題探究活動

(7) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布

・社会人としての在り方についての理解を深める取組

(7) 社会人としての在り方についての講演会

(4) 職場見学会（選択）

(7) デュアルシステム等の実施（選択）

オ アクティブ・ラーナー養成研修会の開催

全県立高等学校の代表教員1名が参加し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業や地域課題探究学習における各校の取組を共有した。

(2) 「オールふくしま学力向上推進事業」

ア 大学進学のための学力向上推進事業

○ 対象校 20校

○ 各校の取組内容

・思考力・判断力・表現力等の養成講座

・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導

・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

・社会人としての在り方についての理解を深める講話

・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

・卒業生（大学生等）による講話

・保護者を交えた進学勉強会

・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

○ 研究会等の開催

・学力向上のための教科指導力向上研究会

アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

・学力向上連絡協議会

アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

イ ふくしま高校生リーダー育成プロジェクト

○ 対象 県立高等学校1・2年生

○ 実施内容

(ア) 1年生対象：新型コロナウイルス感染拡大防止のため参集とオンデマンドを活用して行った。

・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）

・予備校講師等による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）

・大学生との交流会、パネルディスカッション等

(イ) 2年生対象：新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンデマンドを活用して行った。

・大学教授・予備校講師等による講座（国語・数学・英語）

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

(3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度									
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
全日制	本校	83	83	83	83	84	84	79	79	79	79
	分校	5	5	5	5	5	5	3	2	2	0
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

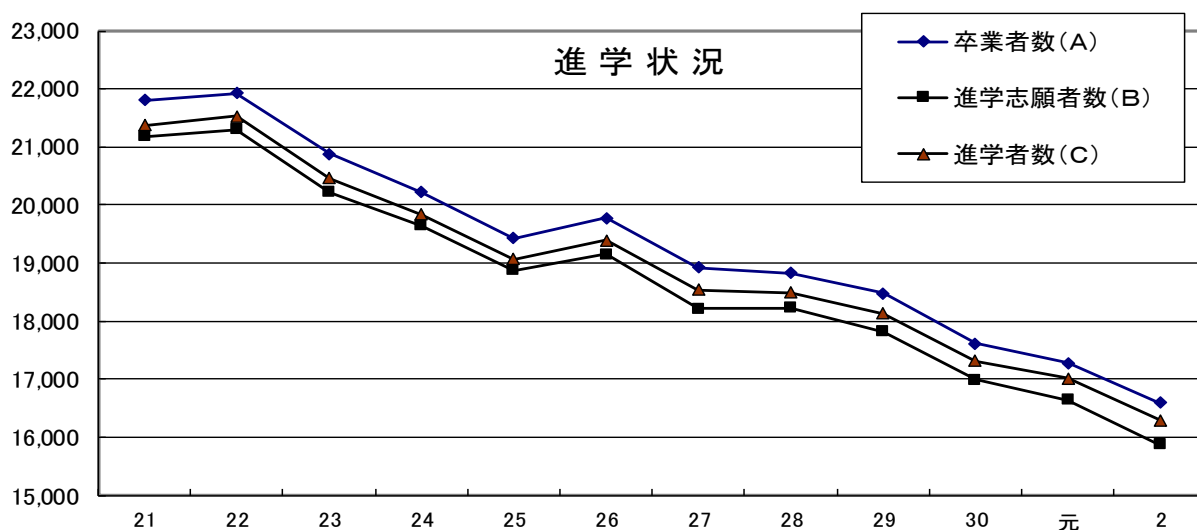
区分	年度											
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
卒業生(A)	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594
進学希望者数(B)	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872
進学者数(C)	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295
進学志願率(B/A)	97.1%	97.2%	96.8%	97.2%	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%
進学率(C/A)	98.0%	98.2%	98.0%	98.1%	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%
入学率(C/B)	100.9%	101.1%	101.2%	100.9%	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より 682 名減少し、進学率は前年度より 0.3 ポイント減少、入学率は 0.4 ポイント上昇した。
令和 2 年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	15,165 名 (93.1%)
高等学校定時制	208 名 (1.3%)
高等学校通信制	542 名 (3.3%)
高等学校別科	0 名 (0.0%)
高等専門学校	228 名 (1.4%)
特別支援学校高等部	152 名 (0.9%)

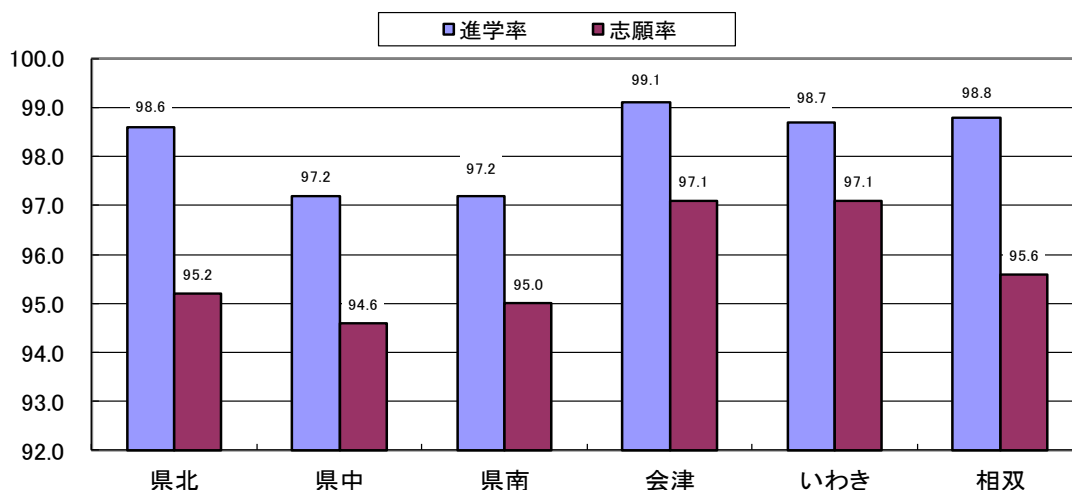
ア 中学校卒業生の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

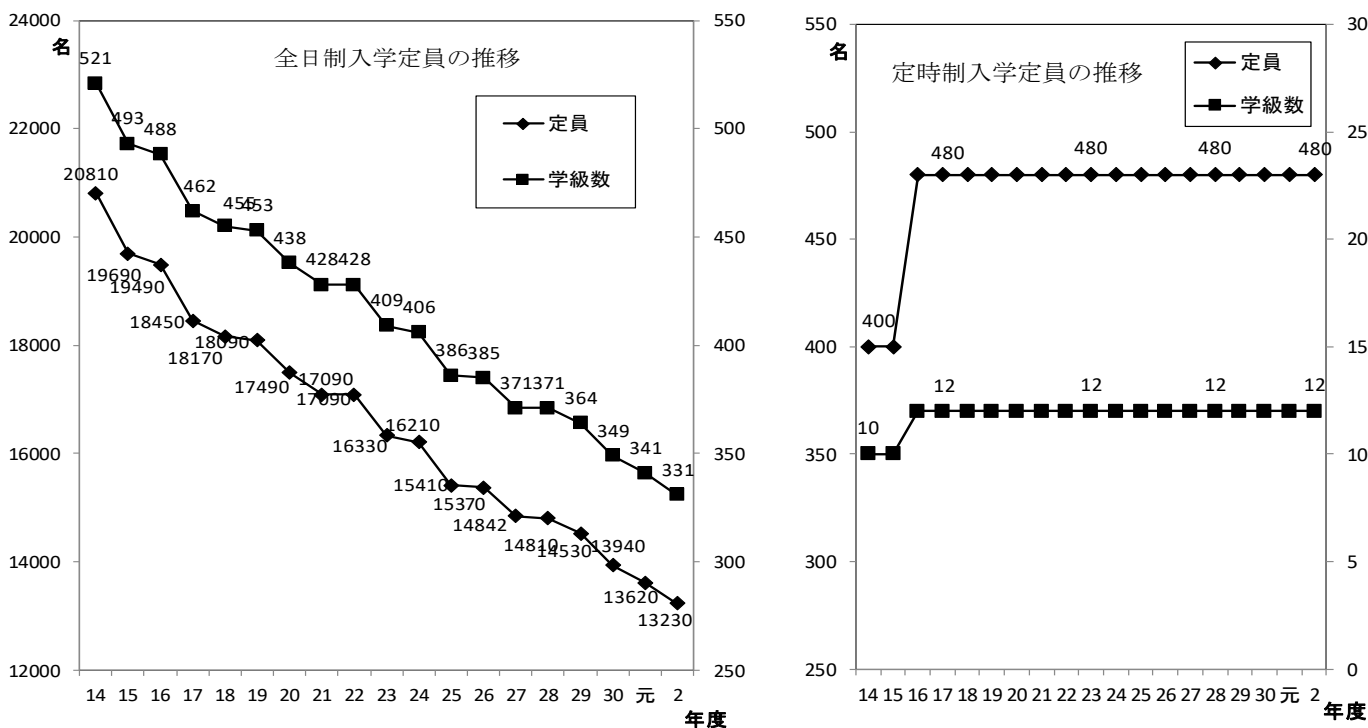
年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
全国	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8
本県	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D 入学者数	D/C (%)
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2
24	20,220	16,210	80.2	16,961	83.9	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6

(5) 県立高等学校生徒数（令和2.5.1現在）

課程 学科の区分		全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	8,435	109	257	366		8,801	533
	女	9,363	79	271	350		9,713	525
	計	17,798	188	528	716		18,514	1,058
農業に関する学科	男	1,292					1,292	
	女	1,358					1,358	
	計	2,650					2,650	
工業に関する学科	男	4,980	47		47		5,027	
	女	582	4		4		586	
	計	5,562	51		51		5,613	
商業に関する学科	男	1,477					1,477	
	女	2,632					2,632	
	計	4,109					4,109	
家庭に関する学科	男	11					11	
	女	32					32	
	計	43					43	
水産に関する学科	男	321				45	366	
	女	79				3	82	
	計	400				48	448	
理数に関する学科	男	170					170	
	女	152					152	
	計	322					322	
文理に関する学科	男	323					323	
	女	565					565	
	計	888					888	
国際文化に関する 学科	男	23					23	
	女	95					95	
	計	118					118	
国際・スポーツに 関する学科	男	0					0	
	女	0					0	
	計	0					0	
国際科学に関する 学科	男	136					136	
	女	461					461	
	計	597					597	
英語に関する学科	男	31					31	
	女	86					86	
	計	117					117	
体育に関する学科	男	100					100	
	女	16					16	
	計	116					116	
美術に関する学科	男	13					13	
	女	92					92	
	計	105					105	
総合学科	男	1,464					1,464	
	女	2,148					2,148	
	計	3,612					3,612	
合計	男	18,776	156	257	413	45	19,234	533
	女	17,661	83	271	354	3	18,018	525
	計	36,437	239	528	767	48	37,252	1,058

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度											
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
入学者	安積第二高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	あさか開成高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	郡山萌世高校	278	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86	84
	計	278	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86	84

区分	学校	年度											
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
卒業者	安積第二高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	あさか開成高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	郡山萌世高校	218	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120	110
	計	218	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120	110

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																				
	課程	全 日 制 ・ 定 時 制										通 信 制										
	職種	年度	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
教員	校長		85	85	85	85	86	86	81	81	81	81										
	教諭等		3523	3446	3351	3312	3223	3218	3167	3116	3047	2987	37	37	36	36	36	36	34	33	28	25
	養護教員		110	110	109	106	106	105	102	100	98	96										
	補充教員		148	144	157	153	153	145	137	131	127	124										
	充指導主事		24	23	23	23	23	23	23	23	22	22										
	寄宿舎指導員		5	5	3	3	5	6	7	8	10	10										
	実習助手		330	329	326	326	323	322	320	314	314	308										
	計		4225	4142	4054	4008	3919	3905	3837	3773	3699	3628	37	37	36	36	36	36	34	33	28	25
	事務職員		257	256	251	249	245	247	240	232	228	223	6	6	6	6	6	6	6	6	4	4
その他の職員	技能員																					
	学校司書		58	57	55	53	53	53	52	52	52											
	用務員		53	52	49	48	45	41	40	39	42	32										
	ボイラー技師		11	10	11	10	7	6	6	5	6	3										
	栄養士		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員		5	4	4	3	3	3	3	3	3	1										
	計		131	127	123	118	112	107	106	103	107	92										
練習船	技能職員		9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	その他の職員		13	13	13	13	13	13	13	13	13											
	計		22	22	22	22	22	22	22	22	22											
	合 計		4635	4547	4450	4397	4298	4281	4205	4130	4056	3965	43	43	42	42	42	42	40	39	32	29

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和元年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比 77 人減の 3,961 人となった。このうち、教諭等は、前年度比 74 人減の 3,075 人である。

また、特別支援学校については、前年度比 14 人増の 1,672 人となった。このうち教諭等は前年度比 16 人増の 1,432 人となった。

ア 新採用(教諭)について

令和 2 年度は 42 名(国語 4 名・地歴公民 7 名・数学 2 名・理科 3 名・保健体育 2 名・音楽 1 名・英語 4 名・家庭 1 名・農業 4 名・工業 10 名・商業 3 名・水産 1 名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和 2 年度に実施した令和 3 年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数 40 名程度に対して、高等学校志願者は前年度比 1 名増の 479 名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は 43 名(前年度比 2 名増)となり、大学院猶予者 5 名を除く 38 名(前年度比 4 名減)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から 8 名、教育庁関係から現場復帰による 7 名の登用を見た。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務する者等を含めて 496 名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 令和元年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3 年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低 3 年は勤務するものとする。
- (オ) 2 親等以内の者(姻族を含む。)は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

- (イ) 異動 2 校目において 3 年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として 3 年以上 5 年以内で異動させるものとする。

(「若年者」については平成 21 年度以降の採用者から適用する。)

- (ウ) 同一校に 8 年以上勤務した者

(以下「永年者」という。)

ただし、中通り地域の 4 校(湖南・埴工業・修明・修明鮫川)、会津地域の 4 校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の 2 校(浪江津島・相馬農業飯舘)に 3 年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの 3 地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定める I・II 群に分類し、以下により異動を促進する。

- (ア) 原則として、採用後 20 年以内に 3 地域の学校に勤務するものとする。

- (イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II 群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則として I 群の学校に勤務するものとする。

ただし、II 群普通系から II 群専門系への異動、II 群専門系勤務者のうち直近の勤務が I 群校の者の II 群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においては II 群普通系内の異動も可とする。

- (ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成 20 年度以前の採用者について

平成 30 年度までは次の基準(以下「旧基準」という。)

を準用し、下記の(イ) a を満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- a 初任者
- b 永年者

- (イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の 5 地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定める A・B・C 3 群に分類し、以下により異動を促進する。

a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

(a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。

(b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。

b 県南地区の 4 校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。

c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。

d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

(a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

(b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

(c) C 群については同一市内間の異動は行わない。

f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。

b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

地域・地区	群	I		II		
		普通系	専門系	普通系	専門系	
中通り	県北	福島工業（定） 福島北 川俣 梁川 保原 保原（定） 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系	福島 橘 福島西 福島東 福島南	専門系	福島商業 福島明成 福島工業
	県中	安積（御館） 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成	専門系	郡山商業 郡山北工業
			普通系	白河 白河旭	専門系	白河実業
県南	光南 塙工業 修明 修明（鮫川） 白河二	普通系	白河 白河旭	専門系	白河実業	
会津	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二 会津学鳳中学校	普通系	会津 葵 会津学鳳	専門系	若松商業 会津工業	
		普通系	磐城 磐城桜が丘	専門系	平工業 平商業	
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘	専門系	平工業 平商業
	相双	<u>浪江</u> <u>浪江（津島）</u> <u>富岡</u> <u>双葉翔陽</u> ふたば未来学園 相馬農業 <u>相馬農業（飯館）</u> 小高産業技術 新地	普通系	双葉 相馬 原町	専門系	相馬東

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

\_\_\_\_\_は、令和 2 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

| 群<br>地区 | A                                            | B                                       | C                                                  | 特別支援学校<br>(A群校扱い)                                                                    |
|---------|----------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 北<br>県  | 福島工業(定) 川俣<br>梁川 保原(定)<br>安達東 福島中央           | 福島商業 福島明成<br>福島北 保原 安達<br>二本松工業 本宮      | 福島 橘 福島工業<br>福島西 福島東<br>福島南                        | 視覚支援(盲)<br>聴覚支援福島(聾福島)<br>大笹生支援(大笹生養護)<br>須賀川支援医大(須賀川養護医大)                           |
| 南<br>県  | 安積(御館) 長沼<br>石川 船引<br>小野 小野(平田)<br>郡山萌世 白河第二 | 須賀川 須賀川桐陽<br>清陵情報 岩瀬農業<br>光南 白河実業<br>田村 | 安積 安積黎明<br>郡山東 郡山商業<br>郡山北工業 郡山<br>あさか開成<br>白河 白河旭 | 聴覚支援(聾)<br>郡山支援(郡山養護)<br>あぶくま支援(あぶくま養護)<br>須賀川支援(須賀川養護)<br>須賀川支援郡山(須賀川養護郡山)<br>たむら支援 |
|         | 湖南 塙工業 修明<br>修明(鮫川)                          |                                         |                                                    | 西郷支援(西郷養護)<br>石川支援(石川養護)<br>石川支援たまかわ(石川養護分校)                                         |
| 会<br>津  | 猪苗代 耶麻農業<br>西会津 会津第二                         | 喜多方 喜多方東<br>喜多方桐桜<br>大沼 坂下<br>会津農林      | 会津 葵<br>会津学鳳<br>若松商業<br>会津工業                       | 聴覚支援会津(聾会津)<br>会津支援(会津養護)<br>会津支援竹田(会津養護竹田)<br>猪苗代支援(猪苗代養護)                          |
|         | 川口 田島<br>南会津 只見                              |                                         |                                                    |                                                                                      |
|         | 会津学鳳中学校                                      |                                         |                                                    |                                                                                      |
| いわ<br>き | いわき海星 磐城農業<br>勿来 勿来工業 遠野<br>いわき翠の杜           | いわき総合<br>いわき光洋 湯本<br>小名浜 好間 四倉          | 磐城 磐城桜が丘<br>平工業 平商業                                | 聴覚支援平(聾平)<br>平支援(平養護)<br>いわき支援(いわき養護)<br>いわき支援くぼた(いわき養護くぼた)                          |
| 相<br>双  | 双葉翔陽 新地                                      | 双葉 浪江 富岡<br>相馬農業<br>小高産業技術              | 相馬 相馬東<br>原町                                       | 富岡支援(富岡養護)<br>相馬支援(相馬養護)                                                             |
|         | 浪江(津島)<br>相馬農業(飯館)                           |                                         |                                                    |                                                                                      |

~~~~~は、平成29年4月1日から休校になった学校。

~~~~~は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 |
|-------|---|------|-------|---|------|-------|---|------|
| 小野    | A | 昭和52 | 白河実業  | B | 昭和61 | 棚倉    | A | 平成10 |
| 福島明成  | B | 昭和56 | 川俣    | A | 平成2  | 東白川農商 | A | 〃    |
| 福島北   | B | 〃    | 福島商業  | B | 〃    | あさか開成 | C | 平成11 |
| いわき海星 | A | 〃    | 梁川    | A | 平成8  | 光南    | B | 〃    |
| 磐城農業  | A | 〃    | 船引    | A | 〃    | 石川    | A | 〃    |
| 勿来工業  | A | 〃    | いわき光洋 | C | 〃    | いわき光洋 | B | 平成16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃    | 勿来    | A | 〃    |       |   |      |
| 猪苗代   | A | 昭和58 | 相馬農業  | B | 〃    |       |   |      |

**(3) 教頭複数制実施校(令和2年度実績)**

|        |       |       |         |
|--------|-------|-------|---------|
| 福島     | 橘     | 福島商業  | 福島明成    |
| 福島工業   | 福島西   | 福島東   | 保原      |
| 安積     | 安積黎明  | 郡山東   | 郡山北工    |
| 郡山     | 須賀川   | 清陵情報  | 岩瀬農業    |
| 光南     | 白河    | 白河実業  | 修明      |
| 田村     | 会津    | 葵     | 会津学鳳    |
| 会津工業   | 喜多方桐桜 | 磐城    | 磐城桜が丘   |
| 平工業    | いわき総合 | 湯本    | ふたば未来学園 |
| 小高産業技術 | 郡山萌生  |       |         |
| 視覚支援   | 聴覚支援  | 大笹生支援 | 郡山支援    |
| あぶくま支援 | 須賀川支援 | 西郷支援  | 石川支援    |
| たむら支援  | 会津支援  | 平支援   | いわき支援   |
| 富岡支援   |       |       |         |

**3 学校の設置及び統廃合**

**- 公立高等学校の設置・廃止等(令和3年度) -**

**(1) 学校の 신설・廃止等**

ア 統合に伴う学校廃止 全日制4校12学級

| 課程  | 学校名   | 内 容                                    |
|-----|-------|----------------------------------------|
| 全日制 | 喜多方   | 普通科4学級                                 |
|     | 喜多方東  | 普通科2学級                                 |
|     | 小名浜   | 普通科1学級、商業科1学級                          |
|     | いわき海星 | 海洋科1学級、食品システム科1学級<br>情報通信科1学級、海洋工学科1学級 |

イ 統合に伴う学校新設 全日制2校10学級

| 課程  | 学校名   | 内 容                                                  |
|-----|-------|------------------------------------------------------|
| 全日制 | 喜多方   | 普通科5学級                                               |
|     | 小名浜海星 | 普通科1学級、商業科1学級<br>海洋科・情報通信科1学級<br>食品システム科1学級、海洋工学科1学級 |

ウ ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある高等学校の生徒募集休止による休校 全日制6校  
 双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、  
 富岡高等学校、双葉翔陽高等学校、相馬農業高等学校飯館校

**(2) 学級増**

なし

**(3) 学級減**

全日制10校10学級

| 課程  | 学校名    | 内 容        |
|-----|--------|------------|
| 全日制 | 福島工業   | 機械科1学級     |
|     | 福島西    | 普通科1学級     |
|     | 本宮     | 情報会計科1学級   |
|     | 郡山東    | 普通科1学級     |
|     | 郡山     | 普通科1学級     |
|     | あさか開成  | 国際科学科1学級   |
|     | 小野     | 総合学科1学級    |
|     | 会津学鳳   | 総合学科1学級    |
|     | 平商業    | 情報システム科1学級 |
|     | 小高産業技術 | 機械科1学級     |

**(4) 募集停止**

全日制2校3学級

| 課程  | 学校名  | 内 容             |
|-----|------|-----------------|
| 全日制 | 会津工業 | 電気科1学級、情報技術科1学級 |
|     | 勿来工業 | 電子科1学級          |

**(5) 35人学級編制**

全日制1校2学級

| 課程  | 学校名 | 内 容    |
|-----|-----|--------|
| 全日制 | 南会津 | 普通科2学級 |

**(6) 課程廃止**

なし

**(7) 学科転換・学科改編・学科新設**

(学科新設) 会津工業高等学校 電気情報科1学級

**(8) 学科名変更**

なし

**(9) 校名変更**

なし

**(10) 連携型中高一貫教育校**

| 課程  | 学校名     | 連携中学校                                                   |
|-----|---------|---------------------------------------------------------|
| 全日制 | 埴工業     | 埴                                                       |
|     | 田島      | 田島、荒海                                                   |
|     | ふたば未来学園 | 浪江、浪江東、津島、<br>なみえ創成、葛尾、双葉、<br>大熊、富岡第一、富岡第二、<br>川内、檜葉、広野 |
|     | 相馬東     | 中村第一、中村第二、<br>向陽、磯部                                     |

**(11) 併設型中高一貫教育校**

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

**(12) 定時制・通信制**

変更なし

**(13) 専攻科**

ア 統合に伴う学校廃止

いわき海星高等学校 海洋科、無線通信科、機関科

イ 統合に伴う学校新設

小名浜海星高等学校 海洋科、無線通信科、機関科

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭26名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。代わりに、新高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図り、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めるための資料を配付したうえで、レポートの提出を課した。

イ 学力向上を図る。

「オールふくしま学力向上推進事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施

した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする学力向上連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通じ進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

- (エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和3年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

#### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに従って自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

- b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

- c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

- d 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

#### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- b 一般選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

- c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

#### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。



- a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。
- b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料とはしないものとする。
- c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出席することはできないものとする。

**前期選抜・後期選抜における新型コロナウイルス感染症に係る特例措置**

- 1 学力検査の出題範囲について、次のとおり取扱う。
  - (1) すべての教科で出題範囲を縮小する。
  - (2) 3年生最後の学習分野を中心に、出題範囲から除外する。
- 2 令和3年度県立高等学校入学者選抜における令和2年度（中学校3年時）の大会実績等について、次のとおり取扱う。
  - (1) 特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載において、大会実績や資格取得等のみで出願要件を限定しない。
  - (2) 実技試験や面接の工夫により、新型コロナウイルス感染症により大会実績等を残せなかった志願者が不利益を被らないようにする。
  - (3) 入学者の判定において、令和2年度（中学校3年時）の大会等の実績は選抜資料としない。（調査書の「特別活動等の記録」の「その他の活動」及び「長所・特技等の記録」において、1、2年時の実績は点数化するが、3年時の実績は点数化しない等）  
ただし、資格試験については今後実施される可能性があるため、令和2年度（中学校3年時）の資格試験の成績を選抜資料とすることができる。
- 3 令和3年度県立高等学校入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について、次のとおり取扱う。
  - (1) 対応の方針
    - ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受験できないこととされた者に配慮し、新たな選抜を設定することで、受験機会を確保する。
    - ② 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入学者選抜実施上の留意事項等を定める。
  - (2) 高校入試を受験できる者、受験できない者の明確化  
文部科学省の通知に従い、大学入学共通テストの新型コロナウイルス感染症予防対策に準じて、受験できる者と受験できない者を明確にする。

|                                              |
|----------------------------------------------|
| 受験できない者                                      |
| ① 新型コロナウイルス感染症に感染し、各選抜の前日までに退院基準・解除基準を満たさない者 |

- ② 濃厚接触者で症状がある者
- ③ 無症状の濃厚接触者で、初期スクリーニング検査結果が判明していない者
- ④ 無症状の濃厚接触者で、公共交通機関を利用せずに試験場に到着できない者
- ⑤ 「健康状態チェックリスト」の結果で試験を受けることができない者

- ・ 受験生は検温の結果と該当箇所にチェックをした「健康状態チェックリスト」を受験日ごとに持参し、受験校の受付に提出する。
- ・ 受験生は試験日の7日前から、朝などに体温測定を行い、体調の変化の有無を確認する。
- ・ 試験日の2週間前から発熱・咳等の症状が継続している受験生は、あらかじめ医療機関で受診する。
- (3) 新たな新型コロナウイルス感染症対応選抜の設定  
高校入試は、前期・連携型選抜（3月3日～5日）、追検査（3月10日、11日）、合格者発表（3月15日）、後期選抜（3月22日 定員を充足しない高校で実施）の日程であるため、上記の「受験できない者」に対し配慮し、新たに新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定し、受験機会を確保した。
  - ① 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程
    - ア 対象 前期選抜、連携型選抜及び追検査等において、「受験できない者」となり、受験できなかった者
    - イ 定員 別に公告した募集定員の3%（募集定員の外枠。出願先変更はできない。）
    - ウ 実施日 令和3年3月22日（月）（後期選抜と同日）
  - ② 新型コロナウイルス感染症対応選抜第2日程
    - ア 対象 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程の不合格者、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程又は後期選抜において、「受験できない者」となり受験できなかった者
    - イ 定員 募集定員から、前期選抜、連携型選抜及び後期選抜の合格者数を除いた数とする。（後期選抜終了後、定員を充足しない高校で実施）
    - ウ 実施日 令和3年3月25日（木）
- (4) 新型コロナウイルス感染症に対応した入学者選抜実施上の留意事項  
事前の準備として別室の確保、受験場の座席間の距離の確保等を行うとともに検査当日は受付における健康状態のチェック、検査実施時における十分な換気、マスクの着用の義務づけ、手指消毒の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入学者選抜実施上の留意事項等を定める。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

a 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、可否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

b 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

c 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

d 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

e 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

f 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

g 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順位に可否判定を行う。

h 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

**連携型選抜における新型コロナウイルス感染症に係る特例措置**

1 学力検査の出題範囲について、次のとおり取扱う。

- (1) すべての教科で出題範囲を縮小する。
- (2) 3年生最後の学習分野を中心に、出題範囲から除外する。

2 令和3年度県立高等学校入学者選抜における令和2年度（中学校3年時）の大会実績等について、次のとおり取扱う。

- (1) 実技試験や面接の工夫により、新型コロナウイルス感染症により大会実績等を残せなかった志願者が不利益を被らないようにする。
- (2) 入学者の判定において、令和2年度（中学校3年時）の大会等の実績は選抜資料としない。（調査書の「特別活動等の記録」の「その他の活動」及び「長所・特技等の記録」において、1、2年時の実績は点数化するが、3年時の実績は点数化しない等）

ただし、資格試験については今後実施される可能性があるため、令和2年度（中学校3年時）の資格試験の成績を選抜資料とすることができる。

3 令和3年度県立高等学校入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について、次のとおり取扱う。

- (1) 対応の方針
  - ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受験できないこととされた者に配慮し、新たな選抜を設定することで、受験機会を確保する。
  - ② 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入学者選抜実施上の留意事項等を定める。
- (2) 高校入試を受験できる者、受験できない者の明確化  
文部科学省の通知に従い、大学入学共通テストの新型コロナウイルス感染症予防対策に準じて、受験できる者と受験できない者を明確にする。

| 受験できない者                                      |
|----------------------------------------------|
| ① 新型コロナウイルス感染症に感染し、各選抜の前日までに退院基準・解除基準を満たさない者 |
| ② 濃厚接触者で症状がある者                               |
| ③ 無症状の濃厚接触者で、初期スクリーニング検査結果が判明していない者          |
| ④ 無症状の濃厚接触者で、公共交通機関を利用せずに試験場に到着できない者         |
| ⑤ 「健康状態チェックリスト」の結果で試験を受けることができない者            |

- ・ 受験生は検温の結果と該当箇所にチェックをした「健康状態チェックリスト」を受験日ごとに持参し、受験校の受付に提出する。
- ・ 受験生は試験日の7日前から、朝などに体温測定を行い、体調の変化の有無を確認する。
- ・ 試験日の2週間前から発熱・咳等の症状が継続している受験生は、あらかじめ医療機関で受診する。

(3) 新たな新型コロナウイルス感染症対応選抜の設定  
 高校入試は、前期・連携型選抜(3月3日～5日)、追検査(3月10日、11日)、合格者発表(3月15日)、後期選抜(3月22日 定員を充足しない高校で実施)の日程であるため、上記の「受験できない者」に対し配慮し、新たに新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定し、受験機会を確保した。

- ① 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程
- ア 対象 前期選抜、連携型選抜及び追検査等において、「受験できない者」となり、受験できなかった者
- イ 定員 別に公告した募集定員の3%(募集定員の外枠。出願先変更はできない。)
- ウ 実施日 令和3年3月22日(月)(後期選抜と同日)

- ② 新型コロナウイルス感染症対応選抜第2日程
- ア 対象 新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程の不合格者、新型コロナウイルス感染症対応選抜第1日程又は後期選抜において、「受験できない者」となり受験できなかった者
- イ 定員 募集定員から、前期選抜、連携型選抜及び後期選抜の合格者数を除いた数とする。(後期選抜終了後、定員を充足しない高校で実施)
- ウ 実施日 令和3年3月25日(木)

(4) 新型コロナウイルス感染症に対応した入学者選抜実施上の留意事項事前の準備として別室の確保、受験場の座席間の距離の確保等を行うとともに検査当日は受付における健康状態のチェック、検査実施時における十分な換気、マスクの着用の義務づけ、手指消毒の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入学者選抜実施上の留意事項等を定める。

- イ 入学者選抜関係日程
- 6月9日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月13日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月4日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月4日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月6日～10月13日  
 県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月16日 令和3年度入学者募集定員決定

- (ア) 前期選抜関係日程
- 2月4日～2月9日 出願書類受付
- 2月10日～2月15日 出願先変更
- 2月16日～2月17日 調査書提出
- 3月3日 学力検査
- 3月3日～3月5日 面接等
- 3月10日～3月11日 追検査等
- 3月15日 合格者発表
- (イ) 後期選抜関係日程
- 3月16日～3月17日 出願書類受付
- 3月18日 出願先変更
- 3月22日 面接等
- 3月23日 合格者発表
- (ウ) 連携型選抜関係日程
- 2月4日～2月9日 出願書類受付
- 2月10日～2月15日 出願先変更
- 2月16日～2月17日 調査書提出
- 3月3日 学力検査
- 3月3日～3月5日 面接等
- 3月10日～3月11日 追検査等
- 3月15日 合格者発表
- (エ) 新型コロナウイルス感染症対応選抜関係日程(第1日程)
- 3月16日～3月17日 出願書類受付
- 3月22日 検査等
- 3月23日 合格者発表
- (オ) 新型コロナウイルス感染症対応選抜関係日程(第2日程)
- 3月24日 出願書類受付
- 3月25日 検査等
- 3月26日 合格者発表
- (カ) 通信制の課程選抜日程
- 2月4日～3月26日 出願書類受付
- 4月5日 合格者発表(個人宛通知)

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜  
 平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和3年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ピクトリプログラムに参加している者

双葉郡富岡町立富岡第二中学校

双葉郡川内村立川内中学校

双葉郡檜葉町立檜葉中学校

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡広野町立広野中学校

双葉郡浪江町立浪江中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和3年3月に卒業見込又は修了見込の者

双葉郡浪江町立浪江東中学校

双葉郡浪江町立津島中学校

双葉郡浪江町立なみえ創成中学校

双葉郡葛尾村立葛尾中学校

双葉郡双葉町立双葉中学校

双葉郡大熊町立大熊中学校

双葉郡富岡町立富岡第一中学校

エ 志願者数・合格者数

◇各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

(ア) 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜定員 | 志願者数  | 志願倍率 | 合格者数  |
|------|--------|--------|-------|------|-------|
| 普通科等 | 7,030  | 1,311  | 992   | 0.76 | 823   |
| 農業   | 1,040  | 208    | 113   | 0.54 | 96    |
| 水産   | 120    | 48     | 23    | 0.48 | 21    |
| 工業   | 1,840  | 479    | 328   | 0.68 | 259   |
| 商業   | 1,360  | 437    | 419   | 0.96 | 353   |
| 家庭   | 40     | 14     | 1     | 0.07 | 1     |
| 総合   | 1,240  | 378    | 312   | 0.83 | 270   |
| 計    | 12,670 | 2,875  | 2,188 | 0.76 | 1,823 |

《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 特色選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|--------|------|------|------|
| 普通 | 440  | 74     | 7    | 0.09 | 3    |
| 工業 | 40   | 8      | 0    | 0.00 | 0    |
| 計  | 480  | 82     | 7    | 0.09 | 3    |

(イ) 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜(連携型選抜)

| 学科 | 入学定員 | 連携型選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格内定者数 |
|----|------|---------|------|------|--------|
| 普通 | 80   | 32      | 32   | 1.00 | 32     |
| 工業 | 80   | 32      | 2    | 0.06 | 2      |
| 総合 | 320  | 106     | 90   | 0.85 | 83     |
| 計  | 480  | 170     | 124  | 0.73 | 117    |

## (ウ) 前期選抜、連携型選抜

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 志願者数   | 志願倍率 | 合格者数   |
|------|--------|--------|------|--------|
| 普通科等 | 7,030  | 6,864  | 0.98 | 6,069  |
| 農 業  | 1,040  | 887    | 0.85 | 826    |
| 水 産  | 120    | 116    | 0.97 | 109    |
| 工 業  | 1,840  | 1,697  | 0.92 | 1,552  |
| 商 業  | 1,360  | 1,294  | 0.95 | 1,173  |
| 家 庭  | 40     | 20     | 0.50 | 18     |
| 総 合  | 1,240  | 928    | 0.81 | 943    |
| 計    | 12,670 | 11,806 | 0.94 | 10,690 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 85 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 13 名を、入学定員から減じて算出した値である。

## 《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|------|
| 普 通 | 440  | 208  | 0.47 | 174  |
| 工 業 | 40   | 11   | 0.28 | 8    |
| 計   | 480  | 219  | 0.46 | 182  |

## (エ) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 学校名   | 学科名  | 定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|-------|------|-----|------|------|
| 福島北   | 総 合  | 若干名 | 0    | 0    |
| 福島南   | 国際文化 | 若干名 | 4    | 1    |
| あさか開成 | 国際科学 | 若干名 | 3    | 2    |
| 光 南   | 総 合  | 若干名 | 0    | 0    |
| 会津学鳳  | 総 合  | 若干名 | 0    | 0    |
| 湯 本   | 普 通  | 若干名 | 0    | 0    |
| 相馬東   | 総 合  | 若干名 | 0    | 0    |

## (オ) 後期選抜

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 961   | 134  | 118  |
| 農 業  | 214   | 33   | 25   |
| 水 産  | 11    | 3    | 3    |
| 工 業  | 288   | 21   | 20   |
| 商 業  | 187   | 29   | 28   |
| 家 庭  | 22    | 2    | 2    |
| 総 合  | 199   | 22   | 22   |
| 計    | 1,882 | 244  | 218  |

## 《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 266  | 44   | 23   |
| 工 業 | 32   | 2    | 0    |
| 計   | 298  | 46   | 23   |

## ◇後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数   |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 7,030  | 823          | 32            | 6,069                 | 118                | 6,187  |
| 農 業  | 1,040  | 96           |               | 826                   | 25                 | 851    |
| 水 産  | 120    | 21           |               | 109                   | 3                  | 112    |
| 工 業  | 1,840  | 259          | 2             | 1,552                 | 20                 | 1,572  |
| 商 業  | 1,360  | 353          |               | 1,173                 | 28                 | 1,201  |
| 家 庭  | 40     | 1            |               | 18                    | 2                  | 20     |
| 総 合  | 1,240  | 270          | 83            | 943                   | 22                 | 965    |
| 計    | 12,670 | 1,823        | 117           | 10,690                | 218                | 10,908 |

## 《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------|--------------------|------|
| 普 通 | 440  | 3            |               | 174          | 23                 | 197  |
| 工 業 | 40   | 0            |               | 8            | 0                  | 8    |
| 計   | 480  | 3            |               | 182          | 23                 | 205  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名 称                         | 期日                      | 期間    | 会 場                                                                                    | 参加者                       |
|-----------------------------|-------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 新任校長研修会                     | 新型コロナウイルス感染症対策のため中止     |       |                                                                                        |                           |
| 新任教頭研修会                     | 新型コロナウイルス感染症対策のため中止     |       |                                                                                        |                           |
| 経験者研修Ⅲ（中堅教員研修）              | 10.28～10.29             | 2日    | 教育センター                                                                                 | 県立学校中堅教員 56名              |
| 初任者研修（基本研修）                 | 4.3                     | 1日    | 教育センター                                                                                 | 高等学校初任者研修<br>対象教員 47名     |
| 〃（一次研修）                     | 5.27、6.2、6.24           | 3日    | 教育センター                                                                                 |                           |
| 〃（二次研修）                     | 2.3、2.10、2.24           | 3日    | 教育センター                                                                                 |                           |
| 〃（教科別 研修）                   | 8.31～9.2                | 3日    | ・地歴公民（白河旭）<br>・理科（磐城）<br>・保健体育（新地）<br>・音楽（光南）<br>・家庭（いわき総合）<br>・農業水産（岩瀬農業）<br>・商業（平商業） |                           |
|                             | 9.14～9.16               | 3日    | ・国語（会津学鳳）<br>・数学（磐城桜が丘）<br>・英語（相馬東）<br>・工業（郡山北工）                                       |                           |
| 〃（地区別研修）                    | 4月～11月                  | 11日   | 各地区施設<br>学校等                                                                           |                           |
| 〃（所属における研修）                 | 4月～3月                   | 150時間 | 各所属校                                                                                   |                           |
| 2年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7.6                     | 1日    | 教育センター                                                                                 | 高等学校初任者研修<br>修了教員 35名     |
| 〃（企業体験研修）                   | 7.28～8.19               | 2日    | 各企業等                                                                                   |                           |
| 〃（所属校における研修）                | 4月～3月                   | 30時間  | 各所属校                                                                                   |                           |
| 経験者研修Ⅰ（校外研修）                | 1班 9.30<br>2班 10.7      | 1日    | 教育センター                                                                                 | 県立学校教職経験<br>5年を経過した者 54名  |
| 〃（所属校における研修）                | 5月～12月                  | 5日    | 各所属校                                                                                   |                           |
| 経験者研修Ⅱ（共通研修）                | 新型コロナウイルス感染症対策のため所属校で研修 |       |                                                                                        | 県立学校教職経験<br>10年を経過した者 87名 |
| 〃（生徒指導研修）                   | 7.1                     | 1日    | 教育センター                                                                                 |                           |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）                  |                         |       |                                                                                        |                           |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）                  | 2.2                     | 1日    | 教育センター                                                                                 |                           |
| 〃（社会体験研修Ⅰ）                  | 4月～1月                   | 2日    | 各所、施設等                                                                                 |                           |
| 〃（所属校における研修）                | 4月～1月                   | 15日以上 | 各所属校                                                                                   |                           |
| 〃（選択研修）                     | 4月～1月                   | 3日以上  | 各所、施設等                                                                                 |                           |
| 新任教務主任研修会                   | 8.3                     | 1日    | 勿来高校                                                                                   | 各県立高等学校<br>新任教務主任 23名     |
|                             | 8.5                     |       | あさか開成高校                                                                                |                           |
|                             | 8.11                    |       | 福島商業高校                                                                                 |                           |
|                             | 8.17                    |       | 葵高校                                                                                    |                           |

## (2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

## (3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる研修に変更（NITS オンライン研修）

オ 期間及び参加者

◇校長研修（11月30日～12月4日）

県立須賀川高等学校長 森下 陽一郎

◇副校長・教頭等研修（9月7日～9月11日）

県立会津工業高等学校教頭 新方 浩二

◇中堅教員研修（9月28日～10月2日）

県立小高産業技術高等学校教諭 片山 龍

◇中堅教員研修（10月12日～10月16日）

県立只見高等学校教諭 阿部 智義

◇次世代リーダー育成研修（11月16日～11月20日）

県立塙工業高等学校教諭 渡邊 豊

◇次世代リーダー育成研修（12月14日～12月18日）

県立福島明成高等学校教諭 半沢 まどか

## (4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる研修に変更（NITS オンライン研修）

オ 期間及び参加者（11月10日～11月12日）

県立会津学鳳高等学校教頭 柳橋 幸裕

## 3 教育課程

### (1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

### (2) 高等学校各教科等担当指導主事研究協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、新学習指導要領の趣旨の説明、教育課程の編成及び実施上の諸問題等に関する協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日

11月20日（金）、11月24日（火）、11月26日（木）、

11月30日（月）～12月3日（木）、

12月7日（月）～12月11日（金）

オ 開催地 新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインによる開催に変更

カ 参加者

| 部 会       | 氏 名   | 所 属     |
|-----------|-------|---------|
| 総 則       | 亀田 光弘 | 高校教育課   |
| 国 語       | 梅野 克也 | 高校教育課   |
| 地 理 歴 史   | 岩間真由美 | 高校教育課   |
| 公 民       | 緑川 祐  | 高校教育課   |
| 数 学       | 佐藤 章  | 高校教育課   |
| 理 科       | 高野 英樹 | 高校教育課   |
| 保 健 体 育   | 渡邊 亮  | 健康教育課   |
| 音 楽       | 鈴木 敦  | 高校教育課   |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター  |
| 書 道       | 郡司 仁美 | 福島北高等学校 |
| 外 国 語     | 四家 真澄 | 高校教育課   |
| 家 庭（共 通）  | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情 報（共 通）  | 滝沢日佐人 | 高校教育課   |
| 理 数       | 高野 英樹 | 高校教育課   |
| 農 業       | 志賀 勲  | 高校教育課   |
| 工 業       | 清水 隆司 | 高校教育課   |
| 商 業       | 五十嵐陽一 | 高校教育課   |
| 水 産       | 志賀 勲  | 高校教育課   |
| 家 庭（専 門）  | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 看 護       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 情 報（専 門）  | 清水 隆司 | 高校教育課   |
| 福 祉       | 鈴木砂代子 | 高校教育課   |
| 総合的な探究の時間 | 高野 将徳 | 県北教育事務所 |
| 特 別 活 動   | 野中 齊  | 会津教育事務所 |

### (3) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実を図る。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

新型コロナウイルス感染症対策のため、資料共有によるオンデマンド型講習を実施した。



| 期 日              | 参加者数 |
|------------------|------|
| 8月3日(月)～8月31日(月) | 782  |

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会     | 参加者数 | 部 会     | 参加者数 |
|---------|------|---------|------|
| 総 則     | 25   | 書 道     | 開催せず |
| 国 語     | 95   | 外 国 語   | 105  |
| 地 理 歴 史 | 40   | 家 庭     | 10   |
| 公 民     | 13   | 情 報     | 開催せず |
| 数 学     | 95   | 農 業     | 56   |
| 理 科     | 61   | 工 業     | 102  |
| 保 健 体 育 | 104  | 商 業     | 66   |
| 音 楽     | 開催せず | 水 産     | 開催せず |
| 美 術・工 芸 | 10   | 看 護・福 祉 | 開催せず |
| 合 計     |      | 782     |      |

(4) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

- (ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照
- (イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                      |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成                 |
| 工業 | 情報技術   | 郡山北工業、会津工業           |
|    | 情報電子   | 福島工業、清陵情報            |
|    | 情報システム | 二本松工業                |
|    | 情報工学   | 平工業                  |
| 商業 | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報            |
|    | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報          |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明<br>若松商業 |
|    | オフィス情報 | 須賀川                  |
|    | 情報システム | 喜多方桐桜、平商業            |
|    | 産業革新   | 小高産業技術               |
| 水産 | 情報通信   | いわき海星                |

ウ ICTを活用した新しい時代の教育研究開発事業に係る指導力向上開発校の指定

(ア) 目的

ICTを全ての教育活動で活用する新しい時代を迎えるにあたり、指導力向上開発校(モデル校)を指定し、優先的にICT機器を整備し、それらを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることにより、当該校の学習活動の一層の充実を図る。

また、指導事例の蓄積とそれを支える校内指導体制の充実について研究を進め、その研究成果を公開授業等の実施により県立高校全校に普及させるとともに、ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を一体的に実現するモデルを構築する。

(イ) 指定校

福島高等学校、保原高等学校、安積高等学校  
光南高等学校、若松商業高等学校

(ウ) 指定期間

令和2年度から令和4年度までの3年間

(5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 33名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内8つの高校に各1名、県立中学校に各1名配置、専任教における指導

4 学力向上対策等

(1) 令和2年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度   | 研究主題                                                                                                                     |
|----------------------|------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール(SSH) | 会津学鳳 | H28～R2 | 大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発。                       |
|                      |      | H29～R3 | 高い専門性と地域のリーダーとしての資質を併せ持つ世界で活躍する科学技術系人材の育成を目的とし、この達成のために創造的思考力、表現力・発信力、国際力、専門力、物事を完遂する力といった5つの資質・能力の育成を目標とする。             |
|                      | 安積   | R1～R5  | 自ら進んで課題に向き合い、新しい社会を創出し、地域から世界を牽引できる科学技術系リーダーを育成するために、主体的・協働的な探究型学習を推進する教育プログラムを開発し、それを支え、発展させる新しい地域教育・共創モデルを確立するための研究開発。 |

## (2) ふくしま創生人財育成事業

### ア 特色ある郷土理解教育の支援

各学校の特色に応じて地域との連携を図り、郷土理解を促進しながら、新しい時代に求められる資質・能力の育成に努め、生徒一人一人の学力向上や進路実現に向けた取組を行う各学校を支援し、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

#### ○ 対象校：県立高等学校 22 校

福島商業、福島北、須賀川、清陵情報、光南、白河実業、塙工業、石川、田村、船引、小野、若松商業、猪苗代、大沼、南会津、いわき総合、湯本、小名浜、磐城農業、相馬農業、新地、いわき翠の杜

## (3) オールふくしま学力向上推進事業

### ア 大学進学のための学力向上推進事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

#### ○ 対象校：県立高等学校 20 校

福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、相馬、原町

### イ ふくしま高校生リーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、大学の先輩との交流や参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

#### ○ 対象：難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校 1 年生及び 2 年生。

#### ○ 日時：1 年生・・・参集及びオンデマンドにて開催

令和 3 年 3 月 2 4 日＋オンデマンド

2 年生・・・オンデマンドにて開催。

令和 2 年 7 月～令和 3 年 1 月に視聴

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 教育事務所指導主事の活動

県内 7 地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

#### ア 地区内の高等学校の訪問指導(計画・随時)

#### イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

#### ウ 関係諸機関、諸団体との連携

#### エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

#### オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

### (2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う

心のケアに対応するため、全ての県立高等学校(86校)にスクールカウンセラーを配置した。

## 6 学校行事

### (1) 卒業式

#### ア 県立高等学校卒業生数

| 課程  | 性別    |       |        |
|-----|-------|-------|--------|
|     | 男     | 女     | 計      |
| 全日制 | 6,366 | 6,012 | 12,378 |
| 定時制 | 111   | 97    | 208    |
| 通信制 | 43    | 69    | 112    |
| 計   | 6,520 | 6,178 | 12,698 |

#### イ 卒業式実施期日

| 日付   | 種別  |     |     |    |
|------|-----|-----|-----|----|
|      | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 計  |
| 3月1日 | 80  | 7   | 0   | 87 |
| 3月2日 | 1   | 0   | 0   | 1  |
| 3月7日 | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計    | 81  | 7   | 1   | 89 |

#### ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 白河高等学校  
光南高等学校

県議会議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
県議会副議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
県教育長臨席校 地震被害のため臨席せず

### (2) 修学旅行(県立高等学校) ( )は前年度

ア 参加生徒総数 4,260人(12,463人)

イ 参加率 94.1%(95.2%)

#### ウ 行先

| 行先       | 校数     |
|----------|--------|
| 県内       | 1 (0)  |
| 北海道      | 2 (1)  |
| 北海道・東北   | 5 (0)  |
| 東北       | 9 (0)  |
| 東北・関東    | 2 (0)  |
| 東北・北陸    | 1 (0)  |
| 北陸       | 1 (0)  |
| 関東       | 0 (1)  |
| 関東・中部    | 1 (0)  |
| 東海       | 1 (0)  |
| 奈良・京都    | 0 (49) |
| 中国・近畿    | 1 (14) |
| 九州       | 2 (2)  |
| 沖縄       | 0 (12) |
| 四国・中国・近畿 | 0 (3)  |
| 四国・近畿    | 1 (0)  |
| 海外       | 0 (4)  |

エ 航空機利用 37校(34校)

|       |         |
|-------|---------|
| 北海道方面 | 0校(1校)  |
| 大阪方面  | 1校(18校) |
| 九州方面  | 2校(2校)  |
| 沖縄方面  | 0校(12校) |
| 広島    | 0校(0校)  |
| 愛媛    | 0校(0校)  |
| 海外    | 0校(4校)  |

オ 泊日数

|      |         |
|------|---------|
| 1泊2日 | 5校(0校)  |
| 2泊3日 | 15校(5校) |
| 3泊4日 | 7校(70校) |
| 4泊5日 | 0校(11校) |

カ 必要経費

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 生徒一人当たりの最高額 | 132,084円(135,000円) |
| 最低額         | 29,721円(67,945円)   |
| 平均額         | 70,198円(103,474円)  |

キ 引率責任者

|     |          |
|-----|----------|
| 校長  | 15校(38校) |
| 副校長 | 0校(1校)   |
| 教頭  | 12校(47校) |

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

令和2年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

- ア 令和2年度産業・情報技術等指導者養成研修実施せず
- イ 令和2年度産業教育実習助手研修実施せず
- ウ 令和2年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座実施せず

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

|             |       |
|-------------|-------|
| 橘高等学校       | 学校保健  |
| 保原高等学校(定時制) | 情報    |
| 安達東高等学校     | 外国語   |
| 本宮高等学校      | 商業    |
| 安積黎明高等学校    | 保健体育  |
| 郡山高等学校      | 国語、理科 |
| あさか開成高等学校   | 公民    |

|             |           |
|-------------|-----------|
| 長沼高等学校      | 数学        |
| 光南高等学校      | 芸術(美術)    |
| 小野高等学校      | 理科、農業     |
| 会津高等学校      | 地理歴史、保健体育 |
| 会津工業高等学校    | 工業        |
| 喜多方桐桜高等学校   | 国語        |
| 川口高等学校      | 数学        |
| 会津農林高等学校    | 農業        |
| 四倉高等学校      | 保健体育      |
| ふたば未来学園高等学校 | 家庭        |
| 相馬東高等学校     | 芸術(書道)    |
| 相馬農業高等学校    | 芸術(音楽)    |
| 小高産業技術高等学校  | 工業        |
| 郡山萌世高等学校    | 学校保健      |
| 白河第二高等学校    | 定通(生物)    |
| いわき翠の杜高等学校  | 外国語       |

9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名    | 氏名         | 職名 | 学校名       |
|--------|------------|----|-----------|
| 国語     | 中島 知子      | 教諭 | 清陵情報高等学校  |
|        | 長坂 哲志      | 教諭 | 川口高等学校    |
| 地理歴史   | 村岡 亮       | 教諭 | 耶麻農業高等学校  |
| 公民     | 野内 鑑       | 教諭 | 埴工業高等学校   |
| 数学     | 松倉 桂子      | 教諭 | 修明高等学校    |
|        | 長谷川 匠      | 教諭 | 猪苗代高等学校   |
| 理科     | 遠藤 喜光      | 教諭 | 安積黎明高等学校  |
|        | 熊田 宏毅      | 教諭 | 須賀川桐陽高等学校 |
| 保健体育   | 渡部 健次      | 教諭 | 小野高等学校    |
|        | 佐藤 喜平      | 教諭 | 会津学鳳高等学校  |
|        | 渡邊 亮       | 教諭 | 湯本高等学校    |
| 芸術(音楽) | 佐藤 優子      | 教諭 | 岩瀬農業高等学校  |
|        | (美術) 國島 敏  | 教諭 | 橘高等学校     |
|        | (書道) 郡司 仁美 | 教諭 | 福島北高等学校   |
| 外国語    | クームズ茂子     | 教諭 | 福島東高等学校   |
|        | 小松 睦       | 教諭 | 磐城桜が丘高等学校 |
| 家庭     | 遠藤 美英      | 教諭 | 安達高等学校    |
| 情報     | 橋本 英臣      | 教諭 | 安積高等学校    |
| 農業・水産  | 郷 貫        | 教諭 | 修明高等学校    |
|        | 沖沢 秀一      | 教諭 | 磐城農業高等学校  |
| 工業     | 馬場 正紀      | 教諭 | 郡山北工業高等学校 |
|        | 鈴木 康生      | 教諭 | 喜多方桐桜高等学校 |
| 商業     | 猪狩 晃一      | 教諭 | 福島商業高等学校  |
| 定通     | 大松 隆       | 教諭 | 郡山萌世高等学校  |

| 教科名  | 氏名    | 職名   | 学校名     |
|------|-------|------|---------|
| 学校保健 | 廷々 聡美 | 養護教諭 | 平工業高等学校 |
|      | 後藤ひとみ | 養護教諭 | 本宮高等学校  |

(26名)

## 10 教科用図書

### (1) 教科書採択事務説明会

令和2年度は実施せず。

## 11 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和2年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏名         |
|------|------------|
| 会長   | 加藤 知道 (橘)  |
| 副会長  | 竹田 真二 (福島) |
| 副会長  | 小島 稔 (安積)  |
| 副会長  | 廣瀬 敬彦 (会津) |
| 副会長  | 吉田 強栄 (磐城) |
| 副会長  | 山崎 雅弘 (原町) |
| 監査   | 瓜生 康弘 (福西) |
| 監査   | 高島 秀一 (福南) |
| 事務局長 | 二瓶 晃一 (福東) |

支部

| 支部  | 支部長        | 副支部長                     |
|-----|------------|--------------------------|
| 県北  | 竹田 真二 (福島) | 大和田範雄 (明成)<br>鈴木 康隆 (福工) |
| 県南  | 小島 稔 (安積)  | 湯田 重哉 (黎明)<br>白石 文夫 (白河) |
| 会津  | 廣瀬 敬彦 (会津) | 鈴木 睦治 (葵)<br>遠藤 利晴 (喜方)  |
| いわき | 吉田 強栄 (磐城) | 佐竹 正徳 (桜丘)<br>曾川 孝規 (い支) |
| 相双  | 山崎 雅弘 (原町) | 菊田 勇雄 (相馬)<br>柳沼 英樹 (ふ未) |

理事会

|     | 氏名                    |
|-----|-----------------------|
| 理事会 | 加藤 知道 (橘) 鈴木 睦治 (葵)   |
|     | 竹田 真二 (福島) 松浦 冬樹 (福商) |
|     | 小島 稔 (安積) 大和田範雄 (明成)  |
|     | 廣瀬 敬彦 (会津) 鈴木 康隆 (福工) |
|     | 吉田 強栄 (磐城) 矢森 健一 (萌世) |
|     | 山崎 雅弘 (原町) 小檜山宗浩 (聴支) |
|     | 二瓶 晃一 (福東) 遠藤 均 (田村)  |

専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長)

| 専門委員会                 | 氏名                      |
|-----------------------|-------------------------|
| 管理運営委員会               | ◎森下陽一郎 (須川) ○菊池 直之 (白旭) |
|                       | 高島 秀一 (福南) 阿部 学 (遠野)    |
|                       | 佐々木理夫 (猪代) 高野 敦史 (新地)   |
|                       | 齋藤 靖 (大沼) 橋本 淳一 (視支)    |
|                       | 吉田 強栄 (磐城) 菅野美恵子 (た支)   |
|                       | 平澤 洋介 (小浜) 根本 健一 (平支)   |
| 教育課題委員会               | ◎齋藤 文子 (い光) ○伊藤 勝宏 (只見) |
|                       | 安田 修久 (明成) 高橋 幸市 (福北)   |
|                       | 櫻井 克彦 (石川) 佐々木理夫 (小野)   |
|                       | 軽部 英敏 (川口) 杉山 裕恵 (聴支)   |
|                       | 柳沼 哲 (平支) 赤坂 剛 (富支)     |
|                       | 鈴木 義人 (安積)              |
| 生徒指導委員会               | ◎芳賀 菊博 (勿工) ○金田洋一郎 (松工) |
|                       | 鈴木 義祐 (福北) 松本 善法 (い海)   |
|                       | 酒井 祐治 (湖南) 山崎 雅弘 (原町)   |
|                       | 夏目利江子 (長沼) 伊東 光司 (相農)   |
|                       | 高橋 文彦 (塙工) 西村 則昌 (あ支)   |
|                       | 小針 幸雄 (小野) 伊藤 俊幸 (会支)   |
|                       | 櫻井 克彦 (耶農)              |
| 教育課程委員会               | ◎郡司 完 (光南) ○渡邊 学 (い総)   |
|                       | 竹田 真二 (福島) 橋本 忠広 (南会)   |
|                       | 大和田範雄 (明成) 金成 智子 (四倉)   |
|                       | 鈴木 康隆 (福工) 柳沼 英樹 (ふ未)   |
|                       | 佐藤 秀雄 (西会) 阿部 和行 (西支)   |
|                       | 渡邊 武彦 (田島)              |
|                       | ◎黒川 佳子 (あ開) ○中野 茂 (勿来)  |
| 高澤 正男 (梁川) 佐藤 浩正 (喜桐) |                         |
| 佐藤 弘樹 (保原) 松尾 幸生 (坂下) |                         |
| 遠藤 均 (田村) 佐藤 秀美 (い光)  |                         |
| 吉井 秀樹 (船引) 渡邊 正仁 (相東) |                         |
| 廣瀬 敬彦 (会津) 矢森 健一 (萌世) |                         |
| 高校入試検討委員会             | ◎瓜生 康弘 (福西) ○中野 隆幸 (郡東) |
|                       | 加藤 知道 (橘) 鈴木 睦治 (葵)     |
|                       | 小島 稔 (安積) 味原 正美 (学鳳)    |
|                       | 湯田 重哉 (黎明) 遠藤 利晴 (喜方)   |
|                       | 阿部 秀樹 (郡山) 佐竹 正徳 (桜丘)   |
|                       | 井関 和明 (桐陽) 吉田 浩美 (湯本)   |
|                       | 白石 文夫 (白河) 菊田 勇雄 (相馬)   |
| 大学入試対策委員会             | ◎澁谷 栄一 (郡北) ○馬場 裕史 (郡商) |
|                       | 松浦 冬樹 (福商) 遠藤 敦也 (平工)   |
|                       | 山内 義美 (川俣) 吉成 広昭 (平商)   |
|                       | 阿部 洋己 (本宮) 鈴木 稔 (小産)    |
|                       | 二瓶 賢一 (清陵) 齋藤 裕昭 (い翠)   |
|                       |                         |
| 就職指導対策委員会             | ◎澁谷 栄一 (郡北) ○馬場 裕史 (郡商) |
|                       | 松浦 冬樹 (福商) 遠藤 敦也 (平工)   |
|                       | 山内 義美 (川俣) 吉成 広昭 (平商)   |
|                       | 阿部 洋己 (本宮) 鈴木 稔 (小産)    |
|                       | 二瓶 賢一 (清陵) 齋藤 裕昭 (い翠)   |
|                       |                         |

| 専門委員会     | 氏名          |             |
|-----------|-------------|-------------|
| 就職指導対策委員会 | 佐藤 京治 (若商)  | 小檜山宗浩 (聴支)  |
|           | 高梨 哲夫 (会工)  | 佐藤 清悦 (い支)  |
|           | 渋川 卓也 (喜東)  |             |
| 人権教育委員会   | ◎伊藤 重幸 (安東) | ○齊藤 恵子 (郡支) |
|           | 猪俣 豊 (安達)   | 菅野美恵子 (猪支)  |
|           | 富樫 実 (白実)   | 本田 知史 (猪支)  |
|           | 郷 清隆 (修明)   | 西牧 辰典 (富支)  |
|           | 橋本 淳一 (須支)  |             |

| 部会長    |               |
|--------|---------------|
| 部会     | 氏名            |
| 普通部会   | 鈴木 睦治 (葵)     |
| 商業部会   | 松浦 冬樹 (福島商業)  |
| 農業部会   | 大和田範雄 (福島明成)  |
| 工業部会   | 鈴木 康隆 (福島工業)  |
| 水産部会   | 松本 善法 (いわき海星) |
| 家庭部会   | 黒川 佳子 (あさか開成) |
| 定通部会   | 矢森 健一 (郡山萌世)  |
| 特別支援部会 | 小檜山宗浩 (聴覚支援)  |
| 理数部会   | 菊田 勇雄 (相馬)    |
| 英語国際部会 | 高島 秀一 (福島南)   |
| 体育部会   | 遠藤 均 (田村)     |
| 総合学科部会 | 郡司 完 (光南)     |

| 全国校長会 |               |
|-------|---------------|
| 部会    | 氏名            |
| 理事    | 加藤 知道 (橘)     |
| 理事    | 竹田 真二 (福島)    |
| 理事    | 小島 稔 (安積)     |
| 管理運営  | 森下陽一郎 (須賀川)   |
| 教育課題  | 齋藤 文子 (石川)    |
| 生徒指導  | 芳賀 菊博 (勿来工業)  |
| 教育課程  | 郡司 完 (光南)     |
| 大学入試  | 瓜生 康弘 (福島西)   |
| 就職対策  | 澁谷 栄一 (郡山北工業) |
| 人権教育  | 伊藤 重幸 (安達東)   |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

令和2年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏名    | 所属校・職名       |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 二瓶 晃一 | 福島県立福島東高等学校長 |
| 副会長 | 小島 稔  | 〃 安積高等学校長    |
| 副会長 | 井関 和明 | 〃 須賀川桐陽高等学校長 |
| 監査  | 竹田 真二 | 〃 福島高等学校長    |
| 監査  | 高島 秀一 | 〃 福島南高等学校    |
| 委員  | 鈴木 義祐 | 〃 福島北高等学校長   |
| 委員  | 大和田範雄 | 〃 福島明成高等学校長  |
| 委員  | 鈴木 康隆 | 〃 福島工業高等学校長  |
| 委員  | 松浦 冬樹 | 〃 福島商業高等学校長  |
| 委員  | 白石 文夫 | 〃 白河第二高等学校長  |
| 委員  | 中野 隆幸 | 〃 郡山東高等学校長   |
| 委員  | 伊藤 重幸 | 〃 安達東高等学校長   |
| 委員  | 和田 直也 | 〃 好間高等学校長    |
| 幹事  | 名嶋 明宏 | 〃 福島東高等学校教頭  |
| 幹事  | 國分 茂男 | 〃 福島東高等学校教頭  |

(4) 部会

| 部会名  | 部会長氏名  | 所属校・職名     | 会員数 |
|------|--------|------------|-----|
| 養護教諭 | 小島 稔   | 安積高等学校長    | 148 |
| 保健体育 | 鈴木 義祐  | 福島北高等学校長   | 450 |
| 理科   | 井関 和明  | 須賀川桐陽高等学校長 | 411 |
| 音楽   | 小島 稔   | 安積高等学校長    | 89  |
| 農業   | 大和田 範雄 | 福島明成高等学校長  | 222 |
| 工業   | 鈴木 康隆  | 福島工業高等学校長  | 403 |
| 商業   | 松浦 冬樹  | 福島商業高等学校長  | 311 |
| 定通   | 白石 文夫  | 白河第二高等学校長  | 152 |
| 英語   | 中野 隆幸  | 郡山東高等学校長   | 450 |
| 数学   | 竹田 真二  | 福島高等学校長    | 467 |
| 家庭   | 伊藤 重幸  | 安達東高等学校長   | 130 |
| 美術工芸 | 和田 直也  | 好間高等学校長    | 62  |

○令和2年度予算 129,570円

## 第4節 文化活動の振興

### 1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

例年行われていた福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を見送ることとなった。

#### (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。（補助対象事業費計：7,391千円、補助金額計：1,000千円）

(ア) 令和2年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役職名      | 氏名    | 職  | 所属校      |
|----------|-------|----|----------|
| 会長       | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明高等学校 |
| 副会長(私立)  | 森 涼   | 校長 | 学法石川高等学校 |
| 副会長(県北)  | 二瓶 晃一 | 校長 | 福島東高等学校  |
| 副会長(県南)  | 郡司 完  | 校長 | 光南高等学校   |
| 副会長(会津)  | 遠藤 利晴 | 校長 | 喜多方高等学校  |
| 副会長(いわき) | 阿部 学  | 校長 | 遠野高等学校   |
| 副会長(相双)  | 山崎 雅弘 | 校長 | 原町高等学校   |
| 理事長      | 三條 敦  | 教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 事務局長     | 難波 幸生 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |

| 役職名 | 氏名    | 職    | 所属校      |
|-----|-------|------|----------|
| 監事  | 馬場 裕史 | 校長   | 郡山商業高等学校 |
| 監事  | 飯豊 利子 | 教諭   | 郡山高等学校   |
| 幹事  | 高橋 温仁 | 教諭   | 喜多方高等学校  |
| 幹事  | 岩田 隼  | 教諭   | 小野高等学校   |
| 幹事  | 藤川 潤子 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 渡邊 尚子 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 篠原まなみ | 常勤講師 | 遠野高等学校   |
| 顧問  | 丹野 純一 | 課長   | 高校教育課    |

専門部会長・専門部委員長

| 専門部         | 部会長   | 職  | 所属校   | 部委員長  | 職  | 所属校   |
|-------------|-------|----|-------|-------|----|-------|
| 演劇          | 高島 秀一 | 校長 | 福島南   | 岡田 篤  | 教諭 | 福島東稜  |
| 高音連         | 鈴木 和明 | 教頭 | 安積御館  | 大竹 隆  | 教諭 | 会津    |
| 合唱          | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明  | 星 英一  | 教諭 | 安積黎明  |
| 吹奏楽         | 渡邊 正仁 | 校長 | 相馬東   | 今野 貴文 | 教諭 | 相馬東   |
| 器楽管弦楽       | 馬場 裕史 | 校長 | 郡山商業  | 瓶子美穂子 | 教諭 | 郡山商業  |
| 日本音楽        | 渡邊 学  | 校長 | いわき総合 | 梅津智香子 | 教諭 | いわき総合 |
| 吟詠剣詩舞       | 唐木 義則 | 校長 | 昌平    | 大橋 未緒 | 教頭 | 昌平    |
| 郷土芸能        | 伊東 光司 | 校長 | 相馬農業  | 村田 和丈 | 教諭 | 磐城農業  |
| マーチングB・バトンT | 阿部 秀樹 | 校長 | 郡山    | 工藤 幸恵 | 教諭 | 郡山    |
| 美術・工芸       | 和田 直也 | 校長 | 好間    | 眞柴 毅  | 教諭 | 福島東   |
| 書道          | 矢森 健一 | 校長 | 郡山萌世  | 小野 俊彦 | 教諭 | 郡山萌世  |
| 写真          | 瓜生 康弘 | 校長 | 福島西   | 伊藤 規生 | 教諭 | 保原    |
| 放送          | 阿部 秀樹 | 校長 | 郡山    | 中野 淳之 | 教諭 | 郡山    |
| 囲碁          | 小島 稔  | 校長 | 安積    | 佐原 輝明 | 教諭 | 保原(定) |
| 将棋          | 竹田 真二 | 校長 | 福島    | 松村 茂郎 | 教諭 | 福島    |
| 弁論          | 廣瀬 敬彦 | 校長 | 会津    | 猪俣小百合 | 教諭 | 会津    |
| 小倉百人一首かるた   | 湯田 重哉 | 校長 | 安積黎明  | 益永 涼子 | 教諭 | 安積黎明  |
| 新聞          | 澁谷 栄一 | 校長 | 郡山北工業 | 吉田 義仁 | 教諭 | 郡山北工業 |

| 専 門 部  | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校    |
|--------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 文 芸    | 橋本 忠広 | 校 長 | 南会津    | 堀江 勇一 | 教 諭 | 橋      |
| 自然科学   | 井関 和明 | 校 長 | 須賀川桐陽  | 西塔 佳正 | 教 諭 | 湯 本    |
| 農 業    | 五ノ井平吉 | 校 長 | 磐城農業   | 穂積慎一郎 | 教 諭 | 磐城農業   |
| 工 業    | 澁谷 栄一 | 校 長 | 郡山北工業  | 高橋 健也 | 教 諭 | 郡山北工業  |
| 商 業    | 松浦 冬樹 | 校 長 | 福島商業   | 石川 智裕 | 教 諭 | 福島商業   |
| 家 庭    | 五ノ井平吉 | 校 長 | 磐城農業   | 折笠 浩美 | 教 諭 | 磐城農業   |
| 定 通    | 齋藤 裕昭 | 校 長 | いわき翠の杜 | 高木 光子 | 教 諭 | いわき翠の杜 |
| 特別支援学校 | 本田 知史 | 校 長 | 猪苗代支援  | 鈴木 健治 | 教 諭 | 猪苗代支援  |
| J R C  | 湯田 重哉 | 校 長 | 安積黎明   | 池田 知美 | 教 諭 | 安積黎明   |

イ 第39回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和2年9月から令和3年2月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第44回全国高等学校総合文化祭への参加

高知県で開催される予定であった同文化祭だが、新型コロナウイルスの影響により、通常開催が見送られ、WEB上での開催となった。本県からは、約110名の生徒が参加した。

〔参加部門〕

日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、美術・工芸、書道、写真、放送、弁論、小倉百人一首、文芸、自然科学、ボランティア

エ 令和2年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部  | 大 会 名                         | 成 績         | 学 校 名   |
|--------|-------------------------------|-------------|---------|
| 文 芸    | 第35回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門      | 優秀賞（全国3位相当） | 磐 城     |
| 美術・工芸  | 日学・黒板アート甲子園®2020              | 優秀賞（全国2位相当） | 会 津 学 鳳 |
| 商 業    | 地方創生 政策アイデアコンテスト2020          | 優秀賞（全国2位相当） | 保 原     |
| 器楽・管弦楽 | 第9回日本学校合奏コンクール全国グランドコンテスト2021 | 金賞          | 郡 山 商 業 |
| 吹奏楽    | 第44回全日本アンサンブルコンテスト            | 金賞          | 磐 城     |

(イ) 個人

| 専 門 部         | 大 会 名                          | 成 績                           | 学 校 名     | 氏 名   |
|---------------|--------------------------------|-------------------------------|-----------|-------|
| 家 庭           | 第68回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会          | 文部科学大臣賞<br>（全国1位相当）           | 耶 麻 農 業   | 鶴川 美涼 |
| 書 道           | 第44回全国高等学校総合文化祭書道部門            | 読売新聞社賞・<br>奨励賞                | 会 津 学 鳳   | 湯田 真生 |
| 小倉百人一首<br>かるた | 第44回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首<br>かるた部門 | 優秀読手賞                         | 安 積 黎 明   | 野村 紗都 |
| 写 真           | 第44回全国高等学校総合文化祭 写真部門           | 優秀賞                           | 安 積       | 古川 円香 |
| 特別支援学校        | 第27回全国特別支援学校文化祭                | 全国特別支援学校文化連盟<br>会長賞（造形・美術部門）  | 大 笹 生 支 援 | 新田 愁夜 |
|               | 第27回全国特別支援学校文化祭                | 全国特別支援学校肢体不自由<br>教育校長会賞（写真部門） | 平 支 援     | 庄子 陽士 |

| 専 門 部  | 大 会 名                    | 成 績                       | 学 校 名   | 氏 名   |
|--------|--------------------------|---------------------------|---------|-------|
| 特別支援学校 | 第 27 回全国特別支援学校文化祭        | 全国特別支援学校文化連盟<br>会長賞（書道部門） | 郡 山 支 援 | 佐藤 和音 |
| 文 芸    | 第 35 回全国高等学校文芸コンクール 俳句部門 | 優秀賞                       | 須賀川桐陽   | 滝田 翼  |
|        | 第 35 回全国高等学校文芸コンクール 俳句部門 | 優良賞                       | 磐 城     | 空岡 夢  |
|        | 第 35 回全国高等学校文芸コンクール 詩部門  | 優良賞                       | 磐 城     | 松野 未悠 |

オ 令和 2 年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団 体 名                                      | 所属校名    | 専 門 部  | 全国大会での成績                                    |
|-----|--------------------------------------------|---------|--------|---------------------------------------------|
| 1   | 文学部                                        | 磐 城     | 文 芸    | 第 35 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門<br>優秀賞（全国 3 位相当） |
| 2   | 美術部                                        | 会 津 学 鳳 | 美術・工芸  | 日学・黒板アート甲子園*2020<br>優秀賞（全国 2 位相当）           |
| 3   | 課題研究<br>調査研究チーム<br>(藤原修太郎<br>舟山芽生<br>松尾心音) | 保 原     | 商 業    | 地方創生 政策アイデアコンテスト 2020<br>優秀賞（全国 2 位相当）      |
| 4   | 管弦楽部                                       | 郡 山 商 業 | 器楽・管弦楽 | 第 9 回日本学校合奏コンクール全国グランドコンテスト 2021<br>金賞      |
| 5   | 吹奏楽部                                       | 磐 城     | 吹奏楽    | 第 44 回全日本アンサンブルコンテスト<br>(フルート七重奏) 金賞        |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏 名   | 所属校名      | 専 門 部         | 全国大会での成績                                       |
|-----|-------|-----------|---------------|------------------------------------------------|
| 1   | 鶴川 美涼 | 耶 麻 農 業   | 家 庭           | 第 68 回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会<br>文部科学大臣賞（全国 1 位相当）   |
| 2   | 湯田 真生 | 会 津 学 鳳   | 書 道           | 第 44 回全国高等学校総合文化祭書道部門<br>読売新聞社賞・奨励賞            |
| 3   | 野村 紗都 | 安 積 黎 明   | 小倉百人一首<br>かるた | 第 44 回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門<br>優秀読手賞          |
| 4   | 新田 愁夜 | 大 笹 生 支 援 | 特別支援学校        | 第 27 回全国特別支援学校文化祭<br>全国特別支援学校文化連盟会長賞（造形・美術部門）  |
| 5   | 庄子 陽士 | 平 支 援     | 特別支援学校        | 第 27 回全国特別支援学校文化祭<br>全国特別支援学校肢体不自由教育校長会賞（写真部門） |
| 6   | 佐藤 和音 | 郡 山 支 援   | 特別支援学校        | 第 27 回全国特別支援学校文化祭<br>全国特別支援学校文化連盟会長賞（書道部門）     |

(ウ) 優秀指導者

| No. | 氏 名    | 所属校名         | 専 門 部 | 全国大会での成績                                                                                                                       |
|-----|--------|--------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 齋藤 夏菜子 | ふたば未来<br>学 園 | 演 劇   | 第 43 回全国高等学校総合文化祭佐賀大会演劇部門<br>優秀賞（全国 2 位相当）受賞、全国高等学校総合文化祭優秀校東京<br>公演出場（本県 17 年ぶり出演）／第 38 回全国高等学校総合文化祭<br>茨城大会演劇部門出場（いわき総合高校演劇部） |



# 第7章 特別支援教育

## 第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」、「特別支援学校の在り方の検討（再掲）」の6項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、保健、福祉、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備を進めた。特別支援学校教員に対する研修の充実を図り専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における指導支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（13校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

## 第2節 学校管理

### 1 児童生徒数と教職員定数

#### (1) 児童生徒数の推移

| 種別              | 部/年度 | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 7     | 6     | 6     | 4     | 3     | 5     | 5     | 3     | 1     | 3     |
|                 | 中学部  | 6     | 7     | 8     | 6     | 5     | 3     | 4     | 5     | 8     | 7     |
|                 | 高等部  | 33    | 35    | 30    | 25    | 24    | 22    | 19    | 17    | 12    | 14    |
|                 | 計    | 46    | 48    | 44    | 35    | 32    | 30    | 28    | 25    | 21    | 24    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  | 14    | 16    | 11    | 17    | 12    | 10    | 14    | 17    | 17    | 18    |
|                 | 小学部  | 42    | 46    | 54    | 45    | 44    | 44    | 38    | 32    | 23    | 34    |
|                 | 中学部  | 21    | 17    | 18    | 22    | 25    | 26    | 28    | 26    | 29    | 20    |
|                 | 高等部  | 25    | 29    | 24    | 24    | 22    | 23    | 28    | 28    | 28    | 29    |
|                 | 計    | 102   | 108   | 107   | 108   | 103   | 103   | 108   | 103   | 97    | 101   |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 498   | 504   | 501   | 517   | 529   | 543   | 551   | 600   | 567   | 632   |
|                 | 中学部  | 345   | 334   | 362   | 373   | 371   | 370   | 376   | 384   | 348   | 389   |
|                 | 高等部  | 763   | 824   | 757   | 749   | 751   | 803   | 819   | 812   | 742   | 821   |
|                 | 計    | 1,606 | 1,662 | 1,620 | 1,639 | 1,651 | 1,716 | 1,746 | 1,796 | 1,657 | 1,842 |

| 種別              | 部/年度 | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 小学部  | 119   | 120   | 124   | 128   | 142   | 139   | 136   | 130   | 126   | 113   |
|                 | 中学部  | 71    | 58    | 71    | 68    | 69    | 70    | 66    | 71    | 70    | 78    |
|                 | 高等部  | 78    | 83    | 75    | 76    | 72    | 79    | 82    | 82    | 73    | 67    |
|                 | 計    | 268   | 261   | 270   | 272   | 283   | 288   | 284   | 283   | 269   | 258   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 小学部  | 37    | 40    | 34    | 29    | 35    | 27    | 33    | 30    | 29    | 26    |
|                 | 中学部  | 36    | 46    | 46    | 36    | 25    | 32    | 23    | 40    | 35    | 31    |
|                 | 高等部  | 45    | 44    | 46    | 40    | 32    | 37    | 35    | 36    | 46    | 57    |
|                 | 計    | 118   | 130   | 126   | 105   | 92    | 96    | 91    | 106   | 110   | 114   |
| 合 計             |      | 2,154 | 2,145 | 2,214 | 2,148 | 2,157 | 2,170 | 2,224 | 2,271 | 2,303 | 2,339 |

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 令和2年度児童生徒数

(R2.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

| 種別              | 性別 | 部・学年 | 幼稚園部 | 小学部 |     |     |     |     |    | 中学部 |     |     |     | 高等部 |     |     |     | 専攻科 | 合計 | 総計 |       |
|-----------------|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
|                 |    |      |      | 本科  |     |     |     |     |    |     |     | 専攻科 | 合計  |     |     |     |     |     |    |    |       |
|                 |    |      |      | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6  | 計   | 1   |     |     | 2   | 3   | 計   | 1   |     |    |    | 2     |
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 2   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0  | 3   | 0   | 2   | 1   | 3   | 1   | 0   | 3   | 4   | 4  | 8  | 14    |
|                 | 女  |      |      | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 0   | 2   | 2   | 4   | 1   | 1   | 1   | 3   | 3  | 6  | 10    |
|                 | 計  |      |      | 2   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0  | 3   | 0   | 4   | 3   | 7   | 2   | 1   | 4   | 7   | 7  | 14 | 24    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 男  | 10   |      | 4   | 5   | 1   | 1   | 4   | 4  | 19  | 2   | 5   | 2   | 9   | 10  | 3   | 6   | 19  |    |    | 57    |
|                 | 女  | 8    |      | 5   | 0   | 0   | 5   | 3   | 2  | 15  | 1   | 4   | 6   | 11  | 4   | 2   | 4   | 10  |    |    | 44    |
|                 | 計  | 18   |      | 9   | 5   | 1   | 6   | 7   | 6  | 34  | 3   | 9   | 8   | 20  | 14  | 5   | 10  | 29  |    |    | 101   |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 84  | 79  | 85  | 74  | 73  | 69 | 464 | 86  | 79  | 82  | 247 | 190 | 188 | 158 | 536 |    |    | 1,247 |
|                 | 女  |      |      | 18  | 37  | 34  | 27  | 31  | 21 | 168 | 47  | 56  | 39  | 142 | 87  | 88  | 110 | 285 |    |    | 595   |
|                 | 計  |      |      | 102 | 116 | 119 | 101 | 104 | 90 | 632 | 133 | 135 | 121 | 389 | 277 | 276 | 268 | 821 |    |    | 1,842 |
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 男  |      |      | 12  | 8   | 10  | 9   | 11  | 14 | 64  | 19  | 11  | 11  | 41  | 15  | 11  | 15  | 41  |    |    | 146   |
|                 | 女  |      |      | 6   | 11  | 6   | 8   | 8   | 10 | 49  | 13  | 14  | 10  | 37  | 11  | 8   | 7   | 26  |    |    | 112   |
|                 | 計  |      |      | 18  | 19  | 16  | 17  | 19  | 24 | 113 | 32  | 25  | 21  | 78  | 26  | 19  | 22  | 67  |    |    | 258   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 男  |      |      | 1   | 3   | 5   | 3   | 6   | 2  | 20  | 4   | 7   | 9   | 20  | 12  | 9   | 12  | 33  |    |    | 73    |
|                 | 女  |      |      | 0   | 1   | 3   | 1   | 1   | 0  | 6   | 2   | 4   | 5   | 11  | 7   | 4   | 13  | 24  |    |    | 41    |
|                 | 計  |      |      | 1   | 4   | 8   | 4   | 7   | 2  | 26  | 6   | 11  | 14  | 31  | 19  | 13  | 25  | 57  |    |    | 114   |

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

| 種別 | 年度    | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |     |     |     |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |       | 23            | 24  | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 23     | 24  | 25  | 26  | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     |
| 教員 | 校長    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 12     | 12  | 12  | 12  | 12    | 12    | 13    | 13    | 13    | 13    |
|    | 教頭・教諭 | 121           | 117 | 119 | 115 | 131 | 129 | 133 | 131 | 124 | 126 | 994    | 965 | 963 | 967 | 1,145 | 1,157 | 1,209 | 1,242 | 1,250 | 1,250 |
|    | 養護教諭  | 4             | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 25     | 24  | 24  | 23  | 24    | 24    | 26    | 26    | 26    | 27    |
|    | 兼任主事  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |     |     |     |       |       |       |       |       |       |
|    | 補充教員  | 5             | 10  | 11  | 16  | 14  | 8   | 13  | 12  | 10  | 15  | 132    | 162 | 159 | 160 | 160   | 150   | 170   | 189   | 173   | 154   |

| 種別<br>年度 | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 23            | 24  | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 23     | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     |
| 教員       | 講師            |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員        | 24  | 26  | 25  | 25  | 25  | 27  | 28  | 28  | 28  | 34     | 33    | 33    | 32    | 34    | 32    | 31    | 30    | 28    | 27    |
|          | 実習助手          | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 24     | 24    | 24    | 24    | 24    | 25    | 27    | 27    | 27    | 27    |
|          | 計             | 164 | 167 | 169 | 170 | 184 | 178 | 188 | 185 | 176 | 183    | 1,221 | 1,220 | 1,215 | 1,218 | 1,399 | 1,400 | 1,476 | 1,527 | 1,517 |
| 事務職員     | 11            | 11  | 12  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 48     | 49    | 53    | 51    | 50    | 51    | 53    | 53    | 54    | 53    |
| その他の職員   | 技能労務員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員           | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 6      | 6     | 6     | 6     | 6     | 7     | 6     | 6     | 5     | 5     |
|          | ボイラー技師        | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1   | 2      | 2     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     |
|          | 栄養職員          | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 7      | 9     | 8     | 9     | 9     | 9     | 10    | 10    | 10    | 10    |
|          | 調理給食員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手           |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 計             | 6   | 6   | 6   | 6   | 6   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5      | 16    | 17    | 15    | 16    | 16    | 17    | 17    | 17    | 16    |
| 合計       | 181           | 184 | 187 | 187 | 201 | 194 | 204 | 201 | 192 | 199 | 1,285  | 1,286 | 1,283 | 1,285 | 1,465 | 1,468 | 1,546 | 1,597 | 1,587 | 1,567 |

| 種別<br>年度 | 計      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 23     | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     |
| 教員       | 校長     | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 15    | 15    | 15    |
|          | 教頭・教諭  | 1,115 | 1,082 | 1,082 | 1,082 | 1,276 | 1,286 | 1,342 | 1,373 | 1,374 |
|          | 養護教諭   | 29    | 28    | 28    | 27    | 28    | 28    | 30    | 30    | 30    |
|          | 兼任主事   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 補充教員   | 137   | 172   | 170   | 176   | 174   | 158   | 183   | 201   | 183   |
|          | 講師     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員 | 58    | 59    | 58    | 57    | 59    | 59    | 59    | 58    | 56    |
|          | 実習助手   | 32    | 32    | 32    | 32    | 32    | 33    | 35    | 35    | 35    |
| 計        | 1,385  | 1,387 | 1,384 | 1,388 | 1,583 | 1,578 | 1,664 | 1,712 | 1,693 | 1,681 |
| 事務職員     | 59     | 60    | 65    | 62    | 61    | 62    | 64    | 64    | 65    | 64    |
| その他の職員   | 技能労務員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員    | 8     | 8     | 8     | 8     | 8     | 9     | 8     | 8     | 7     |
|          | ボイラー技師 | 4     | 4     | 3     | 3     | 3     | 2     | 2     | 2     | 2     |
|          | 栄養職員   | 9     | 11    | 10    | 11    | 11    | 11    | 12    | 12    | 12    |
|          | 調理給食員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手    | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 計        | 22     | 23    | 21    | 22    | 22    | 22    | 22    | 22    | 21    | 21    |
| 合計       | 1,466  | 1,470 | 1,470 | 1,472 | 1,666 | 1,662 | 1,750 | 1,798 | 1,779 | 1,766 |

## 2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

### (1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

| 障がい種別 | 種別<br>校名      | 幼稚部 |     | 小学部 |     | 中学部 |     | 高等部 |     |     |     | 計   |       |
|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
|       |               | 学級数 | 幼児数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数 | 本科  |     | 専攻科 |     | 学級数 | 児童生徒数 |
|       |               |     |     |     |     |     |     | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 |     |       |
| 視覚    | 県立視覚支援学校      |     |     | 2   | 3   | 4   | 7   | 6   | 7   | 3   | 7   | 15  | 24    |
|       | 小計            |     |     | 2   | 3   | 4   | 7   | 6   | 7   | 3   | 7   | 15  | 24    |
| 聴覚    | 県立聴覚支援学校      | 3   | 8   | 6   | 13  | 6   | 20  | 8   | 29  |     |     | 23  | 70    |
|       | 県立聴覚支援学校福島校   | 2   | 6   | 5   | 8   |     |     |     |     |     |     | 7   | 14    |
|       | 県立聴覚支援学校会津校   | 1   | 1   | 3   | 4   |     |     |     |     |     |     | 4   | 5     |
|       | 県立聴覚支援学校平校    | 1   | 3   | 6   | 9   |     |     |     |     |     |     | 7   | 12    |
|       | 小計            | 7   | 18  | 20  | 34  | 6   | 20  | 8   | 29  |     |     | 41  | 101   |
| 知的障がい | 県立大笹生支援学校     |     |     | 32  | 100 | 17  | 54  | 19  | 102 |     |     | 68  | 256   |
|       | 県立あぶくま支援学校    |     |     | 31  | 93  | 15  | 62  | 34  | 183 |     |     | 80  | 338   |
|       | 県立西郷支援学校      |     |     | 16  | 44  | 10  | 31  | 11  | 57  |     |     | 37  | 132   |
|       | 県立石川支援学校      |     |     | 14  | 38  | 4   | 14  | 15  | 76  |     |     | 33  | 128   |
|       | 県立石川支援学校たまかわ校 |     |     | 17  | 42  | 6   | 20  |     |     |     |     | 23  | 62    |
|       | 県立たむら支援学校     |     |     | 13  | 35  | 5   | 14  | 8   | 37  |     |     | 26  | 86    |
|       | 県立会津支援学校      |     |     | 28  | 76  | 17  | 61  | 19  | 84  |     |     | 64  | 221   |
|       | 県立猪苗代支援学校     |     |     | 5   | 13  | 3   | 10  | 4   | 21  |     |     | 12  | 44    |
|       | 県立いわき支援学校     |     |     | 23  | 72  | 15  | 53  | 17  | 88  |     |     | 55  | 213   |
|       | 県立いわき支援学校くぼた校 |     |     |     |     |     |     | 5   | 26  |     |     | 5   | 26    |
|       | 県立富岡支援学校      |     |     | 12  | 30  | 3   | 7   | 7   | 19  |     |     | 22  | 56    |
|       | 県立相馬支援学校      |     |     | 8   | 25  | 6   | 26  | 11  | 59  |     |     | 25  | 110   |
|       | 福島市立福島養護学校    |     |     | 12  | 49  | 5   | 19  | 10  | 49  |     |     | 27  | 117   |
|       | 小計            |     |     | 211 | 617 | 106 | 371 | 160 | 801 |     |     | 477 | 1,789 |
| 肢体不自由 | 県立郡山支援学校      |     |     | 28  | 72  | 19  | 55  | 19  | 50  |     |     | 66  | 177   |
|       | 県立平支援学校       |     |     | 18  | 41  | 10  | 23  | 9   | 17  |     |     | 37  | 81    |
|       | 小計            |     |     | 46  | 133 | 29  | 78  | 28  | 67  |     |     | 103 | 258   |
| 病弱    | 県立須賀川支援学校     |     |     | 9   | 16  | 5   | 16  | 19  | 57  |     |     | 33  | 89    |
|       | 県立須賀川支援学校医大校  |     |     | 3   | 6   | 4   | 6   |     |     |     |     | 7   | 12    |
|       | 県立須賀川支援学校郡山校  |     |     | 3   | 3   | 4   | 5   |     |     |     |     | 7   | 8     |
|       | 県立会津支援学校竹田校   |     |     | 2   | 1   | 2   | 4   |     |     |     |     | 4   | 5     |
|       | 小計            |     |     | 17  | 26  | 15  | 31  | 19  | 57  |     |     | 51  | 114   |
| 合計    |               | 7   | 18  | 296 | 793 | 160 | 507 | 221 | 961 | 3   | 7   | 687 | 2,286 |

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

| 管内  | 学校別      |    | 小学校 |      |             |           |    |            |      | 中学校 |    |     |             |           |    |            | 計    |      |
|-----|----------|----|-----|------|-------------|-----------|----|------------|------|-----|----|-----|-------------|-----------|----|------------|------|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視 | 難聴  | 知的   | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 | 小計   | 弱視  | 難聴 | 知的  | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 |      | 小計   |
| 県北  | 学校数      | 0  | 1   | 63   | 1           | 1         | 0  | 55         | 122  | 0   | 0  | 32  | 2           | 1         | 0  | 30         | 65   | 187  |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 82   | 1           | 1         | 0  | 78         | 163  | 0   | 0  | 39  | 2           | 1         | 0  | 40         | 82   | 245  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 400  | 2           | 5         | 0  | 417        | 825  | 0   | 0  | 198 | 2           | 1         | 0  | 193        | 394  | 1219 |
| 県中  | 学校数      | 0  | 1   | 77   | 0           | 0         | 0  | 64         | 142  | 0   | 1  | 40  | 0           | 0         | 0  | 32         | 73   | 215  |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 106  | 0           | 0         | 0  | 90         | 197  | 0   | 1  | 44  | 0           | 0         | 0  | 41         | 86   | 283  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 524  | 0           | 0         | 0  | 464        | 989  | 0   | 1  | 204 | 0           | 0         | 0  | 205        | 410  | 1399 |
| 県南  | 学校数      | 2  | 3   | 30   | 0           | 2         | 0  | 19         | 56   | 0   | 1  | 14  | 0           | 0         | 0  | 11         | 26   | 82   |
|     | 学級数      | 2  | 3   | 36   | 0           | 2         | 0  | 22         | 65   | 0   | 1  | 15  | 0           | 0         | 0  | 12         | 28   | 93   |
|     | 児童生徒数    | 2  | 3   | 164  | 0           | 2         | 0  | 115        | 286  | 0   | 1  | 55  | 0           | 0         | 0  | 45         | 101  | 387  |
| 会津  | 学校数      | 0  | 0   | 38   | 2           | 2         | 0  | 32         | 74   | 0   | 0  | 20  | 0           | 0         | 0  | 14         | 34   | 108  |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 44   | 2           | 2         | 0  | 36         | 84   | 0   | 0  | 22  | 0           | 0         | 0  | 14         | 36   | 120  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 212  | 2           | 2         | 0  | 148        | 364  | 0   | 0  | 82  | 0           | 0         | 0  | 44         | 126  | 490  |
| 南会津 | 学校数      | 1  | 0   | 7    | 1           | 0         | 0  | 6          | 15   | 0   | 0  | 3   | 0           | 0         | 0  | 2          | 5    | 20   |
|     | 学級数      | 1  | 0   | 7    | 1           | 0         | 0  | 7          | 16   | 0   | 0  | 3   | 0           | 0         | 0  | 2          | 5    | 21   |
|     | 児童生徒数    | 1  | 0   | 11   | 1           | 0         | 0  | 33         | 46   | 0   | 0  | 7   | 0           | 0         | 0  | 6          | 13   | 59   |
| 相双  | 学校数      | 0  | 1   | 26   | 0           | 0         | 0  | 19         | 46   | 0   | 1  | 13  | 0           | 0         | 0  | 10         | 24   | 70   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 30   | 0           | 0         | 0  | 20         | 51   | 0   | 1  | 13  | 0           | 0         | 0  | 10         | 24   | 75   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 130  | 0           | 0         | 0  | 72         | 203  | 0   | 1  | 45  | 0           | 0         | 0  | 24         | 70   | 273  |
| いわき | 学校数      | 1  | 1   | 44   | 1           | 1         | 0  | 34         | 82   | 0   | 1  | 22  | 0           | 0         | 0  | 16         | 39   | 121  |
|     | 学級数      | 1  | 1   | 60   | 1           | 1         | 0  | 45         | 109  | 0   | 1  | 27  | 0           | 0         | 0  | 17         | 45   | 154  |
|     | 児童生徒数    | 1  | 2   | 340  | 1           | 3         | 0  | 248        | 595  | 0   | 1  | 138 | 0           | 0         | 0  | 82         | 221  | 816  |
| 計   | 学校数      | 4  | 7   | 285  | 5           | 6         | 0  | 229        | 536  | 0   | 4  | 144 | 2           | 1         | 0  | 115        | 266  | 802  |
|     | 学級数      | 4  | 7   | 365  | 5           | 6         | 0  | 298        | 685  | 0   | 4  | 163 | 2           | 1         | 0  | 136        | 306  | 991  |
|     | 児童生徒数    | 4  | 8   | 1781 | 6           | 12        | 0  | 1497       | 3308 | 0   | 4  | 729 | 2           | 1         | 0  | 599        | 1335 | 4643 |

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校1（学校数1、学級数1）で計上

| 管内  | 学校別      |    | 小学校 |           |     |           |     |      |      | 中学校 |    |           |     |           |    |      | 計   |      |
|-----|----------|----|-----|-----------|-----|-----------|-----|------|------|-----|----|-----------|-----|-----------|----|------|-----|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視 | 難聴  | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD  | ADHD | 小計   | 弱視  | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD | ADHD |     | 小計   |
| 県北  | 学校数      | 0  | 0   | 4         | 3   | 1         | 4   | 5    | 17   | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 1  | 2    | 4   | 21   |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 10        | 7   | 1         | 8   | 6    | 32   | 0   | 0  | 0         | 2   | 0         | 1  | 3    | 6   | 38   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 156       | 107 | 18        | 114 | 109  | 504  | 0   | 0  | 0         | 27  | 0         | 13 | 44   | 84  | 616  |
| 県中  | 学校数      | 0  | 1   | 2         | 8   | 1         | 0   | 8    | 18   | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 0  | 2    | 4   | 22   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 4         | 7   | 1         | 0   | 8    | 20   | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 0  | 2    | 4   | 24   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 14  | 53        | 107 | 26        | 0   | 139  | 339  | 0   | 0  | 10        | 11  | 0         | 0  | 24   | 45  | 303  |
| 県南  | 学校数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 3    | 3    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 3    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 3    | 3    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 3    |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 26   | 26   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 26   |
| 会津  | 学校数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 3   | 2    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 2    | 3   | 9    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 0         | 1   | 0         | 4   | 3    | 9    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 2    | 3   | 12   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 9         | 6   | 0         | 40  | 43   | 98   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 13 | 22   | 35  | 133  |
| 南会津 | 学校数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 4    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 4    |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 63   | 63   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 63   |
| 相双  | 学校数      | 0  | 0   | 2         | 0   | 1         | 0   | 3    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0  | 1    | 1   | 7    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 6         | 0   | 1         | 0   | 4    | 11   | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0  | 1    | 2   | 13   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 101       | 0   | 19        | 0   | 76   | 196  | 0   | 0  | 0         | 0   | 6         | 0  | 14   | 20  | 162  |
| いわき | 学校数      | 0  | 0   | 5         | 1   | 1         | 0   | 2    | 5    | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 1  | 0    | 2   | 7    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 5         | 1   | 1         | 0   | 2    | 9    | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 1  | 0    | 2   | 11   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 66        | 17  | 10        | 0   | 30   | 123  | 0   | 0  | 0         | 11  | 0         | 13 | 0    | 24  | 147  |
| 計   | 学校数      | 0  | 1   | 14        | 12  | 4         | 7   | 27   | 59   | 0   | 0  | 1         | 3   | 1         | 3  | 7    | 14  | 73   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 26        | 16  | 4         | 12  | 30   | 88   | 0   | 0  | 1         | 4   | 1         | 3  | 8    | 17  | 105  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 14  | 385       | 237 | 73        | 154 | 486  | 1349 | 0   | 0  | 10        | 49  | 6         | 39 | 104  | 208 | 1557 |

**(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数**

| 年 度       | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元  | 2  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 対象児童生徒数   | 75 | 89 | 69 | 90 | 80 | 69 | 58 | 55 | 54 | 49 | 50 | 43 | 42 | 39 | 43 | 38 | 33 | 34 | 36 | 36 | 32 | 30 | 29 | 29 |
| 担 当 教 員 数 | 36 | 41 | 36 | 45 | 36 | 41 | 33 | 33 | 35 | 27 | 27 | 27 | 27 | 30 | 29 | 24 | 19 | 27 | 32 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |

**(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移**

| 年 度     | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | 2 |
|---------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 猶 予 者 数 | 0 | 0  | 0  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 |
| 免 除 者 数 | 5 | 3  | 3  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 |

**3 教職員人事・任用**

**(1) 人事異動の概要**

令和2年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比1人増の1,597人となった。このうち、教諭等は、前年比2人増の1,376人である。

**ア 新採用について**

令和3年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和2年度に比べ、前年比5人増の239人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は54人であり、47人が教諭として採用された。

**イ 交流について**

令和2年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め179人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は14人で、高等学校との交流（転入）は13人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

**(2) 令和2年度県立特別支援学校教員異動・交流基準**

**ア 一般基準**

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。
- (イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

**イ 異動基準**

**(ア) 勤続年数による基準**

次に該当する者は、異動の対象とする。

- 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
- 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）
- 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

**(イ) 地域による基準**

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

**オ 交流**

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

**別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表**

| 地域          | 地 区 | 学 校                         |                        |
|-------------|-----|-----------------------------|------------------------|
| 中<br>通<br>り | 県 北 | 視覚支援<br>大笹生支援               | 聴覚支援（福島）<br>須賀川支援（医大）  |
|             | 県 中 | 聴覚支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援（郡山） | 郡山支援<br>須賀川支援<br>たむら支援 |
|             | 県 南 | 西郷支援<br>石川支援（たまかわ）          | 石川支援                   |
| 会<br>津      | 会 津 | 聴覚支援（会津）<br>会津支援（竹田）        | 会津支援<br>猪苗代支援          |
| 浜<br>通<br>り | いわき | 聴覚支援（平）<br>いわき支援            | 平支援<br>いわき支援（くぼた）      |
|             | 相 双 | 富岡支援                        | 相馬支援                   |

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

| 群分類 | I 群                                           | II 群           |                |                |                    |
|-----|-----------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|
| 障がい | 知的障がい教育を主とする学校                                | 視覚障がい教育を主とする学校 | 聴覚障がい教育を主とする学校 | 肢体不自由教育を主とする学校 | 病弱教育を主とする学校        |
| 地区  |                                               |                |                |                |                    |
| 県北  | 大笹生支援                                         | 視覚支援           | 聴覚支援(福島)       |                | 須賀川支援(医大)          |
| 県南  | あぶくま支援<br>石川支援<br>石川支援(たまかわ)<br>たむら支援<br>西郷支援 |                | 聴覚支援           | 郡山支援           | 須賀川支援<br>須賀川支援(郡山) |
| 会津  | 会津支援<br>猪苗代支援                                 |                | 聴覚支援(会津)       |                | 会津支援(竹田)           |
| いわき | いわき支援<br>いわき支援(くぼた)                           |                | 聴覚支援(平)        | 平支援            |                    |
| 相双  | 富岡支援<br>相馬支援                                  |                |                |                |                    |

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく6つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

#### ○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

#### ○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校におけるセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上
- ・ 特別支援学校の在り方の検討(再掲)

#### (2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

#### (3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

##### ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別の教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会(書面開催)や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。

- ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善  
新学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、  
資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できる  
ように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し  
ながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」  
の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。
- ③ 言語環境の整備と言語活動の充実  
移動図書館車での巡回貸し出しや幼児児童生徒に本に  
親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を  
実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への  
参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に  
取り組んだ。
- ④ 自立活動の充実  
児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改  
善・克服し、自立し社会参加する資質を養うために、  
個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の  
内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個  
別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標  
を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導  
を行った。
- ⑤ 職業教育の充実  
「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、全  
ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校  
作業技能大会」を開催した。また、「次世代のふくしまを  
担う人材育成事業（特別支援学校における就労推進事  
業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指  
し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者に  
よる進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関  
する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携し  
た支援体制の構築を図った。
- ⑥ 生徒指導の充実  
幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員  
の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導  
に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。  
また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協  
議会を11月に開催し、本県の生徒事故の現状や課題の  
共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努め  
た。
- ⑦ 交流及び共同学習の推進  
近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共  
同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通  
し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、  
障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重す  
る心を育むことに努めた。
- ⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮  
各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的  
機能を活かし、県内10箇所で研修会を実施し、適切な  
支援を行うことができるよう専門性の向上を図るととも  
に、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

#### (4) 教員の資質と指導力の向上

- ア 「切れ目のない支援体制整備事業」事業担当者会議の  
開催  
事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等  
の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育  
事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指  
導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域  
内の特別支援教育の充実にに向けた指導業務の円滑な推進  
を図った。
- イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催  
特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校  
教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指  
導委員の資質の向上を図った。
- ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ  
研修、経験者研修の実施  
特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研  
修を通して、実践的指導力と使命感を養った。  
また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内にお  
けるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修にお  
いて、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。
- エ 特別支援教育担当教員専門研修  
特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に  
対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指  
導力の向上を図るため、教員6名の派遣を予定していた  
国立特別支援教育総合研究所の専門研修が、新型コロナ  
ウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。
- (5) 就学相談の推進  
学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み  
等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と  
公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で  
開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実  
については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期から  
の一貫した支援の充実に努めた。
- (6) 特別支援教育の推進  
ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業  
「令和2年度特別支援学校における医療的ケア実施事  
業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療  
的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケ  
アの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医  
療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生  
徒は除く）が、在籍している学校（13校）に看護師を配  
置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の  
委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制  
の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医  
療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。  
※看護師配置校  
聴覚支援学校福島校、聴覚支援学校会津校、  
大笹生支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、  
須賀川支援学校、西郷支援学校、石川支援学校、  
会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、  
いわき支援学校、相馬支援学校



【令和2年度医療的ケア実施運営協議会委員】

| 氏名     | 委嘱時の職名              |
|--------|---------------------|
| ◎森田 浩之 | 県総合療育センター・所長        |
| ○生井 良幸 | 太田西ノ内病院・小児科部長       |
| 古橋 知子  | 福島医科大学看護学部・准教授      |
| 斎藤 昭弘  | 保健福祉部障がい福祉課・専門員     |
| 佐藤 大介  | 子ども未来局児童家庭課・主任主査    |
| 杉山 裕恵  | 県特別支援教育センター・所長      |
| 鈴木 仁   | 白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー |
| 今泉 佳子  | 郡山支援学校・保護者          |
| 大竹奈保子  | 聴覚支援学校福島校・教頭        |
| 佐々木孝幸  | 聴覚支援学校会津校・教頭        |
| 菅野かおり  | 大笹生支援学校・教頭          |
| 小林 直輝  | 郡山支援学校・教頭           |
| 喜多見久美  | あぶくま支援学校・教頭         |
| 鈴木 貴之  | 須賀川支援学校・教頭          |
| 小野 美花  | 西郷支援学校・教頭           |
| 小川 令子  | 石川支援学校・教頭           |
| 田中久美子  | 会津支援学校・教頭           |
| 大和田 浩  | 会津支援学校竹田校・分校長       |
| 千葉 秀樹  | 平支援学校・教頭            |
| 瀧本 実加  | いわき支援学校・教頭          |
| 持舘 康成  | 相馬支援学校・教頭           |
| 井手しのぶ  | 平支援学校・看護師           |
| 遠藤しのぶ  | 郡山支援学校・看護師          |

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和2年6月29日
- 第2回 令和2年11月18日

【会議における検討事項】

- 特定行為以外の医療的ケアについて
- 医療的ケアマニュアル（暫定版）について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校において実施した。

イ 「切れ目のない支援体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用等の促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を發揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は2,799件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和2年度は県立高等学校18校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、書面開催による「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

| 名称               | 期日          | 期間 | 会場          | 人数 | 対象         |
|------------------|-------------|----|-------------|----|------------|
| 特別支援学校教育課程運営改善講座 | 8月19日       | 1日 | 県特別支援教育センター | 25 | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学級等新任担当教員研修会 | 10～11月各地区   | 1日 | 環境創造センター    | 80 | 特別支援学級担当教員 |
| 通級指導教室担当教員研修会    | 7月15日       | 1日 | 環境創造センター    | 59 | 通級指導教室担当教員 |
| 特別支援学校経験者研修Ⅰ     | 6月16日～6月19日 | 3日 | 県特別支援教育センター | 42 | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ     | 6月23日～6月26日 | 4日 | 県特別支援教育センター | 36 | 特別支援学校教員   |

※経験者研修Ⅱは、4日間のうち2日間ずつに分かれて実施

特別支援学校初任者研修

| 名 称       | 期 日             | 期間      | 会 場              |                |
|-----------|-----------------|---------|------------------|----------------|
| 宿泊研修      | 一次研修            | 8月6日～8日 | 3日               | 磐梯青少年交流の家      |
|           | 二次研修            | 2月5日～7日 | 3日               | いわき海浜自然の家      |
| 一般研修      | 4月16日           | 1日      | 各所属校             |                |
| カウンセリング研修 | 6月10日～11日       | 2日      | 環境創造センター<br>各所属校 |                |
| 地区別研修     | 講習会研修会<br>等参加研修 | 各校で実施   | 1日               | 各地区内の該当<br>学校等 |
|           | 他校参観研修          | 各校で実施   | 5日               | 各地区内の該当<br>学校等 |
|           | 企業等体験<br>研修     | 各校で実施   | 4日               | 各地区内の該当<br>学校等 |
| 教育課程別研修   | 9月9日            | 1日      | 初任者配置校           |                |
| 学部別研修     | 11月11日          | 1日      | 初任者配置校           |                |
|           | 年間150時間以上       |         | 各所属校             |                |

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

| 地区 | 期 日   | 会 場             | 人数 | 参加対象             |
|----|-------|-----------------|----|------------------|
| 県内 | 8月19日 | 県特別支援教育<br>センター | 25 | 特別支援学校の<br>教務主任等 |

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、短期研修は中止になった。代替措置として、非集合型オンライン研修が実施され、受講予定者は視聴等を行い、教員としての資質向上を図った。

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や児童生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、開催中止となった。

## 4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校、郡山支援学校、石川支援学校、会津支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

| 校名         | 学級数<br>児童生徒数 |     | 学級数 |     |     |     |     |     | 児童生徒数 |     |     |     |     |     | スクーリング児童生徒数 |     |     |     |     |    |
|------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
|            | 小学部          | 病院訪 | 中学部 | 病院訪 | 高等部 | 病院訪 | 学部計 | 病院訪 | 小学部   | 病院訪 | 中学部 | 病院訪 | 高等部 | 病院訪 | 学部計         | 病院訪 | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 計  |
| 大笹生支援学校    | 2            |     | 1   |     | 1   |     | 4   |     | 4     |     | 1   |     | 3   |     | 8           |     | 4   | 1   | 3   | 8  |
| 郡山支援学校     | 1            |     | 1   |     | 1   |     | 3   |     | 2     |     | 1   |     | 3   |     | 6           |     | 2   | 1   | 3   | 6  |
| 須賀川支援学校郡山校 |              | 1   |     | 1   |     |     |     | 2   |       | 2   |     |     |     |     |             | 2   |     |     |     | 0  |
| 須賀川支援学校医大校 |              |     |     | 1   |     |     |     | 1   |       |     |     | 1   |     |     |             | 1   |     |     |     | 0  |
| 石川支援学校     |              |     |     |     | 1   |     | 1   |     |       |     |     |     | 1   |     | 1           |     |     |     | 1   | 1  |
| 会津支援学校     | 1            |     |     |     | 1   |     | 2   |     | 1     |     |     |     | 1   |     | 2           |     | 1   |     | 1   | 2  |
| 平支援学校      | 2            | 1   | 1   |     |     |     | 3   | 1   | 4     | 2   | 2   |     |     |     | 6           | 2   | 3   |     |     | 3  |
| 相馬支援学校     | 1            |     |     |     |     |     | 1   |     | 1     |     |     |     |     |     | 1           |     | 1   |     |     | 1  |
| 合計         | 7            | 2   | 3   | 2   | 4   | 0   | 14  | 4   | 12    | 4   | 4   | 1   | 8   | 0   | 24          | 5   | 11  | 2   | 8   | 21 |

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

### (2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

#### (ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
 福島大学附属特別支援学校  
 福島市立福島養護学校 計 18校

#### (ウ) 実施状況

##### a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・期日 8月5日(水)
- ・場所 ビッグパレットふくしま

##### b 実施部門

- ・作業技能検定部門  
 ビルクリーニング、喫茶接客サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し)

#### ・デモンストレーション部門

視覚支援学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、中止となった。

#### c 外部評価の活用

- ・各作業技能検定部門に関する助言
- ・作業技能検定部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業(特別支援学校における就労推進事業)

#### (ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
 福島大学附属特別支援学校  
 福島市立福島養護学校 計 18校

#### (ウ) 実施状況

##### a 進路支援チーム会議の実施

- ・特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

##### b 移行支援機能の充実

- ・関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の

実施

- ・在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
  - ・作業学習の内容や手法の見直し
  - ・ジョブコーチや企業等からの指導助言
  - ・「障がい者就職面接会」への参加
  - ・「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
  - ・「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
  - ・「障がい者技能競技大会」への参加

## 6 特別活動

### (1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

| 学部<br>障がい | 学部  |     |     |     |     | 合計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
|           | 幼稚部 | 小学部 | 中学部 | 高等部 |     |    |
| 視覚障がい     |     |     | 3   | 5   | 8   |    |
| 聴覚障がい     | 6   | 6   | 8   | 10  | 30  |    |
| 知的障がい     |     | 87  | 107 | 246 | 440 |    |
| 肢体不自由     |     | 23  | 21  | 21  | 65  |    |
| 病弱        |     | 2   | 12  | 25  | 39  |    |
| 計         | 6   | 118 | 151 | 307 | 582 |    |

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

| 学部  | 開催日  |      |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
|-----|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|     | 3月1日 | 3月2日 | 3月5日 | 3月9日 | 3月10日 | 3月11日 | 3月12日 | 3月16日 | 3月17日 | 3月18日 | 3月19日 |
| 幼稚部 |      |      |      |      |       |       |       | 1     | 1     | 1     | 1     |
| 小学部 |      |      |      | 1    | 2     | 1     | 4     | 4     | 5     | 2     |       |
| 中学部 |      |      |      | 1    | 2     | 2     | 3     | 4     | 5     | 1     |       |
| 高等部 | 4    | 1    | 1    | 1    | 1     | 1     | 1     |       | 3     | 3     | 1     |

### (2) 修学旅行

| 学部  | 行き先<br>日数 | 行き先 |    |    |    |     | 日数  |      |      |      | 人数 |
|-----|-----------|-----|----|----|----|-----|-----|------|------|------|----|
|     |           | 県内  | 東北 | 関東 | 関西 | 北海道 | 日帰り | 一泊二日 | 二泊三日 | 三泊四日 |    |
| 小学部 | 9         | 1   | 1  |    |    | 11  | 6   |      |      | 91   |    |
| 中学部 | 10        | 1   | 2  |    |    | 2   | 10  | 1    |      | 102  |    |
| 高等部 | 7         | 3   | 1  |    |    |     | 5   | 6    |      | 205  |    |

## 7 学校訪問

### 県立特別支援学校

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

| No. | 訪問日    | 学校名     |
|-----|--------|---------|
| 1   | 11月11日 | 視覚支援学校  |
| 2   | 12月8日  | 猪苗代支援学校 |
| 3   | 12月9日  | 平支援学校   |
| 4   | 12月17日 | 大笹生支援学校 |

## 8 県立学校学校教育指導委員

| 氏名    | 職名 | 所属校        |
|-------|----|------------|
| 高橋 英之 | 教諭 | 視覚支援学校     |
| 武内喜美子 | 教諭 | 聴覚支援学校     |
| 遠藤孝太郎 | 教諭 | 平支援学校      |
| 小山内 愛 | 教諭 | 須賀川支援学校郡山校 |
| 富田 篤  | 教諭 | 大笹生支援学校    |
| 田中真由美 | 教諭 | 石川支援学校     |
| 會田 晃子 | 教諭 | 西郷支援学校     |
| 岡崎あゆみ | 教諭 | いわき支援学校    |

## 9 就学指導

### (1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

| 委員    | 職名                 |
|-------|--------------------|
| 学識見識者 | 大学教授               |
| 関係機関  | 福祉関係代表             |
| 関係機関  | 県総合療育センター所長        |
| 関係機関  | 県保健福祉部障がい福祉課長      |
| 関係機関  | 県保健福祉部こども未来局児童家庭課長 |
| 関係機関  | 県商工労働部雇用労政課長       |
| 教育関係  | 小学校長会代表            |
| 教育関係  | 中学校長会代表            |
| 教育関係  | 高等学校長会代表           |
| 教育関係  | 特別支援学校長会代表         |
| 教育関係  | 県特別支援教育センター所長      |
| 教育関係  | 県教育庁特別支援教育課長       |

## (2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

| 地区  | 期日 | 会場   | 参加者数 |
|-----|----|------|------|
| 県北  | 6月 | 書面開催 | 41   |
| 県中  | 6月 | 書面開催 | 56   |
| 県南  | 6月 | 書面開催 | 18   |
| 会津  | 6月 | 書面開催 | 35   |
| 南会津 | 6月 | 書面開催 | 7    |
| 相双  | 6月 | 書面開催 | 26   |
| いわき | 6月 | 書面開催 | 39   |

イ 参加者

- ・公立中学校管理職

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な生徒への支援のあり方について」

書面開催とし資料を送付

(イ) 説明及び協議

書面開催のため、実施せず

## 10 教科用図書

### (1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

令和2年6月5日・自治会館

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会

特別支援学校教科書担当者

### (2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 6月9日～6月11日  | 大笹生支援学校               |
| 6月15日～6月17日 | 会津支援学校                |
| 6月19日～6月23日 | 南会津町役場                |
| 6月25日～6月29日 | 西郷支援学校                |
| 7月1日～7月3日   | あぶくま支援学校              |
| 7月7日～7月9日   | 相馬支援学校                |
| 7月13日～7月15日 | 平支援学校                 |
| 7月17日～7月21日 | 県特別支援教育センター<br>(一般公開) |

## 11 教育研究団体

### (1) 令和2年度福島県特別支援学校長会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 小檜山宗浩 | 聴覚支援学校     |
| 副会長 | 橋本 淳一 | 視覚支援学校     |
| 副会長 | 佐藤 成紀 | 福島市立福島養護学校 |

### (2) 令和2年度福島県特別支援学校教頭会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 香取 重治 | 須賀川支援学校郡山校 |
| 副会長 | 高木美江子 | 平支援学校      |
| 副会長 | 菅野かおり | 大笹生支援学校    |

### (3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 佐藤 成紀 | 福島市立福島養護学校 |
| 副会長 | 小檜山宗浩 | 聴覚支援学校     |
| 副会長 | 酒井 勝弘 | 郡山市立橋小学校   |

イ 事業の概要

| 事業名 | 期日    | 会場          | 概要                |
|-----|-------|-------------|-------------------|
| 役員会 | 2月12日 | 県特別支援教育センター | R2事業報告、R3事業計画について |

### (4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

| 役職名 | 氏名    | 所属              |
|-----|-------|-----------------|
| 会長  | 鈴木 敏夫 | 仁愛看護福祉専門学校長     |
| 副会長 | 櫻井 和朋 | 元県PTA連合会長       |
| 副会長 | 齊藤 義人 | 元福島商業高等学校長      |
| 理事  | 小野 寛  | 県北支部長           |
| 理事  | 道下 和幸 | 県中支部長           |
| 理事  | 小河原健一 | 県南支部長           |
| 理事  | 木村 秀  | 会津支部長           |
| 理事  | 只野 裕一 | 相双支部長           |
| 理事  | 大谷 明  | いわき支部長          |
| 理事  | 小檜山宗浩 | 本部事務局長(聴覚支援学校長) |
| 監事  | 杉山 裕恵 | 県特別支援教育センター所長   |
| 監事  | 高屋 隆男 | 東北福祉大学准教授 元聾学校長 |
| 顧問  | 柳沼 穹壹 | 元あぶくま養護学校長      |

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

|            |       |
|------------|-------|
| 聴覚支援学校 校長  | 小檜山宗浩 |
| 聴覚支援学校 教頭  | 小山田幸江 |
| 聴覚支援学校 教頭  | 菅野 亨  |
| 聴覚支援学校 事務長 | 田澤 好一 |

(イ) 支部

| 支 部 | 事務局校   | 支 部 | 事務局校   |
|-----|--------|-----|--------|
| 県 北 | 視覚支援学校 | 会 津 | 会津支援学校 |
| 県 中 | 郡山支援学校 | 相 双 | 相馬支援学校 |
| 県 南 | 石川支援学校 | いわき | 平支援学校  |

# 第 8 章 体育・健康

## 第 1 節 概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところであり、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトを策定した。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために、「自分手帳」を活用した生活改善、小学校体育専門アドバイザーの派遣、学校等における個別・集団指導への外部人材・専門家の派遣、ウェブサイトを活用した「ふくしまっ子なわとびコンテスト」の実施と体力向上表彰の実施、関係機関・団体によるチーム会議と外部評価を一体的に展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実を図るため、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト及び小学校体育専門アドバイザー派遣事業により、「運動身体プログラム」の普及・実践、「ふくしまっ子児童期運動指針」の普及・実践に努めた。

さらに、部活動の適正化や教職員の働き方改革につながる取組を進めるため、中学校・高等学校に部活動指導員を配置した。

また、2020 年に向けて、ホストタウンを中心とした教育推進校において、オリンピック・パラリンピック教育推進事業を展開した。

健康教育の充実・普及については、平成 16 年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成 19 年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

### 1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証するとともに、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト支援委員会において作成した「ふくしまっ子児童期運動指針」に基づき、児童の運動習慣づくりに努めた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小・中・高等学校体育担当者連絡協議会、武道等指導者派遣事業に関して

は中止となったが、部活動指導員配置促進事業を通して部活動を通じた運動に親しむ生徒の育成に努めた。

さらに、県内すべての小学校に体育専門アドバイザーを派遣し、体育の授業の更なる充実を図った。

### 2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」においては、多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な課題を含めた児童生徒の健康課題に対する理解と学校における対応の在り方について健康教育推進者研修会を実施した。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症とその対応についてやがん教育等についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

また、県の健康課題の一つである肥満の解消に対しては、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの事業の一つとして、「肥満に関する健康相談・個別の保健指導担当者研修会」を開催し、「学校における肥満対応ガイドライン」の活用促進と指導者である養護教諭、栄養教諭等のスキルアップを目指した。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、福島県学校安全指導者養成研修会を実施した。その中で、同じ種類の災害が考えられる地区内の小・中・高の担当者間で情報交換を行い、各校の危機管理マニュアルの見直しをするなど、安全管理の推進・充実を図った。

### 3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成 26 年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた。その一環で行っている「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、応募総数が、13,818 点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

## 4 学校給食の充実

学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修（県立学校を含む）及び学校栄養職員経験者研修Ⅱを実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、学校給食施設訪問実施状況点検を健康教育課担当者が県立学校26校及び共同調理場4施設、各教育事務所の指導主事が単独校調理場等56校の点検を実施した。

また、令和2年度より、文部科学省支出委任事業「学校給食の衛生管理等に関する調査研究」における訪問指導を市町村立学校給食施設10施設で実施した。

## 第2節 表彰

### 1 体育関係

#### (1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア 最優秀校 該当なし

イ 優良校 福島県立南会津高等学校

ウ 功労者

| 職名  | 氏名    | 学校・所属名     |
|-----|-------|------------|
| 校長  | 荒井 孝祐 | 矢吹町立矢吹中学校  |
| 前校長 | 福士 久子 | 前福島市立笹谷小学校 |

#### (2) 福島県学校体育研究連合会表彰

ア 優秀校

| 学校名             | 校長名   |
|-----------------|-------|
| 福島県立ふたば未来学園高等学校 | 柳沼 英樹 |

イ 功労者

| 職名  | 氏名    | 学校名          |
|-----|-------|--------------|
| 校長  | 大知里重政 | 郡山市立芳山小学校    |
| 校長  | 舘 初浩  | 古殿町立古殿小学校    |
| 校長  | 佐藤 新治 | 会津若松市立城西小学校  |
| 前校長 | 小野木 章 | 前会津若松市立城南小学校 |
| 校長  | 小林 一彦 | 須賀川市立第三中学校   |
| 校長  | 仁平 光俊 | 郡山市立郡山第四中学校  |
| 教諭  | 鈴木加奈子 | 福島県立福島北高等学校  |

## 2 学校保健・学校安全関係

### (1) 福島県教育委員会表彰

ア 学校保健功労者

| 氏名    | 役職名               |
|-------|-------------------|
| 児山 孝  | いわき市立平第三小学校 元学校医  |
| 三瓶 几典 | いわき市立植田小学校 学校薬剤師  |
| 石井 恵子 | 福島県立福島北高等学校 学校薬剤師 |

イ 特別功績者(児童・生徒・団体)の部

| 学校名               | 校長名   |
|-------------------|-------|
| 伊達市立伊達小学校 吹奏楽部    | 三村 隆二 |
| 西郷村立小田倉小学校 吹奏楽部   | 原 豊子  |
| 郡山市立郡山第二中学校 管弦楽部  | 原 真児  |
| 只見町立只見中学校         | 横山 泰久 |
| 福島県立郡山商業高等学校 管弦楽部 | 馬場 裕史 |
| 福島県立湯本高等学校 吹奏楽部   | 吉田 浩美 |

### (2) 文部科学大臣表彰

ア 学校保健・学校安全表彰

| 区分    | 氏名    | 勤務校           |
|-------|-------|---------------|
| 学校医   | 須田 滉  | いわき市立平第二中学校   |
| 学校歯科医 | 山崎 隆博 | いわき市立草野中学校    |
| 学校歯科医 | 安田 明弘 | 元二本松市立二本松南小学校 |
| 学校薬剤師 | 清水 淳子 | 喜多方市立第二中学校    |

イ 学校保健・学校安全表彰(学校・団体)

該当なし

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

該当なし

### (3) 令和2年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

<最優秀入賞者>

ア 図画の部

| 学年     | 学校名            | 氏名    |
|--------|----------------|-------|
| 幼稚園    | 北塩原村立裏磐梯幼稚園    | 遠藤 証  |
| 小学校1年  | 会津若松市立城南小学校    | 君 光平  |
| 小学校2年  | 只見町立朝日小学校      | 梁取 昊  |
| 小学校3年  | 郡山市立緑ヶ丘第一小学校   | 安達 美織 |
| 特別支援学校 | 福島県立須賀川支援学校郡山校 | 渋谷 麻渚 |



イ ポスターの部

◎小学校

| 学 年   | 学 校 名      | 氏 名    |
|-------|------------|--------|
| 小学校4年 | 白河市立みさか小学校 | 佐々木ひなた |
| 小学校5年 | 須賀川市立稲田小学校 | 添田 波音  |
| 小学校6年 | 矢吹町立善郷小学校  | 二瓶 果歩  |

◎中学校

| 学 年   | 学 校 名       | 氏 名   |
|-------|-------------|-------|
| 中学校1年 | 白河市立白河中央中学校 | 星 心美  |
| 中学校2年 | 須賀川市立西袋中学校  | 半澤 咲弥 |
| 中学校3年 | 会津若松市立第一中学校 | 室井 優那 |

◎特別支援学校

| 学 年   | 学 校 名      | 氏 名   |
|-------|------------|-------|
| 高等部1年 | 福島県立石川支援学校 | 村上 実怜 |

ウ 書写の部

| 学 年    | 学 校 名        | 氏 名   |
|--------|--------------|-------|
| 小学校1年  | 郡山市立橋小学校     | 松本 璃乃 |
| 小学校2年  | いわき市立渡辺小学校   | 木村 弥太 |
| 小学校3年  | いわき市立郷ヶ丘小学校  | 熊倉 彩  |
| 小学校4年  | いわき市立中央台南小学校 | 若松千花子 |
| 小学校5年  | 白河市立白河第二小学校  | 室井 悠伍 |
| 小学校6年  | 川俣町立富田小学校    | 齋藤ゆうあ |
| 中学校全学年 | いわき市立中央台南中学校 | 渡部 愛加 |
| 特別支援学校 | 福島県立会津支援学校   | 平田 愛美 |

エ 標語の部

| 学 年    | 学 校 名       | 氏 名   |
|--------|-------------|-------|
| 小・中学校  | 南会津町立南会津中学校 | 大竹 礼奈 |
| 特別支援学校 | 福島県立視覚支援学校  | 小野寺陽大 |

(4) 令和2年度福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰 1校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 1   | 会 津 | 喜多方市立第一小学校 |

イ 荣誉賞 該当なし

ウ 最優秀賞 1校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 1   | 会 津 | 喜多方市立第一小学校 |

エ 優秀賞 20校

◎小学校（11学級以下） 13校

| No. | 域 内 | 学 校 名           |
|-----|-----|-----------------|
| 1   | 県 北 | 福島市立水保小学校       |
| 2   | 県 中 | 須賀川市立白方小学校      |
| 3   | 県 中 | 三春町立中妻小学校       |
| 4   | 県 南 | 西郷村立米小学校        |
| 5   | 県 南 | 西郷村立羽太小学校       |
| 6   | 会 津 | 喜多方市立松山小学校      |
| 7   | 会 津 | 喜多方市立高郷小学校      |
| 8   | 会 津 | 湯川村立笈川小学校       |
| 9   | 会 津 | 湯川村立勝常小学校       |
| 10  | 南会津 | 下郷町立旭田小学校       |
| 11  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐小学校     |
| 12  | 南会津 | 只見町立只見小学校       |
| 13  | 相 双 | 大熊町立熊町小学校・大野小学校 |

◎小学校（12学級以上） 3校

| No. | 域 内 | 学 校 名         |
|-----|-----|---------------|
| 14  | 県 中 | 須賀川市立阿武隈小学校   |
| 15  | 県 南 | 西郷村立小田倉小学校    |
| 16  | 会 津 | 会津若松市立河東学園小学校 |

◎中学校（11学級以下） 3校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 17  | 県 中 | 須賀川市立長沼中学校 |
| 18  | 県 中 | 田村市立常葉中学校  |
| 19  | 県 南 | 中島村立中島中学校  |

◎特別支援学校 1校

| No. | 域 内 | 学 校 名             |
|-----|-----|-------------------|
| 20  | 特 支 | 福島県立あぶくま支援学校（小学部） |

オ 努力賞 28校

◎小学校（11学級以下） 14校

| No. | 域内  | 学校名          |
|-----|-----|--------------|
| 1   | 県北  | 川俣町立福田小学校    |
| 2   | 県中  | 郡山市立白岩小学校    |
| 3   | 県中  | 田村市立滝根小学校    |
| 4   | 県中  | 田村市立大越小学校    |
| 5   | 県中  | 三春町立中郷小学校    |
| 6   | 県南  | 白河市立釜子小学校    |
| 7   | 県南  | 白河市立信夫第二小学校  |
| 8   | 県南  | 鮫川村立鮫川小学校    |
| 9   | 会津  | 会津若松市立大戸小学校  |
| 10  | 会津  | 磐梯町立磐梯第二小学校  |
| 11  | 会津  | 喜多方市立上三宮小学校  |
| 12  | 南会津 | 下郷町立江川小学校    |
| 13  | いわき | いわき市立好間第四小学校 |
| 14  | いわき | いわき市立渡辺小学校   |

◎小学校（12学級以上） 5校

| No. | 域内  | 学校名          |
|-----|-----|--------------|
| 15  | 県中  | 須賀川市立柏城小学校   |
| 16  | 県南  | 白河市立白河第一小学校  |
| 17  | 県南  | 白河市立みさか小学校   |
| 18  | 県南  | 西郷村立熊倉小学校    |
| 19  | いわき | いわき市立好間第一小学校 |

◎中学校（11学級以下） 7校

| No. | 域内  | 学校名          |
|-----|-----|--------------|
| 20  | 県中  | 平田村立ひらた清風中学校 |
| 21  | 県南  | 白河市立五箇中学校    |
| 22  | 県南  | 白河市立東中学校     |
| 23  | 県南  | 白河市立大信中学校    |
| 24  | 県南  | 西郷村立西郷第二中学校  |
| 25  | 会津  | 磐梯町立磐梯中学校    |
| 26  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐中学校  |

◎中学校（12学級以上） 1校なし

| No. | 域内 | 学校名        |
|-----|----|------------|
| 27  | 県中 | 郡山市立緑ヶ丘中学校 |

◎特別支援学校 1校

| No. | 域内 | 学校名                  |
|-----|----|----------------------|
| 28  | 特支 | 福島県立いわき支援学校くぼた校(高等部) |

カ 優秀活動奨励賞 1校

| No. | 域内 | 学校名       |
|-----|----|-----------|
| 1   | 県北 | 福島市立清明小学校 |

(5) 福島県学校保健会表彰

ア健康づくり推進学校（1校）

| No. | 学校名        | 校長名  |
|-----|------------|------|
| 1   | 喜多方市立第一小学校 | 杉原 智 |

イ 学校保健功労者（58名）

| No. | 職名    | 氏名    | 勤務校           |
|-----|-------|-------|---------------|
| 1   | 学校医   | 会田 征彦 | 福島県立光南高等学校    |
| 2   | 学校医   | 穴澤 卯恭 | 会津若松市立城南小学校   |
| 3   | 学校医   | 大原 信春 | いわき市立錦東小学校    |
| 4   | 学校医   | 尾股 丈夫 | 白河市立信夫第一小学校   |
| 5   | 学校医   | 神林 裕行 | 福島県立安積黎明高等学校  |
| 6   | 学校医   | 北田 俊雄 | 会津若松市立第五中学校   |
| 7   | 学校医   | 清原 尚  | 会津若松市立一箕中学校   |
| 8   | 学校医   | 小針 啓生 | 会津若松市立湊小学校    |
| 9   | 学校医   | 相楽 正夫 | 郡山市立芳山小学校     |
| 10  | 学校医   | 佐藤 博紀 | いわき市立平第三中学校   |
| 11  | 学校医   | 佐藤 実則 | 郡山市立郡山第六中学校   |
| 12  | 学校医   | 佐藤 睦子 | 福島市立清明小学校     |
| 13  | 学校医   | 末永 雅之 | 福島市立瀬上小学校     |
| 14  | 学校医   | 鈴木 直文 | 矢祭町立矢祭中学校     |
| 15  | 学校医   | 竹内 真弓 | 福島市立庭塚小学校     |
| 16  | 学校医   | 竹沢 将俊 | いわき市立久之浜第一小学校 |
| 17  | 学校医   | 谷 良久  | 本宮市立白沢中学校     |
| 18  | 学校医   | 東原 康文 | 福島県立白河旭高等学校   |
| 19  | 学校医   | 土川 研也 | 二本松市立二本松第三中学校 |
| 20  | 学校医   | 中谷 武  | 福島県立南会津高等学校   |
| 21  | 学校医   | 羽根田 隆 | 相馬市立向陽中学校     |
| 22  | 学校医   | 北條 徹  | 福島市立渡利中学校     |
| 23  | 学校医   | 星野 修三 | 福島県立猪苗代支援学校   |
| 24  | 学校医   | 根本 久高 | 郡山市立谷田川小学校    |
| 25  | 学校医   | 前田 修司 | 会津若松市立大戸小学校   |
| 26  | 学校医   | 丸子 順子 | 福島市立清明小学校     |
| 27  | 学校医   | 三宅 弘章 | 福島市立吾妻中学校     |
| 28  | 学校医   | 森山 厚  | 伊達市立松陽中学校     |
| 29  | 学校医   | 米山 高仁 | 会津若松市立城南小学校   |
| 30  | 学校歯科医 | 赤沼 龍一 | 泉崎村立泉崎第一小学校   |
| 31  | 学校歯科医 | 安部 直人 | 西郷村立西郷第一中学校   |
| 32  | 学校歯科医 | 石田 高俊 | 会津若松市立湊小学校    |

| No. | 職名           | 氏名    | 勤務校           |
|-----|--------------|-------|---------------|
| 33  | 学校歯科医        | 伊藤 彰  | 田村市立常葉小学校     |
| 34  | 学校歯科医        | 金子 郁哉 | 二本松市立二本松北小学校  |
| 35  | 学校歯科医        | 栗城 宏昌 | 会津若松市立第四中学校   |
| 36  | 学校歯科医        | 佐藤 克也 | 会津若松市立松長小学校   |
| 37  | 学校歯科医        | 佐藤 克彦 | 会津若松市立第六中学校   |
| 38  | 学校歯科医        | 佐藤喜久雄 | 福島市立西根中学校     |
| 39  | 学校歯科医        | 鈴木 伸和 | 郡山市立郡山第六中学校   |
| 40  | 学校歯科医        | 高橋 洋一 | 会津若松市立第二中学校   |
| 41  | 学校歯科医        | 田中 順  | 福島市立杉妻小学校     |
| 42  | 学校歯科医        | 筒井 章  | 会津若松市立城南小学校   |
| 43  | 学校歯科医        | 原 英一  | 福島県立磐城高等学校    |
| 44  | 学校歯科医        | 深澤 正俊 | 福島県立平工業高等学校   |
| 45  | 学校歯科医        | 三浦 弘明 | 二本松市立小浜小学校    |
| 46  | 学校薬剤師        | 菅家 哲  | 昭和村立昭和小学校     |
| 47  | 学校薬剤師        | 佐久間美典 | いわき市立桶売小学校    |
| 48  | 学校薬剤師        | 新井田直子 | 会津若松市立第二中学校   |
| 49  | 学校薬剤師        | 西浦 裕夫 | 福島県立安積高等学校    |
| 50  | 学校薬剤師        | 馬場 洋典 | 会津若松市立松長小学校   |
| 51  | 学校薬剤師        | 堀田 信一 | 白河市立白河第四小学校   |
| 52  | 学校薬剤師        | 町野美奈子 | 会津若松市立河東学園小学校 |
| 53  | 学校薬剤師        | 山川 育子 | 会津若松市立東山小学校   |
| 54  | 校長           | 阿部 裕美 | 大熊町立熊町小学校     |
| 55  | 養護教諭         | 石川友貴恵 | 猪苗代町立吾妻小学校    |
| 56  | 養護教諭         | 栗田 浩美 | 三島町立三島小学校     |
| 57  | 養護教諭         | 渡邊江理子 | 三春町立中郷小学校     |
| 58  | 教諭<br>(保健主事) | 岩田 徹  | 福島県立あさか開成高等学校 |

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞（2団体）

| No. | 団体名          | 代表者名  |
|-----|--------------|-------|
| 1   | 関辺地区見守り隊     | 根本 喜春 |
| 2   | 飯豊地区安全ボランティア | 高橋 義徳 |

エ 学校保健会感謝状（7名）

| No. | 職名       | 氏名    | 勤務校        |
|-----|----------|-------|------------|
| 1   | (前)学校医   | 太田 宏  | 福島県立郡山支援学校 |
| 2   | (前)学校医   | 石龍 良江 | 郡山市立高瀬小学校  |
| 3   | (前)学校医   | 東梅誠太郎 | 福島市立杉妻小学校  |
| 4   | (前)学校歯科医 | 佐藤 健一 | いわき市立小玉小学校 |
| 5   | (前)学校歯科医 | 山添 光子 | 猪苗代町立千里小学校 |
| 6   | (前)学校歯科医 | 小笠原良子 | 福島市立立子山小学校 |
| 7   | (前)学校薬剤師 | 西川 哲郎 | 郡山市立富田西小学校 |

### 3 学校給食関係

#### (1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食功労者

| 職名   | 氏名     | 所名            |
|------|--------|---------------|
| 栄養教諭 | 赤津 由紀子 | いわき市立小名浜第一小学校 |

#### (2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食功労者

| 職名     | 氏名     | 所名             |
|--------|--------|----------------|
| 主任栄養技師 | 金森 由紀子 | 郡山市立朝日が丘小学校    |
| 主任栄養技師 | 菊地 美恵子 | 会津若松市立謹教小学校    |
| 主任栄養技師 | 馬場 浩子  | 会津若松市立門田小学校    |
| 栄養教諭   | 飯塚 康子  | 南会津町立田島小学校     |
| 栄養教諭   | 志賀 保子  | いわき市立湯本第一中学校   |
| 前常務理事  | 古市 正二  | 公益財団法人福島県学校給食会 |

イ 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門）

| 団体名         | 校長・施設長 |
|-------------|--------|
| 会津若松市立城西小学校 | 佐藤 新治  |

## 第3節 学校体育

### 1 学校体育関係各種研修

#### (1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

※ 下記の予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

県 北：令和2年4月30日（木）

とうほう・みんなの文化センター

県 中：令和2年5月19日（火）

郡山労働福祉会館

県 南：令和2年5月26日（火）

中島村生涯学習センター

会津・南会津

：令和2年4月24日（金）

下郷ふれあいセンター

相 双：令和2年4月27日（月）

万葉ふれあいセンター

いわき：令和2年5月25日（月）

いわき合同庁舎南分庁舎

#### (2) 体育・保健体育指導力向上研修

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

## 2 福島県高等学校体育連盟

### (1) 令和2年度福島県高等学校体育連盟役員

|               |                                             |
|---------------|---------------------------------------------|
| 顧問<br>(歴代会長)  | 折笠 常弘(15代) 早川 俊一(16代) 齋藤 久(18代) 砂子田 敦博(19代) |
|               | 杉原 陸夫(20代) 高城 俊春(21代) 齋藤 和也(22代) 古市 孝雄(23代) |
|               | 富田 孝志(24代) 星 本文(25代) 新井田 大(26代) 富田 昭夫(27代)  |
|               | 本間 稔(28代) 長岐 博(29代)                         |
|               | 佐藤 文男(県教育庁健康教育課長) 尾形 幸男(県体育協会専務理事)          |
| 参与(歴代理事長)     | 高橋 充雄(9代) 浅尾 晃左(11代) 菅野 一治(12代) 渡辺 正昭(13代)  |
|               | 赤沼 健一(14代) 穂本 哲哉(16代) 滝田 勝彦(17代)            |
| 会 長           | 遠藤 均(田村高校長)                                 |
| 副会長<br>(地区会長) | 鈴木 義祐(福島北高校長) 小針 幸雄(小野高校長) 廣瀬 敬彦(会津高校長)     |
|               | 佐竹 正徳(磐城桜が丘高校長) 渡邊 正仁(相馬東高校長)               |
| 理 事 長         | 飯塚 悟(田村高教頭)                                 |
| 事 務 局 長       | 花田 巖(田 村)                                   |
| 常 任 理 事       | 田中 巨人(健康教育課) 渡部 信人(県体育協会) 小林 幸大(安 積)        |
|               | 工藤 三喜夫(あさか開成) 木村 あさ子(郡山萌世(通信制))             |
| 常任理事・理事       | ☆◎渡辺 知幸(福島明成) ○渡部 浩一(福島工業) 三浦 武彦(安 達)       |
|               | 齊藤 英司(桜の聖母学院) △土屋 幸之介(福島商業)                 |
|               | ☆◎安藤 英貴(あさか開成) ☆○鈴木 慎也(安 積) ☆坂内 仁(須賀川)      |
|               | ☆小針 竜之(学法石川) ☆柳沼 誠(船 引) △小池 廉大(修 明)         |
|               | ☆◎室井 真仁(会 津) ○阿部 哲也(会津工業) 古川 幸正(川 口)        |
|               | △桑田 真帆(南会津)                                 |
|               | ☆◎阿部 秀幸(磐城桜が丘) ○永山 真(平工業) 小川 尚之(いわき総合)      |
|               | △山形 祐香(磐城桜が丘)                               |
|               | ☆◎佐原 明良(ふたば未来学園) ○宮田 貴志(相馬東) 白浜 唯秋(相馬東)     |
|               | △大和田 美月(ふたば未来学園)                            |
| 監 事           | 中村 慎(ふたば未来学園) 岩倉 徹(福島商業)                    |
| 会長指名理事        | 田中 巨人(健康教育課) 渡部 信人(県体育協会)                   |
| 幹 事           | 鈴木 崇裕(郡山東) 渡邊 哲也(郡 山) 大堀 直也(田 村)            |
| (公財)福体協理事     | 遠藤 均(田村高校長)                                 |
| 同 評 議 員       | 花田 巖(田 村)                                   |
| 東北高体連副会長      | 遠藤 均(田村高校長)                                 |
| 同 常 任 理 事     | 飯塚 悟(田村高教頭)                                 |
| 同 理 事         | 花田 巖(田 村)                                   |

☆常任理事、◎地区理事長、○地区副理事長、△地区生徒理事

(2) 第66回福島県高等学校体育大会日程・会場

| 開催地区 | No. | 種目名        |       | 日程                                 | 会場                                         | 参加人数 |
|------|-----|------------|-------|------------------------------------|--------------------------------------------|------|
| 県南   | 1   | スケート       | スピード  | 12月11日(金)                          | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場                         | 5    |
|      | 2   | スケート       | フィギュア | 未開催                                | 未開催                                        | —    |
| 会津   | 3   | スキー        |       | 3年1月13日(水)～15日(金)                  | アルペン：会津高原だいらスキー場<br>クロカン：檜枝岐村七入クロスカントリーコース | 21   |
|      | 4   | 駅伝競走       |       | 10月22日(木)                          | 猪苗代町駅伝コース 猪苗代町総合体育館<br>猪苗代町体験交流館           | 485  |
| いわき  | 5   | ラグビーフットボール |       | 10月11日(日)・18日(日)・<br>24日(土)・31日(土) | 21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場                 | 248  |

(3) 第66回福島県高等学校体育大会代替大会日程・会場

| 開催地区 | No. | 種目名        |         | 日程                                 | 会場             | 参加人数 |
|------|-----|------------|---------|------------------------------------|----------------|------|
| 県北   | 1   | 陸上競技       |         | 8月17日(月)～18日(火)<br>8月22日(土)～23日(日) | とうほう・みんなのスタジアム | 644  |
|      | 2   | 体操         | 体操      | 7月25日(土)～26日(日)                    | 県営あづま総合体育館     | 66   |
|      |     |            | 新体操     |                                    |                |      |
|      | 3   | ライフル射撃     |         | 7月19日(日)                           | 二本松市総合射撃場      | 16   |
| 4    | カヌー |            | 8月1日(土) | 二本松市阿武隈漕艇場                         | 9              |      |
| 県南   | 5   | ソフトボール     |         | 7月23日(木)～26日(日)                    | ふるさとの森ソフトボール場  | 438  |
|      | 6   | バドミントン     |         | 8月25日(火)～27日(木)                    | 宝来屋郡山総合体育館     | 401  |
|      | 7   | アーチェリー     |         | 7月26日(日)                           | 三春町・貝山多目的運動広場  | 14   |
|      | 8   | 自転車競技      |         | 7月24日(金)                           | 泉崎国際サイクルスタジアム  | 39   |
|      | 9   | 水泳         |         | 9月26日(土)                           | 郡山しんきん開成山プール   | 45   |
|      | 10  | ウエイトリフティング |         | 8月1日(土)                            | 田村高等学校第二体育館    | 46   |
| 会津   | 11  | ソフトテニス     |         | 8月1日(土)～2日(日)                      | 会津総合運動公園テニスコート | 164  |

(4) 第66回福島県高等学校体育大会 中止競技

|    |          |    |        |    |        |
|----|----------|----|--------|----|--------|
| 1  | バスケットボール | 2  | バレーボール | 3  | サッカー   |
| 4  | テニス      | 5  | 卓球     | 6  | ハンドボール |
| 7  | 相撲       | 8  | 剣道     | 9  | 弓道     |
| 10 | 空手道      | 11 | 馬術     | 12 | ボート    |
| 13 | 登山       | 14 | 軟式野球   | 15 | ボクシング  |
| 16 | フェンシング   | 17 | レスリング  | 18 | ホッケー   |
| 19 | ヨット      | 20 | なぎなた   | 21 | 定時制通信制 |

### 3 福島県中学校体育連盟

#### (1) 令和2年度福島県中学校体育連盟役員

| 役職名 | 氏名    | 所属名           | 地区名 |
|-----|-------|---------------|-----|
| 会長  | 斎藤 剛  | 信 夫 中         | 県 北 |
| 副会長 | 佐藤 信行 | 立 子 山 中       | 県 北 |
|     | 長沼 政美 | 安 積 中         | 県 中 |
|     | 荒井 孝祐 | 矢 吹 中         | 県 南 |
|     | 小椋 裕  | 若 松 一 中       | 会 津 |
|     | 吉田 信治 | 内 郷 一 中       | いわき |
|     | 堀川 泰宏 | 小 高 中         | 相 双 |
| 理事長 | 大和田 亮 | 福 島 三 中       | 県 北 |
| 理事  | 武井 慎  | 県教育庁健康教育課指導主事 |     |
|     | 神野 学  | 本 宮 二 中       | 県 北 |

| 役職名  | 氏名    | 所属名     | 地区名 |
|------|-------|---------|-----|
| 理事   | 塚原 雅也 | 富 田 中   | 県 中 |
|      | 吉田 絢也 | 白 河 二 中 | 県 南 |
|      | 宗田 昌史 | 一 箕 中   | 会 津 |
|      | 横須賀 潤 | 玉 川 中   | いわき |
|      | 荒木 拓志 | なみえ創成中  | 相 双 |
| 監事   | 熊谷 幸司 | 川 俣 中   | 県 北 |
|      | 渡邊 泰昌 | 中 島 中   | 県 南 |
|      | 青柳 茂宏 | 磐 梯 中   | 会 津 |
| 顧問   | 菊地 裕二 | 前 会 長   | 会 津 |
| 事務局長 | 田中 信次 | 福 島 三 中 | 県 北 |

#### (2) 第63回福島県中学校体育大会日程・会場

| 競技種目  | 競技会場                         | 期 日                   | 参加人数 |
|-------|------------------------------|-----------------------|------|
| ス キ ー | 尾瀬檜枝岐温泉スキー場<br>伊那クロスカントリーコース | 令和3年1月12日(火)～1月14日(木) | 110  |

#### (3) 第63回福島県中学校体育大会代替大会日程・会場

| 競技種目 | 競技会場         | 期 日               | 参加人数 |
|------|--------------|-------------------|------|
| 駅伝競走 | いわき市21世紀の森公園 | 10月6日(火)～10月7日(水) | 573  |

#### (4) 第63回福島県中学校体育大会 中止競技

|        |            |      |        |          |
|--------|------------|------|--------|----------|
| 陸上競技   | 水泳(競泳・飛込み) | 軟式野球 | ソフトボール | バスケットボール |
| バレーボール | ソフトテニス     | 卓 球  | バドミントン | サッカー     |
| ハンドボール | 柔 道        | 剣 道  | 相 撲    | 新体操      |
| 体操競技   | スケート       |      |        |          |

## 第4節 学校保健・学校安全

### 1 学校保健・学校安全研修会等

#### (1) 学校保健

| 事業名                     | 期 日                                                     | 会 場                                               | 参加人数                |
|-------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------------|
| 養護教諭<br>経 験 者<br>研 修 I  | 校内研修 (3日)<br>校外研修 (3日)<br>宿泊研修※日帰り<br>研修に変更<br>9月18日    | 学校の計画による<br>教育センター<br>教育センター                      | 21名                 |
| 養護教諭<br>経 験 者<br>研 修 II | 校内研修 (4日以上)<br>校外研修 (6日以上)<br>宿泊研修※日帰り<br>研修に変更<br>8月4日 | 学校の計画による<br>各教育事務所の<br>計画による<br>教育センター            | 16名                 |
| 養護教諭<br>専 門 研 修<br>講 座  | 中止                                                      | 教育センター<br>(資料代替)                                  | 9名                  |
| 健康教育<br>推 進 者<br>研 修 会  | 9月3日<br>9月28日<br>10月1日                                  | 伊達ふるさと会館<br>いわき市総合教育<br>センター<br>富岡町交流センタ<br>ー学びの森 | 164名<br>119名<br>73名 |

#### (2) 学校安全

##### 学校安全指導者養成研修会

- ア 会津・南会津地区：令和2年10月8日（木）  
会 場：湯川村公民館  
参 加 者：140名
- イ いわき地区：令和2年10月16日（金）  
会 場：いわき合同庁舎  
参 加 者：123名

## 2 児童・生徒の健康管理費補助

### (1) 要保護児童生徒援助費補助金（医療費）

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

#### ア 県立学校

| 対象児童生徒数（人） |        | 設置者が援助<br>した額（円） | 補 助 金<br>確 定 額（円） |
|------------|--------|------------------|-------------------|
| 区 分        | 特別支援学校 |                  |                   |
| 要保護        | 0      | 0                | 0                 |

#### イ 市町村立学校

| 対象児童生徒数（人） |     |     |        | 設置者が援助<br>した額（円） | 補助金<br>確定額（円） |
|------------|-----|-----|--------|------------------|---------------|
| 区 分        | 小学校 | 中学校 | 特別支援学校 |                  |               |
| 要保護        | 40  | 6   | 0      | 962,315          | 353,835       |

## 3 福島県学校保健会

### (1) 会員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒  
イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

### (2) 財政

令和2年度予算額 4,423,440円

### (3) 事業概要

- ア 学校保健講習会の開催（県内20支部単位）  
イ 健康づくり推進学校表彰・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞・感謝状贈呈  
ウ 各種研究大会、講習会等への派遣  
エ 刊行物の発行  
学校保健会報 第51号

## 4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

### (1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の令和2年度の加入幼児児童生徒数は40,266人で、前年比に比べ1,642人減少した。

### (2) 災害共済給付状況

県立学校において、令和2年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では3,657件（令和元年度4,286件）、給付金額では46,913,747円である。

給付件数では629件減少、給付金額で5,117,575円減少した。

(3) 令和2年度県立学校災害共済給付状況

| 区分   | 医療費                     |            | 障害見舞金    |           | 死亡見舞金    |            | 供花料      |        | 合計               |            |
|------|-------------------------|------------|----------|-----------|----------|------------|----------|--------|------------------|------------|
|      | (発生件数)<br>給付件数          | 給付額        | 給付<br>件数 | 給付額       | 給付<br>件数 | 給付額        | 給付<br>件数 | 給付額    | (発生件数)<br>給付件数   | 給付額        |
| 幼稚園  | 件<br>(0)<br>0           | 円<br>0     | 件<br>0   | 円<br>0    | 件<br>0   | 円<br>0     | 件<br>0   | 円<br>0 | 件<br>(0)<br>0    | 円<br>0     |
| 小学校  | (8)<br>10               | 71,584     | 0        | 0         | 0        | 0          | 0        | 0      | (8)<br>16        | 71,584     |
| 中学校  | (26)<br>44              | 186,555    | 0        | 0         | 0        | 0          | 0        | 0      | (26)<br>44       | 186,555    |
| 高等学校 | 全日制<br>(1,133)<br>3,570 | 27,792,892 | 2        | 3,800,000 | 1        | 15,000,000 | 0        | 0      | (1,133)<br>3,573 | 46,592,892 |
|      | 定時制<br>(12)<br>24       | 62,716     | 0        | 0         | 0        | 0          | 0        | 0      | (12)<br>24       | 62,716     |
|      | 通信制<br>(0)<br>0         | 0          | 0        | 0         | 0        | 0          | 0        | 0      | (0)<br>0         | 0          |
| 合計   | (1,179)<br>3,654        | 28,113,747 | 2        | 3,800,000 | 1        | 15,000,000 | 0        | 0      | (1,179)<br>3,657 | 46,913,747 |

(4) 学校安全支援業務

ア 各種研修会等への講師派遣

第5節 学校給食

1 学校給食に関する研修会

| 名称                   | 開催月日                              | 会場                 | 参加人数 |
|----------------------|-----------------------------------|--------------------|------|
| 新規採用<br>学校栄養<br>職員研修 | 校内研修<br>各15日                      | 所属校・<br>勤務共同調理場    | 2名   |
|                      | 校外研修<br>地区別研修A<br>4日              | 教育事務所の計<br>画による    |      |
|                      | 地区別研修B<br>3日                      | 市町村教育委員<br>会の計画による |      |
|                      | 宿泊研修A                             | 中止                 |      |
|                      | 宿泊研修B※日帰り<br>研修に変更<br>1日<br>9月2日  | 教育センター             |      |
| 学校栄養<br>職員経験<br>者研修Ⅱ | 校内研修 2日                           | 所属校・<br>勤務共同調理場    | 1名   |
|                      | 校外研修 ※日帰り<br>研修に変更<br>1日<br>7月30日 | 教育センター             |      |

2 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良好して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

| 教育事務所 | 調査件数 |
|-------|------|
| 県北    | 4件   |
| 県中    | 16件  |
| 県南    | 7件   |
| 会津    | 2件   |
| 南会津   | 1件   |
| 相双    | 2件   |
| いわき   | 5件   |
| 県立学校  | 3件   |
| 合計    | 40件  |

3 食育等に関する研修会等

(1) 食習慣・肥満等の健康課題に対応する食育指導者研修会及び福島県学校給食担当者会議

○日時：令和2年7月14日（火）

○会場：福島県環境創造センター

○参加者：118名



**(2) ふくしまっ子の健康課題に対応する食環境を考える会**

県 中：令和2年8月4日（火）  
 郡山市労働福祉会館 183名参加  
 県 南：令和2年7月9日（木）  
 矢吹町文化センター 80名参加  
 会津・南会津：令和2年8月3日（月）  
 下郷ふれあいセンター 158名参加

**(3) 栄養教諭食育推進研修会**

○日 時：令和2年12月11日（金）  
 ○会 場：福島県環境創造センター  
 ○参加者：66名

**4 学校給食関係の国庫助成実績**

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

| 設置者名      | 交付額<br>(千円) | 学校または共同調理場名               | 事業名         | 児童生徒数<br>(人) | 構造<br>(区分)       | 対象<br>面積<br>(㎡) |
|-----------|-------------|---------------------------|-------------|--------------|------------------|-----------------|
| 福島県       | 20,514      | 伊達支援学校（Ⅰ期工事）              | 単独校調理場（新增築） | 92           | 鉄筋構造（S）          | 89              |
| 福島市       | 672         | 福島市立福島養護学校<br>（小・中）（Ⅰ期工事） | 単独校調理場（新增築） | 119          | 鉄筋コンクリート造<br>（R） | 9               |
|           | 205         |                           | 単独校調理場（改築）  |              |                  | 8               |
|           | 13,589      | 福島市立福島養護学校<br>（小・中）（Ⅱ期工事） | 単独校調理場（新增築） |              |                  | 64              |
|           | 7,944       |                           | 単独校調理場（改築）  |              |                  | 56              |
| 須賀川市      | 30,218      | 阿武隈小学校（Ⅰ期工事）              | 単独校調理場（新增築） | 447          | 鉄筋コンクリート造<br>（R） | 168             |
|           | 12,263      |                           | 単独校調理場（改築）  |              |                  | 102             |
|           | 2,187       | 阿武隈小学校（Ⅱ期工事）              | 単独校調理場（新增築） |              |                  | 0               |
|           | 671         |                           | 単独校調理場（改築）  |              |                  | 0               |
| 中島村       | 23,272      | 中島村学校給食センター               | 共同調理場（新增築）  | 418          | 鉄筋コンクリート造<br>（R） | 135             |
|           | 11,852      |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 141             |
| 玉川村       | 72,661      | 玉川村給食センター                 | 共同調理場（新增築）  | 530          | 鉄筋構造（S）          | 505             |
| 天栄村       | 4,150       | 天栄村学校給食センター<br>（Ⅱ期工事）     | 共同調理場（改築）   | 374          | 鉄筋構造（S）          | 0               |
| 会津<br>美里町 | 1,225       | 会津美里町学校給食センター             | 共同調理場（新增築）  | 1,254        | 鉄筋構造（S）          | 7               |
|           | 61,852      |                           | 共同調理場（改築）   |              |                  | 442             |



## 第9章 社会教育

### 第1節 概要

#### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる協働体制の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育・学校教育の充実を通じて～」をまとめ、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

#### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

#### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業と連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

#### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等

の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「地域学校協働本部事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

#### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

#### 6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

#### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

#### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

##### (1) 事業1「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「『ふくしまの心』を育む自然体験応援事業」を実施し、東日本大震災後の自然体験の不足や体力の低下等を補うため、充実した自然体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

##### (2) 事業2「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「『ふくしまの未来』へつなぐ体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 令和2年4月10日(金)

場所 自治会館

第2回 日時 令和3年2月5日(金)

場所 中町ビル ※一部リモート

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実と同時に、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を23自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、4支援教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

#### (3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された令和元年台風19号、20号及び21号で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、県及び6市町村(計12施設)について災害査定等の

事務を行った。

また、東日本大震災で被災した公立社会教育施設への補助金交付等の事務(1市1施設)及び未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行った。

さらに、令和3年2月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設についても、情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和2年5月18日(月)～29日(金)

※事前課題における自己研修(レポート)

令和2年9月18日(金)

イ 会場 各勤務地

福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 57名

オ 講師

郡山市立中央公民館 主任 稲田 浩充

福島大学地域創造支援センター

副センター長・教授 木暮 照正

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和2年8月27日(木)～28日(金)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 1日目27名、2日目24名

オ 講師

郡山市立日和田公民館 館長 井上まゆみ

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

白石市斎川公民館 館長 畑中多賀男

斎川まちづくり協議会 事務長 佐藤 幸枝

アオウゼ事業統括コーディネーター 馬場 雄基

福島県教育庁社会教育課

主任社会教育主事 関 忠昭

### 4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 主管 南会津地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援 福島県教育委員会、南会津町・下郷町・檜枝岐村、只見町の各教育委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度へ延期

## 5 社会教育指導員の設置

### (1) 設置数 (単位：人)

|          | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|----------|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 社会教育指導員数 | 34 | 16 | 12 | 51 | 8   | 11 | 6   | 138 |

### (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会 (年2回)

#### ア 第1回

(ア) 期日 令和2年5月8日(水)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### イ 第2回

(イ) 期日 令和2年10月2日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

| 域内  | 期日     | 実施市町村等 | 参加者 |
|-----|--------|--------|-----|
| 県北  | 10月1日  | 大玉村    | 32名 |
| 県中  | 10月15日 | 田村市    | 32名 |
|     | 12月4日  | 玉川村    | 17名 |
| 県南  | 9月18日  | 鮫川村    | 12名 |
|     | 10月6日  | 塙町     | 13名 |
|     | 11月25日 | 棚倉町    | 11名 |
| 会津  | 7月9日   | 金山町    | 6名  |
|     | 7月29日  | 猪苗代町   | 10名 |
| 南会津 | 6月29日  | 下郷町    | 11名 |
|     | 11月18日 | 檜枝岐村   | 3名  |
| 相双  | 7月20日  | 広野町    | 6名  |
|     | 9月4日   | 大熊町    | 14名 |
|     | 10月22日 | 新地町    | 14名 |
|     | 11月11日 | 飯舘村    | 8名  |
| いわき | 10月2日  | いわき市   | 45名 |

合計 15か所 参加者 234名

## 8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和2年10月 ※紙面開催

(2) 参加対象 公民館職員等

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和2年7月27日(月)～8月24日(月)

b B講習 令和3年1月21日(木)～2月18日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 0名

イ 専門講座等

| 講座名       | 期間               | 受講者数 |
|-----------|------------------|------|
| 公民館職員専門講座 | 10月20日(火)～23日(金) | 1    |

## 10 出版資料

| 資料名         | 部門   | 規格 | 頁数 | 広報手段  |
|-------------|------|----|----|-------|
| 社会教育 No.341 | 社会教育 | A4 | 12 | Web掲載 |

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働活動事業

#### (1) 目的

地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

#### (2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回

期日：令和2年7月28日(火)

会場：杉妻会館

第2回

期日：令和2年11月26日(木)

会場：三春町中妻公民館

第3回

期日：令和3年2月15日(月)

会場：書面開催

イ 地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

期日：令和2年10月21日(水)

会場9名、WEB 62名参加

講義：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究総括  
研究官 志々田 まなみ

#### ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和3年1月28日(木)

会場 14名、オンライン 193名参加

会場：郡山市立中央公民館・勤労青少年ホーム

実践発表：「～連携協働による地域づくり 東公民館  
の取組～」

会津若松市東公民館長 山内 久良

「～地域学校協働活動とコミュニティ・  
スクールの取組～」

大玉村学校支援コーディネーター

笹山 仁子

大玉村立玉井小学校地域連携担当教職員

尾形 陽介

「～放課後子ども教室の取組を通して～」

石川町教育委員会 角田 学

石川町放課後子ども教室コーディネーター

熊井 トシエ

基調講演：「地域学校協働活動によるコミュニティ  
再生」

檜葉町立檜葉南小学校教諭 猿渡 智衛

### (3) 市町村事業

ア 評価・検証委員会の実施

イ 地域学校協働活動事業の実施 21市町村

## 2 放課後子ども教室事業

### (1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

### (2) 県事業

ア 放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（2教室）

・福島県立聴覚支援学校平校

・福島県立平支援学校

### (3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

35市町村 121教室実施

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため1町で中止

## 3 学校支援活動事業

### (1) 目的

様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの社会性・創造性の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子もたちと大人の積極的な参加と交流による地域コミュニティの活性化と地域社会全体の教育力向上を図る。

### (2) 市町村委託

21の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、白河市、西郷村、棚倉町、会津若松市、柳津町、三島町、西会津町、浪江町、双葉町、富岡町、川内村、檜葉町）に33の地域学校協働本部が設置され実施した。

### (3) 市町村補助

なし

## 4 学校・家庭・地域連携サポート事業

### (1) 目的

地域学校協働本部事業にかかる研修会を実施し、地域連携担当教職員やコーディネーター等の養成と資質向上、それに携わるボランティア等の拡大及び学校の理解促進を図る。

### (2) 県事業

ア 地域学校協働活動研修会 8回

（地区別研修7回 全県研修1回）

#### 【全県研修】

期日 令和2年8月24日(月)

会場 コラッセ福島

参加者 59名（会場22名、WEB37名）

内容

講義

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の  
一体的推進」

福島県教育庁社会教育課 太田 徹  
行政説明

「令和3年度補助事業の構築に向けて」

福島県教育庁社会教育課 戸井田 修

#### 【県北地区】

第1回

期日 令和2年10月14日(水)

会場 松川学習センター

参加者 41名（会場25名、WEB16名）

内容 講話・情報交換

第2回

期日 令和2年10月28日(水)

会場 杉妻会館

参加者 56名（会場51名、WEB5名）

内容 講話・グループ協議

#### 【県中地区】

期日 令和2年8月5日(水)

会場 たまかわ文化体育館

参加者 36名

内容 講義・情報交換・講話・演習

#### 【県南地区】

期日 令和3年1月25日(月)

会場 オンライン研修

参加者 20名

内容 実践発表・協議・講義

**【会津地区】**

期 日 令和2年10月7日(水)  
 会 場 会津若松市東公民館  
 会津若松市立東山小学校  
 参加者 47名  
 内 容 講演・実践発表

**【南会津地区】**

期 日 令和2年8月21日(金)  
 会 場 南会津町御蔵入交流館  
 参加者 63名  
 内 容 実践発表・講話・演習

**【相双地区】**

期 日 令和2年12月2日(水)  
 会 場 南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター  
 参加者 40名  
 内 容 実践発表・情報交換

イ 地域連携担当教職員等研修会 地区別研修会7回

**【県北地区】**

期 日 令和3年2月  
 場 所 書面研修  
 参加者 域内小・中・高校 163校配付  
 内 容 書面配付

**【県中地区】**

期 日 令和2年7月1日(水)  
 場 所 郡山市労働福祉会館  
 参加者 85名  
 内 容 講話・講演・事例紹介

**【県南地区】**

第1回  
 期 日 令和2年8月4日(火)～25日(火)  
 会 場 動画配信による研修  
 参加者 67名  
 内 容 動画配信、アンケート回収  
 第2回  
 期 日 令和2年11月2日(月)  
 会 場 平田村立小平小学校(オンライン研修)  
 参加者 53名  
 内 容 動画視聴・鼎談

**【会津地区】**

期 日 令和2年11月26日(木)  
 場 所 やないづふれあい館  
 参加者 61名  
 内 容 講話・講演・実践発表

**【南会津地区】**

期 日 令和2年7月10日(金)  
 場 所 南会津町御蔵入交流館  
 参加者 34名  
 内 容 講話・講演・実践発表

**【相双地区】**

期 日 令和2年7月29日(水)

場 所 南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター  
 参加者 60名  
 内 容 講話・講演・実践事例発表

**【いわき地区】**

期 日 令和2年10月2日(金)  
 場 所 いわき労働福祉会館  
 参加者 45名  
 内 容 講話1・2

**5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業****(1) 目的**

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館(あづま号)の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

**(2) 内容**

ア 震災及び原発事故関連資料収集  
 資料収集件数 13,672件(累計)  
 イ 避難自治体支援  
 移動図書館(あづま号)による資料貸出  
 稼働12回 貸出2,103冊  
 (開催場所 飯館村、楡葉町ほか 計18か所)

**第4節 家庭教育****1 地域でつながる家庭教育応援事業****(1) 目的**

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

**(2) 家庭教育応援プロジェクト**

ア 福島県地域家庭教育推進協議会  
 第1回 令和2年6月1日(月) 杉妻会館  
 第2回 令和3年2月26日(金) ※書面開催  
 イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議  
 各教育事務所域内(7か所)  
 各地区2回実施(6月～2月)  
 ウ 家庭教育応援企業推進活動  
 連携企業数  
 県北地区 5社(189社)  
 県中地区 5社(246社)  
 県南地区 2社(73社)  
 会津地区 1社(147社)  
 南会津地区 1社(66社)  
 相双地区 0社(10社)

いわき地区 73社 (132社)

計 87社 (863社) ※ ( ) 累計

エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 69名  
令和2年11月9日(月)  
「子どもをのばすコーチング 子どものやる気や意欲を高めるための家庭の関わり方～『自己肯定感を育むために』～」  
スタイルプロデュースコミュニケーションズ 門馬 俊光

【県中地区】

- ・須賀川市立長沼幼稚園PTAほか 70名  
令和2年9月10日(木)  
「おやこでいっしょにリトミック」  
NPO法人福島県音楽療法士協会理事長 齋藤 由香  
国際ビジネス公務員大学校こども保育科 堀越 啓子、國分 千恵

【県南地区】

- ・熊倉小学校PTA・西郷第一中学校区PTA 43名  
令和2年11月19日(木)  
「親業・・・数値化できない力を育む」  
～大切なのは、家庭内でのコミュニケーション～  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

【会津地区】

- ・金山町立金山中学校父母と教師の会ほか 90名  
令和2年7月27日(月)  
「インターネット・スマホと上手につきあうために～ネット依存やSNSトラブルから自分を守ろう～」  
会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

【南会津地区】

- ・荒海小・中学校PTA 34名  
令和2年10月1日(木)  
「家庭教育は、子どもの『自己肯定感』と『生きる力』を育む原点～親も教師も手を携えて、心通わすコミュニケーションを～」  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

- ・明和小学校・只見中学校PTA 53名  
令和2年12月3日(木)  
「AI・IoT時代の望ましい意思決定・行動選択とは」  
福島県生徒指導アドバイザー 目黒 朋子

【いわき地区】

- ・いわき市立錦小学校PTA 68名  
令和2年10月8日(木)  
「コーディネーション運動を楽しもう！」  
いわきFCパークアカデミーISSA担当 阿部 隼人
- ・いわき市立高野小学校PTA 53名  
令和2年11月27日(金)  
「コロナ禍における家庭教育推進のあり方」  
医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 家庭教育支援者全県研修

令和2年7月5日(日)ビッグパレットふくしま ※中止

イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 367名

【県北地区】

令和2年11月19日(水) 県青少年会館 25名  
講演

「face to face 自己肯定感を育む支援の在り方」  
明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明  
演習  
「自己肯定感の形成に向けて家庭や地域でできること」  
明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明

【県中地区】

令和2年11月28日(土) 郡山市労働福祉会館 37名  
活動紹介1

「子どもも大人も安心して暮らせる街づくり」  
特定非営利活動法人ぴいかあぶう理事長 吉田 一也

活動紹介2

「はじめの一步から11年目を迎えて」  
喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表 幸田 久美子

講演

「家族の変化と地域の家庭教育支援」  
郡山女子短期大学部地域創成学科教授 知野 愛

【県南地区】

令和3年1月29日(金) 新白信ビル 28名  
講演

「ゲーム・ネットの心身への影響や依存症、望ましい付き合い方」  
けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉

活動紹介

「特定非営利活動法人 子育て環境を考える虹の会」  
特定非営利活動法人 子育て環境を考える虹の会  
理事長 永野 美代子

【会津地区】

令和2年11月19日(水) 会津若松市北会津公民館 44名  
講義・演習

「子どもが学校に行けなくなった時の支援～家族療法を支援に活かす～」

公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー 佐藤 真奈美

【南会津地区】

令和2年11月21日(土) 下郷ふれあいセンター 110名  
主張発表 「テーマ：家族」南会津域内の小中学生

「兄弟へのおもい」 只見小学校6年 五十嵐 創生  
「会いたいけど コロナで会えない」

旭田小学校6年 伊関 錦  
「あたりまえのこと」 桧枝岐中学校3年 橘 優太

「祖母の枝豆」 田島中学校3年 馬場 日菜香



親子で体験（コース選択制）

コース①

「世界に一つだけのピノキオを作ってみよう」

株式会社マストロ・ジェッペット 渡部 安衣

コース②「スライムとバスボムを作ってみよう」

南会津町社会教育指導員 五十嵐 園美

コース③

「オリジナルの凧を作って大空に飛ばしてみよう」

ムシテックワールド講師 星 周一

講演会

「子育ては日々65点～がんばりすぎなくていいんだよ～」

コミュニケーションクリエイター ちやい文々

【相双地区】

令和2年11月14日（土）南相馬市原町区福祉会館 33名

講義・演習

「子育てに生かすアンガーマネジメント」

日本アンガーマネジメント協会

アンガーマネジメントファシリテーター

特定非営利活動法人きぼう副理事長 新妻 直恵

講義・演習

「コロナ禍の今こそ、読み聞かせの大切さ」

絵本専門士 J P I C 読書アドバイザー

南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀

【いわき地区】

令和2年10月30日（金）いわき市文化センター 90名

講義

「子育てが楽しくなる～子どもの心に届くことば～」

N P O 法人親子コミュニケーションラボ

代表理事 天野 ひかり

講義

「新型コロナウイルス状況下における子どもの心のケアについて」

いわき市子どものこころアドバイザー

医療創生大学特任准教授 久保 尊洋

・事務局長（社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」という。）の登録促進に関する事

・ボランティアの活動を推進する研修に関する事

・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事

・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

・本部長（教育事務所長）

・副本部長（次長兼総務社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

・公民館及び学校の訪問指導に関する事

・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事

・ボランティアの活動を推進する研修に関する事

・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事

・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。

・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事

・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事

・域内各学校との連携に関する事

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。

・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

・学校と地域が連携した取組の調整に関する事

・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事

・学校と地域が連携した取組の充実に関する事

・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

## 第5節 青少年教育

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

#### (2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

・本部長（政策監）

・副本部長（教育総務課長）

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理  
学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、  
児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び  
人材の登録を行う。

## 2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

### (1) 目的

家庭や地域における人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

### (2) 内容

ア 応募期間 令和2年6月15日(月)～8月31日(月)

イ 応募総数 39,104組

ウ 作品集編集委員会 令和2年10月26日(月)

エ 作品集編集委員 退職校長会

オ 表彰式 令和2年12月12日(土)  
ホテル福島グリーンパレス

カ 入賞数 絆部門・復興部門・ふくしま応援部門  
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、  
佳作各10組

キ ワークショップ

福島市開催 令和2年8月1日(土)

講師 福島県企画調整課長  
高橋 洋平

参加者 71名

富岡町開催 令和2年8月12日(水)

講師 福島大学 特任教授  
天野 和彦

参加者 23名

福島市開催 令和2年12月12日(土)

講師 新地町教育委員会教育長  
佐々木 孝司  
県立本宮高等学校教諭・詩人  
和合 亮一

参加者 63名

### (3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、県公式 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、配布により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### 1 ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト

#### (1) 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和2年7月17日(金)

杉妻会館3階「百合A」

【第2回】令和3年1月27日(水)

(書面開催)

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

| 氏名     | 職業等              | 区分                 |
|--------|------------------|--------------------|
| 高野 保夫  | 国立大学法人福島大学名誉教授   | 学識経験者              |
| 加藤 潤一  | 福島県高等学校PTA連合会副会長 | 社会教育関係者            |
| 古川 次男  | 福島県学校図書館協議会会長    | 学校図書館関係者           |
| 籠田 まき子 | 小野町ふるさと文化の館副主幹   | 公立図書館等関係者          |
| 武田 繁子  | 家庭教育インストラクター     | 家庭教育関係者            |
| 藍原 恵美子 | NPO 法人夢ネットワーク理事長 | 読書活動に係るボランティア団体関係者 |
| 桑原 真希  | 平田村立ひらたこども園保育教諭  | 保育所・幼稚園等の関係者       |

#### (2) 読書活動支援者育成事業

|         |                            |         |
|---------|----------------------------|---------|
| 【県北地区】  | 令和2年12月6日(日)<br>自治会館       | 受講者 58名 |
| 【県中地区】  | 令和2年12月8日(火)<br>郡山市立中央公民館  | 受講者 38名 |
| 【県南地区】  | 令和2年11月18日(水)<br>白河合同庁舎    | 受講者 36名 |
| 【会津地区】  | 令和2年11月6日(金)<br>じげんプラザ     | 受講者 63名 |
| 【南会津地区】 | 令和2年8月4日(火)<br>只見町朝日振興センター | 受講者 48名 |
| 【相双地区】  | 令和3年1月20日(水)<br>環境放射線センター  | 受講者 32名 |
| 【いわき地区】 | 令和2年11月6日(金)<br>いわき市文化センター | 受講者 70名 |
| 【中通り地区】 | 令和2年9月5日(土)<br>福島県立図書館     | 受講者 32名 |

【浜通り地区】 令和2年10月3日(土)  
 いわき市文化センター 受講者 76名  
 【会津地区】 令和2年9月26日(土)  
 会津若松市文化センター 受講者 55名

**(3) 発達段階に応じた読書活動推進事業**  
**「読みたい 知りたい 薦めたい**  
**～新しい生活様式と読書～**

期日：令和2年8月6日(木)  
 場所：白河文化交流館コミネス 受講者 130名  
 内容  
 乳幼児期における読書活動推進のために  
 講演：「乳幼児と楽しむ絵本」  
 浦安市教育委員会こども図書館準備室長 島本 まり子  
 小学校期における読書活動推進のために  
 講義・演習：「本との出会いを楽しもうブックトークで」  
 埼玉県三芳町立中央図書館長 代田 知子  
 中高校期における読書活動推進のために  
 講義・演習：「読む楽しみ 話す喜び」  
 活字文化推進会議事務局 和田 浩二  
 早稲田大学大学院 中村 朱里  
 図書館紹介  
 「泉崎図書館の取組」 泉崎図書館司書 野崎 珠美

**(4) 情報発信プロジェクト「ビブリアバトル福島県大会」**

期日：令和2年11月28日(土)

場所：福島県文化センター  
 参加者：発表者 16名 (中学生 11名、高校生 5名)  
 観戦者 145名

**【中学生の部】**

優勝 南会津町立田島中学校 細井 淳一郎  
 「夜市」恒川光太郎  
 準優勝 ふたば未来学園中学校 加藤 明日香  
 「人生はニャンとかなる！」水野敬也・長沼直樹  
 優秀賞 喜多方市立第三中学校 佐藤 帆乃佳  
 「おかえりの神様」鈴森丹子  
 玉川村立玉川中学校 有賀 きらり  
 「きらきら眼鏡」森沢明夫

**【高校生の部】**

優勝 福島県立磐城高等学校 関根 海人  
 「余命10年」小坂流加  
 準優勝 福島県立白河旭高等学校 東風谷 朋美  
 「アリエナクナイ科学ノ教科書」くられ  
 優秀賞 福島県立須賀川桐陽高等学校 七海 千夏  
 「ショコラ」ジョアン・ハリス  
 福島県立喜多方高等学校 原 愛美  
 「119」長岡弘樹  
 福島県立会津農林高等学校 栗城 題  
 「ボブという名のストリート・キャット」  
 ジェームズ・ボーエン

**第8節 ユネスコ活動**

**1 ユネスコ協会事務局一覧**

| 協会名          | 会長名     | 事務局                             | 事務局長  | 設立年月日       |
|--------------|---------|---------------------------------|-------|-------------|
| 須賀川地方ユネスコ協会  | 八木沼 智恵子 | 須賀川市教委生涯学習スポーツ課内<br>須賀川市八幡町135  | 河村 朝子 | S46. 9. 13  |
| いわきユネスコ協会    | 西山 允雄   | いわき市教委生涯学習課内<br>いわき市堂根町4-8      | 佐久間静子 | S51. 10. 23 |
| 郡山ユネスコ協会     | 倉又 晴男   | 学校法人尚志学園高等学校内<br>郡山市大槻町字坦ノ腰2    | 宗像 金三 | S53. 1. 24  |
| 白河ユネスコ協会     | 小野 利廣   | 白河市教委生涯学習スポーツ課内<br>白河市八幡小路7-1   | 小松 寛  | S53. 11. 19 |
| 福島ユネスコ協会     | 黒澤 宜昭   | 福島市中央学習センター内<br>福島市松木町1-7       | 宗川 孝  | S55. 7. 19  |
| 会津ユネスコ協会     | 吉田 幸代   | 会津若松市教委生涯学習センター内<br>会津若松市栄町3-50 | 石田 明夫 | S55. 11. 16 |
| 郡山次世代ユネスコ協会  | 大本 研二   | 学校法人こおりやま東都学園本部気付<br>郡山市図景2-9-3 | 鈴木秀太郎 | H28. 1. 16  |
| 福島県ユネスコ連絡協議会 | 吉田 幸代   | 福島市笹木野字中西表60-6<br>近野元洋宅         | 近野 元洋 | S56. 12. 5  |

**2 福島県ユネスコ活動研修会**

令和2年11月18日(水) 須賀川市・テッテ (須賀川市市民交流センター)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

#### (1) 内容

対象者：福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の幼稚園、保育所（認可外保育施設を含む。）、特別支援学校幼稚部及び認定こども園、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間：令和2年4月10日(金)～令和3年2月28日(日)

実施内容：ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動への補助

イ 保育所・幼稚園の幼児を対象とした体力向上等を目的とした自然体験活動への補助

ウ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型（4泊5日以上）の自然体験活動への補助

補助について：①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

#### (2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：109件 参加者：5,232名（うち子ども4,694名）

イ 幼稚園・保育園自然体験活動支援事業

件数：9件 参加者：321名（うち子ども255名）

ウ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名（うち子ども0名）

### 2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

#### (1) 内容

対象者：県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間：令和2年6月10日(水)～令和3年2月28日(日)

実施内容：県内3自然の家（郡山・会津・いわき）を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

#### (2) 実績

○郡山自然の家

| 実施日       | 主な内容                                       | 参加者数              |
|-----------|--------------------------------------------|-------------------|
| 7月15日(水)  | 新しい生活スタイルと自分<br>「自然の中で、いっぱい体を動かそう。」        | 児童生徒、保護者、スタッフ 6名  |
| 9月26日(土)  | 発見、今の自分、そして未来の自分<br>「さあ、顔をあげて自分の可能性を信じよう。」 | 児童生徒、保護者、スタッフ 7名  |
| 10月7日(水)  | おいしい自然、満喫しよう<br>「自然の中で楽しく活動しよう！」           | 児童生徒、保護者、スタッフ 44名 |
| 12月12日(土) | 番外編<br>「自然の家で様々な体験をしよう。」                   | 児童生徒、保護者、スタッフ 16名 |
| 12月13日(日) | 作って感じる、今の自分<br>「自分にご褒美、家族にご褒美！」            | 児童生徒、保護者、スタッフ 15名 |

○会津自然の家

| 実施日                                      | 主な内容                                            | 参加者数       |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------|
| 11月7日(土)～8日(日)<br>※1泊2日                  | 自然体験、カヌー、フィールドアスレチック等の自然体験                      | 児童、講師 3名   |
| 2月4日(木)、5日(金)<br>12日(金)、16日(火)<br>18日(木) | そり遊び、雪像作り等を中心とした雪上体験                            | 児童、保護者 22名 |
| 3月4日(木)～5日(金)<br>※1泊2日                   | そり遊び、雪像作り等を中心とした雪上体験、<br>室内でのニュースポーツ体験、室内テント泊体験 | 児童、保護者 9名  |
| 3月13日(土)                                 | 室内でのニュースポーツ体験とクラブ活動<br>※雪不足のため、雪上体験は中止          | 児童、保護者 12名 |

※8月に予定していた事業は新型コロナウイルス感染症対策のため中止

○いわき海浜自然の家

| 実施日      | 主な内容            | 参加者数          |
|----------|-----------------|---------------|
| 7月6日(月)  | 魚釣り、磯遊び、室内ゲーム等  | 児童生徒、スタッフ 12名 |
| 10月9日(金) | 野外炊飯、オリエンテーリング等 | 児童生徒、スタッフ 18名 |
| 2月5日(金)  | スポーツ交流、創作活動等    | 児童生徒、スタッフ 13名 |

### 3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

- 事業1 ふくしまの元気を届ける体験事業
- 事業2 ふくしまの今を発信体験事業
- 事業3 ふくしまを創る起業体験事業

(2) 実績

- 応募団体 60団体
- 採択団体 29団体
- 補助金額 20,221千円

## 第10節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

| 名称      | 所在地        | 電話番号         | 設置者 |
|---------|------------|--------------|-----|
| 福島県立図書館 | 福島市森合字西養山1 | 024-535-3220 | 福島県 |

イ 市町村立

| 名称                | 所在地               | 電話番号         | 設置者  |
|-------------------|-------------------|--------------|------|
| 福島市立図書館           | 福島市松木町1-1         | 024-531-6551 | 福島市  |
| 福島市西口ライブラリー       | 福島市三河南町1-20       | 024-525-4023 | 福島市  |
| 福島市子どもライブラリー      | 福島市早稲町1-1 (こむこむ内) | 024-526-4200 | 福島市  |
| 伊達市立図書館           | 伊達市箱崎字川端7         | 024-551-2132 | 伊達市  |
| 国見町図書館            | 国見町大字藤田字観月台15     | 024-585-2676 | 国見町  |
| 二本松市立二本松図書館       | 二本松市本町1丁目102番地    | 0243-23-5082 | 二本松市 |
| 二本松市立岩代図書館        | 二本松市小浜字藤町242番地    | 0243-55-3255 | 二本松市 |
| しらさわ夢図書館          | 本宮市白岩字堤崎500       | 0243-44-2112 | 本宮市  |
| 郡山市中央図書館          | 郡山市麓山一丁目5-25      | 024-923-6601 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館田村分館      | 郡山市田村町岩作字穂多礼40-3  | 024-955-3842 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館喜久田分館     | 郡山市喜久田堀之内字下河原1    | 024-959-2205 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館緑ヶ丘分館     | 郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21    | 024-944-0001 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館日和田分館     | 郡山市日和田町字小堰23-4    | 024-958-2352 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館三穂田分館     | 郡山市三穂田町字東屋敷6      | 024-953-2820 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館中田分館      | 郡山市中田町下枝字大平358    | 024-973-2951 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館西田分館      | 郡山市西田町三丁目桜内259    | 024-972-2807 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館大槻分館      | 郡山市大槻町字中前田56      | 024-951-1512 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館熱海分館      | 郡山市熱海町熱海二丁目15-1   | 024-984-2679 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館湖南分館(仮開館) | 郡山市湖南町福良字家老9390-4 | 024-983-2543 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館富田分館      | 郡山市東三丁目84番地       | 024-951-0260 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館逢瀬分館      | 郡山市逢瀬町多田野字南原3番地   | 024-957-2417 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館片平分館      | 郡山市片平町字南7-2       | 024-957-5730 | 郡山市  |
| 郡山市希望ヶ丘図書館        | 郡山市希望ヶ丘1-5        | 024-961-1600 | 郡山市  |
| 郡山市安積図書館          | 郡山市安積一丁目38        | 024-946-8850 | 郡山市  |
| 郡山市富久山図書館         | 郡山市富久山町福原字泉崎181-1 | 024-921-0030 | 郡山市  |
| 須賀川市中央図書館         | 須賀川市中町4-1         | 0248-75-3309 | 須賀川市 |
| 須賀川市長沼図書館         | 須賀川市長沼字金町85       | 0248-67-2138 | 須賀川市 |
| 須賀川市岩瀬図書館         | 須賀川市柱田字中地前22      | 0248-65-3549 | 須賀川市 |

| 名 称             | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者   |
|-----------------|----------------------|--------------|-------|
| 鏡石町図書館          | 鏡石町旭町 440-6          | 0248-62-1288 | 鏡石町   |
| 石川町立図書館         | 石川町字関根 165           | 0247-26-9136 | 石川町   |
| 浅川町立あさかわ図書館     | 浅川町大字箕輪字山敷田 75       | 0247-36-2900 | 浅川町   |
| 古殿町図書館          | 古殿町大字松川字横川 235       | 0247-53-2305 | 古殿町   |
| 三春町民図書館         | 三春町字大町 12-1          | 0247-62-3375 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・図書館 | 小野町大字小野新町字中通 2       | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市図書館          | 田村市船引町船引字扇田 19       | 0247-82-1001 | 田村市   |
| 田村市図書館滝根分館      | 田村市滝根町神俣字町 48-1      | 0247-78-2001 | 田村市   |
| 田村市図書館大越分館      | 田村市大越町上大越字元池 87 番地 5 | 0247-79-2161 | 田村市   |
| 田村市図書館常葉分館      | 田村市常葉町常葉字町裏 1        | 0247-77-2013 | 田村市   |
| 田村市図書館都路分館      | 田村市都路町古道字本町 33-4     | 0247-75-2063 | 田村市   |
| 白河市立図書館         | 白河市道場小路 96-5         | 0248-23-3250 | 白河市   |
| 白河市立表郷図書館       | 白河市表郷金山字長者久保 2       | 0248-32-4784 | 白河市   |
| 白河市立東図書館        | 白河市東釜子字狐内 47         | 0248-34-1130 | 白河市   |
| 白河市立大信図書館       | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 矢吹町図書館          | 矢吹町本町 165            | 0248-44-3595 | 矢吹町   |
| 泉崎図書館           | 泉崎村大字泉崎字館 24-9       | 0248-53-4779 | 泉崎村   |
| 棚倉町立図書館         | 棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1   | 0247-33-4342 | 棚倉町   |
| 塙町立図書館          | 塙町大字塙字栄町 68-6        | 0247-43-0808 | 塙町    |
| 矢祭もったいない図書館     | 矢祭町大字東館字石田 25        | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村図書館          | 鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-2    | 0247-29-1150 | 鮫川村   |
| 会津若松市立会津図書館     | 会津若松市栄町 3-50         | 0242-22-4711 | 会津若松市 |
| 猪苗代町図書館歴史情報館    | 猪苗代町字古城町 132-2       | 0242-23-7855 | 猪苗代町  |
| 喜多方市立図書館        | 喜多方市字柳原 7503-1       | 0241-22-1855 | 喜多方市  |
| 会津美里町図書館        | 会津美里町字新布才地 1         | 0242-54-2911 | 会津美里町 |
| 南会津町図書館         | 南会津町田島字宮本東 22        | 0241-62-5522 | 南会津町  |
| 相馬市図書館          | 相馬市中村字塚ノ町 65-16      | 0244-37-2630 | 相馬市   |
| 新地町図書館          | 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1     | 0244-62-5031 | 新地町   |
| 南相馬市立中央図書館      | 南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1    | 0244-23-7789 | 南相馬市  |
| 南相馬市立鹿島図書館      | 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1    | 0244-46-5116 | 南相馬市  |
| 南相馬市立小高図書館      | 南相馬市小高区本町二丁目 89-1    | 0244-44-3049 | 南相馬市  |
| 浪江町図書館（休館中）     | 浪江町権現堂字矢沢町 6-1       | 0240-34-3941 | 浪江町   |
| 双葉町図書館（休館中）     | 双葉町大字長塚字鬼木 1         | 0240-33-4214 | 双葉町   |
| 大熊町図書館（休館中）     | 大熊町大字下野上字大野 669-3    | 0240-32-3011 | 大熊町   |
| 富岡町図書館          | 富岡町大字本岡字玉塚 622-1     | 0240-21-3665 | 富岡町   |
| いわき市立いわき総合図書館   | いわき市平字田町 120         | 0246-22-5552 | いわき市  |
| いわき市立内郷図書館      | いわき市内郷綴町榎下 40-1      | 0246-45-1030 | いわき市  |
| いわき市立小名浜図書館     | いわき市小名浜愛宕上 7-2       | 0246-54-9257 | いわき市  |
| いわき市立常磐図書館      | いわき市常磐関船町作田 1-1      | 0246-44-6218 | いわき市  |
| いわき市立勿来図書館      | いわき市植田町南町一丁目 2-2     | 0246-62-7431 | いわき市  |
| いわき市立四倉図書館      | いわき市四倉町字東一丁目 50      | 0246-32-5980 | いわき市  |

#### ウ 法人

| 名 称        | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者    |
|------------|------------------|--------------|--------|
| クローバー子供図書館 | 郡山市開成 6 丁目 346-1 | 024-932-2118 | 公益財団法人 |

## (2) 博物館の設置状況

### ア 登録博物館

| 名 称                  | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者            | 種別    | 登録年月日      |
|----------------------|----------------------|--------------|----------------|-------|------------|
| 福島県立美術館              | 福島市森合字西養山 1          | 024-531-5511 | 福島県            | 美術博物館 | 59.7.16    |
| 福島県立博物館              | 会津若松市城東町 1-25 号      | 0242-28-6000 | 福島県            | 総合博物館 | 61.11.28   |
| 須賀川市立博物館             | 須賀川市池上町 6            | 0248-75-3239 | 須賀川市           | 歴史博物館 | 46.7.10    |
| いわき市立美術館             | いわき市平字堂根町 4-4        | 0246-25-1111 | いわき市           | 美術博物館 | 59.9.3     |
| 郡山市立美術館              | 郡山市安原町字大谷地 130-2     | 024-956-2200 | 郡山市            | 美術博物館 | 平 5.1.20   |
| 南相馬市博物館              | 南相馬市原町区牛来字出口 194     | 0244-23-6421 | 南相馬市           | 総合博物館 | 平 8.5.9    |
| 野口英世記念館              | 猪苗代町大字三ツ和字前田 81      | 0242-85-7867 | (公財)野口英世記念会    | 歴史博物館 | 29.10.21   |
| 会津民俗館                | 猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1    | 0242-65-2600 | 会津民俗館          | 歴史博物館 | 55.10.3    |
| 白虎隊記念館               | 会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33  | 0242-24-9170 | (一財)白虎隊記念館     | 歴史博物館 | 63.6.30    |
| 奥会津博物館               | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20   | 0241-66-3077 | 南会津町           | 歴史博物館 | 平 21.6.16  |
| 諸橋近代美術館              | 北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23 | 0241-37-1088 | (公財)諸橋近代美術館    | 美術博物館 | 平 11.8.17  |
| 藤田記念博物館              | 白河市二番町 46-1          | 0248-24-1780 | (公財)藤田教育振興会    | 美術博物館 | 54.9.1     |
| CCGA 現代グラフィックアートセンター | 須賀川市塩田宮田 1           | 0248-79-4811 | (公財)DNP 文化振興財団 | 美術博物館 | 平 25.12.25 |

### イ 博物館相当施設

| 名 称           | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者          | 種別    | 指定年月日      |
|---------------|-----------------------|--------------|--------------|-------|------------|
| やないづ町立齋藤清美術館  | 柳津町柳津字下平乙 187         | 0241-42-3630 | 柳津町          | 美術博物館 | 平 11.9.28  |
| 龍が城美術館 (休館中)  | いわき市平字旧城跡 27-1        | 0246-22-1601 | (一財)白龍会      | 美術博物館 | 30.2.10    |
| 会津武家屋敷会津歴史資料館 | 会津若松市東山町大字石山学院内 1     | 0242-28-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | 56.11.25   |
| 安積歴史博物館       | 郡山市開成 5-25-63         | 024-938-0778 | (公財)安積歴史博物館  | 歴史博物館 | 59.9.8     |
| 磐梯山噴火記念館      | 北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36    | 0241-32-2888 | (株)ゴールドハウス目黒 | 科学博物館 | 平 5.7.1    |
| 會津藩校日新館       | 会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地 | 0242-75-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | 平 12.11.28 |
| はじまりの美術館      | 猪苗代町新町 4873           | 0242-62-3454 | (福)安積愛育園     | 美術博物館 | 平 28.12.6  |

### ウ 類似施設

| 名 称                  | 所 在 地                      | 電話番号         | 設置者  |
|----------------------|----------------------------|--------------|------|
| ふくしま海洋科学館            | いわき市小名浜字辰巳町 50             | 0246-73-2525 | 福島県  |
| 福島県文化財センター白河館        | 白河市白坂一里段 86                | 0248-21-0700 | 福島県  |
| 福島県歴史資料館             | 福島市春日町 5-54                | 024-534-9195 | 福島県  |
| ふれあい歴史館 (福島市資料展示室)   | 福島市松山町 39-1                | 024-563-7858 | 福島市  |
| 福島市民家園               | 福島市上名倉字大石前地内               | 024-593-5249 | 福島市  |
| 福島市古閑裕而記念館           | 福島市入江町 1-1                 | 024-531-3012 | 福島市  |
| 福島市写真美術館             | 福島市森合町 11-36               | 024-523-1201 | 福島市  |
| 宮畑遺跡史跡公園体験学習施設       | 福島市岡島字宮田 78                | 024-573-0015 | 福島市  |
| 羽山の森美術館              | 川俣町大字西福沢字山内 20             | 024-566-3367 | 川俣町  |
| 伊達市梁川美術館             | 伊達市梁川町字中町 10               | 024-527-2656 | 伊達市  |
| 伊達市保原歴史文化資料館         | 伊達市保原町大泉字宮脇 265            | 024-575-1615 | 伊達市  |
| 霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム | 伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1           | 024-589-2211 | 伊達市  |
| 二本松市歴史資料館            | 二本松市本町 1-102               | 0243-23-3910 | 二本松市 |
| 二本松市智恵子記念館           | 二本松市油井字漆原町 36              | 0243-22-6151 | 二本松市 |
| 二本松市大山忠作美術館          | 二本松市本町 2-3-1               | 0243-24-1217 | 二本松市 |
| あだたらふるさとホール          | 大玉村玉井字西庵 183               | 0243-48-2569 | 大玉村  |
| 本宮市立歴史民俗資料館          | 本宮市字南町裡 130                | 0243-33-2546 | 本宮市  |
| 本宮市白沢ふれあい文化ホール       | 本宮市白岩字堤崎 494-44            | 0243-44-3185 | 本宮市  |
| 郡山市開成館               | 郡山市開成 3-3-7                | 024-923-2157 | 郡山市  |
| 郡山市歴史資料館             | 郡山市麓山 1-8-3                | 024-932-5306 | 郡山市  |
| 郡山市こおりやま文学の森資料館      | 郡山市豊田町 3-5                 | 024-991-7610 | 郡山市  |
| 郡山市ふれあい科学館           | 郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F | 024-936-0201 | 郡山市  |

| 名 称                | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者   |
|--------------------|----------------------|--------------|-------|
| 須賀川市歴史民俗資料館        | 須賀川市長沼字門口 186        | 0248-67-2030 | 須賀川市  |
| 鏡石町歴史民俗資料館         | 鏡石町成田 343            | 0248-62-4323 | 鏡石町   |
| 天栄村ふるさと文化伝承館       | 天栄村大字大里字八石 1-2       | 0248-81-1030 | 天栄村   |
| 石川町立歴史民俗資料館        | 石川町字高田 200-2         | 0247-26-3768 | 石川町   |
| 浅川町歴史民俗資料館         | 浅川町大字浅川字背戸谷地 144-6   | 0247-36-2134 | 浅川町   |
| 吉田富三記念館            | 浅川町大字袖山字森下 287       | 0247-36-4129 | 財団法人  |
| 三春町歴史民俗資料館         | 三春町字桜谷 5             | 0247-62-5263 | 三春町   |
| 三春郷土人形館            | 三春町字大町 30            | 0247-62-7053 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・郷土資料館  | 小野町大字小野新町字中通 2       | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市歴史民俗資料館         | 田村市船引町船引字四城内前 196 番地 | 0247-81-1215 | 田村市   |
| 白河市歴史民俗資料館         | 白河市中田 7-1            | 0248-27-2310 | 白河市   |
| 小峰城歴史館（旧 白河集古苑）    | 白河市郭内 1-73           | 0248-24-5050 | 白河市   |
| 中山義秀記念文学館（義秀展示館）   | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 白河市大信ふるさと文化伝承館     | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 西郷村歴史民俗資料館         | 西郷村大字小田倉字上野原 463     | 0248-25-0959 | 西郷村   |
| 矢吹町ふるさとの森芸術村       | 矢吹町大池 243-2          | 0248-42-4506 | 矢吹町   |
| 泉崎資料館              | 泉崎村大字泉崎字館 24-9       | 0248-53-4777 | 泉崎村   |
| 塙町立あぶくま高原美術館       | 塙町大字那倉字吉元 86-2       | 0247-42-2510 | 塙町    |
| 矢祭町歴史民俗資料館         | 矢祭町大字東館字石田 25        | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村歴史民俗資料館         | 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128-4  | 0247-49-3106 | 鮫川村   |
| 国指定名勝会津松平氏庭園       | 会津若松市花春町 8-1         | 0242-27-2472 | 会津若松市 |
| 若松城天守閣郷土博物館        | 会津若松市追手町 1-1         | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 茶室麟閣               | 会津若松市追手町 1-1         | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 会津町方伝承館            | 会津若松市大町 2-8-8        | 0242-22-8686 | 会津若松市 |
| 会津若松市歴史資料センター      | 会津若松市城東町 2-3         | 0242-27-2705 | 会津若松市 |
| アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 | 猪苗代町大字長田字東中丸 3447-4  | 0242-72-1135 | 猪苗代町  |
| 喜多方市美術館            | 喜多方市字押切 2-2          | 0241-23-0404 | 喜多方市  |
| 喜多方市カイギュウランドたかさ    | 喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163  | 0241-44-2024 | 喜多方市  |
| 会津坂下町五浪美術記念館       | 会津坂下町字台ノ下 842        | 0242-84-1233 | 会津坂下町 |
| ほっと in やないづ縄文館     | 柳津町大字柳津字下平乙 151-1    | 0241-41-1077 | 柳津町   |
| からむし工芸博物館          | 昭和村大字佐倉字上ノ原 1        | 0241-58-1677 | 昭和村   |
| 旧南会津郡役所            | 南会津町田島字丸山甲 4681      | 0241-62-3848 | 南会津町  |
| 奥会津博物館南郷館          | 南会津町界字川久保 552        | 0241-73-2829 | 南会津町  |
| 奥会津博物館館岩館          | 南会津町松戸原 55           | 0241-78-2110 | 南会津町  |
| 奥会津博物館伊南館          | 南会津町青柳字久川 24         | 0241-76-2071 | 南会津町  |
| 檜枝岐村歴史民俗資料館        | 檜枝岐村字下ノ原 887-1       | 0241-75-2342 | 檜枝岐村  |
| 相馬市歴史資料収蔵館         | 相馬市中村字北町 51-1        | 0244-37-2191 | 相馬市   |
| 埴谷・島尾記念文学資料館       | 南相馬市小高区本町 2丁目 89-1   | 0244-66-1011 | 南相馬市  |
| 葛尾村郷土文化保存伝習館       | 葛尾村落合字落合 16          | 0240-29-2008 | 葛尾村   |
| 双葉町歴史民俗資料館（休館中）    | 双葉町大字新山字本町 27-1      | 0240-33-4763 | 双葉町   |
| 大熊町民俗伝承館（休館中）      | 大熊町大字下野上字大野 669-3    | 0240-32-3011 | 大熊町   |
| 富岡町歴史民俗資料館         | 富岡町大字本岡字王塚 622-1     | 0240-22-2626 | 富岡町   |
| 檜葉町歴史資料館           | 檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4      | 0240-25-2492 | 檜葉町   |
| いわき市石炭・化石館         | いわき市常磐湯本町向田 3-1      | 0246-42-3155 | いわき市  |
| いわき市勿来関文学歴史館       | いわき市勿来関町長沢 6-1       | 0246-65-6166 | いわき市  |
| いわき市アンモナイトセンター     | いわき市大久町大久字鶴房 147-2   | 0246-82-4561 | いわき市  |
| いわき市考古資料館          | いわき市常磐藤原町手道 50-1     | 0246-43-0391 | いわき市  |
| いわき市立草野心平記念文学館     | いわき市小川町高萩字下夕道 1-39   | 0246-83-0005 | いわき市  |
| いわき市草野心平生家         | いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1   | 0246-83-2901 | いわき市  |
| いわき市暮らしの伝承郷        | いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16  | 0246-29-2230 | いわき市  |



| 名 称            | 所 在 地          | 電話番号         | 設置者    |
|----------------|----------------|--------------|--------|
| 原郷のこけし群西田記念館   | 福島市荒井字横塚 3-183 | 024-593-0639 | 公益財団法人 |
| 桑折町種徳美術館       | 桑折町字陣屋 12      | 024-582-5507 | 桑折町    |
| デコ屋敷資料館        | 郡山市西田町高柴字福内 41 | 024-971-3900 | 私人     |
| 東北サファリパーク      | 二本松市沢松倉 1      | 0243-24-2336 | 株式会社   |
| ふくしまの森科学体験センター | 須賀川市虹の台 100    | 0248-89-1120 | 公益財団法人 |
| 南湖神社宝物館        | 白河市字菅生館 2      | 0248-23-3015 | 私人     |
| (社)福島県伝統産業会館   | 会津若松市大町 1-7-3  | 0242-24-5757 | 社団法人   |
| 大和川酒造北方風土館     | 喜多方市字寺町 4761   | 0241-22-2233 | 私人     |
| 喜多方蔵品美術館       | 喜多方市梅竹 7294-4  | 0241-24-3576 | 私人     |

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

| 名 称          | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者 |
|--------------|-----------------------|--------------|-----|
| 福島県郡山自然の家    | 郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46      | 024-957-2111 | 福島県 |
| 福島県会津自然の家    | 会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 | 0242-83-2480 | 福島県 |
| 福島県いわき海浜自然の家 | いわき市久之浜町田之網字向山 53     | 0246-32-7700 | 福島県 |

#### イ 教育施設

| 名 称           | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|---------------|-----------------|--------------|--------|
| 国立那須甲子青少年自然の家 | 西郷村大字真船字村火 6-1  | 0248-36-2331 | 独立行政法人 |
| 国立磐梯青少年交流の家   | 猪苗代町字五輪原 7136-1 | 0242-62-2530 | 独立行政法人 |
| 市町村(条例)設置     | ※16施設(別掲)       |              |        |
| 他県設置等         | ※4施設(別掲)        |              |        |

#### 《市町村(条例)設置 16 施設》

| 名 称                  | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|----------------------|-----------------|--------------|--------|
| 福島県青少年会館             | 福島市黒岩字田部屋 53-5  | 024-546-8311 | 公益財団法人 |
| 福島市社会教育会館「立子山自然の家」   | 福島市立子山字金井作 1    | 024-597-2951 | 福島市    |
| 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館   | 福島市早稲町 1-1      | 024-524-3131 | 福島市    |
| 郡山市青少年会館             | 郡山市大槻町字漆棒 82    | 024-961-8282 | 郡山市    |
| 郡山市少年湖畔の村            | 郡山市湖南町横沢字村西 112 | 024-982-2115 | 郡山市    |
| 郡山市勤労青少年ホーム(中央公民館内)  | 郡山市麓山 1 丁目 8-4  | 024-932-3027 | 郡山市    |
| 須賀川市市民の森             | 須賀川市塩田音森 20     | 0248-79-2187 | 須賀川市   |
| 石川町勤労青少年ホーム          | 石川町字当町 418-1    | 0247-26-2566 | 石川町    |
| 矢祭山友情の森              | 矢祭町大字山下字下河原 1-1 | 0247-46-2162 | 矢祭町    |
| 会津若松市勤労青少年ホーム        | 会津若松市城東町 14-52  | 0242-26-6662 | 会津若松市  |
| 会津若松市少年の家            | 会津若松市城東町 15-62  | 0242-39-1304 | 会津若松市  |
| 喜多方市勤労青少年ホーム         | 喜多方市舞台田 3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| 喜多方市勤労青少年体育センター      | 喜多方市舞台田 3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| ひわ沢原森林公園(休館中)        | 猪苗代町字琵琶沢原 7095  | 0242-62-3291 | 猪苗代町   |
| LVMH 子どもアート・メゾン(休館中) | 相馬市中村二丁目 2-15   | 0244-26-7415 | 相馬市    |
| 新地町勤労青少年ホーム          | 新地町大字福田字中里 15-1 | 0244-62-3106 | 新地町    |

#### 《他県設置等 4 施設》

| 名 称                  | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者    |
|----------------------|-----------------------|--------------|--------|
| 一般財団法人小野田自然塾         | 東白川郡高岡町大字片貝字長久木先 384  | 022-281-8228 | 一般財団法人 |
| 越谷市立あだたら高原少年自然の家(休館) | 二本松市永田字長坂国有林 14 林班    | 0243-24-2561 | 越谷市    |
| さいたま市立館岩少年自然の家       | 南会津町宮里字向山 2847-1      | 0241-78-2311 | さいたま市  |
| ばんだいふれあいぴあ           | 北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336 | 0241-33-2567 | 公益財団法人 |

## 2 文化施設の整備充実

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

## 第11節 福島県立図書館

### 1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年4月19日（日）～5月15日（金）の間に臨時休館となったほか、館内エレベーター工事による令和3年1月5日（火）～7日（木）の臨時休館、同年2月13日に発生した福島県沖地震による被害により同年2月14日（日）～3月10日（水）を臨時休館とした。

### (1) 図書館協議会

開催日 令和2年12月11日（金） 於：県立図書館  
議題等

- ・令和2年度図書館利用実績について
- ・図書館システムの更新について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の取組について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

図書館協議会委員名（令和3年3月31日現在）

[任期：令和元年10月21日～令和3年10月20日]

| 区分     | 氏名     | 所属団体等（主な役職名等）                               |
|--------|--------|---------------------------------------------|
| 学識経験者  | 佐藤 佐敏  | 福島大学（人間発達文化学類教授）                            |
|        | 三瓶 千香子 | 桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授<br>生涯学習センター長・地域連携センター長） |
|        | 佐藤 克也  | 株式会社福島民報社<br>（編集局次長兼文化部長）                   |
|        | 小野 広司  | 福島民友新聞株式会社<br>（執行役員編集局長）                    |
|        | 三瓶 真二  | 公募                                          |
|        | 森岡 こう  | 公募                                          |
| 家庭教育   | 高橋 明子  | 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）         |
| 社会教育   | 須藤 薫   | 福島県公共図書館協会<br>（喜多方市図書館長）                    |
| 学校教育関係 | 佐藤 秀美  | 福島県高等学校長協会<br>（福島県立いわき光洋高等学校長）              |
|        | 志村 充代  | 福島県中学校長会<br>（郡山市立明健中学校長）                    |

### 「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」

平成30年度～令和2年度

#### 1 基本理念

「『知の拠点』として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。」

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあっては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子供たちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

#### 2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

##### (1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料（情報）を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

##### (2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料（情報）を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

##### (3) 市町村（図書館・公民館等）を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

#### (4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人々が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### (1) 図書館資料の収集

#### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものや年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、感染症やその対策関連の資料、在宅時間を充実させるための資料を収集した。

#### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し、令和3年1月8日(金)にリニューアルした県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内及び県内公共施設へ配布を依頼した。

震災関連資料及び東京電力福島第一発電所事故に関する資料についても、10年の節目を契機とした記念誌等の収集のため、新聞等での出版情報収集に努めた。

#### ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料のほか、令和2年度前期放送・NHK朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった古閑裕而関連の映像、音声資料等を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

#### エ 児童資料・研究資料の収集

##### (7) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

##### (4) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

#### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(平成12年-平成17年)144本を購入し提供している。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

#### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

#### 逐次刊行物受入状況 (単位：種)

| 区分  | 購入  | 寄贈・他 | 計     |
|-----|-----|------|-------|
| 新聞  | 25  | 56   | 81    |
| 雑誌  | 235 | 721  | 956   |
| 官報等 | 3   | 0    | 3     |
| 合計  | 263 | 777  | 1,040 |

#### 資料受入状況 (単位：冊)

| 区分       | 購入     | 寄贈・他  | 計      |
|----------|--------|-------|--------|
| 一般資料     | 6,402  | 1,918 | 8,320  |
| 地域・行政資料  | 1,407  | 3,833 | 5,240  |
| 児童資料     | 2,852  | 306   | 3,158  |
| 児童図書研究資料 | 373    | 172   | 545    |
| 市町村支援資料  | 1,607  | 1,053 | 2,660  |
| 合計       | 12,641 | 7,282 | 19,923 |

#### 資料受入状況・推移 (単位：冊)

| 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  |
|--------|--------|--------|
| 18,649 | 18,669 | 19,923 |

キ 県民のくらし応援文庫  
 県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備すること

を目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和2年度は、4団体（企業）から合計797冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）

（単位：冊）

| 分類     | 区分        | 元年度累計   | 2年度増加 | 2年度除籍 | 利用替え      | 2年度累計   |
|--------|-----------|---------|-------|-------|-----------|---------|
| 一般資料   | 0 総記      | 31,582  | 289   | 8     | 1         | 31,864  |
|        | 1 哲学      | 26,573  | 394   | 25    | 1         | 26,943  |
|        | 2 歴史      | 66,291  | 789   | 16    | 1         | 67,065  |
|        | 3 社会科学    | 109,550 | 2,070 | 56    | 6         | 111,570 |
|        | 4 自然科学    | 38,051  | 1,005 | 46    | 2         | 39,012  |
|        | 5 工学・工業   | 36,976  | 839   | 98    | 9         | 37,726  |
|        | 6 産業      | 29,601  | 570   | 45    | 3         | 30,129  |
|        | 7 芸術      | 42,387  | 980   | 52    | 12        | 43,327  |
|        | 8 語学      | 9,756   | 129   | 13    | 2         | 9,874   |
|        | 9 文学      | 94,437  | 1,255 | 152   | 2         | 95,542  |
|        | 計         | 485,204 | 8,320 | 511   | 39        | 493,052 |
| 地域資料   | 0 総記      | 18,760  | 509   | 0     | 0         | 19,269  |
|        | 1 哲学      | 2,855   | 76    | 0     | 1         | 2,932   |
|        | 2 歴史      | 39,638  | 810   | 3     | 0         | 40,445  |
|        | 3 社会科学    | 68,372  | 1,478 | 1     | 1         | 69,850  |
|        | 4 自然科学    | 10,369  | 323   | 0     | 1         | 10,693  |
|        | 5 工学・工業   | 15,488  | 432   | 5     | 1         | 15,916  |
|        | 6 産業      | 23,034  | 462   | 1     | 0         | 23,495  |
|        | 7 芸術      | 17,776  | 599   | 1     | 7         | 18,381  |
|        | 8 語学      | 936     | 15    | 0     | 0         | 951     |
|        | 9 文学      | 29,225  | 536   | 6     | 0         | 29,755  |
| 計      | 226,453   | 5,240   | 17    | 11    | 231,687   |         |
| 児童資料   | 研究資料      | 37,462  | 545   | 190   | -178      | 37,639  |
|        | 児童図書      | 119,970 | 3,158 | 993   | 924       | 123,059 |
|        | 計         | 157,432 | 3,703 | 1,183 | 746       | 160,698 |
| 逐次刊行物  | 雑誌        | 174,886 | 4,805 | 20    | 0         | 179,671 |
|        | 新聞合本      | 15,708  | 154   | 0     | 0         | 15,862  |
|        | 新聞記事ファイル  | 3,834   | 2     | 0     | 0         | 3,836   |
|        | 計         | 194,428 | 4,961 | 20    | 0         | 199,369 |
| 特殊文庫   | 70,272    | 8       | 0     | 0     | 70,280    |         |
| 館内用計   | 1,133,789 | 22,232  | 1,731 | 796   | 1,155,086 |         |
| 市町村支援計 | 65,681    | 2,660   | 2,036 | -796  | 65,509    |         |
| 合計     | 1,199,470 | 24,892  | 3,767 | 0     | 1,220,595 |         |

3 館内奉仕

開館日は251日、入館者は113,657人、1日平均453人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限や臨時休館、また2月に発生した福島県沖地震による被害により臨時休館とした影響もあり、開館日数は前年度比で35日少なく、入館者数も前年度比において5万8千人の減であった。

入館者数

|        |          |
|--------|----------|
| 開館日数   | 251日     |
| 入館者数   | 113,657人 |
| （1日平均） | 453人     |

入館者数・推移

（単位：人）

| 平成30年度  | 令和元年度   | 令和2年度   |
|---------|---------|---------|
| 174,034 | 172,464 | 113,657 |

## (1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限や臨時休館も影響し、総件数は前年度より3,000件ほど減少したが、電話で前年度比約400件の増、文書でも約400件の増（前年度比10倍）、メールで約120件の増となり、非来館型サービスの可能性を見出す結果となった。

調査相談件数 (単位：件)

|       | 一般・地域・逐刊 | 児童資料  | 小 計   |
|-------|----------|-------|-------|
| 口 頭   | 5,222    | 1,720 | 6,942 |
| 電 話   | 1,982    | 41    | 2,023 |
| 文 書   | 455      | 0     | 455   |
| F A X | 31       | 1     | 32    |
| 電子メール | 302      | 1     | 303   |
| 合 計   | 7,992    | 1,763 | 9,755 |

調査相談件数・推移 (単位：件)

| 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度 |
|--------|--------|-------|
| 11,949 | 12,938 | 9,755 |

県立図書館のホームページは、全体的にアクセス件数が減少した中で、「蔵書検索」は前年度より4.6万件増え、「こどものへや」へのアクセスは倍増した。コロナ禍での受取館指定サービスなどWeb環境を活用したサービス提供が影響したとみられる。

ホームページアクセス件数 (単位：件)

| 区 分         | 平成30年度  | 令和元年度   | 令和2年度   |
|-------------|---------|---------|---------|
| ト ッ プ ペ ー ジ | 317,481 | 334,534 | 253,502 |
| 蔵 書 検 索     | 655,110 | 786,099 | 832,584 |
| 横 断 検 索     | 501,635 | 530,959 | 404,357 |
| デジタルライブラリー  | 5,036   | 5,315   | 5,070   |
| こどものへや      | 2,651   | 2,728   | 5,462   |
| 利 用 案 内     | 20,362  | 19,132  | 14,202  |

注) 新システム移行のため、令和2年12月28日(月)～令和3年1月17日(日)のアクセス反映なし。なお、蔵書検索のみ令和2年12月28日(月)～令和3年1月3日(日)のアクセス反映なしとなっている。

## (2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、年度当初から閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エ

チケット等の呼びかけに努めたほか、臨時休館後の5月中旬以降は返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。その他の対策として11月に図書除菌機を、3月にサーモグラフィカメラを設置した。

また、館内では令和3年1月の情報ネットワークシステム更新に合わせ、蔵書検索機（OPAC）を分野ごとに4台設置しサービスの向上を図った。

## (3) 館外個人貸出

貸出冊数は143,296冊、貸出者数は延べ35,146人で令和元年度から減少した。登録者数は12,942人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、30件、122冊と前年度より件数で約3倍、冊数で約2倍増加した。

### 館外個人貸出状況

| 分 類       | 冊数(冊)   | 構成比(%) |
|-----------|---------|--------|
| 総 記       | 2,413   | 1.7    |
| 哲 学 ・ 宗 教 | 4,739   | 3.3    |
| 歴 史 ・ 地 理 | 7,364   | 5.1    |
| 社 会 科 学   | 12,819  | 9.0    |
| 自 然 科 学   | 7,996   | 5.6    |
| 工 学 ・ 工 業 | 6,563   | 4.6    |
| 産 業       | 3,663   | 2.6    |
| 芸 術       | 7,906   | 5.5    |
| 語 学       | 1,204   | 0.8    |
| 文 学       | 20,391  | 14.2   |
| 地 域 資 料   | 6,885   | 4.8    |
| 新 聞 雑 誌   | 6,773   | 4.7    |
| 小 計       | 88,716  | 61.9   |
| 児 童       | 54,580  | 38.1   |
| 合 計       | 143,296 | 100.0  |

### 館外個人貸出状況・推移

| 区 分     | 平成30年度  | 令和元年度   | 令和2年度   |
|---------|---------|---------|---------|
| 冊 数 (冊) | 155,550 | 158,364 | 143,296 |
| のべ人数(人) | 41,513  | 41,712  | 35,146  |

### 館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

| 区 分   | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 合 計    |
|-------|--------|-------|-------|--------|
| 新 規   | 3,128  | 3,104 | 2,572 | 8,804  |
| 更 新 者 | 1,530  | 1,474 | 1,134 | 4,138  |
| 合 計   | 4,658  | 4,578 | 3,706 | 12,942 |

### 館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

| 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  |
|--------|--------|--------|
| 13,824 | 13,813 | 12,942 |

## (4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

## 特別貸出状況

| 貸出先    | 件数(件) | 冊数(冊) |
|--------|-------|-------|
| 官公庁関係  | 2     | 74    |
| 図書館その他 | 2     | 3     |
| 会社・事業所 | 24    | 225   |
| 報道関係   | 1     | 2     |
| 学校     | 26    | 26    |
| 計      | 55    | 330   |

## 特別貸出状況・推移

(単位：冊)

| 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|-------|-------|
| 433    | 870   | 330   |

## (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「旅立ち、出会いの季節に言葉をおくる」、「起業・創業にむけて」及び「空模様を読む」など7回実施した。また、時事展示として、「ストレスに負けない気持ちづくり!」、「人類と感染症」、「ビジネス支援」など5回実施。ミニ展示としては「感染症対策」など3回実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「本で知る世界遺産」、改訂2本「今こそ伝えたい命の大切さ 闘病記」、「健康と労働を考える」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和2年11月29日(日)には図書館見学会を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者5名)。また、貴重資料を紹介する機会として、平成29年2月に開設した「長田弘文庫見学会」を令和2年11月8日(日)に実施した(参加者2名)。

## (6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和2年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて関連のある所蔵資料を展示した。

企画展示は「よいものたくさん福島県」、「空中写真で振り返る 東日本大震災展」を開催した。また、ミニ展示として福島県歴史資料館の移動展示に合わせた関連資料の展示や、朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデル・古閑裕而関係の資料の展示を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。

『茂庭村文書』、『陸奥国白川二本松三春領絵図』、『福島県管内道路分類縮図』の貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑

誌の目次入力を継続的に実施した。

## (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和2年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

令和2年11月3日(火・祝)・4日(水)・6日(金)に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、国立国会図書館歴史的音源を利用してNHKの朝ドラのモデルになった古閑裕而にちなんだ曲や、クラシック曲を公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。また、同日に「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためマンツーマンの講座形式で実施し、9講座の募集に対して4名の申込があった。参加者の要望に合わせて、各自に合ったデータベースを使用し好評を得た。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「明日の活力をつくる睡眠」、「Go To Travel～新しい旅行様式で旅しよう!～」、「誌上参拝」及び「ご褒美をあげよう!」など、社会情勢に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「ビジネス関連雑誌記事紹介」を作成した。

## (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

### ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

### イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」・「子ども向け講座」を開催した。

- ・「ちいさなおはなしかい」(7月・9月・10月・11月・12月)

参加者合計 18名

- ・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和2年8月8日(土))を実施した。

参加者 12名

- ・「おはなし会『安達太良山はいきている』」(令和2年9月13日(日))を実施した。

参加者 15名

- ・福島県国際交流協会との連携おはなしかい

「クリスマスのおはなしかい みんないっしょに世界のことばでおはなしかい」(令和2年12月12日(土))を実施した。

参加者合計 18名

- ・「子ども向け講座『クリスマスミステリーツアー』」  
(令和2年12月19日(土))を実施した。

参加者 16名

#### ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 296名

#### エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて「福島県立図書館 小学校国語教科書紹介図書 所蔵一覧」を発行した。

#### オ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための施設案内「ママ・パパこどもマップ」を更新した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

### (9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和3年3月11日現在で13,672タイトルとなっており、令和2年度増加資料一覧を作成し、ホームページで公開した。令和2年5月には「震災ライブラリー写真集」展、令和3年3月には「東日本大震災福島県復興ライブラリーブックガイド記念号」の発行に合わせ「東日本大震災福島県復興ライブラリーブックガイド」展として展示を行った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和3年1月31日(日)現在で更新、3月ホームページに掲載した。

さらに「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。令和2年度は、五所川原市立図書館(令和3年3月9日(火)～28日(日))とふたば未来学園中学校・高等学校(令和3年2月19日(金)～3月19日(金))で出張展示が開催された。

### (10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

#### 複写利用状況

| 区 分    | 件数 (件) | 枚数 (枚) |
|--------|--------|--------|
| 自・他館処理 | 2,460  | 33,667 |

### 複写利用状況・推移

(単位：枚)

| 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  |
|--------|--------|--------|
| 48,507 | 43,284 | 33,667 |

### (11) 障がい者サービス

令和2年2月にサビエ図書館の運用を開始したことを受け、令和3年1月にホームページ上に障がい者サービスのページを公開し、貸出登録カウンターに音声か聴こえにくい方のための対話支援器を1台設置した。令和3年3月には障がい者サービス専用カウンターを設置した。

### (12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、11月に当館職員によるインターネット入門講座を実施した。情報ネットワークシステム更新に合わせてインターネットの座席予約システムを導入した。

#### インターネット利用状況 (単位：人)

| 区 分 | 一 般   | 児 童 | 合 計   |
|-----|-------|-----|-------|
| 人 数 | 2,237 | 0   | 2,237 |

#### インターネット利用状況・推移 (単位：人)

| 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|-------|-------|
| 6,210  | 5,303 | 2,237 |

### (13) 展示

#### ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 「読み継がれる絵本展～出版から50年を経た絵本～」  
(令和2年4月3日(金)～6月3日(水))

昭和・平成・令和と時代を超え、多くの子どもたちに読み継がれている人気の絵本を紹介した。

(イ) 「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示 ふくしま鉄ものがたり」  
(令和2年6月5日(金)～7月1日(水))

福島県文化財センター白河館(まほろん)による展示。福島県域はかつて日本を代表する鉄生産地であり、これまでの製鉄遺跡研究の一端を紹介した。

(ウ) 「旅行案内書で巡るむかしの旅と名勝地」  
(令和2年7月3日(金)～9月2日(水))

当館で所蔵する旅行案内書の中から、江戸～昭和初期頃に出版された資料の一部を紹介した。

(エ) 「よいものたくさん福島県」  
(令和2年9月4日(金)～11月4日(水))

「よいものたくさん福島県」は当館が近年収集した資料から明治～昭和初期にかけての県内の名産品として養蚕、煙草、馬、漆器や福島県の伝統的な郷土玩具などを取り上げ、関連資料を展示した。

(オ) 「福島県歴史資料館移動展示 描かれた江戸時代の伊達郡」

(令和2年11月6日(金)～12月2日(水))  
 福島県歴史資料館による展示。旧伊達郡を描いた絵  
 図を紹介した。

- (カ) 「スポットライトを当てたい懐かしの雑誌展」  
 (令和2年12月4日(金)～令和3年2月14日(日))  
 雑誌黎明期の「明六雑誌」や教科書に載っている「青  
 鞆」、「白樺」、個性的な雑誌の「朝日ソノラマ」な  
 ど時代を彩った雑誌を展示した。
- (キ) 「空中写真で振り返る東日本大震災」  
 (令和3年3月11日(木)～3月31日(水))  
 東日本大震災の発生から10年を迎え、当館で所蔵  
 する福島県沿岸を撮影した空中写真の中から、津波被  
 災地域の震災前後の写真等を展示した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立  
 図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

- (ア) 「本はともだち」(県立図書館)  
 (令和2年4月3日(金)～6月3日(水))
- (イ) 「色鉛筆と水性ペンのイラスト」  
 (令和2年6月5日(金)～7月1日(水))
- (ウ) 「YA(ヤングアダルト)の本」(県立図書館)  
 (令和2年7月3日(金)～9月2日(水))
- (エ) 「わたしたちの夢」  
 (令和2年9月4日(金)～9月30日(水))
- (オ) 「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」  
 (令和2年10月2日(金)～11月4日(水))
- (カ) 「YA(ヤングアダルト文学)」(県立図書館)  
 (令和2年11月6日(金)～12月27日(日))
- (キ) 「福島県内の公共土庫施設の復旧・復興の取組み」  
 (令和3年1月8日(金)～2月14日(日))
- (ク) 「被災地図書館震災アーカイブ企画展巡回展」  
 (令和3年3月11日(木)～3月31日(水))

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職  
 員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施すること  
 で、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても  
 開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進  
 展に寄与した。

ア 講演会

朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会

「朝河貫一の歴史学の現代的意義 —『日欧比較封建制』  
 から『日本人の国民性』の分析へ—」

講師 早稲田大学文学学術院 甚野 尚志 教授

開催日 令和2年8月10日(月)

参加人数 88名

イ ふくしまを知る連続講座

第1回 シンポジウム「安達太良噴火120年」

開催日 令和2年9月12日(土)

主催 磐梯山噴火記念館

参加者 60名

第2回 「江戸時代の絵図でつなぐ今と昔」

開催日 令和2年11月28日(土)

講師 福島県歴史資料館

小野 孝太郎 副主任学芸員

参加者 61名

ウ イベント

「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」

「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」

開催日 令和2年11月3日(火)・4日(水)・6日(金)

参加者 26名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的のため新型コ  
 ロナウイルス対応や日程調整をしながら巡回事業を実施  
 し、連携協力を図るとともに、合計23自治体及び4校に  
 対して合計24,635冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図る  
 ことを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相  
 談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立  
 ち上げの支援を行った。18自治体に巡回し、延べ21,020  
 冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図  
 書館等の運営が困難な5自治体に対し、読書環境を改善  
 することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービ  
 スセンターに対して2,103冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子  
 どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・  
 西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校の4校を巡  
 回し、延べ1,512冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位:冊数)

| 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  |
|--------|--------|--------|
| 26,786 | 28,380 | 24,635 |

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわた  
 り一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室  
 の読書・学習環境を支援した。

令和2年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 喜多方市教育委員会  | 297冊   |
| 川俣町教育委員会   | 508冊   |
| 湯川村教育委員会   | 73冊    |
| 浅川町教育委員会   | 541冊   |
| 会津美里町教育委員会 | 1,221冊 |
| 合計         | 2,640冊 |



### (3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和2年度の利用状況は次のとおりである。

|            |       |
|------------|-------|
| 会津美里町教育委員会 | 633 冊 |
| 浅川町教育委員会   | 16 冊  |
| 合 計        | 649 冊 |

### (4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置している。

### (5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和2年度は実績なし。

### (6) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ(延べ269セット)を編成し貸出を行った。

令和2年度の利用状況は、8団体に対し23セット(1,142冊)を貸出した。

### (7) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第70巻(通巻274号)を令和3年3月18日(木)に発行した。主たる掲載事項としては、「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する図書館の取組み」、「震災から10年 福島県立図書館支援の軌跡」、「福島県立図書館 地震被害報告」等

イ 令和2年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,412,881冊で、当該人口1人当たり3.75冊(前年度3.69冊)、年間増加冊数は74,794冊である。また、令和元年度中の総貸出図書冊数は、6,483,173冊(当該人口1人当たり3.79冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第61号を発行。8月に開催した朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会「朝河貫一の歴史学の現代的意義—『日欧比較封建制』から『日本人の国民性』の分析へ—」と、年度内に2回実施した「ふくしまを知る連続講座」の概要について報告した。特集として「福島県立図書館所蔵大正期以前地図・絵地図目録」を掲載した。連載記事としては「福島県立図書館所蔵 貴重郷土資料探照 21 茂庭村文書」、「福島県関係書誌 2020」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、

郷土の情報を発信した。

## 5 図書館協力

### (1) 相互協力和遠隔地返却、受取館指定サービス

相互貸借(他館との資料の貸借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。近年、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向にあり、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため県内各市町村図書館で館内利用の制限や臨時休館の措置がなされた館も多く、その影響により遠隔地返却の件数は、前年比で87%と減少した。同様に、市町村図書館を窓口で資料の提供を行う相互貸借(貸出)も85%と減少した。ただし、相互貸借(借用)については、135%と大きな伸びを示した。コロナ禍にあって、遠隔地の図書館資料について県立図書館を窓口で借り受けた利用者が多かったことを示している。

#### 相互貸借状況 (単位: 件/冊)

| 区分 | 県内    |       | 県外  |     | 合計    |       |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|    | 件数    | 冊数    | 件数  | 冊数  | 件数    | 冊数    |
| 貸出 | 855   | 4,042 | 358 | 587 | 1,213 | 4,629 |
| 借用 | 206   | 445   | 89  | 112 | 295   | 557   |
| 小計 | 1,061 | 4,487 | 447 | 699 | 1,508 | 5,186 |

#### 相互貸借状況・推移 (単位: 冊)

| 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|-------|-------|
| 6,142  | 5,431 | 5,186 |

#### 遠隔地返却冊数・推移 (利用者が来館し借受けした資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位: 冊)

| 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|-------|-------|
| 7,578  | 7,212 | 6,272 |

### (2) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出(資料の貸借)などの資料の搬送支援を行った。令和2年度は、20コースを編成し、34自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

### (3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- (ア) テーマ 「図書館で働くということ・図書館における児童サービス」  
「図書館の役割～図書館の現場から学ぶ～」  
「公民館図書室の基本と実践～意見交換を踏まえて～」  
「学校図書館が目指すもの～学校図書館担当職員にもとめられる役割・職務等～」

- (イ) 期 日 令和2年10月9日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 57名
- (オ) 講 師 義務教育課指導主事 前林 伸也  
県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- (ア) テーマ 「地域資料サービスの実践」
- (イ) 期 日 令和2年9月18日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 41名
- (オ) 講 師 実践女子大学非常勤講師 蛭田 廣一

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

- (ア) 期 日 令和2年10月29日(木)～30日(金)
- (イ) 会 場 福島県立図書館
- (ウ) 参加者 4名
- (エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会

- (ア) テーマ 「児童書の紹介文の書き方―絵本を中心に―」
- (イ) 期 日 令和2年9月11日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 26名
- (オ) 講 師 元枚方市立津田図書館長 川上 博幸

**(4) 第18回福島県図書館研究集会**

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「危機管理～図書館サービスを継続的に提供していくために～」

- イ 期 日 令和2年11月6日(金)
- ウ 会 場 福島県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 44名

オ 内 容

第一部

- テーマ 「自然災害に備える」
- 講 師 名取市図書館 司書 加藤 孔敬
- 事例報告 「ある日、災害は突然に…。あの日から今までのこと～令和元年東日本台風による本宮市中央公民館図書室の被災及び復旧報告」  
本宮市しらさわ夢図書館  
副館長兼専門司書 柳沼 志津子

第二部

- テーマ 「新型コロナウイルス感染症拡大に備える」
- 講 師 白河市立図書館 主幹兼副館長 中沢 孝之
- 事例報告 「図書館の対応事例から」  
県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

「電子書籍の導入について」  
郡山市中央図書館 主任 小賀坂 裕子

**(5) 県内大学図書館間との連携**

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

**第12節 福島県立美術館**

**1 概要**

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和2年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月19日(日)から5月15日(金)まで臨時休館となったほか、令和2年9月1日(火)から令和3年3月31日(水)まで、改修工事により長期休館となった。

**(1) 美術館運営協議会**

ア 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術部所属  
(平成25年1月1日～)
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属  
(平成27年1月1日～)
- 大沼 博文 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼  
福島県文化センター館長  
(令和3年1月1日～) ※会長
- 坂本 節子 福島県家庭教育インストラクター  
(平成25年1月1日～) ※副会長
- 齋藤 勝正 福島県美術家連盟顧問  
(平成29年1月1日～)

半沢 治久 日本放送協会福島放送局長  
(令和2年9月15日～)

岡部 兼芳 はじまりの美術館館長  
(令和3年1月1日～)

笠原美智子 アーティゾン美術館副館長  
(令和3年1月1日～)

齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長・教授  
(平成27年1月1日～)

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会理事  
(平成29年1月1日～)

#### イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和3年2月25日(木)

(イ) 内容 ・令和2年度事業の概要  
・令和3年度事業計画案の概要  
・福島県立美術館の運営等

## (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体 ・全国美術館会議 (会員)  
・日本博物館協会 (会員)  
・日本博物館協会東北支部 (会員)  
・東北地区博物館協会 (会員)  
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

## 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収集作品)の収集活動を継続的にしている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

令和2年度は17点の作品及び4件の資料を寄贈により収集した。

### (1) 収蔵作品点数(令和3年3月31日現在)

|       |        |
|-------|--------|
| 海外作品  | 450点   |
| 日本画   | 371点   |
| 洋画    | 920点   |
| 版画    | 1,148点 |
| 立体    | 145点   |
| 工芸    | 158点   |
| 書     | 39点    |
| 素描・下絵 | 217点   |
| 写真    | 410点   |
| 作品合計  | 3,858点 |
| 美術資料  | 69件    |

### (2) 収集評価委員会

#### ア 委員

中山 恵理 郡山市立美術館主任主査  
(令和元年12月1日～)

松下 由里 群馬県立近代美術館次長兼学芸係長  
(令和元年12月1日～) ※副委員長

三上 満良 元宮城県美術館副館長  
(平成23年12月1日～)

水沢 勉 神奈川県立近代美術館長  
(令和元年12月1日～)

村田 眞宏 豊田市美術館長  
(平成23年12月1日～) ※委員長

#### イ 委員会の開催

(ア) 期日 令和3年3月3日(水)

(イ) 内容 ・令和元年度収集作品の報告  
・令和2年度収集候補作品について

### (3) 令和2年度収集作品等

#### ア 美術作品及び美術資料の収集

|          |             |    |
|----------|-------------|----|
| 国内：日本画   | 荻生天泉        | 1点 |
|          | 酒井三良        | 4点 |
|          | 松林雪貞        | 2点 |
|          | 山内神斧        | 1点 |
| 国内：洋画    | 大石源太郎関係     | 5点 |
|          | 野見山暁治       | 2点 |
|          | 斑目秀雄        | 1点 |
| 国内：素描・下絵 | 野見山暁治       | 1点 |
| 国内：資料    | 松林家関係資料     | 1件 |
|          | 大石源太郎資料     | 1件 |
|          | 勝田蕉琴資料      | 1件 |
|          | 関根正二資料      | 1件 |
|          | 計17点、美術資料4件 |    |

#### イ 図書資料の収集

収蔵図書数 62,166冊

### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

#### ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：令和2年6月8日(月)～22日(月)、  
8月7日(金)～21日(金)

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

#### イ 美術品の修復

日本画については、酒井三良《左義長》、勝田蕉琴《安らかなる鳥の巣》を、洋画については、森田恒友《漁村風景》を修復した。また、フェルナン・レジェ《サーカス》の額を交換した。

#### ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計7回測定(休館中は2回測定)

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計45か所(休館中は22か所)

## 3 展示事業

### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。令和2年度は、改修工事による長期休館のため、展示替えは2回行った。

## コレクション展Ⅰ 令和2年3月20日(金・祝)

～6月28日(日)

春の日本画：湯田玉水《春日遅々》、酒井 三良《江南春色》

没後50年・角田磐谷：角田磐谷《漢織呉織之図》《屋後展望》

佐藤潤四郎のガラス：佐藤潤四郎《車》《金紅被硝子大皿》《玻璃花器》《馬》

福島戦後の洋画：鎌田正蔵《作品 黒》、橋本章《地平》、吉井忠《寓話》

フランス美術の名品：カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》、エルンスト《博物誌》

アメリカの美術：ベン・シャーン《恐怖の夜の町》、ワイエス《松ぼっくり男爵》

斎藤清の版画：《かすみ 慈愛》《地の幸》《風》

銅版画の魅力：長谷川潔《メキシコの鳩 静物画》、浜田知明《副校長D氏像》

## コレクション展Ⅱ 令和2年7月1日(水)

～8月30日(日)

日本画の名品：中島清之《胡瓜》、橋本関雪《倪雲林》、速水御舟《女二題》、下絵

関根正二と近代の洋画：岸田劉生《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》、関根正二《姉弟》

現代の彫刻：工藤哲己《危機の中の芸術家の肖像》、橋本章《看守さん》、入江比呂《胡座》

フランス美術の名品：カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》、ルノワール《帽子を被る女》

アメリカの美術：スローン《ジェファーソンマーケット ナイト》、レジナルド・マーシュ《回転ブランコ》

福島の版画家たち：斎藤清《会津の冬(坂下)》、安部直人《まなざし》、山中現《浜辺の夢》

## (2) 企画展

令和2年度は3回の企画展を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

### ア ブダペスト国立工芸美術館名品展

#### ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ

(ア) 会期 令和2年3月24日(火)～5月10日(日)

開催日数 43日(令和2年度 36日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月18日(土)をもって展覧会中止(開催日数 23日、令和2年度 16日)

(イ) 分野 近代西洋工芸

(ウ) 展示数 193点

(エ) 主催 ジャポニズム福島展実行委員会 [構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社]  
協賛 福島トヨタ自動車、佐藤燃料、福島県商工信用組合、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般 1,300(1,100)円、  
大学生・専門学校生 1,100(900)円、  
小・中・高校生 650(500)円

※( )内は前売料または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 3,394名(令和2年度 1,985名)

(キ) 概要

日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿る内容。ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟やラリックを含めた作品とともに、ジョルナイ陶磁器工房などハンガリーを代表する作品群を含めて約200点を紹介した。

(ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・講演会「開幕記念講演会」
- ・講演会「海を渡った日本工芸とジャポニズム」
- ・ゲストトーク「アール・ヌーヴォーとガラスーガラスアーティストの視点からー」
- ・ワークショップ「ガラスフュージングを楽しもう」
- ・庭園イベント「Folk, Thing, Made ～つくられたものと人と人」

## イ もうひとつの江戸絵画 大津絵展

(ア) 会期 令和2年5月19日(火)～6月28日(日)

開催日数 36日

(イ) 分野 江戸絵画

(ウ) 展示数 148点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 福島民報社、テレビユー福島  
企画協力 公益財団法人日動美術財団  
特別協力 公益財団法人日本民藝館

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、  
高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円

※( )内は前売料または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,967名

(キ) 概要

江戸時代、東海道を行きかう旅人相手に「おみやげ品」として売り出されたものが「大津絵」である。大津の逢坂峠から追分宿あたりで売られ、はじめは現世利益の仏画などだったが、次第に「藤娘」や「鬼念仏」といった世俗的な画題に人気が集まり、明治維新とともに街道みやげの役割を終えたといわれている。ところが、チープで単純素朴な絵に心奪われた人々が、明治以降ひそかにコレクションに加え、大津絵は美術品として注目されるようになる。コレクターは明治末の浅井忠、富岡鉄斎にはじまり、大正期の山内神斧、柳宗悦、そして戦後の小糸源太郎など。この展覧会は、そんな大津絵に魅せられたコレクター群像をひもときながら、日本民藝館をはじめとする名品約140点を味わう、美術館初の試みであった。

また、当館独自の試みとして、大津絵コレクターとして知られた山内神斧の特集展示「山内神斧と吾八の時代」を併催し、こちらも識者の注目を集めた。

### (ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・特別対談「大津絵を愛した人たち—富岡鉄斎から柳宗悦へ—」
- ・ゲストトーク「画家が収集した大津絵の魅力」
- ・ワークショップ「大津絵、描いちゃう？」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、YouTubeでの動画配信として実施

- ・ギャラリー対談「山内神斧と吾八の時代」  
講師：軸原 ヨウスケ（アウトオブ民藝研究家）×堀 宜雄（専門学芸員）
- ・ギャラリートーク  
講師：堀 宜雄（専門学芸員）

※予定どおり実施

- ・関連イベント  
「勝手に！大津絵ふきだしグランプリ！」

場所：エントランスホール

参加者数：約 200 名

大津絵展の会場の一角で、セレクトされた作品イメージにふきだしをつけて楽しむ企画。優秀なふきだしには「ナイス！」シールも。たくさんの「ナイス！」を獲得したグランプリのほか、館長賞、担当学芸員賞、監視員賞を選出し、当館ブログで結果を公表した。

### (ケ) 関連展示「山内神斧と吾八の時代」

(※観覧料は大津絵展に含まれる)

- ・会期 令和 2 年 5 月 19 日(火)～6 月 28 日(日)  
開催日数 36 日

- ・分野 近代日本画、資料
- ・展示数 58 点 (作品・資料をあわせて)
- ・概要

山内神斧(1886-1966)は大阪生まれの日本画家、玩具愛好家。大正時代に福島県会津地方に滞在して制作を行い、画会を催している。このため、喜多方をはじめ会津地方には彼の日本画作品がのこされている。大津絵展を機会に、山内神斧の画業とその後の小美術店「吾八」での活動や、主婦之友時代の仕事など、多方面にわたる活動を紹介した。

### ウ もうひとつの日本美術史—近現代版画の名作 2020

- (ア) 会期 令和 2 年 7 月 11 日(土)～8 月 30 日(日)

開催日数 44 日

- (イ) 分野 版画、資料
- (ウ) 展示数 作品 368 点、資料 31 点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円  
※( )内は 20 名以上の団体料金

- (カ) 観覧者数 3,205 名

- (キ) 概要

版画は、日本の美術の歴史を語る上で欠かせないものであり、海外から見た日本の美術を特色づける重要な表現でもある。しかし、近代以降、日本国内においては、美術表現としての立場を獲得するまでには長い時間がかかった。

1970 年代から 80 年代にかけて日本各地に公立の美術館が次々に設置され、各館は地域の風土とそこで生み出される表現に向き合いながら、現在まで研究・収集活動を続けてきた。本展覧会は、戦後 75 年、また 21 世紀に入って 20 年を経た 2020 年という節目の年に、地方都市にあるふたつの県立美術館である福島県立美術館と和歌山県立近代美術館のコレクションを中心に、版画という文脈において、地方から見えるもうひとつの近現代日本美術史を編み直す試みとして開催した。

### (ク) 関連事業

- ・講演会「日本『近現代』美術を『版画』表現で再考する」

講師：山野 英嗣（和歌山県立近代美術館館長）

日時：令和 2 年 7 月 23 日(木・祝)14 時～15 時 30 分

場所：講堂

参加者数：42 名

- ・スライドトーク

講師：紺野 朋子（主任学芸員）

日時：①令和 2 年 7 月 18 日(土)14 時～15 時 30 分

②令和 2 年 8 月 8 日(土)14 時～15 時 30 分

場所：講堂

参加者数：①15 名、②19 名

### エ 移動展「福島県立美術館の名画たち」

- (ア) 会期 令和 2 年 9 月 12 日(土)～11 月 8 日(日)

開催日数 49 日

- (イ) 会場 小峰城歴史館（白河市）

- (ウ) 分野 日本画・洋画・版画

- (エ) 展示数 48 点

- (オ) 主催 白河市、福島県立美術館

- (カ) 観覧料 一般 300(250)円、小中高生 100(50)円、障がい者 100(50)円

※( )内は 20 名以上の団体料金

- (キ) 観覧者数 4,244 名

- (ク) 概要

福島県立美術館は、令和 2 年 9 月から年度末まで改修工事により休館となり、その間、館内でコレクションを展示することができなくなった。福島県の貴重な文化資源を有効に活用してその豊かさと価値、多様性を広く県民と共有するという、福島県立美術館としての機能を中断させることなく継続して果たすために、県内 2カ所（小峰城歴史館、喜多方市美術館）においてコレクションの移動展を開催することとした。

白河市の小峰城歴史館では、同地出身の洋画家・関根正二の作品を中心に、彼と同時代を生きた画家たち

による洋画のほか、近世から近代にかけての日本画もあわせて展示した。また、令和元年度に白河市指定文化財に登録された関根の《老夫妻像》（白河市教育委員会蔵）を登録後としては初めて公開した。

#### オ 移動展「福島県立美術館 世界の名作展」

(ア) 会期 令和2年10月18日(日)～11月17日(火)

開催日数 27日

(イ) 会場 喜多方市美術館（喜多方市）

(ウ) 分野 西洋絵画・彫刻

(エ) 展示数 45点

(オ) 主催 喜多方市美術館、福島県立美術館

(カ) 観覧料 一般・大学・短大・専門学校生 300円、

65歳以上75歳未満 150円、

高校生以下・75歳以上無料

(キ) 観覧者数 1,928名

(ク) 概要

喜多方市美術館での移動展では、フランス印象派や、ベン・シャーン、ワイエスらアメリカの画家たち、アメリカに渡って画家として名を遺した日本人作家たちの作品などを中心に展示した。喜多方市で開催する県立美術館所蔵作品展は1999年以来21年ぶりであり、所蔵の海外作品の優品をまとめて一挙に紹介できる好機となった。

(ケ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：橋本 恵里(学芸員)、伊藤 匡(専門員)

日時：令和2年10月18日(日)

①14時～15時 ②15時10分～16時10分

場所：展示室内

参加者数：①18名 ②10名

・出張鑑賞授業

喜多方市立豊川小学校（5年生、6年生）

令和2年10月29日(木) 42名

喜多方市立第一中学校（1年生）

令和2年11月9日(月) 90名

喜多方市立山都中学校（1～3年生）

令和2年11月11日(水) 64名

喜多方市立第一中学校（2年生）

令和2年11月12日(木) 86名

## 4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

### (1) 調査活動

令和2年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家（渡辺光徳、斎藤清、李禹煥ら所蔵版画家、関根正二、喜多方美術倶楽部関係作家など）の調査を重点的に行った。

### (2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第6号を発行した。

・B5版81ページ、発行部数600部

・執筆者5名（荒木 康子、増渕 鏡子、坂本 篤史、橋本 恵里、伊藤 匡）

## 5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

### (1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和2年度の受入団体総数は4団体102人で、そのうち解説を行ったのは1団体15人である。

### (2) 鑑賞講座

館長講座「古典に帰れー西洋美術の巨匠たちー」

第6回「19世紀写実派 ミレー、コロー、クールベ」

※令和元年度に開催延期となった回の振替開催

講師：早川 博明（前館長）

日時：令和2年8月29日(土)

場所：講義室

参加者数：21名

### (3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「ミニ大津絵をつくろう！」

令和2年6月13日(土)、14日(日)

・講師：大北 孝（主任学芸員）

白木 ゆう美（副主任学芸員）

・場所：エントランスホール

・参加者数：26名

イ 「白黒コピー×モノタイプ」

令和2年7月19日(日)

・講師：大北 孝（主任学芸員）

・場所：実習室

・参加者数：3名

ウ 「建築廃材で小さなまちをつくろう

ー木製ブックスタンド制作ー」

令和2年8月22日(土)

・講師：門馬 美喜（画家）

・場所：実習室

・参加者数：14名

エ 「三原色で描く水彩画（入門）」

令和2年9月13日(日)

・講師：伊藤 将和（画家・上越教育大学准教授）

- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室4
- ・参加者数：10名
- オ 「リトルモンスターを作ろう！」  
令和2年10月17日(土)
- ・講師：宮嶋 結香(画家)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：21名
- カ 「ガラスフュージングを楽しもう」  
令和2年10月25日(日)
- ・講師：近岡 令(ガラス作家)
- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室4
- ・参加者数：22名
- キ 「魔法陣！ソーシャルディスタンス！！」  
令和2年12月12日(土)
- ・講師：イシザワエリ(アートワークショップデザイナー、東北芸術工科大学講師)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：22名
- ク 「グリザイユ技法で花を描く」  
令和3年2月13日(土)
- ・講師：大北 孝(主任学芸員)
- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室4
- ・参加者数：6名
- ケ 「まんまるもじゃもじゃポケットつきバッグをつくろう！」  
令和3年3月13日(土)
- ・講師：鈴木 孝昭・坂内 まゆ子(FRIDAY SCREEN)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：12名

#### (4) 美術館・学校教育連携事業

##### ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心とした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和2年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて12校(参加者延べ226名)で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和3年1月15日(金)～1月24日(日)の期間、福島市子どもの夢を育む施設こむこむの企画展示室にて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

- (ア) 作家：Naomi Horiike(アーティスト)
- プログラム：絵の中を泳ぐ
- 内容：アクションペインティングをテーマに、身体を思う存分使い、自分自身が絵の一部となって作品の主人公となるワークショップ。

開催校・開催日・人数：

- 県立相馬高校・相馬東高校・原町高校(美術部)  
令和2年9月19日(土) 20名
- 会津坂下町立坂下中学校(美術部)  
令和2年9月27日(日) 22名
- 郡山市立御館中学校(2年生)  
令和2年10月5日(月) 23名
- 郡山市立緑ヶ丘中学校(美術部)  
令和2年11月7日(土) 13名
- 会津若松市立第一中学校(美術部)  
令和2年11月28日(土) 18名
- 会津若松市立第二中学校(美術部)  
令和2年11月28日(土) 18名

- (イ) 作家：FRIDAY SCREEN(アートユニット)

プログラム：音・色・かたち

内容：音と色とかたちを組み合わせる美術のワークショップ。

開催校・開催日・人数：

- 福島市総合教育センター(ふれあい教室)  
令和2年10月1日(木) 10名
- 福島市総合教育センター(ふれあい教室)  
令和2年10月27日(火) 9名
- 福島市総合教育センター(ふれあい教室)  
令和2年11月10日(火) 11名
- 郡山市立日和田中学校(美術部)  
令和2年10月18日(日) 11名
- 田村市立大越小学校(6年生)  
令和2年10月22日(木) 27名
- 二本松市立渋川小学校(5年生)  
令和2年11月5日(木) 12名
- 会津美里町公民館  
令和2年11月14日(土) 21名
- 福島県立小野高等学校(美術部)  
令和2年11月21日(土) 11名

##### イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和2年度も前年度に引き続き、前期(県立美術館)、後期(福島県教育センター)の2回に分けて開催した。

##### (ア) 前期

日時：令和2年7月31日(金)10時～15時45分

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてI」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

講師：梅野 文代(教育センター指導主事)

大北 孝(主任学芸員)

白木 ゆう美(副主任学芸員)

参加者：小学校教諭6名、中学校教諭3名、  
高等学校教諭1名 合計10名

(イ) 後期

日時：令和2年10月30日(金)13時～14時

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

講師：梅野 文代(教育センター指導主事)

大北 孝(主任学芸員)

参加者：小学校教諭5名、中学校教諭3名  
合計8名

**(5) 博物館実習**

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和2年8月18日(火)～23日(日)

受講者数：7名

**(6) 友の会、協力会との連携事業**

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を見合わせ、令和2年度は次の事業のみ実施した。

ア ワークショップマート

～おうちを美術館にしよう～

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のようなワークショップ出店ではなく、持ち帰って家で楽しめるワークショップキットの販売とワークショップを行った。

日時：令和2年8月2日(日)9時30分～14時

場所：庭園

企画・ディレクション：FRIDAY SCREEN

参加者数：約300名

イ ミュージアム・コンサート

「ラテンジャズでホットな春を！(夏ヴァージョン)」

<NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催>

日時：令和2年8月8日(土)19時～20時30分

場所：エントランスホール

演奏：ラテン・トリオ・プロジェクト

参加者数：約100名

ウ 触って、話して、見て楽しむ

美術鑑賞ワークショップ

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

移動展「福島県立美術館 世界の名作展」関連事業として、喜多方市美術館にて開催した。見える人、見えない人一緒に、彫刻作品を触ったり、作品について話したりしながら鑑賞をするという企画。当館の観賞用補助教材アートキューブを用いて、彫刻制作に用いる素材を触って確認した後、出品作品のオーギュスト・ロダンの2点とヘンリー・ムーアの1点を対象に、お互いに話をし

ながら触察によって鑑賞を行った。

日時：令和2年11月3日(火・祝)

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所：喜多方蔵の里、喜多方市美術館展示室

講師：橋本 恵里(学芸員)、伊藤 匡(専門員)

参加者数：①12名、②3名

(いずれも視覚障がい者と介助者含む)

エ 「美術館イラストマップ」制作

<NPO法人福島県立美術館協力会>

伊達市出身のイラストレーター佐藤ジュンコ氏を起用し、敷地内や館内の見どころなどを紹介する「美術館イラストマップ」を制作した。令和3年度の再開館以降、館内で配布し、普及事業等で活用していく。

オ アートカード「ぼけっとアート」貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材「ぼけっとアート」の貸出を継続して行っている。令和2年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、137か所、700セットである。

**(7) その他の事業**

ア 福島県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」  
幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」を実施した。

テーマ：「夏をさがそう」

日時：令和2年8月8日(土)14時～15時30分

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：8名

イ 委員等

- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事(長根 由里子館長、荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・いわき市美術品選定評価委員会委員(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・郡山市立美術館協議会委員(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・福島県総合美術展覧会運営委員会委員(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員会委員(紺野 朋子主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員(坂本 篤史主任学芸員)
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員(坂本 篤史主任学芸員)
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員(白木 ゆう美副主任学芸員)
- ・須賀川市文化財保護審議会委員(伊藤 匡専門員)



- ウ 講師、寄稿、発表、受賞等
  - ・2020年美連協大賞（美術館連絡協議会）  
「もうひとつの日本美術史 近現代版画の名作2020」  
優秀カタログ賞-美連協展部門-受賞
  - 「もうひとつの江戸絵画 大津絵」  
優秀カタログ賞-自主展部門-受賞
  - ・福島大学人間発達文化学類  
「現代アートマネジメント」講師  
令和2年6月12日(金)（増渕 鏡子専門学芸員）
  - ・福島大学行政政策学類「博物館教育論」講師  
令和2年10月1日(木)～令和3年3月15日(月)  
全15回（伊藤 匡専門員）
  - ・筑波大学人文・文化学群「博物館学Ⅲ」講師  
令和2年7月1日(水)～9月30日(水) 全7.5時間  
（増渕 鏡子専門学芸員）
  - ・福島県立医科大学医学部  
「博物館・美術館にみる芸術と文化」講師
    - ①令和2年11月25日(水)（坂本 篤史主任学芸員）  
「亜欧堂田善と蘭方医学」
    - ②令和2年12月2日(水)（伊藤 匡専門員）  
「関根正二と大正期の美術」
    - ③令和2年12月9日(水)（紺野 朋子主任学芸員）  
「斎藤清と福島の版画」
    - ④令和2年12月16日(水)（白木 ゆう美副主任学芸員）  
「河野保雄コレクション」
  - ・本宮市白沢公民館文化財講座講師（伊藤 匡専門員）  
第1回「石井柏亭と高村光太郎」  
令和2年9月24日(木)  
第2回「関根正二」  
令和2年10月29日(木)  
第3回「吉井忠」  
令和2年11月26日(木)
  - ・日本フランス語フランス文学会東北支部大会シンポジウム「フランスにおける文学と美術の交差と共振：想像の源泉としての影響関係をめぐって」講師  
令和2年11月28日(土)（橋本 恵里学芸員）  
「アンリ・ルソーの画業における  
ジャリとアポリネールの存在」
  - ・山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」講師  
令和2年12月10日(木)（白木 ゆう美副主任学芸員）  
「美術館教育普及の仕事について」
  - ・放送大学栃木学習センター公開講演会講師  
令和3年2月14日(日)（橋本 恵里学芸員）  
「『内』から『外』へ—美術館の発信活動—」

エ 動画配信等による情報発信  
新型コロナウイルス感染症拡大により、ギャラリートーク等の企画が一部実施できなくなったことを受け、令和2年4月30日に動画共有サービス YouTube に公式チャンネルを開設し、新たな取り組みとして展覧会の見どころ等を紹介する動画配信を行った。

- ・「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」  
担当学芸員の一押し！
- ・佐藤玄々《天女（まごころ）像》のデジタル測量について～視点の軌跡が生み出す3Dデータ～
- ・「もう一つの江戸絵画 大津絵展」見どころ紹介
- ・大津絵展ギャラリー対談「山内神谷と吾八の時代」
- ・福島県立美術館常設展示のご案内（2020年度第Ⅱ期）
- ・「もうひとつの日本美術史 近現代版画の名作2020」
- ・「福島県立美術館の名画たち  
—関根正二と洋画・日本画の名品—」
- ・「福島県立美術館 世界の名作展」
- ・「2020 学校連携共同ワークショップ参加校作品展」  
（前期・後期）

## 6 施設・設備の整備

耐震性や展示環境の向上のため、施設・設備の改修工事を実施した。

### (1) 美術館エレベーター減災化工事

令和2年7月15日(水)～令和3年3月31日(水)  
ダイコー株式会社

### (2) 県立美術館展示室照明改修工事

令和2年9月23日(水)～令和3年3月31日(水)  
株式会社大山電気工事

### (3) 美術館天井減災化工事

令和2年10月14日(水)～令和3年3月31日(水)  
株式会社古俣工務店

### (4) 美術館展示室（壁・床）改修工事

令和2年10月16日(金)～令和3年3月31日(水)  
国分木材工業株式会社

## 第13節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和2年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月21日(火)から5月15日(金)まで臨時休館となった。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

##### ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

##### 学校教育

鈴木 廣美 いわき市立小名浜東小学校長  
伊藤 俊幸 福島県立会津支援学校長

社会教育

長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館経営総務  
課広報グループチーフ

岡部 兼芳 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美  
術館館長

家庭教育

滝澤 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡  
協議会 会津さざなみの会会員

学識経験者

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進  
本部国際戦略室長・准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家（公募）

イ 会議

第1回 令和2年7月7日（火）

議題

- ①令和元年度博物館入館者数について
- ②令和2年度当初予算について
- ③令和2年度事業計画について
- ④企画展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥震災遺産プロジェクトの今後のあり方について
- ⑦ライフミュージアムネットワーク2020について
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和3年2月18日（木）

議題

- ①令和2年度博物館入館者数（令和3年1月末現在）  
について
- ②新型コロナウイルス感染症対策（令和2年度の取り  
組み）について
- ③福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画  
について
- ④福島県立博物館第3期中期目標（令和2年12月末現  
在）について
- ⑤令和3年度事業計画（案）について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、  
12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

| 氏名     | 役職名                               | 備考   |
|--------|-----------------------------------|------|
| 有賀 祥隆  | 東北大学名誉教授、東京藝術大学<br>客員教授           | 委員長  |
| 村川 友彦  | 福島県史学会会長、元福島県歴史<br>資料館課長          | 副委員長 |
| 岡田 清一  | 東北福祉大学大学院嘱託教授                     |      |
| 原田 一敏  | ふくやま美術館館長                         |      |
| 柳田 俊雄  | 東北大学名誉教授、東北大学総合<br>学術博物館協力研究員     |      |
| 玉川 一郎  | 福島県考古学会長                          |      |
| 大石 雅之  | 岩手県立博物館研究協力員、東北<br>大学総合学術博物館協力研究員 |      |
| 三上 喜孝  | 国立歴史民俗博物館教授                       |      |
| 北野 博司  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺<br>産学科教授          |      |
| 加藤 幸治  | 武蔵野美術大学教養文化・学芸員<br>課程教授           |      |
| 角屋 由美子 | 米沢市上杉博物館 上杉文化研究<br>室室長            |      |
| 奥村 弘   | 神戸大学大学院人文学研究科教授                   |      |

イ 会議

コロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わ  
ず、書面開催とした。

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和3年度・令和4年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④震災遺産保全プロジェクトの今後のあり方について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (ア) 受贈  
教育勅語(謄本)ほか 計71件
- (イ) 受託  
口上之覚ほか 計14件

イ 美術資料

- (ア) 受贈  
刀 銘鈴木加賀守貞則ほか 計94件
- (イ) 受託  
佐竹永海筆「秋月野花図」ほか 計23件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈  
窓鋸ほか 計104件
- (イ) 受託  
上行合人形(頭)ほか 計2件

エ 考古資料

- (ア) 受贈  
土師器 1件

オ 自然資料

- (7) 受 贈  
メタセコイア(広野町産双葉層群足沢層)ほか 計2件
- (i) 受 託  
宮古層群産アンモナイト 1件

### (3) 購 入

- ア 自然資料  
現生貝類標本(コンペイトウガイほか)ほか 計45件
- イ 図書資料
  - (7) 一般図書 70冊
  - (i) 定期刊行物 32種

### (4) 制 作

- ア 民俗資料  
会津ダルマほか 計2件

## 3 保存管理事業

### (1) 資料の収蔵

- ア 博物館資料  
資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。  
収蔵資料数(令和3年3月31日現在)

| 分野   | 件数      | 備 考                |
|------|---------|--------------------|
| 考古   | 20,235  | 土器・石器・金属器ほか        |
| 民族   | 14,013  | 生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか |
| 歴史   | 22,474  | 書籍・文書資料ほか          |
| 美術   | 6,980   | 絵画・彫刻・工芸資料ほか       |
| 自然   | 44,487  | 化石・岩石・鉱物ほか         |
| 震災遺産 | 375     | 被災遺物、文書資料、写真ほか     |
| 合計   | 108,564 |                    |

### 登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和3年3月31日現在)

| 資料類別   | 登録資料<br>(令和2年度) | 登録資料<br>(累計) | 資料情報の外部公開<br>(令和2年度) | 資料情報の外部公開<br>(累計) |
|--------|-----------------|--------------|----------------------|-------------------|
| 考古資料類  | 0               | 12,130       | 0                    | 3,532             |
| 民俗資料類  | 348             | 15,208       | 348                  | 5,580             |
| 歴史資料類  | 130             | 45,851       | 2,029                | 14,717            |
| 美術工芸品類 | 1               | 6,231        | 0                    | 36                |
| 自然標本類  | 889             | 26,533       | 868                  | 13,131            |
| 合計     | 1,368           | 105,953      | 3,245                | 36,996            |

### ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開始が遅れ、活動自体を縮小せざるを得なかった。

- (7) 自然資料整理  
化石・岩石標本の整理作業  
登録人数 3名 活動日数 4日
- (i) 古文書整理

令和2年度収蔵指定文化財 国指定:8件  
福島県指定:45件

### イ 図書及び映像

- (7) 収蔵図書数(令和3年3月31日現在)  
考古分野:28,187冊 民俗分野:5,063冊  
歴史分野:10,943冊 美術分野:4,813冊  
自然分野:17,705冊 保存分野:1,904冊  
震災遺産:135冊 その他:60,759冊  
合計:129,509冊
- (i) 収蔵映像資料数(令和3年3月31日現在)  
収蔵映像資料総数:1,374点

### (2) 登録・整理

#### ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

#### イ 資料の登録・資料情報の外部公開

古文書整理ボランティア登録者のうち7名が参加し、月1回の開催で文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。活動日数は6日。

- (7) 民俗資料整理  
月例の収蔵庫資料整理日の作業に参加  
登録人数 1名
- (i) 考古資料整理  
灰塚山古墳出土品の整理など  
登録人数 1名

### (3) 貸出

ア 博物館資料  
貸出資料一覧

| 資料名                                                                                                                       | 貸出先           | 貸出期間                | 展覧会名                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------------|---------------------------------|
| 竪矧広板革綴衝角付冑 地板ほか 15点<br>鉄製胸当 1点<br>小札(鍔・頬当) 8点<br>金銅製双魚佩 1点                                                                | 群馬県立歴史博物館     | 令和2年6月20日～10月10日    | 企画展「綿貫観音山古墳のすべて」                |
| 単斜輝石斜方輝石安山岩 1点                                                                                                            | 磐梯山噴火記念館      | 令和2年7月7日～11月30日     | 企画展「安達太良火山」                     |
| 図書 一・三・四・六・九 5点<br>長沼弥七郎盛秀判物 1点                                                                                           | 奥会津博物館        | 令和2年9月1日～11月30日     | 特別企画展「中世の奥会津～南山地方をめぐる武士社会の変遷～」  |
| 泉崎村原山1号墳出土力士埴輪複製 1点                                                                                                       | 福島県文化財センター白河館 | 令和2年9月10日～12月26日    | 企画展「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川上流域に暮らした人々ー」 |
| 刺繍阿弥陀名号掛幅(当館受託資料) 1幅<br>刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅(当館受託資料) 1幅<br>阿弥陀三尊来迎板木(当館受託資料) 1点<br>五輪供養塔板木(当館受託資料) 1点<br>百万遍念仏の数珠箱・数珠・鉦(当館受託資料) 1組 | 南相馬市博物館       | 令和2年9月15日～12月15日    | 企画展「冥界へようこそ」                    |
| メタセコイア(福島県双葉郡広野町産) 1点                                                                                                     | 国立科学博物館       | 令和3年1月18日～4月9日      | 企画展「メタセコイアー生きている化石は語るー」         |
| 千円札3号券 1点                                                                                                                 | 野口英世記念館       | 令和3年3月18日～令和4年3月31日 | 東北DC特別展「千円札の顔 野口英世の宝物」          |

#### イ 写真資料

総数 : 111件 187点  
 考古 : 17件 21点      民俗 : 3件 8点  
 歴史 : 53件 94点      美術 : 30件 31点  
 自然 : 5件 7点      震災遺産 : 3件 26点

### (4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

#### ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)など主要なスペースの保存環境を2月10日～3月3日にかけて調査した。

#### イ 生物被害防除

6月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、1,147件燻蒸処理した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

#### ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- (ア) 「山口弥一郎のみた東北」
- (イ) 「けんぱくの宝 2020 旅によせて」
- (ウ) 「美しき刃たちー会津編」
- (エ) 「祈りのふくしま4」
- (オ) 「ふくしまの焼きもの1」
- (カ) 「山川浩と健次郎」
- (キ) 「会津の修験ー西会津町旧福寿院の宗教世界」

#### イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全21回開催した。

- (ア) 「郷土玩具で旅するニッポン」
- (イ) 「宇都宮・会津仕置 430周年記念①道中絵図にみる秀吉の通った道」
- (ウ) 「描かれた民俗ー暮らしの記録と地域の行事」
- (エ) 「宇都宮・会津仕置 430周年記念②秀吉がやってきた！」
- (オ) 「みんなの震災遺産」
- (カ) 「東京オリンピックとその時代」
- (キ) 「会津藩校日新館の教科書」
- (ク) 「新知見！墓料遺跡」
- (ケ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

- (コ) 「会津藩家老田中土佐の短刀」
- (カ) 「宇都宮・会津仕置 430 周年記念③なるほど！太閤検地」
- (シ) 「わら細工としめ飾り」
- (ス) 「斎藤一と会津」
- (セ) 「磐梯山ジオパーク展」
- (ソ) 「道具とくらしのうつりかわりー食事を彩る道具たち」
- (タ) 「古代あいつの仏教文化ー湯川村堂後遺跡」
- (チ) 「チャレンジ！今月の古文書 正月編」
- (ツ) 「サンゴ化石の世界」
- (テ) 「チャレンジ！今月の古文書 如月編」
- (ト) 「雛祭り与人形」
- (ナ) 「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」

## (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和2年度は、4本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねてー」

(ア) 会 期 令和2年5月16日(土)～6月28日(日)  
開館日数 38 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 1,331 人

(エ) 担当学芸員 歴史・民俗分野

栗原 祐斗、阿部 綾子、高橋 充、筑波 匡介、  
江川 トヨ子、内山 大介、山口 拓

(オ) 趣 旨

福島県立博物館は、観光地・会津若松に立地しており、春や秋のシーズンには、多くの観光客が訪れる。観光業は会津若松に限らず福島県全体にとって重要な産業に成長しているが、本県の観光がいかなる歴史を辿ってきたかは知られていないことも多い。そこで本展では、近・現代の旅行と観光をテーマに、鳥瞰図や絵はがき、観光パンフレット、お土産品、鉄道関係の資料などを、時代や地域の特徴に注目して展示し、観光地としての福島県のあゆみを紹介することを目指した。

(カ) 展示構成

序 章 歩いて出発、のんびりと～徒歩の旅～

第1章 速いぞ列車、もうすぐだ～鉄道の旅～

第2章 ふくしま到着、どこ回ろう

～温泉・観光地の歴史を辿る～

終 章 魅力いっぱい、また来よう

～ふくしま旅行の今～

出品点数：東北汽車旅行振分双六、渋沢栄一書状、機関車ナンバープレート、駅名標、電車座席 455 系用、旅館名「なかむらや」表札、摺上橋真景、花水館宿札、東山温泉協会パンフレット、向瀧法被、フラガール衣装、ペナント、赤べこ木型、木刀など 325 件

(キ) 関連事業

- ・記念講演会「鉄道と観光の近現代史」
- ・ワークショップ「フィルムカメラを知る・撮る・楽しむ」
- ・バスツアー「裏磐梯に託した想い～遠藤現夢のゆめ～」

上記3件のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(ク) 成果

近・現代の福島県旅行を主テーマとする展示は、県内博物館の展示を振り返ってみてもあまり例がなく、当館としても初の試みであった。そのため、資料の所在情報が乏しく、手探りの準備となった。地域に偏りは出てしまったが、福島県内の時代ごとの旅行・観光の特徴と関係資料を展示と図録にまとめることができたのは、本展の成果といえる。

なお、本展はもともと4月29日に開幕し、春の行楽に訪れる方々の来場を見込んで、様々なイベントや仕掛けを用意していた。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、4月21日より当館が臨時休館し、開幕は5月16日まで延期した。企画展の関連イベントは、最終日の展示解説会以外すべて中止となった。また展示室内外には、記念撮影用のスポットも用意していたが、感染防止の観点から内容を変えて実施したことも付記しておきたい。

イ 夏の企画展

「会津のSAMURAI 文化ー蒲生氏郷と藩士たちの文武ー」

(ア) 会 期 令和2年8月1日(土)～9月22日(火・祝)

開館日数 47 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主催：福島県立博物館、福島民報社

特別協力：ふくやま美術館

後援：会津若松市、会津若松市教育委員会

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

(エ) 入館者数 6,780 人

(オ) 担当学芸員 歴史分野：高橋 充、阿部 綾子

美術分野：川延 安直、小林 めぐみ

自然分野：相田 優

考古分野：山本 俊、田中 敏

(カ) 趣 旨

会津の歴史といえば、まず戊辰戦争が想起されるが、戦争の舞台にもなった若松城や城下町の基礎は、江戸時代初期の蒲生氏郷の治世に形づくられ、保科正之を祖とする会津松平家の時代に藩政の整備や経済の発展が進んだ。この企画展では、ふくやま美術館の格別の御理解・御協力のもと、特別展示として、氏郷が所持したと伝える国宝「短刀 銘国光(名物 会津新藤五)」を、ゆかりの地で初公開させていただいた。さらに当館の収蔵品をはじめ、会津に伝えられた藩士や城・武家屋敷に関する資料を展示公開し、会津の武家文化の伝統をたどった。

新型コロナウイルスの感染症拡大の中で、これまでの当たり前の暮らしのありがたさが身に染みて感じられるようになった。今回の展示の中では、戦時ではない日常的な暮らしや文化的な営み、また有名な大名・藩主ばかりでなく多くの無名の武士たちにも目を向けた。このような状況だからこそ、あらためて共感していただけたところもあった。

福島や会津に住む皆さまに、地元ゆかりの資料を、あらためて一点一点じっくりと観覧していただき、会津の歴史や文化の奥深さを感じていただける企画展を目指した。

#### (キ) 展示構成

プロローグ 430年前の会津一道中絵図にみる秀吉の  
通った道一

1. 特別展示「会津新藤五」と蒲生氏郷  
「短刀 銘国光(名物会津新藤五)」(国宝 ふくやま美術館蔵)ほか
2. 収蔵品でたどる会津の文と武  
「保科正之画像」(県重文 土津神社蔵・当館寄託)ほか
3. 若松城と武家屋敷  
若松城郭内武家屋敷出土資料(会津若松市教育委員会蔵)ほか

展示資料 歴史・美術資料 68件(展示替え資料を含む)  
自然・考古資料 86件

#### (ク) 関連事業

##### ・館外の連携

若松城天守閣郷土博物館

特集展示「刀」(7月18日～9月8日)

会津若松市ナイトタイムエコノミー(七日町通り)

8月8日・21日

動画制作・配信「KKC なんばん先生シリーズ」

御薬園編・茶室隣閣編・鶴ヶ城公園弓道場編

#### (ケ) 成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初の計画を大幅に変更し、全体的に規模を縮小して実施することになった。当初は7月18日～9月13日としていた会期を変更し、観覧料も変更した。また準備が間に合わなかったため図録は作成せず、ふくやま美術館発行の刀剣図録を販売した。展示室内での混雑を避けるため、およそ25名を目安に入場を制限し、室内の人数の把握の方法や展示物のレイアウトの工夫、夜間開館延長など、コロナ禍における企画展の様々な感染症対策を行った。入場者数は、規模縮小後に想定した人数に近いものとなり、大きな混乱はなく会期を終えることができた。

関連行事や連携展示についても、感染症対策を最優先させた結果、当初の計画に比して、十分に展開できない部分は多かった。その中で、「KKC なんばん先生シリーズ」御薬園編・茶室隣閣編・鶴ヶ城公園弓道場編

などの動画を制作・配信したり、若松城天守閣郷土博物館の特集展示や会津まつり等市内の行事とゆるやかに連携した事業を展開できたことは成果であった。

#### ウ 秋の企画展「発掘された日本列島 2020」

(ア) 会 期 令和2年10月10日(土)～11月15日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 文化庁、福島県立博物館、福島民報社、  
福島民友新聞社、全国新聞社事業協議会

(エ) 入館者数 6,156人

(オ) 担当学芸員 考古分野:高橋 満

#### (カ) 趣旨

文化庁では、国民が埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深める機会として、全国で毎年9,000件近く行われる発掘調査のうち近年特に注目された成果を広く公開する「発掘された日本列島」展を全国数か所の公立博物館等を巡回して例年開催している。当館では17年ぶりの開催となった。

文化庁による中核展示の「新発見考古速報(速報展)」では近年、発掘調査成果が注目された縄文時代から近世の7遺跡の出土品約150点を公開した。このうち古代では群馬県高崎市の史跡多胡郡正倉跡に関連して「多胡碑」レプリカが出品されたが、高崎市のご厚意により「山上碑」・「金井沢碑」(ともにレプリカ)の出品があり「上野三碑」が勢ぞろいすることになり、関連した講演会を実施した。さらに特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」として、多様な気候や自然環境と共生し、育まれた地域の文化によって形作られた我が国の多様な歴史や文化を、旧石器時代から古墳時代にかけての全国的に著名な46遺跡の調査成果を約250点の出土品で紹介した。特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」では地方自治体が記念物をテーマに実施している様々な取り組み16件をパネル等で紹介し、記念物のもつ魅力や可能性を発信した。

また列島展開催各館が独自に開催する地域展示として近年の発掘調査で多様な副葬品や古代の王者の人骨が発見された喜多方市灰塚山古墳(古墳時代中期)の出土品を県内初公開。このほか東北地方で最も古い埴輪列が確認された須賀川市団子山古墳(古墳時代前期)、古墳時代後期では東北地方最大級の大きさとなる可能性が指摘された、いわき市塚前古墳などの調査成果を公開し、県内各地域で明らかになった古墳時代研究の最前線を速報した。

#### (キ) 展示構成

- 1 新発見考古速報(速報展)
- 2 特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」
- 3 特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」
- 4 地域展「ふくしま古墳発掘フロンティア」

## (ク) 成果

全国の発掘調査成果に触れることができる展示であり、当館での開催が17年ぶりであったこともあり、会期は短かったが多くの来場者にめぐまれた。1日の平均観覧者数は192.3人であり、考古学を主題とする企画展ではここ20年で最も多い観覧者数となった。また図録の売り上げも好調で、出版元から仕入れた部数をすべて売り切った。観覧者における購入比率は5.7%となり、図録販売率も高かった。

列島展は地元新聞社とともに主催する形式であるが、今回は福島民報社と福島民友新聞社の両社が主催に入ることとなった。これは、県内で開催される各種催事において異例のことであり、もちろん当館でも初めてのことである。この結果、県内の新聞購読世帯の大部分に対し新聞を通じた広報が可能となり、その効果は大きかったと推察される。

コロナ対応として展示室内の観覧人数25名を目安とすることで密を避けることにした。結果的に30分を1コマとすると会期中の土日祝日を中心に90コマで入場制限(入場待ち)が生じた。秋の企画展からはプレゼンテーションソフトに来場者数を表示させるログを取得し、リアルタイムの観覧者数と単位時間当たりの入場者小計を把握できるようにした。これを基に来場者の動向が把握できるようになり、混雑情報をSNSなどで発信できるようになった。混雑情報は延べで約2万回の閲覧があった。その結果、混雑情報のアナウンス前後で、土曜日の15時30分以降の来場動向に変化が生じている。

## エ 冬の企画展

「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」

(ア) 会 期 令和3年1月16日(土)～3月21日(日)

開館日数 54日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 観覧者数 3,265人

(エ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム

筑波 匡介、阿部 綾子、内山 大介、大里 正樹、栗原 祐斗、高橋 満、塚本 麻衣子、弦巻 優太

(オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から実施してきた。本展示会では、東日本大震災の発生から10年目において、改めてこれまでに収集・保全した「震災遺産」と向き合うことで、次の10年に向けて何を考えていくべきなのか、来館者と共有することを目的とした。

(カ) 展示構成

第1章 東日本大震災を考える「震災遺産が伝える地域の足跡」「大地の動き 自然の営み」「止められた日常 日常化した非日常」

地震・津波・火災と原子力発電所の事故を伝える震災遺産とともに、東日本大震災を振り返った。

第2章 震災遺産から考えたこと「場所を保全する」「文字を保全する」「時間を表現する」「物語を継承する」

学芸員が震災遺産を収集するとき、何を考えていたのか、集められた震災遺産をどう読み解いたのか。震災遺産とどのように向き合ってきたかを紹介した。

第3章 震災遺産が伝える事「復旧 取り戻すために」「残す 経験を伝えるために」「考える これからをどう生きるのか」「復興」

集めた震災遺産がなにを語るのか、伝えられるのか、震災遺産を関係者の言葉を紹介し、来館者とともに震災遺産を考えた。

出品点数 富岡町災害対策本部跡関連資料、浪江町避難所資料ほか、合計174件(館蔵品、個人から借用品を含む)

## (キ) 成果

例年、冬期間の特集展として「震災遺産を考える」を実施してきたが、東日本大震災の発生から10年を迎えることもあり、今までの研究成果を広く社会へ還元するために企画展として開催することとした。

満足度はアンケート結果からは、94%の来館者より観覧の価値ありと評価を頂けたことは励みとなった。今まで蓄積した研究成果を発揮できたものと考えている。また冬季間の開催であり当初より来館者数では苦戦することは予想できたので、記録誌(図録)の編集に力点を置いたことも、多くを頒布することにつながり、通信販売も広く全国から問い合わせを頂いている。

博物館での研究とは異なる分野の研究者も多く来館された。関連イベントとして実施したフォーラムでは、現場で活躍する研究実践者からも、たくさんの質問を頂くことができ話題が補填され、内容がより充実したものとなった。また参加いただいた研究者からも今後移動展や連携した研究などの相談をいただいております。新しい展開を期待している。

## (3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。

ア 特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」

(ア) 会 期 令和2年2月11日(火・祝)～4月12日(日)

開館日数 54日間(令和2年度 43日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 後 援 公益財団法人福島県イノベーション・コースト構想推進機構

(エ) 観覧者数 237人(会期中の累計観覧者数 2,323人)

(オ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員

(カ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災

災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から、震災遺産を振り返り、それぞれが過ごしてきた時を共有することを目指した。

(キ) 展示構成

- a 命 半杭一成 牛がかじった柱のレプリカ
- b 繰り返した避難生活から感謝の日々へ 伊藤まり 浪江中学校避難所資料等
- c 負けたままではいられない 金谷清子 旧相馬女子高避難所資料等
- d ふるさとへの想い 浪江新聞販売センター資料等
- e 情報の架け橋として 鈴木新聞舗資料等
- f 光の鳥 子どもたちのメッセージ
- g 富岡は負けん！ 横断幕レプリカ、通行許可証等
- h 大熊町の記憶 フロッタージュ作品
- i 福島県生涯学習課所蔵資料 東日本大震災・原子力災害伝承館所蔵予定資料 出品点数 104 件

(ク) 関連事業

予定していた展示解説会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

**(4) 指定文化財の公開**

令和2年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア 国指定

〈国宝〉

- (ア) 短刀〈銘国光（名物会津新藤吾）〉1口 ふくやま美術館  
（企画展「会津のSAMURAI 文化―蒲生氏郷と藩士たちの文武―」にて展示公開）

〈重要文化財〉

- (イ) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会（福島県）  
（総合展示室：原始にて展示公開）

イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- (ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県
- (イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市
- (ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
- (エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点 会津坂下町  
（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）

**(5) 展示解説**

ア 展示解説員

令和2年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、年間を通して展示室内での解説業務は中止となり、けんぱくハイライトツアー、通し解説、部屋送り解説は実施されなかった。本来の業務が大幅に制限される一方で、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施など、これまでにない多くの業務が加わった。

口頭での解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ&A形式でデジタルサイネージを使って表示する、個々のスキル維持のために体験学習室の着付けや展示解説の研修・練習を進めるなど、できることから仕事を進めており、通常業務に戻る日々に備えている。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。

また、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、臨時休館後の春の企画展期間中（5月16日～24日の開館日、及び5月30日～6月28日の土日）はエントランス入口に「コンシェルジュ」を設置し、学芸員が終日、感染防止対策の周知やマスク着用をお願い等の来館者対応を行った。コンシェルジュを含め、令和2年度の立ち番は年間433回（内、コンシェルジュ80回）を数えた。

また、企画展、テーマ展等の展示については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学芸員による展示室内での対面による展示解説は原則休止した。代替措置として「見どころ解説会」などの形で、感染対策をした上で講堂内でスライド上映などによる展示紹介を開催した。

**(6) 体験学習室**

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかかなり本格的で好評を得ていた。

新型コロナウイルス感染拡大にともない時代衣装の着付けや昔のおもちゃ等、体験学習室は物や人の接触を多くともなうため6月末までは閉室した。その後7月から土日のみの限定的な日数で運用を開始したが、企画展の会期中は、展示室の人数管理のため展示解説員の人員確保ができなかったために資料展示を中心とした方法で運用した。



展示については、市内の高校生が当館で公開された屏風絵を鑑賞し、その学びを生かして描いたオリジナルの屏風作品、当館開催の考古学講座「縄文土器をつくろう」で制作した土器を展示した。また、企画展「震災遺産を考える」と連動させて博物館実習生がプログラムの中で実施した「ミニ防災講座」で制作した解説パネルや防災グッズ等の展示を行う等、当館の資料や講座、授業やプログラム等で制作した成果展を行った。

## 5 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和2年度は以下の7テーマの調査を実施した。

#### ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

##### (ア) 分野 考古分野

##### (イ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪(館蔵)及び本宮市天王壇古墳出土埴輪(本宮市蔵)の形象埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

#### イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

##### (ア) 分野 震災遺産保全チーム

##### (イ) 調査概要

今まで調査研究した成果として、「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」とした企画展を実施した。聞き取り調査を追加し、資料関係者の想いや考えとともに、学芸員の取り組みを記録として残すこととした。災害史は、災害を乗り越えてきた人々の復興の歴史でもある。今回はとくに復興について、それぞれ関係者の考えをまとめた。これらの証言は今後、福島県内各地の災害・復興史と比較する資料であると考えている。また今年度は調査・研究成果を取りまとめた記録誌の作成に力点を置いた。記録誌作成にあたっては資料調査とともに必要に応じて写真の再撮影を行った。記録誌を作成したことにより、多くの異なる分野の研究者と繋がることになった。企画展の協力依頼や移動展の実施など資料活用に関して相談も受けるようになり今後の活動につなげていきたい。

#### ウ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

##### (ア) 分野 自然分野

##### (イ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。鑑定作業については、新型コロナウイルス感染拡大のために外部研究者と直接やり取りができず、オンラインによる予察的な検討にとどまった。

#### エ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

##### (ア) 分野 歴史分野

##### (イ) 調査概要

年度当初は、国立国会図書館憲政資料室の三島通庸関係文書や国立歴史民俗博物館の大久保利通家資料などの調査を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、すべて中止した。県内の施設も休館や利用制限を実施していたこともあり、調査は見送り、これまでに調査した古文書資料の解読など館内で出来る研究を行った。

#### オ 収蔵資料活用に向けた本県薫文化の研究

##### (ア) 分野 民俗分野

##### (イ) 調査概要

令和2年度は、柳津町胄中地区に伝わる「ニンギョウマンギョウ」行事の薫人形について調査し、展示用資料として製作した。年間を通して、現地との調整(4～5月)、薫の購入(5月)、現地での薫人形製作・記録(11月)、行事調査(2月)、薫人形の展示用支持具製作(2～3月)等を実施した。資料製作にあたっては柳津町役場・県内マスコミにも情報共有し、事業について広報した。

また2～3月には、近年廃絶した下郷町大字白岩字雑根地区に伝わる百万遍の薫細工を調査し、地域住民の協力のもと、製作過程を記録撮影するとともに展示資料として再現製作し、寄贈いただいた。

#### カ 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

##### (ア) 分野 保存科学分野

##### (イ) 調査概要

県内の伝世資料について所在調査を実施した。

#### キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

##### (ア) 分野 美術分野

##### (イ) 調査概要

会津地方の北エリアを中心に調査を実施。喜多方市竹屋観音堂仁王像について、本格的調査を実施するための事前調査を行い、調査計画を立てた。喜多方市板ノ沢虚空蔵堂虚空蔵菩薩像、喜多方市福聚寺観音像について仏像・祭礼の調査及び所蔵地区への聞き取りを行い、テーマ展「祈りのふくしま4」で紹介した。

### (2) その他の調査研究事業

#### ア 古文書整理事業

令和2年度は、五十島真仁家寄贈資料及び石井健司家寄託資料の整理を行い、このうち五十島真仁家寄贈資料については登録まで終了した。また、登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料(若松城下薬種問屋資料)の一部を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」と新たに「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。「築田家追加寄託資料」は平成26年度より撮影を継続してきたが、令和2年度の撮影をもって予定していた資料の撮影は終了した。

### (3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部 綾子「第一章 藩主と藩士」「第六章 城下町と商業・交通」『相馬市史 第5巻 資料編Ⅱ 近世1』福島県相馬市

猪瀬 弘瑛・矢部 淳「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層からオオミツバマツの産出」『福島県立博物館紀要』第35号 p.73-76 福島県立博物館

内山 大介・筑波 匡介・高橋 満・弦巻 優太・大里 正樹・栗原 祐斗・塚本 麻衣子・阿部 綾子『震災遺産を考える—次の10年へつなぐために—』福島県立博物館

内山 大介「書評 坂本要編『東国の祇園祭礼—茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心に—』」『民俗芸能研究』第69号 民俗芸能学会 p.103-107

内山 大介「書評 北海道民具事典編集委員会編『北海道民具事典Ⅰ生活用具』」『民具研究』第161号 日本民具学会 p.60-63

内山 大介・小澤 弘道「越後大工の会津への出稼ぎ—近世の阿賀川流域を中心に—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.109-135

内山 大介「会津田島祇園祭」・「二本松の提灯祭り」植木行宣監修・福原敏男他編『山・鉾・屋台の祭り研究事典』思文閣出版 p.307-312

内山 大介「会津鋸の生産と流通—鋸鍛冶と金物卸商の近現代—」佐野賢治編『現代民俗学考—郷土研究から世界常民学へ—』春風社 p.581-601

大里 正樹「死と儀礼」『民具学事典』丸善出版 p.102-104 丸善出版

大里 正樹「写真資料から見える会津の風景—小滝清次郎氏寄贈写真から—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.59-71 福島県立博物館

杉崎 佐保恵・鈴木 晴彦「装飾文化財の保存修理に関する体験型講座の事例報告—保存科学講座「和紙にふれる」実施報告—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.39-58 福島県立博物館

高橋 充「相馬攻めから蘆名攻めへ」南奥羽戦国史研究会編『伊達政宗—戦国から近世へ—』p.93-105 岩田書院

高橋 充「全体解説」「史料解説・解題」『相馬市史』第四巻 資料編Ⅰ 中世 福島県相馬市

高橋 充・小林 めぐみ・塚本 麻衣子「企画展『会津のSAMURAI 文化—蒲生氏郷と藩士たちの文武—』実施報告」『福島県立博物館紀要』第35号 p.1-20 福島県立博物館

高橋 充・阿部 綾子・相田 優・田中 敏・山本 俊「企画展『会津のSAMURAI 文化—蒲生氏郷と藩士た

ちの文武—』の成果」『福島県立博物館紀要』第35号 p.21-38 福島県立博物館

高橋 満（監修）「土器土器&アニマルズ」『読売 KODOMO 新聞』第505号 p.10-11 読売新聞東京本社

高橋 満「新たな目で見た文化財—ふくしま震災遺産保全プロジェクト」『ビジュアル版考古学ガイドブック』シリーズ遺跡を学ぶ別冊05 新泉社

高橋 満「受賞に寄せて—震災遺産の備忘録」『博物館研究』令和3年3月号 公益財団法人日本博物館協会

平澤 慎「古墳時代—東北」『考古学ジャーナル』742号 p.55-56 ニューサイエンス社

(イ) 学会発表

内山 大介「教師・山口弥一郎の地域文化研究—フィールドの危機と民俗学的実践—」（グループ発表「民俗文化研究の持続性と多様性の展開—研究と現地を往還する拠点構築に向けて」）日本民俗学会第72回年会 オンデマンド開催

内山 大介「多様化する文化政策と民俗学」現代民俗学会 第50回研究会「民俗学の論点2020」オンライン開催

内山 大介「体験と実践のフィールド学—昭和期東北の農村問題と山口弥一郎—」現代民俗学会第52回研究会「農民文学／農村問題から民俗学史を拡張する」オンライン開催

内山 大介「震災・原子力災害に向き合う博物館—資料保全から地域と記憶の継承へ—」地底の森特別講座「ミュージアムと災害」第2回 仙台市富沢遺跡保存館・地底の森ミュージアム

大里 正樹「民俗調査者として見た柳津町の民俗」ライフミュージアムネットワーク2020連続オープンディスカッション「奥会津の周り方第2回—清の眼・根っこの眼—それぞれの地域学」於やないづ町立斎藤清美術館

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子

・相馬市史編さん調査執筆員ほか3件

猪瀬 弘瑛

・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介

・共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員ほか10件

大里 正樹

・会津坂下町史編さん専門委員ほか5件

川延 安直

・喜多方市美術館収集委員会委員ほか7件

栗原 祐斗

・熊谷市史編集委員（近代・現代専門部会 特別調査員）

小林 めぐみ  
 ・福島芸術計画運営委員会委員ほか10件  
 佐藤 洋一  
 ・共同研究『『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究』  
 共同研究員  
 杉崎 佐保恵  
 ・文化財保存修復学会第43回大会実行委員  
 高橋 充  
 ・二本松城跡整備検討委員会委員ほか12件  
 高橋 満  
 ・「資源利用史 研究クラスター」研究推進員  
 ほか1件  
 田中 敏  
 ・会津坂下町史編さん委員ほか3件

塚本 麻衣子  
 ・喜多方市文化財保護審議委員ほか1件  
 筑波 匡介  
 ・長岡造形大学非常勤講師ほか1件  
 ウ 研究助成金等  
 杉崎 佐保恵：古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法  
 の解明と保存修復のための診断技術の確  
 立  
 高橋 満：科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸にお  
 ける縄文時代土器製塩史復元のための基礎的  
 研究」研究代表者  
 高橋 満：科研費・基盤研究（A）「日本列島にお  
 ける製塩技術史の解明」研究分担者

## 6 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和2年度の各講座開催数は77、総参加者数は2,151人であった。

ア 令和2年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 館長講座

| テーマ                                    | 講師・所属等                                                                                       | 期日           | 参加人数 |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|
| 最終講座「座談会 福島県立博物館 これまでの10年・これからの10年」上映会 | 赤坂 憲雄(前館長)・川延 安直(副館長)・佐々木 長生(福島県民俗学会会長/元当館学芸員)・竹谷 陽二郎(磐梯山ジオパーク/元当館学芸員)・森 幸彦(大熊町教育委員会/元当館学芸員) | 令和3年2月20日(土) | 23   |

(イ) 特別講座

| テーマ                        | 講師・所属等                   | 期日           | 参加人数 |
|----------------------------|--------------------------|--------------|------|
| 特別講座①「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」    | 和合 亮一(詩人)<br>千葉 青藍(書道家)  | 令和2年9月12日(土) | 33   |
| 特別講座②「詩人のいる博物館 会津を語る、詩を語る」 | 和合 亮一(詩人)<br>佐藤 巖太郎(小説家) | 令和3年1月31日(日) | 53   |
| 特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを写す」    | 和合 亮一(詩人)<br>岩根 愛(写真家)   | 令和3年3月28日(日) | 56   |

(ウ) 考古学講座

| テーマ          | 講師・所属等              | 期日           | 参加人数 |
|--------------|---------------------|--------------|------|
| 歩いて学ぶ会津大塚山古墳 | 平澤 慎(学芸員)           | 令和2年11月7日(土) | 20   |
| 勾玉をつくろう      | 平澤 慎(学芸員)・田中 敏(学芸員) | 令和3年3月20日(土) | 20   |

(エ) 民俗講座

| テーマ                          | 講師・所属等      | 期日            | 参加人数 |
|------------------------------|-------------|---------------|------|
| ポイント展でまなぶ！ふくしまの民俗②「描かれた民俗」   | 大里 正樹(学芸員)  | 令和2年8月23日(日)  | 18   |
| 民俗講座「いまさら聞けないこづゆのアレコレ」       | 江川 トヨ子(学芸員) | 令和2年12月6日(日)  | 9    |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし①鶏足神社の浜下り     |             | 令和2年12月20日(日) | 10   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし②中ノ沢こけし製作のわざ  |             | 令和3年1月17日(日)  | 14   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし③冬木沢参りの習俗 記録編 |             | 令和3年2月21日(日)  | 32   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし④只見川流域のひな流し   |             | 令和3年3月21日(日)  | 19   |

## (イ) 歴史講座

| テーマ                           | 講師・所属等      | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------------|-------------|---------------|------|
| 企画展先取り講座⑤「旧盆の帰省と小旅行―郡山から若松へ―」 | 佐藤 洋一 (学芸員) | 令和2年6月27日(土)  | 18   |
| はじめてさんの古文書講座①                 | 阿部 綾子 (学芸員) | 令和2年10月17日(土) | 20   |
| はじめてさんの古文書講座②                 | 栗原 祐斗 (学芸員) | 令和2年11月21日(土) | 19   |
| はじめてさんの古文書講座③                 | 高橋 充 (学芸員)  | 令和2年12月19日(土) | 18   |
| テーマ展を味わう講座「山川浩と健次郎」           | 佐藤 洋一 (学芸員) | 令和3年2月6日(土)   | 54   |

## (カ) 自然史講座

| テーマ        | 講師・所属等        | 期日           | 参加人数 |
|------------|---------------|--------------|------|
| 化石博士の発掘最前線 | 猪瀬 弘瑛 (学芸員)   | 令和2年8月8日(土)  | 30   |
| 鶴ヶ城の野鳥     | 古川 裕司 (野鳥研究家) | 令和2年11月8日(日) | 13   |

## (キ) 保存科学講座

| テーマ                                                   | 講師・所属等           | 期日           | 参加人数 |
|-------------------------------------------------------|------------------|--------------|------|
| 2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」 1回目<br>「国指定史跡・清戸迫横穴の保存管理について」   | 吉野 高光 (双葉町教育委員会) | 令和2年9月21日(月) | 24   |
| 2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」 2回目<br>「朱とベンガラー日本列島の古墳にみる二つの赤ー」 | 志賀 智史 (九州国立博物館)  | 令和2年9月27日(日) | 22   |
| 博物館の舞台裏 講演バージョン                                       | 杉崎 佐保恵 (学芸員)     | 令和3年2月27日(日) | 19   |

## (ク) 美術講座

| テーマ                       | 講師・所属等                  | 期日            | 参加人数 |
|---------------------------|-------------------------|---------------|------|
| 刀匠が触っているのを見てみる刀剣講座        | 藤安 将平 (将平鍛刀場刀匠)         | 令和2年8月16日(日)  | 37   |
| よくわかる仏教美術1「場所～仏像はどこにいる？」  | 塚本 麻衣子 (学芸員)            | 令和2年10月11日(日) | 27   |
| よくわかる仏教美術2「儀礼～何を祈る？どう祈る？」 | 塚本 麻衣子 (学芸員)            | 令和2年10月25日(日) | 35   |
| よくわかる仏教美術3「人～つくらせる人、つくる人」 | 塚本 麻衣子 (学芸員)            | 令和2年11月1日(日)  | 34   |
| やさしい焼きもの講座1ー大堀相馬焼の歴史      | 原 恵理子 (学芸員)             | 令和2年11月28日(土) | 14   |
| やさしい焼きもの講座2ー大堀相馬焼のいま・これから | 小野田 利治 (大堀相馬焼協同組合 合理事長) | 令和2年12月12日(土) | 7    |

## (ケ) 防災講座

| テーマ           | 講師・所属等      | 期日          | 参加人数 |
|---------------|-------------|-------------|------|
| ミニ防災講座 楽しいそなえ | 筑波 匡介 (学芸員) | 令和2年9月1日(火) | 28   |

## (コ) 実技講座

| テーマ                   | 講師・所属等                                  | 期日           | 参加人数 |
|-----------------------|-----------------------------------------|--------------|------|
| からむしにふれる～からむし縄のマスク作り～ | 加藤 萌絵 (からむし作家・研究家)<br>・田嶋 紀佳 (からむし織研修生) | 令和3年1月23日(土) | 11   |

## (ク) 実演

| テーマ | 講師・所属等    | 期日           | 参加人数 |
|-----|-----------|--------------|------|
| 昔語り | 会津民話会の皆さん | 令和3年3月27日(土) | 31   |

## (シ) 企画展関連行事

| テーマ                              | 講師          | 期日           | 参加人数 |
|----------------------------------|-------------|--------------|------|
| 企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねてー」<br>展示解説会 | 栗原 祐斗 (学芸員) | 令和2年6月28日(日) | 29   |
| 企画展「会津のSAMURAI 文化」内覧会            |             | 令和2年7月31日(金) | 35   |
| 企画展「会津のSAMURAI 文化」見どころ解説会        | 高橋 充 (学芸員)  | 令和2年8月1日(土)  | 12   |

| テーマ                                             | 講師                                                              | 期日             | 参加人数 |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------|------|
| 企画展「会津のSAMURAI文化」見どころ解説会                        | 高橋 充 (学芸員)                                                      | 令和2年8月8日(土)    | 5    |
|                                                 |                                                                 | 令和2年8月13日(木)   | 7    |
|                                                 |                                                                 | 令和2年8月14日(金)   | 10   |
|                                                 |                                                                 | 令和2年8月15日(土)   | 4    |
|                                                 |                                                                 | 令和2年8月22日(土)   | 16   |
|                                                 |                                                                 | 令和2年9月5日(土)    | 5    |
|                                                 |                                                                 | 令和2年9月12日(土)   | 10   |
|                                                 |                                                                 | 令和2年9月19日(土)   | 5    |
| 野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」                              | 近藤 真佐夫 (会津若松市教育委員会)・相田 優 (学芸員)                                  | 令和2年9月5日(土)    | 19   |
| 企画展「発掘された日本列島2020」内覧会                           |                                                                 | 令和2年10月9日(金)   | 34   |
| 講演1「『発掘された日本列島2020』展－特集1の見どころ」                  | 芝 康次郎 (文化庁)                                                     | 令和2年10月10日(土)  | 40   |
| 企画展「発掘された日本列島2020」見どころ解説会                       | 高橋 満・平澤 慎 (学芸員)                                                 | 令和2年10月24日(土)  | 20   |
|                                                 |                                                                 | 令和2年11月3日(火・祝) | 43   |
| 講演2「櫛からたどる古墳時代の日本列島と東アジア－会津大塚山古墳・灰塚山古墳の櫛が語ること－」 | 木沢 直子 (公益財団法人元興寺文化財研究所)                                         | 令和2年10月31日(土)  | 39   |
| 講演3「ユネスコ世界の記憶「上野三碑」を読み解く」                       | 角田 真也 (高崎市教育委員会)                                                | 令和2年11月15日(土)  | 40   |
| 企画展「震災遺構を考える」内覧会                                |                                                                 | 令和3年1月15日(金)   | 22   |
| 企画展「震災遺構を考える」見どころ解説会                            | 筑波 匡介 (学芸員)                                                     | 令和3年1月16日(土)   | 18   |
|                                                 |                                                                 | 令和3年1月30日(土)   | 2    |
|                                                 |                                                                 | 令和3年2月13日(土)   | 17   |
|                                                 |                                                                 | 令和3年3月11日(木)   | 19   |
| 上映会「Life 生きてゆく」                                 |                                                                 | 令和3年2月11日(木・祝) | 77   |
| フォーラム「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」                    | 佐藤 公(磐梯山噴火記念館)、二上文彦(南相馬市博物館)、瀬戸 真之(東日本大震災・原子力災害伝承館)、筑波 匡介 (学芸員) | 令和3年3月6日(土)    | 64   |
| 防災講座「楽しいそなえ」                                    | 渡邊 浩二 (地域活動サポートセンター 柏崎)                                         | 令和3年3月21日(日)   | 12   |

(ス) ミュージアムイベント

| テーマ                  | 講師                                   | 期日            | 参加人数 |
|----------------------|--------------------------------------|---------------|------|
| ナイトミュージアム            | 当館学芸員                                | 令和2年8月29日(土)  | 47   |
| 親子で楽しむコンサート          | 善久(オカリナ奏者)・榊原 聡子(ピアニスト)              | 令和2年9月20日(日)  | 40   |
| けんぱくクリスマスコンサート       | 井上 仁一郎(ギター奏者)・榊原 聡子(キーボード)・渡邊 奈美(朗読) | 令和2年12月13日(日) | 93   |
| 上映会 アニメーション「無念」      |                                      | 令和3年2月28日(日)  | 49   |
| 会津の彼岸獅子－伝統芸能を次世代に伝える | 本滝沢獅子舞保存会の皆さん                        | 令和3年3月7日(日)   | 84   |

(セ) ポイント展ミニ解説会

| テーマ                          | 講師          | 期日           | 参加人数 |
|------------------------------|-------------|--------------|------|
| ポイント展「道中絵図にみる秀吉の通った道」ミニ解説会   | 高橋 充 (学芸員)  | 令和2年6月26日(金) | 19   |
| ポイント展「秀吉がやってきた！」ミニ解説会        | 高橋 充 (学芸員)  | 令和2年8月7日(金)  | 24   |
| ポイント展「なるほど！太閤検地」ミニ解説会        | 高橋 充 (学芸員)  | 令和2年9月11日(金) | 13   |
| ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 正月編」ミニ解説会 | 阿部 綾子 (学芸員) | 令和3年1月29日(金) | 10   |
| ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 如月編」ミニ解説会 | 栗原 祐斗 (学芸員) | 令和3年2月26日(金) | 13   |
| ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」ミニ解説会 | 高橋 充 (学芸員)  | 令和3年3月26日(金) | 11   |

(ウ) 子育て世代対応事業

| テーマ                   | 講師                  | 期日           | 参加人数 |
|-----------------------|---------------------|--------------|------|
| 親子でたのしむワークショップ        | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和2年8月13日(木) | 38   |
| 親子でたのしむワークショップ        | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和2年8月14日(金) | 31   |
| 親子でたのしむワークショップ        | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和2年8月15日(土) | 52   |
| 親子でたのしむワークショップ        | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和2年9月21日(月) | 83   |
| 幼児向けワークショップ「おめんをつくろう」 | 会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん | 令和3年1月9日(土)  | 21   |

(ク) 後援事業

| テーマ              | 主催             | 期日            | 参加人数 |
|------------------|----------------|---------------|------|
| 会津若松市立幼・小・中学校長会議 | 会津若松市教育委員学校教育課 | 令和2年11月18日(水) | 40   |
| 会津民俗研究会 公開講演会    | 会津民俗研究会        | 令和3年3月14日(日)  | 51   |

(フ) ライフミュージアムネットワーク事業

| テーマ                 | 講師・所属等                                                         | 期日           | 参加人数 |
|---------------------|----------------------------------------------------------------|--------------|------|
| フォーラム「土地の記憶とミュージアム」 | 山下 美晴(舞鶴引揚記念館館長)・吉岡宏高(NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団理事長)・岩名 泰岳(島ヶ原村民芸術「蜜の木」) | 令和3年1月24日(日) | 20   |

(ツ) 友の会事業

| テーマ              | 講師・所属等        | 期日           | 参加人数 |
|------------------|---------------|--------------|------|
| 友の会講演会「はやぶさ2と福島」 | 出村 裕英(会津大学教授) | 令和3年3月13日(土) | 40   |

(2) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習(しおり・ワークシート)

(ア) 博物館見学のしおり(小・中学生用)

主に修学旅行などの班行動などで活用されていたワークシートであるが、新型コロナウイルス感染防止対策のため配布を中止した。班行動の児童・生徒への学習支援が課題である。

(イ) 常設展総合展示室案内シート

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点を踏まえ、展示室内で興味をもった資料や展示品を見つけて、スケッチを交えながら内容をまとめるワークシートを考案し、個人の興味・関心に基づいて主体的に学ぶことができる内容とした。

イ 学習プログラム

従来は各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組み、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図ってきた。新型コロナウイルスの影響下においても、学校団体については日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けることができる活動メニューを準備し、講堂等でのレクチャーによる展示室案内等をおこ

なった。今年度は接触機会の低減を図りながら、子どもたちが博物館の資料を用いる体験学習の展開を模索した。また、幼児に向けて前年度試行した「未就学児対応学習プログラム」のうち冬季プログラムについても、協力園の園児たちに試行した。

ウ 指導者向け研修

今年度は「新型コロナウイルス対策に留意した団体学習」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施した。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすることで当館の学習支援活動の、学校や公民館における活用の推進を図った。

・令和2年8月4日(火) 22名の参加

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。令和2年度については新型コロナウイルス対策のため貸出を中止した。

オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和2年度の実施回数は11回で、参加者は1,197人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

| 月 日          | 講 師   | 分野 | 内 容         | 実施先         | 科目               |
|--------------|-------|----|-------------|-------------|------------------|
| 令和2年8月28日(金) | 阿部 綾子 | 歴史 | 戊辰戦争についての講話 | 会津若松市立東山小学校 | 6学年<br>総合的な学習の時間 |

| 月 日           | 講 師            | 分野 | 内 容                                     | 実施先         | 科目                               |
|---------------|----------------|----|-----------------------------------------|-------------|----------------------------------|
| 令和2年9月1日(火)   | 小林 めぐみ         | 美術 | 地域に根差す日本の伝統文化を学ぶ(会津型と日本の文様)             | 会津若松市立第二中学校 | 2学年<br>美術                        |
| 令和2年9月2日(水)   | 筑波 匡介          | 震災 | いのちを守る学習①                               | 下郷町立江川小学校   | 全校生徒<br>総合的な学習の時間                |
| 令和2年9月10日(木)  | 筑波 匡介          | 震災 | 東日本大震災の惨状を理解する資料の見学と講話(震災遺産講座)          | 喜多方市立第一中学校  | 1・2学年<br>防災学習会                   |
| 令和2年10月12日(月) | 筑波 匡介          | 震災 | いのちを守る学習②                               | 下郷町立江川小学校   | 全校生徒<br>総合的な学習の時間                |
| 令和2年10月29日(木) | 弦巻 優太<br>猪瀬 弘瑛 | 自然 | 「大地のつくり」「変わり続ける大地」                      | 会津若松市立湊小学校  | 6年生<br>理科                        |
| 令和2年11月11日(水) | 筑波 匡介          | 震災 | 地域合同防災訓練での体験コーナーでの指導                    | 喜多方市立第一中学校  | 全校生徒<br>総合的な学習の時間                |
| 令和2年11月12日(木) | 筑波 匡介          | 震災 | あいづっこ人材育成プロジェクト事業「地域から学ぶ」防災学習「震災遺産を考える」 | 会津若松市立第二中学校 | 全校生徒<br>総合的な学習の時間                |
| 令和2年12月10日(木) | 筑波 匡介          | 震災 | 授業参観を機会に、生徒保護者にも防災・減災の知識を身に付けさせる。       | 只見町立只見中学校   | 1・2学年、保護者<br>総合的な学習の時間<br>(授業参観) |
| 令和3年2月24日(水)  | 筑波 匡介          | 震災 | 企画展震災遺産を考える展示解説                         | 会津若松市立第二中学校 | 2年生<br>総合的な学習の時間                 |
| 令和3年3月5日(金)   | 筑波 匡介          | 震災 | 震災遺産から考える防災教育                           | 会津美里町立高田中学校 | 3年生<br>総合的な学習の時間                 |

#### カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・労働観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和2年度は1校からの要請があり、受け入れを実施した。

##### ○職場体験受け入れ実績(生徒のみ)

- ・三島町立三島中学校(2年生:1名) 2日間

#### キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和2年度は県内出身及び県内大学に在学する学生7名を受け入れた。

実習期間 令和2年8月25日(火)～30日(日)

### (3) 生涯学習・研究支援

#### ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に

関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,713冊である。

#### イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

##### 分野別特別観覧件数

考古:4件55点 歴史:9件143点 民俗:2件8点  
震災遺産:1件32点 計16件238点

#### ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和2年度の派遣回数は23回で、参加者は991人であった。

#### 講師派遣一覧

| No. | 月 日            | 講 師   | 分野 | 演 題 ・ 内 容 等   | 主 催            |
|-----|----------------|-------|----|---------------|----------------|
| 1   | 令和2年9月11日(金)   | 川延 安直 | 美術 | 江戸時代の絵画       | まちなかコンシェルジュ勉強会 |
| 2   | 令和2年9月16日(水)   | 筑波 匡介 | 震災 | 防災教育「震災遺産講座」  | 国立磐梯青少年交流の家    |
| 3   | 令和2年9月18日(金)   | 高橋 充  | 歴史 | お城の話          | まちなかコンシェルジュ勉強会 |
| 4   | 令和2年9月21日(月・祝) | 高橋 充  | 歴史 | 蒲生氏郷 歴史講演・座談会 | 会津まつり協会        |
| 5   | 令和2年9月25日(金)   | 川延 安直 | 美術 | 江戸時代の会津の絵画    | まちなかコンシェルジュ勉強会 |
| 6   | 令和2年9月30日(水)   | 高橋 充  | 歴史 | 福島県の城・町・博物館   | 福島県立医科大学       |
| 7   | 令和2年10月7日(水)   | 内山 大介 | 民俗 | 医療と民俗 I 妊娠と出産 | 福島県立医科大学       |

| No. | 月 日           | 講 師              | 分野       | 演 題 ・ 内 容 等                        | 主 催                                |
|-----|---------------|------------------|----------|------------------------------------|------------------------------------|
| 8   | 令和2年10月14日(水) | 内山 大介            | 民俗       | 医療と民俗Ⅱ 死と葬送                        | 福島県立医科大学                           |
| 9   | 令和2年10月18日(日) | 高橋 充             | 歴史       | 会津の経塚についてー松野千光寺<br>経塚を中心にー         | 喜多方市中央公民館                          |
| 10  | 令和2年10月21日(水) | 筑波 匡介            | 震災       | 自ら考え、家族と共有して防災力<br>を上げる児童の育成       | 下郷町立江川小学校                          |
| 11  | 令和2年10月21日(水) | 猪瀬 弘瑛            | 自然       | 化石の宝庫・福島県                          | 福島県立医科大学                           |
| 12  | 令和2年10月25日(日) | 筑波 匡介            | 震災       | 記憶／記録の検証とこれからの<br>10年              | みやぎボイス連絡協議会、(一社)<br>日本建築学会災害委員会 ほか |
| 13  | 令和2年10月27日(火) | 筑波 匡介            | 震災       | 防災講座「楽しいそなえ」～震災<br>遺産から学ぶ～         | あいづわくわく学園                          |
| 14  | 令和2年11月6日(金)  | 筑波 匡介            | 震災       | 防災講座「楽しいそなえ」～震災<br>遺産を考える～         | 会津若松市生涯学習総合センター                    |
| 15  | 令和2年11月8日(日)  | 筑波 匡介            | 震災       | 六中生防災ワークショップ、ミニ<br>防災講座            | 会津若松市北公民館                          |
| 16  | 令和2年11月13日(金) | 平澤 慎             | 考古       | 会津の古墳時代                            | まちなかコンシェルジュ勉強会                     |
| 17  | 令和2年11月17日(火) | 塚本 麻衣子<br>江川 トヨ子 | 美術<br>民俗 | 仏像のキホン・見方のおすすめい<br>まさら聞けないこづゆのアレコレ | 昭和村公民館                             |
| 18  | 令和2年11月18日(水) | 高橋 満             | 考古       | 蒲生氏郷と若松城下町の誕生                      | 会津若松市区長会                           |
| 19  | 令和2年11月18日(水) | 筑波 匡介            | 震災       | 震災遺産を考える                           | 福島県高等学校新聞連盟県大会                     |
| 20  | 令和2年11月20日(金) | 川延 安直            | 美術       | 江戸時代の会津の絵画                         | まちなかコンシェルジュ勉強会                     |
| 21  | 令和3年1月8日(金)   | 塚本 麻衣子<br>高橋 充   | 美術<br>歴史 | 日本遺産会津の三十三観音めぐり<br>の醸成             | 極上の会津プロジェクト協議会                     |
| 22  | 令和3年1月23日(土)  | 平澤 慎             | 考古       | 灰塚山古墳がつくられたころー古<br>代喜多方の謎に迫るー      | 喜多方市中央公民館                          |
| 23  | 令和3年3月19日(金)  | 高橋 充             | 歴史       | 蒲生氏郷と若松の城・町の誕生                     | 大人の休日倶楽部趣味の会                       |

#### エ 未就学児連携事業

多様な利用者層に対応したプログラムの開発として、前年度協力園の園児たちに試行したプログラムを今年度はさらに検証の上本格的に実施していく予定であったが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、本格的な実施を中止し、これまで未実施だった冬季のプログラムを協力園と試行することとし、「雪ふみ俵とカンジキ体験」を行った。

#### オ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「子どもミニミニ博物館」を予定していたが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑みいづれも中止した。その代替として、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案し「親子で楽しむワークショップ」を実施した。

#### カ 動画の制作と配信

コロナ禍で来館しづらい状況が続く中、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を新たに開始した。令和2年度は50本の動画を公開した。

#### (4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

##### ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 令和2年度会員数

個人会員：119 家族会員：28 高校生会員：0  
賛助会員：4 合計：151

##### イ 令和2年度事業概要

(ア) 研修旅行

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止。



(イ) 会報の発行

第122号・第123号と2回の会報を発行し会員に配布した。

(ウ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。また、今年度は新たなサークル設立へ向けた動きも現れ、そのための検討も行われた。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数35名。令和2年度は次の活動を行った。

- a 成果展搬入・展示準備
- b 化石・鉱物探検隊ミニ成果展
- c 田代鉱山・(重晶石・閃亜鉛鉱・オパールほか)
- d 真米鉱山(磁硫鉄鉱・硫砒鉄鉱・螢石)
- e 化石・鉱物学習会
- f 総会 研修会

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20~25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。令和2年度の活動人数は18名で、月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和2年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。前年度に設置要綱が一部改正された後、今年度は幹事会1回(10月28日)が行われたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、被災地域の資料への対応などの活動は低調であった。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

### (2) 令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う被災文化財等レスキュー

令和元年10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う河川の氾濫により、資料館・博物館等の文化財を収蔵する施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生したことから、次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

福島県立博物館では文化財課や福島県立美術館、福島県文化財センター白河館(まほろん)、ふくしま歴史資料保存ネットワーク(福島大学)と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査などに協力した。

イ 被災地域の資料への対応

今年度は、6月20日(土)に本宮市内の個人宅の蔵の解体に伴う調査及び本宮市歴史民俗資料館の状況確認に当館学芸員が参加した。

### (3) 令和3年2月の福島県沖地震被害に伴う活動

令和3年2月13日(土)に発生した福島県沖地震による文化財の被害は、県北・県中・相双地域に多いが、ほぼ県内全域に及んだ。

当館では、新地町の個人宅の資料レスキュー作業を宮城資料保存ネットワーク・ふくしま史料保存ネットワークが合同で実施した際に、学芸員1名が参加した。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和2年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名の計8名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、企画展の実施、記録誌の編集を行った。

## (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産にかかわる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめた。特に富岡町災害対策本部跡に関係する資料の撮影を行った。プロジェクト実行委員会時のメンバーや、退職・移動された学芸員からも情報提供いただき記録誌「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」を編集した。

## (3) 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体が異なるミュージアムと連携し防災教育に関するフォーラム「博物館が地域で生きる力を育むために みんなでつくる・考える防災教育」として、福島県博物館連絡協議会「被災博物館・被災文化財救済事業」を活用し実施した。フォーラムでは群馬大学の金井昌信教授から「博物館ができる、防災を手段とした地域教育を考える」として講演していただいた。フォーラムに先立って、会場周辺の見学会を行い、請戸小学校など参加者ととも巡検した。また、講座の実施にあたっては、地域人材の活用等意識して、地域の防災士や行政の防災担当職員、教育委員会の防災担当指導主事などとも連絡を取りあい、連携した運営を行うことができた。

## (4) 普及事業

防災講座は感染症対策を先方と協議しながらなるべく実施することとした。相談を受け、授業を学校とともに考えることに注力した。移動した先からも講座依頼が来るなど、評価を得たものと考えている。また新たに国立磐梯青少年交流の家と連携し猪苗代高校・湖南高校に対して防災教育プログラムを実施した。福島県高校生新聞部県大会にて講演をおこなったことで、郡山東高校、郡山北工業高校、白河高校の新聞部から取材を受け、各校が発行する新聞で震災遺産を紹介する記事が掲載された。高校との連携として新しい手段を見出すことができた。

企画展を開催しイベントも行った。とくに今後博物館がどのように災害と向き合っていくのかをテーマとしたフォーラムには、アーカイブズ学、博物館学、社会学といった様々な研究分野から参加を頂き、今後の調査・研究への展開に先鞭をつけることができた。

小学校2件、中学校6件、高校2件、公民館3件のゲストティーチャー及び講師派遣の対応を行った。また、指導者講習の反響として公民館からの依頼を複数頂くことにつながった。

## 9 ライフミュージアムネットワーク

### (1) 事業趣旨

東日本大震災後を契機に【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合い同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指し、平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

## (2) 組織

- ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会
- イ 構成団体  
南相馬市博物館、はじまりの美術館、三島町生活工芸館、一般社団法人ふくしま連携復興センター、原爆の国丸木美術館、福島県立博物館
- ウ 委員長 鈴木 晶 (館長)
- エ 事務局 福島県立博物館

## (3) 実施期間

- ア 実施期間  
令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
- イ プロジェクト活動期間  
令和2年5月21日(木)～令和3年3月31日(水)

## (4) 助成

文化庁令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

## (5) 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、スタディツアー、フォーラム、プログラム開発を実施し、記録集(『ライフミュージアムネットワーク2020活動記録集』、プログラム開発「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」記録集、プログラム開発「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」記録紙、プログラム開発「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」記録集、奥会津スタディツアー記録集)を作成した。

## 10 三の丸からプロジェクト

### (1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

## (2) 組織

- ア 設置者 福島県立博物館 (福島県)
- イ 推進事業者  
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会(地域連携DMO)、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

## (3) 助成

令和2年度文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)

## (4) 事業内容

令和3年度福島県立博物館企画展「会津の絵画」と連携した展示を令和3年度に若松市内4ヶ所(若松城天守閣郷土博物館、竹藤、福西本店、末廣酒造嘉永蔵)で展開するための準備として、各会場との展示案の検討、周遊促進

パンフレットの作成、趣旨等説明多言語パネル(英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字))の作成を行った。

## 11 歴史博物館・自然史博物館・美術館における認知症対応プログラム実践事業

### (1) 事業趣旨

認知症に対処する社会的コストは膨大な規模で増加しつつあり、もはや従来型の手法だけでは公助・自助共に限界に達しつつある。また、コロナ禍においては、医療機関において面会の制限等も発生しており、親族とのコミュニケーションも限定的となっていると推測される。

こうした背景のもと、認知症の予防及び初期認知症の進行緩和に関して、「回想法」など、脳の認知機能の活性化を目的に文化面でのアプローチをニューノーマル、アフター・コロナの時代をふまえて試みる。そして、これらの取り組みが、博物館・美術館にとって、新たな社会的サービスになることを目的に事業の実施と検証を行う。

### (2) 組織

- ア 主催 株式会社乃村工藝社、福島県立博物館
- イ 協力団体 特別養護老人ホーム桐寿苑
- ウ 事務局 株式会社乃村工藝社

### (3) 実施期間

令和2年10月20日(火)～令和3年3月31日(水)

### (4) 助成

博物館等における「新しい関係性の構築」による収益確保・強化事業

### (5) 事業内容

リモート研修、回想法の実施、各回の振り返り、ハンドブック及び映像の制作

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年

自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

#### (2) 所在地

- ア 福島県郡山自然の家  
福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46  
〒963-0213 TEL 024-957-2111  
FAX 024-957-2112  
URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>
- イ 福島県会津自然の家  
福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1  
〒969-6504 TEL 0242-83-2480  
FAX 0242-83-2481  
URL <https://www.aizu-shizen.jp/>
- ウ 福島県いわき海浜自然の家  
福島県いわき市久之浜町田之網字向山53  
〒979-0335 TEL 0246-32-7700  
FAX 0246-32-7730  
URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

### (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

## 3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和2年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度の令和2年3月4日(水)から4月20日(月)まで個人の日帰り屋外利用のみを受け入れとしたが、4月21日(火)から5月15日(金)までは全ての利用受け入れを停止した。

5月16日(土)から個人の日帰り屋外利用のみ受け入れを再開し、その後、段階的に受け入れの範囲を拡大したが、令和3年1月13日(水)から再び宿泊利用の受け入れを停止し、日帰り利用のみの受け入れとした。2月22日(月)には宿泊利用受け入れを再開した。

なお、施設の受け入れは定数の半数以下として運用した。

## 第15節 福島県郡山自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和2年度には延べの利用者数が177万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分とい

う交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、心身共に健全で心豊かな青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開している。

また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めてきた。

また、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の除去を実施し放射線量の低減化に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど、情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休所や企画事業の中止及び利用人数を制限した影響で、利用団体数203団体(前年比289団体減)、延べ利用者数5,024人(前年比24,996人減)となった。

### (2) 職員組織

| 職名    | 人員 |
|-------|----|
| 所長    | 1  |
| 指導部長  | 1  |
| 事務局長  | 1  |
| 指導部主任 | 1  |
| 指導員   | 2  |
| 体験指導員 | 3  |
| 事務員   | 1  |
| 運転手   | 1  |
| 計     | 11 |

### (3) 令和2年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、多種多様な価値観を共有できる魅力あふれる自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用・社会教育団体利用の利用に際しては、利用団体の指導者との緊密な連携に努めた。学校利用については、4月と7月に「学校利用指導者研修会」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月に1回

の実施となった。そこでは特に新型コロナウイルスへの対応について詳細に説明するとともに、安全安心な利用を進めるための本所の取り組みについて情報提供に努めた。活動プログラムの作成に際しては、参加者が密にならないように配慮した。

- (イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、新型コロナウイルス対応に万全を期すよう事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。
- (ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、コロナ禍にあっても安全安心な対応が図れるよう努めた。

#### イ 魅力ある企画事業の運営

- (ア) コロナ禍にあっても季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、参加人数を見直し密にならないよう注意しながら地域や関係機関との連携に努めた。
- (イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。

#### ウ 広報の充実と利用促進

- (ア) ホームページやインスタグラムなど様々な広報機会を利用し、本所における新型コロナウイルス対策に関する情報提供に努めた。また、コロナ禍にあっても新しい生活スタイルに対応した事業周知の在り方を模索する中で、在籍する園・学校をとおして園児・児童・生徒にチラシを配布することにより各家庭に、各種企画事業について直接情報提供を行った。

また、参加実績がある方に事業に関する案内を電子メールで直接情報提供を行った。

- (イ) 新型コロナウイルスに関する対応や企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。
- (ウ) 県内5つの自然の家が集まって広報機会を共有するという目的の下、「自然の家広報連絡会」を実施した。それにより地域を超えた広報活動が可能となり、より多くの県民に情報提供がなされることとなった。
- (エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザンピーククラブ」とした。発足から年数がたっており会員の中には所の利用実績がないといった方もいることから、再度、全会員に継続の有無について意思確認を行い名簿の整理を行った。

#### エ 安全管理と保健安全指導の徹底

- (ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立って、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。

また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルを作成し、随時見直しを行いながら対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
- ・3密回避と換気及びマスクの着用、手洗いの徹底。
- ・特に食堂利用時の感染防止のため、アクリルボードを設置し、黙食の徹底を図った。また、食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

- (イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学の協力の下、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、コロナ禍であったが3密を回避しながら実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて放水訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができ実効性のある訓練となった。さらに、安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大であり、そのため相互の信頼関係を日々醸成するため情報の共有・伝達を丁寧に行った。

#### オ 施設・設備の整備及び消毒

- (ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置したりして、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際して、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに随時、必要な補修及び整備を行った。
- (イ) 館内については、トイレはもとより使用した一切のものについて消毒の徹底を図った。また、管理簿を部署ごとに準備し、消毒の有無について所員が情報を共有するとともに責任の所在が明らかとなるよう体制を整え対応した。また、所バスについても同様の消毒対応を実施した。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

### (2) 宿泊定員

ア 本館 172名 (15部屋)

イ ロッジ 126名 (9棟)

ウ テント 120名 (20張)

### (3) 敷地面積

237,587.59 m<sup>2</sup>

#### (4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m<sup>2</sup>

- ・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

#### (5) 設備備品等

##### ア 野外活動設備

（みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場24的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場4か所）

##### イ その他

（野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、スラックライン、ボッチャ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビ ほか）

### 3 利用状況

#### (1) 令和2年度利用者数

延べ利用者数 5,024人

|    |        |       |        |
|----|--------|-------|--------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 105団体 | 3,055人 |
|    | 社会教育団体 | 56団体  | 875人   |
|    | ファミリー  | 7団体   | 24人    |
|    | 企画事業   | 35団体  | 1,070人 |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

##### ア 学校利用指導者研修会

###### (ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高め、同時利用校（園）との調整を図る。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 第一回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第二回 令和2年8月3日(月)

参加者数 29名

###### (ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・活動プログラム実技研修

#### (2) 利用拡大事業

##### ア サクラ・カタクリ週間

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### イ さくらウオーク

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### ウ オープニングセレモニー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### エ 春のオープンデー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### オ 親子でチャレンジ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### カ 夢冒険キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### キ 一切経登山を楽しもう

（未来キッズ生き生き事業と併催）

###### (ア) 目的

登山についての知識を学び、トレッキングしながら紅葉を楽しむ。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年9月27日(日)

対象 小学生を含む家族

参加者数 51名

###### (ウ) 活動内容

バスで本所を出発し、浄土平駐車場から一切経山登頂コースと鎌沼散策コースに分かれ家族ごとに登山を楽しんだ。

##### ク 秋のもみじウオーク

###### (ア) 目的

郡山自然の家周辺を歩きながら自然に親しみ健康増進を図る。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月14日(土)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 23名

###### (ウ) 活動内容

本所を出発し安積の田園地帯、大槻緑道を經由し本所に戻る約12kmのロングコースと中間地点からのスタートする約6kmのショートコースに分かれ、家族で秋の散策を楽しんだ。

##### ケ 親子五色沼ハイキング(未来キッズ生き生き事業と併催)

###### (ア) 目的

家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむ。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月15日(日)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 25名（ほか講師3名）

###### (ウ) 活動内容

現地ガイドと共に親子で秋の裏磐梯五色沼自然探勝路（約3.6km）の散策を楽しんだ。

##### コ 手ぶらでも煮会(未来キッズ生き生き事業と併催)

###### (ア) 目的

野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族の親睦を深める。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月21日(土)・22日(日)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 40名

(ウ) 活動内容

家族ごとにいも煮会を楽しんだ。

サ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 目的

クリスマスお菓子の家作りやミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年12月13日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 80名(ほか講師4名、ボランティア19名)

(ウ) 活動内容

クリスマスお菓子の家作りとミニ門松作りに分かれて活動した。

シ 親子スケート教室

(ア) 目的

スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年1月10日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 14名(ほか講師1名)

(ウ) 活動内容

磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。

ス バレンタインお菓子作り

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

セ わくわく！ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族の絆と交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月13日(土)・14日(日)

※14日は地震発生の為中止

対象 小・中学生とその家族

参加者数 19名(ほか講師1名、ボランティア1名)

(ウ) 活動内容

猪苗代スキー場でスキーの基本的な動きの指導を受け、個々の技量に応じた滑走を楽しんだ。

ソ 第18回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月28日(日)

対象 一般

参加者数 107名

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック開放など本所の活動プログラムを楽しんだ。

タ ヨガ体験教室

(ア) 目的

ヨガをとおして、呼吸法、瞑想法を学び、精神を安定させることにより健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月28日(日)

対象 一般(中学生以上)

参加者数 21名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

ヨガを学び、身体と心をリラックスし自分と向き合うことを深めた。

チ サザンピーククラブ感謝デー

(ア) 目的

本所サザンピーククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年3月14日(日)

対象 サザンピーククラブ会員

参加者数 5名

(ウ) 活動内容

コースを利用したオリジナル自然散策活動と森の標本箱で干支を作って楽しんだ。

**(3) 協力事業**

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止及び参加見合せ

**(4) 年間継続事業**

ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します！

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和2年4月25日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年5月16日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年5月23日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年6月13日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年6月27日(土) 参加者数3名

令和2年7月11日(土) 参加者なし

令和2年7月23日(水) 参加者数28名

- 令和2年11月7日(土) 参加者数6名  
 令和2年11月21日(土) 参加者数10名  
 令和2年12月5日(土) 参加者数7名  
 令和2年12月19日(土) 参加者数15名  
 令和3年1月23日(土) 参加者数13名  
 令和3年2月20日(土) 参加者数15名
- 対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族
- b 期日 令和2年4月26日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年5月17日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年5月24日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年6月14日(日) 参加者数30名  
 令和2年6月28日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年7月12日(日) 参加者数36名  
 令和2年7月24日(金) 参加者数79名  
 令和2年11月8日(日) 参加者数44名  
 令和2年11月22日(日) 参加者数50名  
 令和2年12月6日(日) 参加者数39名  
 令和2年12月20日(日) 参加者数29名  
 令和3年1月24日(日) 参加者数45名  
 令和3年2月21日(日) 参加者数87名  
 令和3年3月14日(日) 参加者数62名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

フィールドアスレチック、みどりの広場アスレチック、総合活動館、体育館開放

イ 未来キッズ生き生き事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用拡大事業と併催へ変更

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年12月1日(火)～令和3年3月12日(金)までの平日、9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 264名

(ウ) 活動内容

体育館、活動館アスレチックを利用した運動

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和2年度末で40年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和2年度の利用者数は、13,677人で、前年度を37,850人下回った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画事業や各種団体受入を中止したものの、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

#### (1) 職員組織

| 職名       | 人員 |
|----------|----|
| 所長       | 1  |
| 主幹(兼)次長  | 1  |
| 主事       | 1  |
| 専門員      | 1  |
| 主任社会教育主事 | 1  |
| 社会教育主事   | 3  |
| 体験活動指導員  | 3  |
| 嘱託運転手    | 1  |
| 計        | 12 |

#### (2) 令和2年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上、新規利用者を全体の10%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【 】の数値は職員による自己評価の平均値

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供します。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供【3.58】

新たに活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催【3.58】

里山開放デーや会津版下町感謝デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進【3.42】

学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。



- (エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発【3.50】  
前年踏襲にとらわれず、企画事業において様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。
- イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行います。
- (ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）【3.67】  
県の広報課や新聞社、広告会社等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。
- (イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信【3.67】  
タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当を中心に全社員で更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。
- (ウ) 地域や各団体への「研修プログラム」の提供【3.25】  
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動をできるようにした。
- (エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供【3.25】  
大きな企画事業前にボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。
- ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供します。
- (ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇【3.75】  
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。
- (イ) 感染症（新型コロナウイルス、ノロウイルスなど）への対策や予防徹底【3.67】  
利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。
- (ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底【3.75】  
労務員も含めた全社員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。
- (エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕【3.50】  
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。
- エ 施設・財産を守ります。
- (ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実【3.83】  
会計事務にかかる研修を受講したり、服務倫理委員会を定期的に開催したりして、会計事務の適正化を図った。

- (イ) 事業等の整備と保管【3.83】
- ア 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化  
研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。
- イ 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用  
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法など動画データに保存し、活用できた。
- (ウ) 「指定管理制度」導入に向けた引き継ぎの準備【3.33】  
研修プログラムや企画事業等のマニュアル化や電子データ化の推進（指導部）や施設・設備の円滑な管理や会計事務等のマニュアル化並びに帳簿等の整理（総務部）に努めた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

### (2) 宿泊定員

- ア 本館 26室 292名(うち1室障がい者用)  
イ ロッジ 10棟 150名  
ウ テント 10張 60名

### (3) 敷地面積

249,848.98㎡

### (4) 建物面積

- ア 延床面積 5,893.8㎡  
(ア) 管理研修棟（鉄筋造2階建）  
(イ) 宿泊棟（鉄筋造2階建）  
(ウ) プレイホール（鉄筋造）  
(エ) アセンブリホール（鉄筋造）  
(オ) 機械棟（鉄筋造3階建）  
(カ) ロッジ（木造平屋建）  
(キ) 野外活動管理センター（鉄筋造）  
(ク) 炊飯場（鉄筋造）  
(ケ) 薪置場（コンクリートブロック造）  
(コ) 車庫（鉄筋造）  
(サ) 野外便所（鉄筋造）

### (5) 運動広場面積

8,500㎡

### (6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック  
イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具  
ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR  
エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー  
オ ピアノ、オルガン  
カ 伝承遊びセット  
キ クラフト用具  
ク 各種オリエンテーリング用具  
ケ アルペンスキー  
コ 歩くスキー（クロスカンリースキー）

- サ そり
- シ スノーシュー
- ス 営火場（4か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

### 3 利用状況

#### (1) 令和2年度の利用団体数

延べ利用者数 13,677人

|    |        |       |        |
|----|--------|-------|--------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 195団体 | 8,615人 |
|    | 社会教育団体 | 60団体  | 2,062人 |
|    | ファミリー  | 17団体  | 93人    |
|    | 企画事業   | 47団体  | 2,907人 |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ ステップアップセミナー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種オープンデー等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和2年5月10日(日)  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 第2回：令和2年9月20日(日) 16名参加

b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

#### (2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 通学キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 冬休み楽習宿

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (3) 利用促進事業

ア 第16回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業との併催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 夏の川遊びを楽しもう！

(ア) 目的

- a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年8月9日(日) 107名参加  
（ほか講師18名、ボランティア10名）
- b 幼児・小・中学生

(ウ) 活動内容

- a カヌー体験・川流れ体験
- b 水辺の生き物探し
- c “みがいて！”変身、ピカピカ石
- d 河原で水遊び

エ あったかふれあいまつり

（未来キッズ生き生き事業との併催）

(ア) 目的

- a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
- b 県民に施設及び周辺環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
- c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年10月11日(日) 388名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a 協力外部団体（木練がっこう、ツリーイング、秘密基地づくり、竹のおもちゃ作り、水辺の生き物観察、あったかマルシェ、読み聞かせ、会津の民話）
- b 本所プログラム（野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー）

オ 東松ウォーキング大会2020

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

カ 秋の自然観察会

(ア) 目的

- a 会津の秋のすばらしさを感じるとともに、自然への理解を深める。
- b 会津自然の家周辺のコース内で紅葉を主とした自然観察をしながら歩くことにより、自然のすばらしさを味わうとともに参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年11月14日(土) 80名参加  
(ほか講師9名)
- b 一般
- (ウ) 活動内容
  - a 自然観察
  - b 木工クラフト
- キ 会津坂下町感謝デー
  - (ア) 目的
    - a 日頃よりお世話になっている地元「会津坂下町」の町民の皆様を対象として、会津自然の家の活動プログラム(室内でのニュースポーツや自然体験活動)や食堂利用をとおして、当所への理解と利用促進を図る。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 令和2年11月21日(土) 56名参加
    - b 会津坂下町民
  - (ウ) 活動内容
    - a 本所プログラム(UFO ゴルフ、森遊び、アスレチック、段ボール迷路、木工クラフト、ニュースポーツ)
- ク 三たてを味わう 新そばにチャレンジ  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ケ 手作り森のクリスマス
  - (ア) 目的
    - a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
    - b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、当所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 第1回：令和2年12月12日(土) 54名参加  
第2回：令和2年12月13日(日) 49名参加
    - b 県内の小・中学生とその家族対象
  - (ウ) 活動内容
    - a クリスマスケーキデコレーション
    - b クリスマスクラフト作成
- コ ウィンターフェスティバル  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- サ クラフトキッズフェア
  - (ア) 目的
    - a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
    - b クラフト製作の場を提供することにより、当所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 令和3年3月7日(日) 187名参加  
(ほか講師1名、ボランティア14名)
    - b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

- (ウ) 活動内容
  - a もっくんクラフト
  - b 木の実アート
  - c ネイチャーフォトフレーム
  - d 紙でボウ&アロー
  - e 傘ぶくろロケット
  - f ペットボトルクラフト
  - g 特別企画 木ロボくん

#### (4) その他の企画事業

- ア 未来キッズ生き活き事業
  - (ア) 目的、対象
    - 県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。  
会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。
  - (イ) 名称、期日、参加者数
    - a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前述  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
    - b 会津自然の山里山開放デー①  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
    - c 会津自然の山里山開放デー②  
令和2年8月22日(土) 370名参加
    - d 会津自然の山里山開放デー③  
令和2年9月13日(日) 243名参加
    - e あったかふれあいまつり・・・・・・・・・・前述  
令和2年10月11日(日) 388名参加
    - f そりすべり団体開放  
令和3年1月7日(木)～2月21日(日) 1,000名参加
    - g 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)  
第1回：令和3年1月24日(日) 102名参加  
第2回：令和3年1月31日(日) 85名参加  
第3回：令和3年2月7日(日) 58名参加  
第4回：令和3年2月14日(日) 58名参加

## 第17節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成 23 年度から同 26 年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。しかし、山林部については、平成 29 年 3 月に冒険の森及びキャンプ場の除染を行ったが、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていない。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成 25 年度から順次再開し、平成 30 年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、地元のいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

学校教育団体のうち、小学校の宿泊活動については、多くが 2 学期開始の 8 月下旬以降に変更となったため、9～10 月の月曜日の休所日を臨時開所して対応した。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、281 団体（前年比△194 団体）、延べ利用者数 13,137 人（前年比△25,671 人）となった。

#### (1) 令和 2 年度重点目標と成果

震災の影響で未だに自然体験活動が制限されており、さらに新型コロナウイルス感染の影響で利用が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、いわき市内の小・中学校長会へ本所の取り組みなどを積極的に情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設と連携しながら公民館への出前講座で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施している。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を中止したことから、書面や電話等により、研修目的に沿った活動の提案や目的達成のための助言を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合う機会を設けた。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者数を限定しての事前予約としたが、市内の教育文化施設や市民団体と連携して屋外での体験活動や自然の素材を利用したクラフト体験を多く取り入れた。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、オリエンテーション等の内容の見直しを行った。また、利用が制限されている冒険の森のナイトハイクコースに代わり、多目的広場周辺に新たなナイトハイクコースを整備し、提供した。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実を努めた。特に、低年齢層の団体向けに、雨天時のスポーツとして足取りバイクを取り入れた。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、活動を支援した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年 1 回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図っている。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染感染防止のため研修会を開催することができなかったため、「利用ガイド」等の事前配布で安全な活動を促した。さらに、受付やオリエンテーション、活動支援においても安全のための適切な

助言や指導を行った。

(ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため危機管理マニュアルを作成しており、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に関する項目を追加した。

(エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてマニュアル化し、利用者に配布するとともに受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

(オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDをレンタルし、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努め、消防法及び消防計画に則った消防訓練を実施した。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。

(イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。

(ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、いわき市内の高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(イ) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。

(ウ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

## (2) 職員組織

| 職名      | 人員 |
|---------|----|
| 所長      | 1  |
| 次長      | 1  |
| 主任指導員   | 1  |
| 主査      | 1  |
| 指導員     | 3  |
| 教育指導専門員 | 1  |
| 体験活動指導員 | 5  |
| 運転手     | 2  |
| 環境整備員   | 1  |
| 事務補助員   | 2  |
| 計       | 18 |

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

|         |             |
|---------|-------------|
| ア 本館定員  | 300名（和室28室） |
| イ ロッジ定員 | 160名（10棟）   |
| ウ テント定員 | 100名（25張）   |

### (3) 敷地面積

350,171 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

ア 延床面積 6,696.97 m<sup>2</sup>

#### (ア) 中心施設

本館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）  
体育館

#### (イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

|          |                      |
|----------|----------------------|
| ア つどいの広場 | 7,000 m <sup>2</sup> |
| イ 多目的広場  | 8,890 m <sup>2</sup> |
| ウ 自然観察園  | 4,050 m <sup>2</sup> |
| エ みんなの広場 | 4,700 m <sup>2</sup> |

## (6) 設備備品等

### ア 体育館

(バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか)

### イ 野営場

(野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)

### ウ 野外活動設備

(フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)

### エ 多目的広場

(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)

### オ その他

(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

## 3 利用状況

### (1) 令和2年度利用者数

延べ利用者数 13,137人

|    |        |       |        |
|----|--------|-------|--------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 147団体 | 9,674人 |
|    | 社会教育団体 | 92団体  | 2,180人 |
|    | ファミリー  | 7団体   | 71人    |
|    | 企画事業   | 35団体  | 1,212人 |

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

#### ア 学校教育団体指導者事前研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。

#### イ 社会教育団体指導者事前研修会(活動プログラム研修会)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。

#### ウ ボランティア養成講座

##### (ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年7月12日(日) 参加者数 7名
- 令和2年9月27日(日) 参加者数 8名
- 令和2年11月22日(日) 参加者数 6名
- 令和2年12月20日(日) 参加者数 8名
- ・対象 高校生、大学生、一般

##### (ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、高校生及び大学生の参加が減少した。

## (2) 利用促進事業

### ア 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### イ 遊ぼう!初夏の海で

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### ウ 夏休み海浜何でもチャレンジ!(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

中止となった春のオープンデーの代替として実施。施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解と利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年8月22日(土)
- ・対象 一般
- ・参加者数 104名(ほか講師10名、ボランティア8名)

##### (ウ) 内容

定員100名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップのクラフト体験、水鉄砲作りの昔遊び体験、いわき市考古資料館の協力による弓矢体験などを楽しんだ。

### エ スポーツフェスティバル(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

子どもから大人まで一緒に様々なスポーツを楽しみながら、体力向上や健康維持などへの意識向上を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年10月11日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 82名(ほか講師7名、ボランティア6名)

##### (ウ) 内容

定員100名の予約制で実施。雨天のため屋内でのプログラムのみとなったが、スラックライン、フロアカーリング、ヨガ教室などを楽しみ、健康への意識を高めることができた。

### オ 秋のオープンデー(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年10月25日(日)
  - ・対象 一般
  - ・参加者数 184名(ほか講師9名、ボランティア16名)
- (ウ) 内容
- 定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックラインなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ、万華鏡などのクラフト体験、いわき市アンモナイトセンターの協力によるジオード(水晶)探しなどを楽しんだ。また、野外炊飯(カレー作り)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。
- カ ふれあいオータムキャンプ
- (ア) 目的
- 自然のすばらしさや人とふれ合う喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年11月7日(土)・8日(日)
  - ・対象 小学生(5・6年生)
  - ・参加者数 21名(ほかボランティア5名)
- (ウ) 内容
- 2日間の日帰りで行った。二ツ箭山登山、野外炊飯(豚汁、さつまいもご飯)、クラフト体験などを行い、自然体験や交流活動を通して参加者同士の親睦を深め、社会性や自立心を育んだ。
- キ 親子のつどい
- (ア) 目的
- 親子と一緒に季節にふさわしい体験活動を行うことで、家族の絆を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年12月13日(日)
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
  - ・参加者数 61名(ほかボランティア3名)
- (ウ) 内容
- 親子と一緒に、クリスマスのオーナメントやリース作りなどの季節にふさわしいクラフト体験を楽しんだ。クラフトの材料は、自然環境の豊かさを体感できるように本所周辺で採集した自然の素材を用いた。
- ク 冬を楽しもう!～スキー教室～
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ケ クラフトのつどい
- (ア) 目的
- 創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興を図るとともに、自然の素材を生かしながらオリジナル作品を作ることで、地域の豊かな自然環境を体感する。併せて、本所への理解及び利用促進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和3年2月14日(日)
- ・対象 一般
  - ・参加者数 58名(ほかボランティア4名)
- (ウ) 内容
- 定員80名の予約制で実施。貝殻とトンボ玉のストラップ作り、木製のネームブロック作り、ストーンアート、貝の絵ろうそく作りなどの創作活動を楽しみ、トリムランドで身体を動かした。幅広い年齢層に対応するため体験の種類を増やした。
- コ 森の音楽会
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- (3) その他の企画事業**
- ア 未来キッズ生き生き事業
- (ア) 目的
- 本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年11月15日(日) 参加者数 92名(ほか講師8名)
  - 令和3年1月17日(日) 参加者数 43名
  - 令和3年2月7日(日) 参加者数 67名(ほか講師7名)
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
- (ウ) 内容
- 各回定員100名の事前予約制で実施。トリムランドで身体を動かし、マウンテンバイク、サイクリング、投げ釣り遠投などを楽しんだ。また、ロープ登り、凧あげなどの親子で一緒に活動できるプログラムを取り入れた。
- イ 未来キッズ生き生き事業番外編「クラフト&スポーツ」
- (ア) 目的
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、体を動かす機会が減少している子どもたちに、本所のアスレチック施設等で身体を動かすプログラムや自然の素材を利用したクラフト活動の機会を提供する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年12月26日(土) 参加者数 31名
  - 令和3年1月30日(土) 参加者数 27名
  - 令和3年2月21日(日) 参加者数 32名
  - 令和3年2月28日(日) 参加者数 29名
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
- (ウ) 内容
- 各回定員30名の事前予約制で実施。羽子板、万華鏡、竹のおもちゃ作りなどのクラフト活動を楽しみ、トリムランドで身体を動かした。万華鏡作りでは、参加者が屋外を散策しながら自然の素材を探すよう工夫し、自然の中で親子の絆を深める機会を提供した。

#### (4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加中止

イ 親子自然探訪教室 主催:いわき市アンモナイトセンター

##### (ア) 目的

親子でいわき市内の各所に出向き、様々な自然観察を行う。

##### (イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 平成29年9月22日(火)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 26名

##### (ウ) 内容

秋分の日に本所のつどいの広場で星空を観察し、秋の夜空について学んだ。いわき市内の教育文化施設と連携することで、参加者に本所の活動を広報することができた。

ウ 出前講座(全3件)

##### (ア) 目的

本所の活動内容の紹介と学校教育団体及び社会教育団体等への利用促進を図るため、出前講座を行う。

##### (イ) 期間、対象及び参加者数

- a 渡辺公民館  
令和2年7月25日(土) 参加者数 25名
- b 四倉公民館  
令和2年8月1日(土) 参加者数117名
- c 鹿島公民館  
令和2年9月12日(土) 参加者数 45名

##### (ウ) 内容

いわき市内の公民館で、自然体験活動やクラフト体験の出前講座を実施した。



# 第 10 章 文化財

## 第 1 節 文化財保護体制の充実

### 1 指定文化財保護体制の充実 (文化財パトロール)

例年、文化財保護体制の充実を図るため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その現況把握に努めてきた。令和 2 年度は県内 15 地区 133 件の文化財を巡視した。

### 2 文化財保護指導者研修会

#### (1) 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、公益財団法人福島県文化振興財団と県教育委員会の共催により実施した。文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

令和 2 年 10 月 15 日(木)～16 日(金)  
とうほう・みんなの文化センター [福島県文化センター]  
福島市民家園、旧霞堤・荒川資料室 (福島市)

#### (3) 内容

ア 講義内容及び講師

- (ア) 「川俣町前田遺跡の意味するもの」  
吉田秀享 (福島県文化振興財団遺跡調査部)
- (イ) 「市町村における文化財保護の課題」  
本間 宏 (福島県文化財センター白河館)
- (ウ) 「福島県文化財保存活用大綱について」  
山本友紀 (福島県教育庁文化財課)
- (エ) 荒川流域の総合治水システムと土木遺産  
佐久間智明 (福島市建設部河川課)

イ 現地研修

福島市民家園、旧霞堤・荒川資料室 (福島市) 見学

### 3 市町村文化財保護担当者会議

#### (1) 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえで必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度の会議開催を中止とし、資料配布のみ行った。(令和 2 年 6 月配付)

#### (3) 内容

ア 文化行政の動向

イ 令和 2 年度事業について

ウ 指定文化財の対応について

## 第 2 節 埋蔵文化財の保護の充実

### 1 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっていることから、県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)の保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。令和 2 年度は、公益財団法人福島県文化振興財団から 1 名の派遣を受けて、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査のため、文化財課の体制を強化した。

#### 公益財団法人福島県文化振興財団からの派遣

| 派遣期間      | 組織名(人数)            |
|-----------|--------------------|
| R2.4～R3.3 | 公益財団法人福島県文化振興財団(1) |

また、県の委託により発掘調査を行っている公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員 21 名、派遣教員 1 名、財団間出向職員 4 名、計 26 名で調査にあたった。

#### 公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 年度 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 人員 | 26 | 26 | 30 | 40 | 44 | 47 | 47 | 55 | 60 | 60 | 62 | 62 | 62 | 62 |
| 年度 | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 人員 | 62 | 62 | 68 | 68 | 76 | 61 | 39 | 40 | 40 | 40 | 41 | 41 | 38 | 32 |
| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | R1 | R2 |    |    |    |
| 人員 | 26 | 26 | 35 | 40 | 39 | 37 | 32 | 30 | 32 | 26 | 22 |    |    |    |

(平成 14 年度までは遺跡調査課定数)

### 2 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」・「試掘・確認調査」の結果により、事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

#### (1) 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

令和 2 年度は、会津縦貫南道路 11,000 m<sup>2</sup>、一般国道 49 号 1,400 m<sup>2</sup>、只見川河川整備 2,100 m<sup>2</sup>、阿武隈川河川整備 17,200 m<sup>2</sup>、計 31,700 m<sup>2</sup>の試掘・確認調査を実施した。

なお、復興事業に係る埋蔵文化財調査については別記した。

#### (2) 保存協議

昨年度からの継続協議を含め、関係機関と保存協議を実施した。

関係機関：国土交通省、県土木部、東北電力等。

### (3) 発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査（記録保存目的の本発掘調査）を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、以下の遺跡について実施した。

- ・会津縦貫南道路：栗林遺跡（下郷町）2,040 m<sup>2</sup>
- ・県道広野小高線（浪江工区）整備事業：赤坂D遺跡（浪江町）100 m<sup>2</sup>
- ・国道114号（山木屋1工区）改良工事：前田遺跡（川俣町）2,450 m<sup>2</sup>
- ・中間貯蔵建設予定地：後迫B遺跡（双葉町）6,600 m<sup>2</sup>

この他に、不時発見に伴う緊急の発掘調査として、県独自で以下の調査を実施した。

- ・梅川筋河川海岸整備事業：大毛内B遺跡（相馬市）800 m<sup>2</sup>

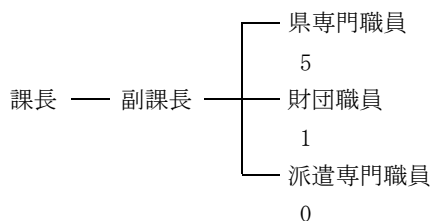
### 3 令和2年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

東日本大震災及び原子力災害に係る復旧・復興事業計画区域内において、埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、埋蔵文化財調査に係る技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈令和2年度〉復興調査体制

（南相馬市駐在）



調査対応した開発事業は以下のとおりである。

#### (1) 分布調査

農山村地域復興基盤総合整備、中間貯蔵施設等 4,505,094 m<sup>2</sup>

#### (2) 試掘・確認調査

農山村地域復興基盤総合整備、海岸防災林造成、中間貯蔵施設等 172,800 m<sup>2</sup>

#### (3) 災害復興に係る市町村技術協力

ア 大熊町

携帯基地局建設に係る本調査、工業団地に係る分布調査

イ 葛尾村 育苗施設建設に係る試掘・確認調査

### 4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

#### (1) 福島県文化財センター白河館文化財研修

公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理を行っている福島県文化財センター白河館において、埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を実施し、195名が受講した。

#### (2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

令和2年度に研修を受講した者はいなかった。

### 5 埋蔵文化財保護普及活動

令和2年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ・福島県内遺跡分布調査報告 27
- ・東日本大震災復興関連遺跡調査報告 7
- ・令和2年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務報告書

### 6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

| 市町村   | 遺跡名                   | 協力内容               |
|-------|-----------------------|--------------------|
| 小野町   | 飯豊上地区                 | 分布調査<br>試掘・確認調査    |
| 会津美里町 | 高田館跡                  | 発掘調査               |
| 湯川村   | 堂後遺跡                  | 発掘調査               |
| 南会津町  | 上村遺跡及び隣接地<br>宮本館隣接地   | 試掘・確認調査<br>試掘・確認調査 |
| 古殿町   | 仙石地区                  | 分布調査               |
| 川俣町   | 神宮寺跡                  | 試掘・確認調査            |
| 大熊町   | 秋葉台遺跡<br>大熊西工業団地建設予定地 | 発掘調査<br>分布調査       |
| 南相馬市  | 羽山岳の木戸跡               | 分布調査               |
| 葛尾村   | 北平C遺跡                 | 試掘・確認調査            |
| 広野町   | 高倉城跡                  | 分布調査               |

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により公益財団法人福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘・確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

令和2年度の技術協力の実績は、上記のとおり。

## 7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数

### (1) 令和2年度 試掘・確認調査件数

(令和2年4月～令和3年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|-----|------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1   | 道路               | 4  | 1   |    | 1  | 1   | 7  | 2   | 16  |
| 2   | 河川               |    | 1   |    | 1  |     | 2  |     | 4   |
| 3   | ダム               |    |     |    | 1  |     |    |     | 1   |
| 4   | 住宅               | 5  | 28  |    |    |     | 1  |     | 34  |
| 5   | 個人住宅             | 4  | 47  | 1  | 8  |     | 8  |     | 68  |
| 6   | 店舗               | 1  | 2   |    |    |     | 2  |     | 5   |
| 7   | その他建物            | 3  | 5   | 1  | 4  |     | 5  | 1   | 19  |
| 8   | 宅地造成             |    | 13  |    |    |     |    | 1   | 14  |
| 9   | 土地区画整理           |    |     |    |    |     |    |     | 0   |
| 10  | 公園造成             |    |     |    |    |     | 1  |     | 1   |
| 11  | 電気・ガス・水道等        | 2  |     |    |    |     | 1  | 4   | 7   |
| 12  | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    | 7   |    | 1  |     | 9  |     | 17  |
| 13  | その他の農業関係事業       | 1  |     |    |    |     | 1  |     | 2   |
| 14  | 土砂採取             |    |     |    |    |     | 8  | 1   | 9   |
| 15  | その他開発            | 6  | 12  |    |    |     | 10 | 1   | 29  |
| 合 計 |                  | 26 | 116 | 2  | 16 | 1   | 55 | 10  | 226 |

### (2) 令和2年度 発掘調査件数

(令和2年4月～令和3年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|------------------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 道路               | 4  | 1  |    | 1  | 1   | 2  | 1   | 10 |
| 2   | 河川               |    | 1  |    |    |     | 1  |     | 2  |
| 3   | 学校建設             | 1  |    |    |    |     | 1  |     | 2  |
| 4   | 住宅               |    |    |    | 1  |     |    |     | 1  |
| 5   | 個人住宅             |    |    |    | 2  |     | 1  |     | 3  |
| 6   | その他建物            | 1  | 1  |    |    |     | 2  |     | 4  |
| 7   | 宅地造成             |    |    | 1  |    |     |    |     | 1  |
| 8   | 土地区画整理           |    |    |    |    |     |    |     | 0  |
| 9   | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    | 2  | 1  | 5  |     |    |     | 8  |
| 10  | その他の農業関係事業       |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 11  | 土砂採取             |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 12  | その他開発            |    | 3  |    |    |     | 2  | 2   | 7  |
| 合 計 |                  | 6  | 8  | 2  | 9  | 1   | 11 | 3   | 40 |

## 8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査

| No  | 調査原因      | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|-----------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 範囲内容確認調査  | 3  | 1  | 2  | 3  |     | 4  | 2   | 15 |
| 2   | 史跡整備に係る調査 | 1  | 1  | 2  | 1  | 1   | 1  |     | 7  |
| 3   | 学術調査      |    |    |    |    |     |    |     | 0  |
| 合 計 |           | 4  | 2  | 4  | 4  | 1   | 5  | 2   | 22 |

## 9 令和2年度 試掘・確認調査

| No | 遺跡名          | 所在地              | 調査主体者 | 調査実施期間        | 調査面積<br>(㎡) | 時代    | 種別          | 調査原因   |
|----|--------------|------------------|-------|---------------|-------------|-------|-------------|--------|
| 1  | 山口地区遺跡推定地    | 都路町古道字杉内         | 福島県教委 | 5月25日～5月27日   | 5,800       | —     | —           | 農地整備   |
| 2  | 歩代田遺跡        | 田村市西向字歩代田        | 福島県教委 | 6月1日～6月3日     | 7,700       | 中世    | 散布地         | 農地整備   |
| 3  | 早渡工区遺跡推定地    | 川内村大字上川内字早渡      | 福島県教委 | 6月8日          | 1,170       | —     | —           | 道路     |
| 4  | 妙見迫遺跡        | 南相馬市原町区江井字妙見迫    | 福島県教委 | 6月22日～6月26日   | 13,200      | 平安・中世 | 散布地         | 農地整備   |
| 5  | 大毛内B遺跡       | 相馬市大曲字大毛内        | 福島県教委 | 7月1日～7月2日     | 1,500       | 古墳・平安 | 集落跡         | 河川海岸   |
| 6  | 北新田塩田跡ほか1か所  | 南相馬市小高区蛭沢字稲村     | 福島県教委 | 7月7日・7月9日     | 2,700       | 近世    | 生産遺跡        | 農地整備   |
| 7  | 双葉町内遺跡推定地    | 双葉町大字細谷字陣場前      | 福島県教委 | 7月13日～7月16日   | 12,430      | —     | —           | 中間貯蔵施設 |
| 8  | 加倉地区遺跡推定地2か所 | 浪江町大字加倉字馬場前ほか    | 福島県教委 | 7月20日～11月6日   | 16,200      | 弥生・近世 | 散布地         | 農地整備   |
| 9  | 大熊町内遺跡推定地    | 大熊町大字小入野字向畑      | 福島県教委 | 9月23日         | 360         | —     | —           | 中間貯蔵施設 |
| 10 | 野馬土手跡推定地2か所  | 南相馬市原町区大字大木戸字東方  | 福島県教委 | 9月15日～10月1日   | 5,100       | —     | —           | 河川海岸   |
| 11 | 富岡町内遺跡推定地    | 富岡町毛萱字浜畑         | 福島県教委 | 10月5日・10月6日   | 4,800       | —     | —           | 河川海岸   |
| 12 | 沢田館跡ほか5か所    | 南相馬市原町区上高平字沢田ほか  | 福島県教委 | 10月12日～11月17日 | 18,840      | 中世    | その他<br>(館跡) | 農地整備   |
| 13 | 糠塚E遺跡ほか2か所   | 川内村大字下川内字糠塚ほか    | 福島県教委 | 11月30日～12月4日  | 1,450       | 縄文    | 散布地         | 発電・送電  |
| 14 | 下加倉B遺跡       | 浪江町大字加倉字下加倉      | 福島県教委 | 12月14日～12月18日 | 9,600       | 古墳    | 集落跡         | 農地整備   |
| 15 | 小山B遺跡ほか1か所   | 檜葉町大字下小塙字地藏堂ほか   | 福島県教委 | 12月21日～1月22日  | 58,580      | 縄文    | 集落跡         | 農地整備   |
| 16 | 北原貝塚         | 南相馬市小高区浦尻字滝ヶ迫ほか  | 福島県教委 | 2月1日・2月2日     | 1,970       | 縄文    | 集落跡         | 道路     |
| 17 | 天神谷地遺跡ほか3か所  | 南相馬市原町区上北高平字貝餅ほか | 福島県教委 | 2月3日～2月10日    | 11,200      | 縄文・弥生 | 散布地         | 道路     |
| 18 | CG-B10       | 下郷町大字中妻字新田乙      | 福島県教委 | 6月1日～6月19日    | 575         | 縄文    | 集落跡         | 道路     |
| 19 | TZ-AB. B1    | 柳津町大字藤           | 福島県教委 | 7月20日～7月31日   | 30          | —     | —           | 道路     |
| 20 | 中丸城跡         | 金山町大字横田          | 福島県教委 | 8月24日～8月28日   | 97          | —     | —           | 河川整備   |
| 21 | 徳定A・B遺跡      | 郡山市田村町徳定・御代田     | 福島県教委 | 12月7日～12月18日  | 427         | 古墳・中世 | 散布地         | 河川整備   |

## 10 令和2年度 発掘調査

| No | 遺跡名     | 所在地             | 調査主体者 | 調査実施期間       | 調査面積<br>(㎡) | 時代                      | 種別          | 調査原因     |
|----|---------|-----------------|-------|--------------|-------------|-------------------------|-------------|----------|
| 1  | 栗林遺跡    | 下郷町大字中妻字和田前、柳ノ下 | 福島県教委 | 5月11日～11月25日 | 2,040       | 縄文                      | 集落跡         | 会津縦貫道路   |
| 2  | 後廻B遺跡   | 双葉町大字郡山字後廻      | 福島県教委 | 4月6日～9月30日   | 6,600       | 弥生・古墳<br>奈良・平安<br>近世    | 集落跡         | 中間貯蔵施設   |
| 3  | 前田遺跡    | 川俣町大字小綱木字前田     | 福島県教委 | 4月15日～2月26日  | 2,450       | 縄文・弥生<br>奈良・平安<br>中世・近世 | 低湿地・<br>集落跡 | 国道114号改良 |
| 4  | 赤坂D遺跡   | 浪江町大字棚塩字赤坂      | 福島県教委 | 4月23日～7月1日   | 100         | 古墳・奈良                   | 生産遺跡        | 県道整備     |
| 5  | 徳定A・B遺跡 | 郡山市田村町御代田       | 福島県教委 | 4月20日～11月30日 | 3,000       | 古墳・鎌倉                   | 集落跡         | 河川改修     |
| 6  | 大毛内B遺跡  | 相馬市大曲字大毛内       | 福島県教委 | 9月14日～2月10日  | 800         | 古墳・奈良<br>平安・中世<br>近世    | 集落跡         | 河川改修     |

## 第3節 文化財保存助成の充実

### 1 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分     | 補助事業者 | 名称               | 種別  | 事業内容    | 金額(単位:円)  |           |           |           |
|----------|-------|------------------|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|          |       |                  |     |         | 事業費       | 国庫補助      | 県費補助      | その他       |
| 国指定文化財管理 | 延命寺   | 延命寺地蔵堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 259,900   | 64,500    | 64,500    | 130,900   |
| 国指定文化財管理 | 八葉寺   | 八葉寺阿弥陀堂          | 建造物 | 防災保守点検等 | 1,102,600 | 275,500   | 275,500   | 551,600   |
| 国指定文化財管理 | 横山操   | 旧滝沢本陣<br>横山家住宅   | 建造物 | 防災保守点検等 | 290,600   | 72,500    | 72,500    | 145,600   |
| 国指定文化財管理 | 飯盛正徳  | 旧正宗寺三匠堂          | 建造物 | 防災保守点検等 | 758,868   | 189,500   | 189,500   | 379,868   |
| 国指定文化財管理 | 勝福寺   | 勝福寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 430,650   | 107,500   | 107,500   | 215,650   |
| 国指定文化財管理 | 熊野神社  | 熊野神社長床           | 建造物 | 防災保守点検等 | 1,142,300 | 285,500   | 285,500   | 571,300   |
| 国指定文化財管理 | 円満寺   | 円満寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検等 | 900,100   | 225,000   | 225,000   | 450,100   |
| 国指定文化財管理 | 恵隆寺   | 恵隆寺観音堂           | 建造物 | 雪降し、除雪等 | 163,600   | 40,500    | 40,500    | 82,600    |
| 国指定文化財管理 | 法用寺   | 法用寺本堂内<br>厨子及び仏壇 | 建造物 | 防災保守点検  | 40,500    | 10,000    | 10,000    | 20,500    |
| 国指定文化財管理 | 常福院   | 常福院薬師堂           | 建造物 | 防災保守点検  | 47,250    | 11,000    | 12,000    | 24,250    |
| 国指定文化財管理 | 福生寺   | 福生寺観音堂           | 建造物 | 防災保守点検  | 51,600    | 12,000    | 13,000    | 26,600    |
| 国指定文化財管理 | 飯野八幡宮 | 飯野八幡宮            | 建造物 | 防災保守点検等 | 772,336   | 193,000   | 193,000   | 386,336   |
| 計        | 12件   |                  |     |         | 5,960,304 | 1,487,000 | 1,488,000 | 2,985,304 |

## 2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

### (1) 国指定文化財

| 事業区分          | 補助事業者 | 名称                 | 種別              | 事業内容   | 金額（単位：円）   |            |           |            |
|---------------|-------|--------------------|-----------------|--------|------------|------------|-----------|------------|
|               |       |                    |                 |        | 事業費        | 国庫補助       | 県費補助      | その他        |
| 記念物保存修理       | 横山操   | 旧滝沢本陣              | 史跡              | 史跡整備   | 25,316,000 | 19,971,000 | 750,000   | 4,595,000  |
| 美術工芸品保存修理     | 三島町   | 福島県荒屋敷遺跡出土品        | 美術工芸品<br>(考古資料) | 考古資料修復 | 8,291,501  | 5,291,000  | 450,000   | 2,550,501  |
| 重要有形民俗文化財保存修理 | 南会津町  | 奥会津の山村生産用具及び民家（馬宿） | 有形民俗            | 建造物修理  | 4,709,520  | 2,316,000  | 450,000   | 1,943,520  |
| 建造物保存修理       | 専称寺   | 専称寺本堂<br>ほか2棟      | 建造物             | 防災施設整備 | 55,694,000 | 46,976,000 | 1,530,000 | 7,188,000  |
| 計             | 4件    |                    |                 |        | 94,011,021 | 74,554,000 | 3,180,000 | 16,277,021 |

### (2) 県指定文化財

| 事業区分      | 補助事業者 | 名称              | 種別    | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|-----------|-------|-----------------|-------|--------|------------|------|------------|------------|
|           |       |                 |       |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 天然記念物保護増殖 | 石川町   | 中の内のフジ          | 天然記念物 | 保護増殖   | 8,410,350  | 0    | 2,770,000  | 5,640,350  |
| 建造物保存修理   | 如法寺   | 如法寺観音堂<br>附仁王門  | 建造物   | 建造物修理  | 15,700,850 | 0    | 5,210,000  | 10,490,850 |
| 美術工芸品保存修理 | 如法寺   | 木造聖観音立像         | 美術工芸品 | 彫刻修復   | 1,373,226  | 0    | 450,000    | 923,226    |
| 美術工芸品保存修理 | 恵隆寺   | 木造二十八部衆立像       | 美術工芸品 | 彫刻修復   | 1,266,582  | 0    | 420,000    | 846,582    |
| 建造物保存修理   | 南湖神社  | 松風亭蘿月庵          | 建造物   | 建造物修理  | 3,993,000  | 0    | 1,060,000  | 2,933,000  |
| 記念物保存修理   | 猪苗代町  | 猪苗代城跡<br>附鶴峰城跡  | 史跡    | 史跡整備   | 2,815,500  | 0    | 930,000    | 1,885,500  |
| 美術工芸品保存修理 | 田村市   | 佐久間庸軒<br>和算関係資料 | 美術工芸品 | 歴史資料修復 | 1,044,500  | 0    | 340,000    | 704,500    |
| 記念物保存修理   | 相馬市   | 中村城跡            | 史跡    | 史跡修復   | 21,989,000 | 0    | 7,320,000  | 14,669,000 |
| 計         | 8件    |                 |       |        | 56,593,008 | 0    | 18,500,000 | 38,093,008 |

※ 相馬市（中村城跡）は、令和3年度に明許繰越。

## 3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

台風19号等により被災した国指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分             | 補助事業者 | 名称   | 種別 | 事業内容   | 金額（単位：円）    |            |            |            |
|------------------|-------|------|----|--------|-------------|------------|------------|------------|
|                  |       |      |    |        | 事業費         | 国庫補助       | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧<br>(R1負担行為) | 白河市   | 白川城跡 | 史跡 | 災害復旧工事 | 104,591,365 | 73,213,000 | 15,689,000 | 15,689,365 |
| 災害復旧<br>(R2負担行為) | 白河市   | 白川城跡 | 史跡 | 災害復旧工事 | 122,790,000 | 85,953,000 | 18,418,000 | 18,419,000 |
| 災害復旧<br>(R1負担行為) | 白河市   | 南湖公園 | 史跡 | 災害復旧工事 | 38,848,538  | 27,193,000 | 5,827,000  | 5,828,538  |
| 災害復旧<br>(R2負担行為) | 白河市   | 南湖公園 | 史跡 | 災害復旧工事 | 39,270,000  | 27,489,000 | 5,890,000  | 5,891,000  |

| 事業区分               | 補助事業者        | 名称             | 種別         | 事業内容   | 金額（単位：円）    |             |            |            |
|--------------------|--------------|----------------|------------|--------|-------------|-------------|------------|------------|
|                    |              |                |            |        | 事業費         | 国庫補助        | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧<br>（R 2 負担行為） | 白河市          | 白河舟田・<br>本沼遺跡群 | 史跡         | 災害復旧工事 | 15,153,600  | 10,607,000  | 2,273,000  | 2,273,600  |
| 災害復旧<br>（R 1 負担行為） | 相馬野馬追<br>保存会 | 相馬野馬追          | 重要無形<br>民俗 | 災害復旧工事 | 20,024,400  | 10,012,000  | 5,006,000  | 5,006,400  |
| 計                  | 6 件          |                |            |        | 340,677,903 | 234,467,000 | 53,103,000 | 53,107,903 |

※ 白河市（白川城跡（R 2 負担行為））は、令和 3 年度に事故繰越。

## 第 4 節 文化財の保護と公開の推進

### 1 第 62 回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

期 日 令和 2 年 10 月 31 日 リハーサル・実行委員会

11 月 1 日 開会式・民俗芸能公開

場 所 三沢市公会堂（青森県青森市）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止。

### 2 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11 月 1 日から 11 月 7 日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを配布し、県民に対し啓発を行った。

### 3 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者・管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1 月 26 日の文化財防火デーを中心に、チラシを配布するなど啓発を行った。

また、各市町村においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

## 第 5 節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

### 1 登録審査委員

佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美、塚本剛之

### 2 登録審査会の実施状況

| 期 日       | 会 場       | 審査数 | 失格数 | 登録数 | 登録数の内訳 |     |
|-----------|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|
|           |           |     |     |     | 刀 剣    | 銃 砲 |
| 5 月 27 日  | いわき合同庁舎   | 38  | 0   | 38  | 38     | 0   |
| 7 月 17 日  | 郡山市労働福祉会館 | 48  | 4   | 44  | 42     | 2   |
| 9 月 25 日  | 会津若松合同庁舎  | 32  | 2   | 30  | 30     | 0   |
| 11 月 26 日 | あづま荘      | 42  | 2   | 40  | 40     | 0   |
| 3 月 16 日  | 郡山市労働福祉会館 | 44  | 5   | 39  | 38     | 1   |
| 計         |           | 204 | 13  | 191 | 188    | 3   |

※ 再交付に係る審査を除く。

### 3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況

| 区 分   | 銃 砲 等 | 刀 剣 類 |
|-------|-------|-------|
| 譲 受 け | 13    | 672   |
| 相 続   | 1     | 68    |
| 貸 付   | 1     | 0     |
| 保管の委託 | 1     | 7     |
| 計     | 16    | 747   |

## 第6節 福島県文化財センター白河館の運営状況

### 1 入館者数

令和2年度の入館者は11,249人であり、前年度の入館者(23,679人)に比べ12,430人減少した。団体利用は、前年度に比べ6,129名減少した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、576,005人となった。

(令和3年3月31日現在)

| 月   | 入館者数(人) | 1日平均入館者数(人) |
|-----|---------|-------------|
| 4月  | 362     | 21          |
| 5月  | 347     | 25          |
| 6月  | 751     | 30          |
| 7月  | 1,052   | 39          |
| 8月  | 1,577   | 58          |
| 9月  | 1,084   | 42          |
| 10月 | 1,328   | 49          |
| 11月 | 1,316   | 53          |
| 12月 | 605     | 25          |
| 1月  | 678     | 28          |
| 2月  | 1,146   | 48          |
| 3月  | 1,003   | 39          |
| 計   | 11,249  | 39          |

### 2 入館者の内訳と傾向

地域別利用状況 県内者 88.7% (うち総入館者数に占める白河市の割合 46.2%)

県外者 11.3%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が25.7%、団体入館者が6.5%を占める。

### 3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (令和3年3月31日現在)

|         |      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
|---------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 幼稚園・保育園 | 団体数  |    |    |    |    |    |     | 1   |     |     | 2  | 1  | 1  | 5   |
|         | 入館者数 |    |    |    |    |    |     | 8   |     |     | 20 | 8  | 8  | 44  |
| 小学校     | 団体数  |    | 2  |    |    |    | 5   | 2   |     |     |    | 1  | 2  | 12  |
|         | 入館者数 |    | 95 |    |    |    | 100 | 71  |     |     |    | 36 | 16 | 378 |
| 中学校     | 団体数  |    |    |    |    |    |     |     |     | 1   |    |    |    | 1   |
|         | 入館者数 |    |    |    |    |    |     |     |     | 21  |    |    |    | 21  |
| 高等学校    | 団体数  |    |    |    |    |    |     | 2   |     |     |    |    |    | 2   |
|         | 入館者数 |    |    |    |    |    |     | 31  |     |     |    |    |    | 31  |



|                         |      | 4月 | 5月 | 6月    | 7月   | 8月   | 9月    | 10月   | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計    |
|-------------------------|------|----|----|-------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 支援学校                    | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 大学                      | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       | 1    |      |      |      |      | 1    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       | 27   |      |      |      |      | 27   |
| 幼小中高PTA<br>(保護者のみ)      | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 幼小中高PTA<br>(保護者と児童生徒)   | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 研究会                     | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 子ども会                    | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 公民館等                    | 団体数  |    |    |       |      |      |       | 1     | 1    |      |      |      |      | 2    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       | 14    | 9    |      |      |      |      | 23   |
| 福祉施設・<br>デイケアサービス       | 団体数  |    |    |       | 4    |      |       |       |      |      |      |      |      | 4    |
|                         | 入館者数 |    |    |       | 22   |      |       |       |      |      |      |      |      | 22   |
| 資料館等                    | 団体数  |    |    |       |      |      |       | 1     | 2    |      |      |      |      | 3    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       | 30    | 50   |      |      |      |      | 80   |
| 歴史研究団体                  | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      |      | 0    |
| 県・市町村・<br>教委・審議会等       | 団体数  |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      | 1    | 1    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      |      |       |       |      |      |      |      | 11   | 11   |
| その他                     | 団体数  |    |    |       |      | 1    | 4     |       |      |      |      |      |      | 5    |
|                         | 入館者数 |    |    |       |      | 8    | 90    |       |      |      |      |      |      | 98   |
| 計                       | 団体数  | 0  | 0  | 2     | 4    | 1    | 5     | 11    | 4    | 1    | 2    | 2    | 4    | 36   |
|                         | 入館者数 | 0  | 0  | 95    | 22   | 8    | 160   | 244   | 86   | 21   | 20   | 44   | 35   | 735  |
| 総入館者に占める<br>団体入館者の割合(%) |      | 0  | 0  | 12.65 | 2.09 | 0.51 | 14.76 | 18.37 | 6.53 | 3.47 | 2.95 | 3.84 | 3.49 | 6.53 |

#### 4 情報発信事業の利用者

ホームページアクセス件数 38,737 件

(令和3年3月31日現在)

(文化財データベースのほか、福島県文化財センター白河館のイベント情報等をホームページで紹介している。)

#### 5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品等 56,922 箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理している。

写真掲載・転載の申し込み 29 件、出土品借受の申し込み 13 件、収蔵庫保管品の館内閲覧 15 件であった。

#### 6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、文化財保護指導者、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

| 区分           | 研修対象者                          | 研修内容                                                  |
|--------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 基礎研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村が直面する課題や先行実践例の検証などを通して、文化財保護法改定後の文化財保護行政のあり方を議論する。 |
| 専門研修<br>(2回) | 市町村職員、<br>市町村文化<br>財保護指導<br>者等 | 市町村文化財保護行政の実践例を現地で検証したり、デジタル技術を駆使した最新の調査・記録技術を学ぶ。     |
| 特別研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村の要望に応じて館内外において随時実施。                                |

参加者：合計 162 名

**令和2年度研修実施状況** (令和3年3月31日現在)

- ・基礎研修 (2回)
  - 「文化財保護行政実務者研修」 8月 7日 参加者 7名
  - 「文化財防災研修」 12月16日 参加者 13名
- ・専門研修 (2回)
  - 「文化財保護指導者研修会」
    - 10月15日～16日 参加者のべ112名
    - 「デジタル画像を用いた遺構実測実習」
      - 1月22日 参加者 6名
- ・特別研修 (2回)
  - 「石器写真撮影技術研修」 12月 5日 参加者 3名
  - 「水害等により水浸し文化財等の取り扱いについて」
    - 11月19日 参加者 22名

**7 体験学習事業の状況**

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室を設けている。また野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

**(1) いつでもできる体験学習**

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」のほか、月替わりの期間限定メニューを用意している。

**常時体験型体験活動状況** (令和3年3月31日現在)

| 月   | 来館者数(人) | 体験者数(人) | 割合(%) |
|-----|---------|---------|-------|
| 4月  | 362     | 0       | 0     |
| 5月  | 347     | 0       | 0     |
| 6月  | 751     | 44      | 5.9   |
| 7月  | 1,052   | 174     | 16.5  |
| 8月  | 1,577   | 448     | 28.4  |
| 9月  | 1,084   | 221     | 20.4  |
| 10月 | 1,328   | 260     | 19.6  |
| 11月 | 1,316   | 222     | 16.9  |
| 12月 | 605     | 144     | 23.8  |
| 1月  | 678     | 98      | 14.5  |
| 2月  | 1,146   | 170     | 14.8  |
| 3月  | 1,003   | 171     | 17.0  |
| 計   | 11,249  | 1,952   | 17.4  |

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

**(2) 募集型体験学習**

事前に参加者を募集して土器づくり、からむし織りなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間で実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

- 第1回「入塾式・灯心づくりなど」 8月30日 参加者4名
- 第2回「灯明皿づくり・アブラナ種植え」
  - 10月11日 参加者4名
- 第3回「行灯づくり・アブラナ観察」
  - 11月15日 参加者5名
- 第4回「油絞り・行灯点灯・修了式」
  - 12月20日 参加者4名

・実技講座

- 「おすもうさん埴輪づくり」 10月 4日 参加者 4名
- 「大堀相馬焼に挑戦①印花づくり」 10月18日 参加者12名
- 「大堀相馬焼に挑戦②皿づくり 成形」
  - 11月 1日 参加者12名
- 「土器づくり初級編Ⅰ」 11月 6日 参加者 0名
- 「土器づくり初級編Ⅱ」 11月 7日 参加者 5名
- 「大堀相馬焼に挑戦③絵付け」 11月 8日 参加者10名
- 「実験講座ガラスはどうしたらできるのか①坩堝づくり」
  - 11月29日 参加者 4名
- 「実験講座ガラスはどうしたらできるのか②操業実験」
  - 12月 6日 参加者 5名
- 「土器づくり上級編①土器づくり」 1月16日 参加者 7名
- 「土器づくり上級編②成形・施文」 1月17日 参加者 7名
- 「土器づくり上級編③ミガキ調整」
  - 1月19日～21日 参加者16名

- 「アンギン台での布づくり①」 1月26日 参加者 3名
- 「アンギン台での布づくり②」 1月27日 参加者 3名
- 「アンギン台での布づくり③」 1月28日 参加者 2名
- 「アンギン台での布づくり④」 1月29日 参加者 3名
- 「縄文土器づくり上級編④野焼き」 3月 7日 参加者 7名

**(3) 体験イベント**

- 「まほろん夏休み特別体験」 8月8日～16日 参加者 920名
- 「まほろん感謝月間」 11月1日～29日 参加者1,316名
- 「まほろん冬まつり」 2月24日 中止

**(4) 館外体験学習**

ア おでかけまほろん

福島県文化財センター白河館の職員が、小中学校等教育機関を対象として職員が出向き、収蔵資料等を活用した学習や体験学習を教職員と協働で行うプログラム。令和2年度は8校で実施し、参加者数は合計257名であった。

- 第1回 二本松市立杉田小学校 9月 3日 参加者32名
- 第2回 喜多方市立第二小学校 9月10日 参加者64名
- 第3回 いわき市立汐見が丘小学校 9月17日 参加者26名
- 第4回 相馬市立大野小学校 10月 8日 参加者28名
- 第5回 南相馬市立太田小学校 10月22日 参加者36名
- 第6回 昭和村立昭和中学校 10月29日 参加者21名
- 第7回 喜多方市立上三宮小学校 11月18日 参加者12名
- 第8回 二本松市立塩沢公民館 12月17日 参加者38名

イ 生涯学習行事への出席

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントへの出席・体験学習プログラムの実施を中止した。

## 8 講演会・講習会

文化財に親しみ、文化財への理解を深めるために、講演会や講座を開催した。

- (1) 館長講演会 3回開催
- 第1回「自然災害としての新型コロナ—歴史のなかの感染症—」  
6月6日 中止
- 第2回「シンポジウム鉄の道をたどるに寄せて」  
7月23日 中止
- 第3回「シリーズ民族共生象徴空間ウポポイ開設に寄せて  
その1 先住民族アイヌの現在と歴史遡上の試み—  
アイヌ新法から日本書紀まで—」  
9月12日 聴講者 16名
- 第4回「シリーズ民族共生象徴空間ウポポイ開設に寄せて  
その2 北日本の人類史の流れを下る—考古学から  
アイヌ文化の形成を探る—」  
12月18日 聴講者 14名
- 第5回「コロナ時代の考古学ニュースを解説する」  
2月28日 聴講者 18名

## (2) 文化財講演会

- 「ふくしま発掘最前線」 7月18日 中止
- 「阿武隈川流域の古墳時代」 9月27日 参加者 16名
- 「福島県における石製模造品の様相—建鉾山祭祀遺跡出土  
遺物を中心に—」 11月21日 参加者 17名
- 「大木貝具塚と大木式土器」 1月24日 参加者 16名
- 「法正尻遺跡の集落構成」 2月27日 参加者 23名
- 「相馬中村藩の製塩遺跡とソルトロード」・「古代製鉄炉復  
元操業実験の成果と仮題」・「中世のムラー北と南から—」  
11月23日 参加者 24名

## (3) シンポジウム

- 「鉄の道をたどる」 7月23日～24日 中止

## 9 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「暮らしのうつりかわり」「みんなの研究ひろば」「しらかわ歴史名場面」「話題の遺跡」については展示替えを積極的に行い、歴史や文化財等に関する新鮮な情報を提供した。

- 暮らしのうつりかわり（昭和～縄文時代の出土品等）
- みんなの研究ひろば（実技講座「土器づくり上級編」  
製作品等）
- しらかわ歴史名場面（阿武隈川流域の旧石器時代遺跡  
出土品等）
- 話題の遺跡（まほろん収蔵の大堀相馬焼や双葉・大熊町  
教育委員会所蔵の民具等）
- 重要文化財公開（国指定法正尻遺跡出土品）
- プロムナードギャラリー等でのミニ展示及び展示替え  
・「まほろんの逸品」（飯舘村羽白C遺跡等）  
・「新春干支特別展示」（関和久遺跡出土「丑」墨書須恵  
器等）

## 10 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

- (1) 収蔵資料展  
「ふくしま鉄ものがたりⅡ」  
4月11日～5月19日 観覧者 166名
- (2) 特別展  
「ふくしま発掘最前線—十三遺跡記—」  
6月6日～8月30日 観覧者 3,259名
- (3) ふくしま歴史探訪展  
「ようこそ古墳時代へ！—阿武隈川上流域に暮らした  
人々—」  
9月26日～12月13日 観覧者 3,191名
- (4) 指定文化財展  
「法正尻遺跡展Ⅰ—磐梯山麓最大の縄文集落—」  
1月23日～3月28日 観覧者 2,396名
- (5) 移動展  
自治体・関係機関等と連携して、移動展を実施した。  
○「ふくしま鉄ものがたり」  
6月7日～7月3日（場所：福島県立図書館）  
観覧者 9,197名  
8月1日～8月30日（場所：富岡町文化交流センター）  
観覧者 764名  
9月2日～10月11日（場所：小高交流センター）  
観覧者 526名  
○「ようこそ古墳時代へ！」  
1月15日～3月18日（場所：矢吹町ふるさとの森芸術  
村）  
観覧者 779名

## 11 ボランティア運営事業

- (1) 「まほろんボランティア」の活動状況  
施設・展示の案内  
体験学習用器材の整備など  
ボランティア連絡会（2回開催）
- (2) 登録数  
個人ボランティア 33名

## 12 市町村への技術支援の状況

文化財保護に対する個別の技術支援が必要な市町村に対して、専門職員の派遣を実施する。令和2年度は、6市町に対し計7回、延べ9人の職員を派遣した。

- ・出土遺物保存方法指導  
福島市(1回)
- ・文化財保全支援  
会津坂下町(1回)  
飯舘村(1回)
- ・被災文化財保全支援  
本宮市(1回)  
伊達市(1回)  
鮫川村(1回)

- ・土層断面転写保存支援  
会津坂下町(1回)

# 第 11 章 福利厚生

## [教職員の健康管理・福利厚生事業]

### 第 1 節 概要

(1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種事業を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として県立学校に教職員用マスク等保健衛生用品の配付を行った。

(2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りながら実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。なお、教職員の心身の健康づくりを支援するため例年実施していた各種セミナー事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により管理監督者メンタルヘルス研修会を除き開催中止とした。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

### 第 2 節 事業実績

#### 1 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、各種健康診断、ストレスチェック事業等を実施した。

##### (1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

###### ア 健康診断実施状況

| 受診者   | 異常なし |       | 要注意者 |       | 要精密検査者 |       | 治療中  |      |
|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|------|------|
|       | 人数   | 割合    | 人数   | 割合    | 人数     | 割合    | 人数   | 割合   |
| 141 人 | 38 人 | 27.0% | 41 人 | 29.1% | 48 人   | 34.0% | 14 人 | 9.9% |

###### イ 検査項目ごとの状況

| 検査項目   | 聴力   | 血圧   | 血液   | 脂質    | 肝機能   | 血糖   | 尿    | 心電図  | 胸部   |
|--------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|
| 受診者    | 141  | 141  | 140  | 140   | 140   | 132  | 141  | 140  | 139  |
| 異常なし   | 139  | 116  | 117  | 81    | 107   | 109  | 131  | 124  | 137  |
| 要注意者   | 0    | 12   | 17   | 26    | 18    | 20   | 0    | 12   | 2    |
| 要精密検査者 | 2    | 7    | 4    | 25    | 14    | 3    | 10   | 4    | 0    |
| 治療中    | 0    | 6    | 2    | 8     | 1     | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 要精密検査率 | 1.4% | 5.0% | 2.9% | 17.9% | 10.0% | 2.3% | 7.1% | 2.9% | 0.0% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が 1 人で 2 つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

##### (2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

###### ア 健康診断実施状況

| 区分     |    | 受診者   | 異常なし | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中   |
|--------|----|-------|------|-------|--------|-------|
| 35 歳以上 | 男性 | 3,168 | 105  | 688   | 1,239  | 1,136 |
|        | 女性 | 2,190 | 167  | 772   | 796    | 455   |
|        | 計  | 5,358 | 272  | 1,460 | 2,035  | 1,591 |
| 35 歳未満 | 男性 | 633   | 120  | 240   | 226    | 47    |
|        | 女性 | 635   | 268  | 197   | 133    | 37    |
|        | 計  | 1,268 | 388  | 437   | 359    | 84    |
| 合計     | 男性 | 3,801 | 225  | 928   | 1,465  | 1,183 |
|        | 女性 | 2,825 | 435  | 969   | 929    | 492   |
|        | 計  | 6,626 | 660  | 1,897 | 2,394  | 1,675 |

イ 検査項目ごとの状況

| 検査項目   | 聴力    |       | 血圧    |       | 血液一般  |       | 血中脂質  |       | 肝機能   |       | 腎機能   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,264 | 5,319 | 1,268 | 5,348 | 1,268 | 5,340 | 1,268 | 5,339 | 1,268 | 5,086 | 1,268 | 5,342 |
| 異常なし   | 1,251 | 4,596 | 1,090 | 3,461 | 1,058 | 4,076 | 765   | 2,649 | 982   | 3,151 | 1,089 | 4,348 |
| 要注意者   | 0     | 214   | 122   | 736   | 166   | 946   | 274   | 1,060 | 162   | 1,378 | 114   | 706   |
| 要精密検査者 | 13    | 298   | 35    | 453   | 29    | 172   | 174   | 929   | 117   | 453   | 65    | 281   |
| 治療中    | 0     | 211   | 21    | 698   | 15    | 146   | 55    | 701   | 7     | 104   | 0     | 7     |
| 要精密検査率 | 1.0%  | 5.6%  | 2.8%  | 8.5%  | 2.3%  | 3.2%  | 13.7% | 17.4% | 9.2%  | 8.9%  | 5.1%  | 5.3%  |

| 検査項目   | 血糖    |       | 尿     |       | 心電図   |       | 胃エックス線 |       | 大腸がん  |       | 眼底    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満  | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,206 | 5,336 | 1,252 | 5,284 | 1,265 | 5,321 | /      | 4,107 | /     | 4,836 | /     | 5,195 |
| 異常なし   | 1,081 | 2,677 | 1,185 | 4,894 | 1,136 | 4,167 |        | 3,480 |       | 4,143 |       | 4,646 |
| 要注意者   | 116   | 2,009 | 0     | 1     | 105   | 809   |        | 481   |       | 400   |       | 77    |
| 要精密検査者 | 9     | 244   | 67    | 388   | 24    | 338   |        | 142   |       | 281   |       | 439   |
| 治療中    | 0     | 406   | 0     | 1     | 0     | 7     |        | 4     |       | 12    |       | 33    |
| 要精密検査率 | 0.7%  | 4.6%  | 5.4%  | 7.3%  | 1.9%  | 6.4%  |        | 3.5%  |       | 5.8%  |       | 8.5%  |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

| 受診者    | 異常なし   | 要注意者 | 要精密検査者 | 治療中 | 要精密検査率 |
|--------|--------|------|--------|-----|--------|
| 6,394人 | 6,072人 | 251人 | 59人    | 12人 | 0.9%   |

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

教育庁及び県立学校等教職員

（令和2年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,775人、97.6%

(5) 情報機器作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 5,641人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延べ人数 1,386人

(7) 学校保健特別対策事業（県）

県立学校教職員に対し新型コロナウイルス感染症対策用のマスク等保健衛生用品の配付を行った。

配付学校数 109校

配付衛生用品

|                  |          |
|------------------|----------|
| サージカルマスク         | 249,450枚 |
| 手指消毒液（10）        | 5,8010   |
| 清拭用消毒液（1.50）     | 666本     |
| 消毒用手袋（使捨）100枚/1箱 | 360箱     |
| ペーパータオル200枚/1箱   | 1,554箱   |
| 消毒用手袋（ゴム）        | 795組     |

## 2 保健事業

### (1) 特定健康診査等（共済組合）

令和2年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

| 対象者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 保健指導<br>対象者 |
|-----------|-----------|-------|-------------|
|           |           | B/A   |             |
| 17,464人   | 15,120人   | 86.6% | 2,673人      |

### (2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 6,820人    | 5,333人    | 5,055人    | 78.2% | 74.1% | 94.8% | 2.5% | 33.8% | 38.8% | 25.0% |

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

| 申込者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           | B/A   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 297人      | 253人      | 85.2% | 3.2% | 30.4% | 39.5% | 26.9% |

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

令和2年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 721人      | 507人      | 487人      | 70.3% | 67.5% | 96.1% | 1.4% | 20.5% | 29.4% | 48.7% |

### (3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|------|------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 11,078人   | 858人      | 704人      | 7.7% | 6.4% | 82.1% | 62.3% | 27.5% | 9.8% | 0.3% |

### (4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 8,480人    | 4,029人    | 3,783人    | 47.5% | 44.6% | 93.9% | 78.2% | 14.9% | 6.3% | 0.6% |

### (5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 6,117人    | 953人      | 913人      | 15.6% | 14.9% | 95.8% | 37.0% | 35.8% | 26.8% | 0.3% |

### (6) 脳検診（共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 6,117人    | 1,743人    | 1,650人    | 28.5% | 27.0% | 94.7% | 74.7% | 18.5% | 6.7% | 0.1% |

### (7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 受診率        |      |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|------------|------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | 申込率<br>B/A | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 14,999人   | 1,568人    | 1,448人    | 10.5%      | 9.7% | 92.3% | 55.9% | 33.3% | 9.9% | 1.0% |

### (8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

令和2年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 受診率        |       |       | 検診結果  |      |      |     |
|-----------|-----------|-----------|------------|-------|-------|-------|------|------|-----|
|           |           |           | 申込率<br>B/A | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意  | 要精検  | 治療中 |
| 670人      | 110人      | 87人       | 16.4%      | 13.0% | 79.1% | 87.4% | 6.9% | 5.7% | 0%  |

## 3 厚生事業

### (1) 厚生事業

ア 管理監督者メンタルヘルス研修会（県、共済組合）

管理監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

|      |                      |
|------|----------------------|
| 日程   | 令和2年8月18日、10月5日（計2回） |
| 会場   | 南会津・会津               |
| 講師   | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |
| 受講者数 | 計57人                 |

イ 保育補助（共済組合）

令和2年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

| 区分   | 内容                                                                                                      | 交付件数 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| Aセット | 電子レンジで除菌セット<br>電動鼻吸い器<br>お風呂用湯温計                                                                        | 133件 |
| Bセット | ベビー食器セット（14点セット）<br>ベビーマグセット（スペアパーツ付属）                                                                  | 171件 |
| Cセット | ベビー用フード付きバスタオル<br>肌着（前開きミニオール）                                                                          | 74件  |
| Dセット | 月刊「赤ちゃん和妈妈」 12冊<br>増刊号「お誕生号」 1冊<br>単行本<br>「赤ちゃんのつぶやき」 1冊<br>「きちんとかんたん離乳食」 1冊<br>冊子<br>「お医者さんにかかるまでに」 1冊 | 7件   |
| 計    |                                                                                                         | 385件 |

ウ 教職員健康相談事業（共済組合）

（こころとからだの健康相談）

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、17医療機関に相談業務を委託し実施した。

延べ利用件数 6件

エ 教職員相談事業（県）

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

延べ相談件数 163件

オ メンタルヘルスサポート事業（共済組合）

日常のストレスや生活習慣をインターネットでセルフチェックできる機会を提供した。

アクセス数 21,516件

カ ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、7カウンセリング機関に業務を委託し実施した。

カウンセリング延べ利用件数 465件

講師派遣利用件数 6件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数 0件



キ 保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

| 区分               | 助成対象                            | 助成内容                                    | 助成件数           |
|------------------|---------------------------------|-----------------------------------------|----------------|
| 宿泊利用助成           | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊1食まで<br>2,000円<br>1人1泊2食<br>3,000円等 | 7,582件         |
| 平日宿泊特別割引利用助成     | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊2食<br>大人 500円<br>子供 300円            | 2,104件<br>124件 |
| 50周年記念宿泊特別割引利用助成 | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき     | 1人1泊2食<br>2,000円                        | 1,228件         |
| 退職者宿泊特別割引利用助成    | 退職予定の組合員が宿泊したとき                 | 1人1泊2食<br>2,000円                        | 51件            |
| 会議室利用助成          | 組合員が開催する諸会議                     | 会議室料金の2分の1の額                            | 18件            |
| 会食利用助成           | 組合員が5名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき | 1人<br>1,000円                            | 0件             |
| 法要利用助成           | 組合員及び直系親族が法要を行うとき               | 利用額の30%<br>(上限70,000円)                  | 2件             |

○ 他支部保養所等利用助成

県内2、県外7の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計584件の助成を行った。

ク 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（24施設）、県外（9施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

| 区分         | 助成件数   | 金額       |
|------------|--------|----------|
| 宿泊利用助成     | 7,704件 | 21,745千円 |
| 会食利用助成     | 0件     | 0千円      |
| アクアマリン利用助成 | 287件   | 252千円    |
| 計          | 7,991件 | 21,997千円 |

ケ 弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数 10件

コ 法律相談（共済組合）

組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相談を実施した。

相談件数 4件

サ 災害対策事業（共済組合）

災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の給付該当会員に見舞金を支給した。

給付件数 63件

シ リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 495件

ス 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は現金）を交付した。

永年勤続表彰会員 911名  
20年以上30年未満勤続し退職した会員 12名  
勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員 1名

セ 国内外旅行助成（互助会）

福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の一部を助成した。

| 区分   | 助成件数 | 金額    |
|------|------|-------|
| 国内旅行 | 28件  | 140千円 |
| 海外旅行 | 0件   | 0千円   |
| 計    | 28件  | 140千円 |

ソ 教育塔合祀遺族助成（互助会）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加者なし。

タ 会員交流促進事業（互助会）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止。

(2) 公益事業

ア へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対象校 82校

児童生徒数 5,132人

イ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,025冊（累計 65,468冊）

### 第3節 貸付事業

#### 1 共済組合

令和2年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付けをはじめ、一般、住宅(介護)、教育、医療、住宅災害、葬祭の7種類の新規貸付けを行った。

#### (1) 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

| 種 類 別     | 件 数 | 金 額     | 金額割合  |
|-----------|-----|---------|-------|
| 一般貸付け     | 111 | 141,171 | 39.5  |
| 住宅貸付け     | 11  | 75,696  | 21.2  |
| 住宅(介護)貸付け | 1   | 3,000   | 0.8   |
| 教育貸付け     | 75  | 90,537  | 25.3  |
| 医療貸付け     | 3   | 2,070   | 0.6   |
| 住宅災害貸付け   | 5   | 44,181  | 12.3  |
| 葬祭貸付け     | 1   | 1,100   | 0.3   |
| 計         | 207 | 357,755 | 100.0 |

### 第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、令和2年度の利用状況は、次のとおりである。

| 種別  | 施設      | あづま荘   |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
|-----|---------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------|-----|-------|-----|------|-----|-----|-----|-----|
|     | 利用人員    |        | <table border="1"> <tr> <td>宿 泊</td> <td>9,389 人</td> </tr> <tr> <td>会 議</td> <td>265 人</td> </tr> <tr> <td>宴 会</td> <td>19 人</td> </tr> <tr> <td>婚 礼</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>休 憩</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,673 人</td> </tr> </table> | 宿 泊 | 9,389 人 | 会 議 | 265 人 | 宴 会 | 19 人 | 婚 礼 | 0 人 | 休 憩 | 0 人 |
| 宿 泊 | 9,389 人 |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 会 議 | 265 人   |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 宴 会 | 19 人    |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 婚 礼 | 0 人     |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 休 憩 | 0 人     |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 計   | 9,673 人 |        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
| 利用率 | 宿 泊     | 34.4 % |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |
|     | 宿 泊 外   | 0.3 %  |                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |         |     |       |     |      |     |     |     |     |

※利用率

$$\cdot \text{宿 泊} = \frac{\text{利用人数 (宿泊)}}{\text{宿泊延定員 (宿泊定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

$$\cdot \text{宿泊外} = \frac{\text{利用人数 (会議・宴会・婚礼)}}{\text{宿泊外延定員 (宿泊外定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

### 第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、年3回、定期支給を行った。

(単位：人、千円)

|          | 支給対象者数<br>(R3.2月期) | 支給対象児童数<br>(R3.2月期) | 支給額<br>(年間) |
|----------|--------------------|---------------------|-------------|
| 本庁・教育機関等 | 119                | 186                 | 23,150      |
| 小学校      | 1,049              | 1,703               | 222,290     |
| 中学校      | 876                | 1,432               | 185,975     |
| 高等学校     | 937                | 1,581               | 207,765     |
| 特別支援学校   | 366                | 632                 | 80,645      |
| 計        | 3,347              | 5,534               | 719,825     |

### 第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、令和2年度における契約状況は次のとおりである。

#### 財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（令和3年3月31日現在）

(単位：件)

|      | 期日指定<br>定期預金 | 金銭<br>信託 | 公 社 債<br>投資信託 | 積立<br>保険 | 計     |
|------|--------------|----------|---------------|----------|-------|
| 一般貯蓄 | 6,761        | 43       | 105           | 483      | 7,392 |
| 年金貯蓄 | 1,462        | 18       | 35            | 229      | 1,744 |
| 住宅貯蓄 | 354          | 4        | 8             | 37       | 403   |
| 計    | 8,577        | 65       | 148           | 749      | 9,539 |

契約者数 7,487 人

### [福利給付事業]

### 第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員(会員)に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、厚生(共済)年金及び恩給の支給を行った。

なお、令和2年度の年金額は令和元年度から0.2%プラスで改定された。

## 第8節 短期給付

### 1 共済組合

令和2年度末現在における組合員数は、現職組合員数 20,880 人（前年同期比 2,029 人増）、任意継続組合員 335 人（同 43 人減）の計 21,215 人（同 1,986 人増）である。

また、被扶養者数は、15,941 人（同 67 人増）、組合員 1 人当たりの被扶養者数は、0.75 人となっている。

令和2年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,274,300 千円で、前年度対比 44,316 千円の減少となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.44%、附加給付 2.56%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

| 法定給付       |          |         |                | 附加給付               |             |        |         |
|------------|----------|---------|----------------|--------------------|-------------|--------|---------|
| 種別         |          | 件数(件)   | 給付額(千円)        | 種別                 |             | 件数(件)  | 給付額(千円) |
| 医療給付       | 本人医療費    | 178,165 | 1,989,884      | 医療給付<br>その他の<br>給付 | 家族療養費       | 823    | 26,028  |
|            | 家族医療費    | 117,421 | 1,206,898      |                    | 家族訪問看護療養費   | 1      | 5       |
|            | 高額療養費    | 2,931   | 344,712        |                    | 出産費         | 274    | 13,700  |
|            | 薬剤       | 132,671 | 904,330        |                    | 家族出産費       | 115    | 5,750   |
|            | 移送費      | 1       | 236            |                    | 埋葬料         | 18     | 450     |
|            | 小計       | 431,189 | 4,446,060      |                    | 家族埋葬料       | 14     | 350     |
| その他の<br>給付 | 出産費      | 284     | 118,924        |                    | 直営保健給付家族療養費 | 0      | 0       |
|            | 家族出産費    | 122     | 52,219         |                    | 傷病手当金       | 32     | 7,821   |
|            | 埋葬料      | 19      | 950            |                    | 災害見舞金       | 0      | 0       |
|            | 家族埋葬料    | 14      | 700            |                    | 結婚手当金       | 0      | 0       |
|            | 傷病手当金    | 327     | 81,726         |                    | 入院附加金       | 0      | 0       |
|            | 出産手当金    | 10      | 1,150          |                    |             |        |         |
|            | 休業手当金    | 1       | 25             |                    |             |        |         |
|            | 育児休業手当金  | 2,269   | 384,806        |                    |             |        |         |
|            | 介護休業手当金  | 25      | 4,113          |                    |             |        |         |
|            | 弔慰金      | 0       | 0              |                    |             |        |         |
|            | 家族弔慰金    | 0       | 0              |                    |             |        |         |
|            | 災害見舞金    | 62      | 48,755         |                    |             |        |         |
|            | 小計       | 3,133   | 693,368        |                    |             |        |         |
|            | ① 法定給付 計 | 434,322 | 5,139,428      | ② 附加給付 計           | 1,277       | 54,104 |         |
|            |          |         | ③ 一部負担金払戻金     | 2,686              | 80,768      |        |         |
|            |          |         | 短期給付合計 (①+②+③) | 438,285            | 5,274,300   |        |         |

### 2 互助会

令和2年度末現在の互助会の会員数は、18,050 人（前年同期比 1,985 人増）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

#### (1) 短期給付金

| 種別    |        | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|-------|--------|--------|---------|
| 医療補助金 | (被扶養者) | 11,637 | 47,221  |
| 死亡弔慰金 | (会員)   | 16     | 800     |
|       | (被扶養者) | 12     | 460     |
| 災害見舞金 |        | 66     | 5,490   |
| 出産見舞金 | (会員)   | 220    | 10,100  |
|       | (被扶養者) | 81     | 2,430   |
| 計     |        | 12,032 | 66,501  |

#### (2) 厚生給付金

| 種別      | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|---------|--------|---------|
| 医療給付金   | 45,424 | 174,111 |
| 死亡給付金   | 598    | 21,830  |
| 出産給付金   | 126    | 3,810   |
| 結婚祝金    | 278    | 13,900  |
| 入学祝金    | 540    | 16,200  |
| 入院療養見舞金 | 1,326  | 15,339  |
| 障害見舞金   | 85     | 4,250   |
| 育児休業給付金 | 2,391  | 29,091  |
| 介護休暇給付金 | 63     | 1,654   |
| 計       | 50,831 | 280,185 |

## 第9節 長期給付

令和2年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

### 1 恩給

#### (1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

令和2年度末現在の受給者数は31人（前年度比5人減）、令和2年度における支給総額は43,037千円（同13,521千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

| 学校種別    | 普通恩給      |             | 扶助料       |             | 退隠料       |             | 遺族扶助料     |             | 計         |             |
|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
|         | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) |
| 小 学 校   | 0         | 352         | 21        | 27,003      | 1         | 278         | 0         | 0           | 22        | 27,633      |
| 中 学 校   | 0         | 0           | 7         | 13,896      | 1         | 1,395       | 0         | 0           | 8         | 15,291      |
| 特別支援学校  | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 1         | 113         | 1         | 113         |
| 高 等 学 校 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 教育庁・その他 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 計       | 0         | 352         | 28        | 40,899      | 2         | 1,673       | 1         | 113         | 31        | 43,037      |

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。（単位：人）

| 恩給種別    | 裁 定 | 失 権 | 左のうち<br>完全失権 |
|---------|-----|-----|--------------|
| 普 通 恩 給 | 0   | 1   | 1            |
| 扶 助 料   | 0   | 4   | 4            |
| 退 隠 料   | 0   | 0   | 0            |
| 遺族扶助料   | 0   | 0   | 0            |
| 計       | 0   | 5   | 5            |

#### (2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、平成22年度以降は実施していない。

なお、被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の支払額について端数処理の方法が変更された。

### 2 退職手当

#### (1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員 (人) | 支給額 (千円)   |
|---------|--------|------------|
| 教育庁・その他 | 12     | 175,079    |
| 小 学 校   | 561    | 8,250,831  |
| 中 学 校   | 328    | 4,993,151  |
| 高 等 学 校 | 284    | 3,090,579  |
| 特別支援学校  | 98     | 787,158    |
| 計       | 1,283  | 17,296,798 |

#### (2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員 (人) | 支給額 (千円) |
|---------|--------|----------|
| 教育庁・その他 | 0      | 0        |
| 小 学 校   | 23     | 5,415    |
| 中 学 校   | 18     | 5,972    |
| 高 等 学 校 | 12     | 4,485    |
| 特別支援学校  | 9      | 3,812    |
| 計       | 62     | 19,684   |

### 3 年金

#### (1) 進達件数

老齢厚生（退職共済）年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

| 進達<br>区分 | 旧共済法による年金 |      | 新共済法・一元化法による年金       |                          |                          |                    |                    | 計   |
|----------|-----------|------|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-----|
|          | 退職年金      | 障害年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(特別) | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(繰上) | 障害厚生<br>(共済)<br>年金 | 遺族厚生<br>(共済)<br>年金 |     |
| 決定請求     | 0         | 0    | 63                   | 148                      | 2                        | 16                 | 29                 | 258 |
| 改定請求     | 0         | 0    | 27                   | 31                       | 0                        | 0                  | 0                  | 58  |

#### (2) 支給人員及び支給額

老齢厚生（退職共済）年金等の令和2年度末現在における支給人員は、27,560人で、令和2年度における支給額は、36,215,340千円である。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

前年度に比較して人員で1,552人の増加、支給額で252,807千円の減少となっている。

| 年金種別       |                  | 受給者数<br>(人) | 平均年金額<br>(円)   | 支給額<br>(円)     |
|------------|------------------|-------------|----------------|----------------|
| 厚生年金       | 老齢厚生年金           | 2,885       | 1,281,362      | 3,696,729,370  |
|            | 老齢厚生年金(特別)       | 1,425       | 1,196,389      | 1,704,854,325  |
|            | 障害厚生年金           | 67          | 1,016,953      | 68,135,851     |
|            | 遺族厚生年金           | 446         | 1,217,631      | 543,063,426    |
|            | 小計               | 4,823       | —              | 6,012,782,972  |
| 年金払給付      | 終身退職年金           | 485         | 2,559          | 1,241,115      |
|            | 有期退職年金           | 430         | 4,238          | 1,822,340      |
|            | 公務障害年金           | 0           | 0              | 0              |
|            | 公務遺族年金           | 0           | 0              | 0              |
|            | 小計               | 915         | —              | 3,063,455      |
| 新共済年金・職域加算 | 退職共済年金(既裁定)      | 9,356       | 1,758,832      | 16,455,632,192 |
|            | 退職共済年金(職域加算額)    | 2,849       | 236,845        | 674,771,405    |
|            | 退職共済年金(特別・職域加算額) | 1,416       | 222,824        | 315,518,784    |
|            | 退職共済年金(追加費用)     | 0           | 0              | 0              |
|            | 障害共済年金(既裁定)      | 283         | 1,157,799      | 327,657,117    |
|            | 障害共済年金(職域加算額)    | 49          | 175,790        | 8,613,710      |
|            | 遺族共済年金(既裁定)      | 3,622       | 1,674,639      | 6,065,542,458  |
|            | 遺族共済年金(職域加算額)    | 1,349       | 139,095        | 187,639,155    |
|            | 遺族共済年金(追加費用)     | 904         | 1,687,270      | 1,525,292,080  |
| 小計         | 19,828           | —           | 25,560,666,901 |                |
| 旧共済年金      | 退職年金             | 1,470       | 2,627,612      | 3,862,589,640  |
|            | 減額退職年金           | 136         | 1,956,601      | 266,097,736    |
|            | 通算退職年金           | 9           | 673,569        | 6,062,121      |
|            | 障害年金             | 36          | 2,049,075      | 73,766,700     |
|            | 遺族年金             | 342         | 1,257,816      | 430,173,072    |
|            | 通算遺族年金           | 1           | 136,918        | 136,918        |
|            | 小計               | 1,994       | —              | 4,638,826,187  |
| 合計         | 27,560           | —           | 36,215,339,515 |                |

- ※ 支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。
- ※ 受給者数について、1人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。
- ※ 既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。
- ※ 追加費用とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

### **(3) 年金額の改定**

年金額の改定は、物価変動率、名目手取り賃金変動率がともにプラスで、物価変動率が名目手取り賃金変動率を上回る場合には、年金を受給し始める際の年金額（新規裁定年金）、受給中の年金額（既裁定年金）ともに名目手取り賃金変動率を用いることが法律により定められている。

令和2年度の年金額の改定は、年金額改定に用いる物価変動率（0.5%）が名目手取り賃金変動率（0.3%）よりも高いため、新規裁定年金・既裁定年金ともに名目手取り賃金変動率（0.3%）にマクロ経済スライドによる令和2年度のスライド調整率（ $\Delta 0.1\%$ ）が乗じられることとなり、改定率は、0.2%となった。

# 第12章 福島県教育センター

## 第1節 概要

教育センターは、本県の教育に関する研究と研修を担う機関である。具体的には教育全般にわたる専門的・技術的事項の調査と研究、基本研修、職能研修、専門研修からなる教員の研修、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

### 1 調査・研究事業

教育センターの使命と役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待にこたえとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的、実証的な調査・研究を進めてきた。

#### (1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

#### (2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、調査・研究のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。また、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」、「研究紀要」、「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、令和2年11月26日（木）に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

### 2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和2年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研

修について、令和2年度の実績は次のとおりである。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、一部の研修を実施することができなかったことにより、講座数及び講座開設数は減少した。

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 講座数    | 67講座               |
| 講座開設数  | 137回               |
| 講座研修者数 | 4,967人（延べ人数）       |
| 講座開設期間 | 平成2年4月3日～令和3年2月24日 |

前年度比

|        |      |
|--------|------|
| 講座数    | 15減  |
| 講座開設数  | 12減  |
| 講座研修者数 | 163増 |

### 3 情報教育事業

情報教育事業では、学習指導要領に対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化」の推進に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理に生かす表計算活用講座」や「授業力向上のためのICT活用基礎講座」、「グループウェアで活用するG Suite実践講座」、「ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座」を行った。また、基本研修での講義等を通して、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

### 4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸課題について来所及び電話で相談を受け、課題の改善・解決を目指した。

主訴別では、来所相談は不登校傾向に関するもの、電話相談は学校への不満、不登校、進路に関するものが多かった。また、上記の相談として、新型コロナウイルス感染症に起因するものも少なくなかった。

これらの相談については、相談者の話をよく聞き、思いを受け止めるとともに、今後の対応を一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。

また、来所相談では、精神保健指定医や心理判定員などを活用し、効果的で具体的な支援を行った。

### 5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWebサイトに掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助した。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第179号、180号及び「研究紀要」第50集を発行した。

## 第2節 調査・研究事業

### 1 調査・研究

令和2年度は、教育センターにおける実施要項に基づき、教育庁より承認を得た調査研究課題について、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームで取り組んだ。

#### (1) 調査研究チームによる研究

小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究（第一年次）～カリキュラム・マネジメント実態調査と推進方法の提案～

新学習指導要領においては、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示された。そのため、学習指導要領の枠組みが見直され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められている。また、「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面として、①教科横断的な視点、②PDCAサイクルの確立、③人的・物的資源等の活用が挙げられている。各学校においては、これら3つの側面を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図ることが求められている。

本研究では、学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、教育活動に必要な様々な資源を活用しながらPDCAサイクルを機能させ、教育活動の質的向上を図るカリキュラム・マネジメント推進の在り方を、研究協力校における実践事例を通して県内外に発信していきたいと考えた。

第一年次は、県内の公立小・中学校及び義務教育学校の教職員を対象とし、カリキュラム・マネジメントの実施状況について調査を実施した。また、小・中学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントについての校内研修と、カリキュラム・マネジメント推進のための戦略を提案し、教育活動の質的向上につながるカリキュラム・マネジメントを推進することとした。なお、研究協力校として、伊達市立堰本小学校と伊達市立梁川中学校の協力を得て研究を進めた。

以上の実践結果から、次のような成果と課題が確認された。

#### (成果)

- 県内の公立小・中学校及び義務教育学校におけるカリキュラム・マネジメントへの取組状況や意識を明らかにすることができた。実態を把握したことで、カリキュラム・マネジメント推進のためのポイントが明らかになった。
- 資質・能力の視点から教育活動を見直すという教職員の意識改革に寄与することができた。
- D-CAPサイクルを基軸としたカリキュラム・マネジメント推進のための戦略を、校種に応じて提案した。その結果、重点目標の実現に向かって組織的にカリキュラム・マネジメントに取り組むことができた。
- 教職員一人一人が、教育課程の実施・評価・改善・計画を自分事として捉え、改善していこうとする姿が見られた。

#### (課題)

- 実態調査の結果から、教諭等よりも養護教諭・事務職員の方が意識の高い項目が見られた。一人職の意識の高さや専門性をカリキュラム・マネジメントにどのように生かしていくかを提案していく必要がある。
- 協力校におけるカリキュラム・マネジメント推進のための戦略を、どの学校にとっても、分かりやすく使いやすいものとしてまとめていく必要がある。

#### (2) 情報教育チームによる研究

高等学校での学びを意識した小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方（第二年次）～プログラミング的思考を生かしたプログラミングを通して～

学習指導要領（平成29年告示）では、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実することが示された。本研究では、第一年次に小学校で身に付けたプログラミング的思考を土台に、中学校に入学してきた同一生徒を対象に、技術・家庭科技術分野及び各教科（数学・理科）において授業を実践し、小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方を探った。さらに、中学校の授業実践を研究協力校（小学校・高等学校）へ発信することで、学校段階間を円滑に接続するための各校種の課題を明らかにした。

今年度の取組から、次のような成果と課題が確認された。

#### (成果)

- 第一年次に小学校で身に付けたプログラミング的思考を土台に、中学校で課題解決に必要な手順を可視化し、対話をする場を設定したことにより、思い付きや根拠もなく命令の組合せを変えるのではなく、うまくいかなかった場合には、どこが間違っていたのかを考え、修正や改善を繰り返すことで、解決策を構想・具体化する力を身に付けさせることができたと考えられる。
- 課題解決する際に考えたことを付箋紙に記入し、何度も並べ替える活動を繰り返しながらアクティビティ図で可視化することにより、技術分野で求められているプログラミング的思考等を発揮して解決策を構想する力、処理の流れを図などに表し試行等を通じて解決策を具体化する力の育成につながったと考える。
- グループで意見を出し合いながら、プログラムの組み合わせを効率的な表現にしたり、利便性や安全性を高めるためにアクティビティ図を改善したりする生徒が見られた。一人一人の考えをグループで共有したことで、対話をしながら改善・修正を繰り返し、プログラムや課題解決の手順をよりよくすることができた。
- 中学校の実践を小学校と高等学校に発信することで、中学校のプログラミング教育について理解を深め、小学校や高等学校で指導すべき内容の構想につなげることができた。さらに小学校では、中学校の実践を基に思考を可視化したり、ペアやグループで対話したりする活動を取り入れながら、プログラミング的思考を生かして課題解決する授業を行うことができた。



### (課題)

- 小学校では、6年間を見通した情報教育全体計画及び指導計画を改善し、発達段階に即して体系的に実践できるようにする必要がある。
- 中学校・高等学校では、他校種のプログラミング教育を把握する必要がある。
- 高等学校では、情報科を担当する教員に必要とされる知識やスキルを明確にしていく必要がある。

### (3) 教育相談チームによる研究

メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方（第一年次）～ピア・サポートを踏まえた研修を通して～

本県では、令和元年度から初任者研修においてメンター方式が導入され、今後は県内でメンター方式による初任者研修実施校が増える見込みである。そこで、本研究においては、初任者を対象とした実態把握調査の結果を統計的に分析し、初任者研修における初任者支援の視点を明らかにした。さらに、初任者研修でメンター方式を導入している研究協力校におけるメンターチームによるピア・サポートを踏まえた研修を通して、初任者研修を充実させる校内研修の在り方を提案した。

### (成果)

- 令和2年度に新規採用となった本県の小・中学校及び義務教育学校の教諭を対象に実態把握調査を実施し、340名から有効回答が得られた（他県において教諭経験があり、初任者研修を免除されている初任者は対象外）。調査結果を統計的に分析したことで、以下のような校内初任者研修における初任者支援の視点を提案することができた。
- メンター方式を導入している小・中学校各1校を研究協力校とし、それぞれの学校のメンターチームが、初任者を同僚として支援するピア・サポートを踏まえた研修を実践した。メンターチームの教職員が初任者の悩みや困り事に応じた研修を展開することで、初任者の心理的・職務的な支援につながった。併せて、支援者として初任者に助言や情報提供等を行った教職員にとっても、ピア・サポートを踏まえた研修が自らの学びの場となっていることを確認することができた。
- 初任者研修におけるメンター方式の理解の促進をねらい、メンター方式についての説明とメンターチームによる研修の事例をまとめたリーフレットを作成し、県内の各小・中学校に発信した。

### (課題)

- メンターチームによるピア・サポートを踏まえた研修における大きな課題は、時間の確保である。今年度の成果を踏まえながら次年度は、初任者の悩みや困り事を同僚が把握する方法や、短時間で取り組める研修の方法について検討・実践し、初任者研修を充実させる研修の在り方を探っていきたい。

## 2 長期研究員制度による研究

長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。令和2年度は、15名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では9名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

## 第3節 研修事業

### 1 研修講座の概要

#### (1) 基本研修

- ア 初任者研修、新規採用者研修  
教職員としての基礎・基本を習得する研修である。
- (7) 幼稚園等教諭
  - a 園内における研修（10日）
  - b 園外における研修（10日）  
宿泊研修（2泊3日）、地区別研修（3日）（各地区）、参観研修（3日）、選択研修（1日）
- (イ) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修（150時間以上）
  - b 校外における研修（22日）
    - (a) 宿泊研修（6日）  
宿泊研修A（2泊3日）、宿泊研修B（2泊3日）
    - (b) 地区別研修（16日）
      - ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
      - ・地区別研修B（9日）  
（市町村教育委員会、各学校による計画）  
研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、他校種園参観研修
- (ウ) 高等学校教諭
  - a 校内における研修（150時間以上）
  - b 校外における研修（22日）
    - (a) 宿泊研修（8日）  
基本研修（1泊2日）、一次研修（2泊3日）、二次研修（2泊3日）
    - (b) 教科別研修（3日）  
（教科ごとに初任者配置校を会場として実施）
    - (c) 地区別研修（11日）
      - ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
      - ・地区別研修B（4日）（各学校による計画）  
特別支援学校研修、他校種及び他校での授業参観等研修
- (エ) 公立学校実習助手  
（高校教育課所管 高等学校初任者研修と合同開催）
  - a 校内における研修（2日程度）
  - b 校外における研修（9日）

- (a) 基本研修（1泊2日）
- (b) 地区別研修（7日）（各地区）
  - 一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
- (オ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（14日）
    - (a) 宿泊研修（6日）
      - 宿泊研修A（2泊3日）、宿泊研修B（2泊3日）
- <小・中学校>
  - (b)地区別研修（8日）
    - ・地区別研修A（6日）（各地区）
      - 一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
    - ・地区別研修B（2日）
      - （市町村教育委員会、各学校による計画）
      - 一般研修、企業等体験研修
- <高等学校>
  - (b)地区別研修（8日）
    - ・地区別研修A（6日）（各地区）
      - 一般研修、カウンセリング研修、社会奉仕体験研修、企業等体験研修
    - ・地区別研修B（2日）（各学校による計画）
      - 特別支援学校研修、学校訪問研修
- <特別支援学校>
  - (b)特別支援教育センター等における研修（8日）
    - ・特別支援教育センター研修（5日）
      - （特別支援教育センターによる計画）
      - 基本研修、カウンセリング研修、特別支援学校教育課程研修
    - ・地区別研修（3日）
      - （特別支援教育センター、各学校による計画）
      - 企業等体験研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
  - a 学校等内における研修（15日）
  - b 学校等外における研修（13日）
    - (a) 宿泊研修（6日）
      - ・宿泊研修A（共通研修）（2泊3日）
      - ・宿泊研修B（専門研修）（2泊3日）
    - (b) 地区別研修（7日）
      - ・地区別研修A（4日）（各地区）
        - 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
      - ・地区別研修B（3日）
        - （市町村教育委員会による計画）
        - 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 2年次教員フォローアップ研修
  - 初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質や能力へと高める研修である。
- (7) 小学校・中学校教諭
  - a 校内研修（30時間以上）
  - b 校外研修（3日）
- (イ) 高等学校教諭
  - a 校内研修（30時間以上）
  - b 校外研修（3日）
- (ウ) 公立学校実習助手（高校教育課所管 高等学校2年次教員フォローアップ研修と合同開催）
  - a 校外における研修（2日程度）
- ウ 経験者研修Ⅰ
  - 在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。
- (7) 小・中学校教諭
  - a 校内研修（5日）
  - b 校外研修（3日）
    - 宿泊研修（2泊3日）
- (イ) 高等学校教諭
  - a 校内研修（5日）
  - b 校外研修（3日）
    - 宿泊研修（2泊3日）
- (ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内研修（3日）
  - b 校外研修（3日）
    - 宿泊研修（2泊3日）
- (エ) 学校栄養職員（隔年実施、令和2年度は実施せず）
  - a 校内研修（2日）
  - b 校外研修（2日）
    - 宿泊研修（1泊2日）
- エ 経験者研修Ⅱ
  - 在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。
- (7) 幼稚園等教諭
  - a 園内研修（7日）
  - b 園外研修（5日）
    - 保育専門研修（1泊2日）、共通研修（1日）（各地区）、社会体験研修（1日）、選択研修（1日）
- (イ) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（10日）
    - 共通研修（各地区）（1日）、教科指導研修（2泊3日）、生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）

- (ウ) 高等学校教諭
    - a 校内における研修 (15日)
    - b 校外における研修 (10日)
      - 共通研修 (1日)、生徒指導研修 (1日)、教科指導研修Ⅰ (1日)、教科指導研修Ⅱ (2日)、社会体験研修Ⅰ (2日)、選択研修 (3日)
  - (エ) 養護教諭 (小・中・高・特別支援)
    - a 校内研修 (4日)
    - b 校外研修 (6日)
      - 共通研修 (1日)、宿泊研修 (2泊3日)、社会体験研修Ⅰ (1日)、選択研修 (1日)
  - (オ) 学校栄養職員 (隔年実施)
    - a 校内研修 (4日)
    - b 校外研修 (6日)
      - 共通研修 (1日)、宿泊研修 (2泊3日)、社会体験研修Ⅰ (1日)、選択研修 (1日)
- オ 経験者研修Ⅲ
- 教務主任、学年主任等の教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。
- (ア) 市町村立学校教諭 (隔年実施)
    - 教育センター (2泊3日)
  - (イ) 県立学校教諭
    - 教育センター (2泊3日)

**(2) 職能研修**

新任の校長・教頭・主幹教諭・教務主任に対しての職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア 職能研修Ⅰ

- (ア) 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会
  - 教育センター (1泊2日)
- (イ) 県立学校新任校長研修会
  - 教育センター (1泊2日)
- (ウ) 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会
  - 教育センター (1日)
- (エ) 県立学校新任副校長研修会
  - 教育センター (1日)
- (オ) 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
  - 教育センター (1泊2日)
- (カ) 県立学校新任教頭研修会
  - 教育センター (1泊2日)
- (キ) 新任主幹教諭研修会
  - 教育センター (1日)
- (ク) 新任教務主任研修会 (小・中・高・特別支援)
  - 各地区 (1日) (関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画)

イ 職能研修Ⅱ

- (ア) 複式指導 (国語・算数) 担当教員研修会
  - 教育センター (1泊2日)

- (イ) 免許外教科担任教員研修会
  - 教育センター (2泊3日)
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
  - 教育センター (1泊2日)
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
  - 教育センター (1泊2日)
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
  - 教育センター (1泊2日)
- (カ) 養護教諭専門研修講座 (隔年実施)
  - 教育センター (2泊3日)
- (キ) 学校栄養職員専門研修講座 (隔年実施、令和2年度は実施せず)
  - 教育センター (2泊3日)

**(3) 専門研修**

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談 (基礎、実践、予防・開発的教育相談)、道徳教育実践 (小・中)、各教科 (小・中・高)、高等学校理科実習助手等の各講座を実施した。

**2 研修講座**

**(1) 令和2年度研修講座数・受講者数**

ア 基本研修

|        | 基本研修  |     |     |     |     | 計     |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
|        | 初任研   | 2年次 | 経験Ⅰ | 経験Ⅱ | 経験Ⅲ |       |
| 講座数    | 6     | 3   | 4   | 6   | 2   | 21    |
| (延べ数)  | 52    | 5   | 6   | 21  | 4   | 88    |
| 延べ受講者数 | 3,012 | 246 | 220 | 621 | 87  | 4,186 |

イ 職能研修

|        | 職能研修  |       | 計   |
|--------|-------|-------|-----|
|        | 職能研修Ⅰ | 職能研修Ⅱ |     |
| 講座数    | 1     | 3     | 4   |
| (延べ数)  | 1     | 3     | 4   |
| 延べ受講者数 | 115   | 133   | 248 |

ウ 専門研修

|        | 専門研修 | 計   |
|--------|------|-----|
| 講座数    | 42   | 42  |
| (延べ数)  | 45   | 45  |
| 延べ受講者数 | 533  | 533 |

エ 総計

|        | 基本研修  | 職能研修 | 専門研修 | 計     |
|--------|-------|------|------|-------|
| 講座数    | 21    | 4    | 42   | 67    |
| (延べ数)  | 88    | 4    | 45   | 137   |
| 延べ受講者数 | 4,186 | 248  | 533  | 4,967 |

(2) 令和2年度研修講座実施状況

ア 基本研修

| 講座名                | 会場     | 期日               | 受講者数                                               |       |
|--------------------|--------|------------------|----------------------------------------------------|-------|
| 初任者研修              | 幼稚園等   | 教育センター           | 8月19日, 8月21日                                       | 70    |
|                    | 小学校    | 所属校<br>教育センター    | 所属校で定めた日程<br>7月28日, 9月3日<br>9月24日                  | 442   |
|                    | 中学校    | 所属校<br>教育センター    | 所属校で定めた日程<br>8月4日, 9月10日                           | 232   |
|                    | 高等学校   | 教育センター           | 4月3日, 5月27日<br>6月2日, 6月24日<br>2月3日, 2月10日<br>2月24日 | 129   |
|                    | 養護教諭   | 所属校<br>所属校教育センター | 所属校で定めた日程<br>11月6日                                 | 58    |
|                    | 栄養職員   | 所属校<br>教育センター    | 所属校で定めた日程<br>9月2日                                  | 5     |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催           | 各地区で定めた日程                                          | 2,076 |
| 2年次教員<br>フォローアップ研修 | 小学校    | 教育センター           | 6月26日, 7月27日                                       | 120   |
|                    | 中学校    | 教育センター           | 6月29日                                              | 56    |
|                    | 高等学校   | 教育センター           | 7月6日                                               | 35    |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催           | 各地区で定めた日程                                          | 35    |
| 経験者研修Ⅰ             | 小学校    | 教育センター           | 6月10日                                              | 91    |
|                    | 中学校    | 教育センター           | 9月30日, 10月7日                                       | 54    |
|                    | 高等学校   | 教育センター           | 9月30日, 10月7日                                       | 54    |
|                    | 養護教諭   | 教育センター           | 9月18日                                              | 21    |
|                    | 学校栄養職員 | 教育センター           | 隔年実施                                               | 0     |
| 経験者研修Ⅱ             | 幼稚園等   | 教育センター           | 5月26日                                              | 7     |
|                    | 小学校    | 教育センター           | 6月15日                                              | 51    |
|                    | 中学校    | 教育センター           | 9月16日                                              | 30    |
|                    | 高等学校   | 教育センター           | 所属校で定めた日程<br>7月1日, 2月2日                            | 261   |
|                    | 養護教諭   | 教育センター           | 8月4日                                               | 16    |
|                    | 学校栄養職員 | 教育センター           | 7月30日                                              | 1     |
|                    | 地区別研修  | 各地区で開催           | 各地区で定めた日程                                          | 255   |
| 経験者研修Ⅲ             | 小・中学校  | 教育センター           | 10月21日                                             | 31    |
|                    | 県立学校   | 教育センター           | 10月28日～10月29日                                      | 56    |

イ 職能研修

|         | 講 座 名                  | 期 日       | 受講者数 |
|---------|------------------------|-----------|------|
| 職能研修 I  | 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会  | 中止        | 0    |
|         | 県立学校新任校長研修会            | 中止        | 0    |
|         | 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会 | 中止        | 0    |
|         | 県立学校新任副校長研修会           | 中止        | 0    |
|         | 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会  | 中止        | 0    |
|         | 県立学校新任教頭研修会            | 中止        | 0    |
|         | 新任主幹教諭研修会              | 中止        | 0    |
|         | 新任教務主任研修会              | 各教育事務所の日程 | 115  |
| 職能研修 II | 複式指導（国語・算数）担当教員研修会     | 中止        | 0    |
|         | 免許外教科担任教員研修会           | 中止        | 0    |
|         | 校長のためのマネジメント講座         | 中止        | 0    |
|         | 教頭のためのマネジメント講座         | 9月1日      | 79   |
|         | 小・中学校におけるキャリア教育実践講座    | 9月7日      | 32   |
|         | 養護教諭専門研修講座             | 9月23日     | 22   |
|         | 学校栄養職員専門研修講座           | 隔年実施      | 0    |

ウ 専門研修

|       | 講 座 名                             | 期 日    | 受講者数 |
|-------|-----------------------------------|--------|------|
| 教科教育系 | 主体的・対話的で深い学びを実現する小学校国語科指導力向上講座    | 10月13日 | 15   |
|       | 主体的・対話的で深い学びを実現する中学校国語科指導力向上講座    | 10月19日 | 7    |
|       | 授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座          | 8月6日   | 12   |
|       | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた国語科の授業改善講座     | 10月5日  | 10   |
|       | 社会的な見方・考え方を働かせた社会科の授業づくり講座        | 7月21日  | 20   |
|       | 社会科・地理歴史科・公民科の評価問題作成・研究講座         | 8月21日  | 9    |
|       | 社会科・地理歴史科・公民科における主権者教育の授業づくり講座    | 9月7日   | 9    |
|       | 算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座           | 8月6日   | 10   |
|       | 中学校数学科「数学的に考える資質・能力を育む授業づくり」講座    | 6月23日  | 3    |
|       | 課題の本質から統一的・発展的に考察する数学科問題作成・研究講座   | 7月30日  | 4    |
|       | 統計的探究プロセスを充実させる中学校・高等学校数学科授業づくり講座 | 10月5日  | 6    |
|       | 理科の見方・考え方やプログラミングを生かした小学校理科講座     | 10月12日 | 7    |
|       | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた中学校理科講座        | 8月18日  | 14   |
|       | 高等学校理科観察・実験・授業づくり講座               | 10月20日 | 12   |
|       | 実習助手のための理科観察・実験講座                 | 7月13日  | 3    |
|       | 発問で授業を活性化させる英語指導講座                | 10月5日  | 13   |
|       | 統一的な言語活動で伸ばすスピーキング・ライティング指導講座     | 8月6日   | 6    |
|       | 教科書を活用して表現力を高める英語指導講座             | 7月30日  | 10   |
|       | 民族楽器による魅力ある授業づくり講座                | 10月19日 | 8    |
|       | 日本伝統音楽のよさを味わう授業づくり講座              | 10月30日 | 10   |

|        | 講 座 名                              | 期 日                               | 受講者数 |
|--------|------------------------------------|-----------------------------------|------|
| 教科教育系  | 児童・生徒の心をつかむ合唱指導講座                  | 資料代替                              | 2    |
|        | 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座              | 資料代替                              | 1    |
|        | 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座              | 7月31日, 10月30日                     | 19   |
|        | 創造性を育む美術の表現指導法講座                   | 10月19日                            | 13   |
|        | 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座               | 8月18日                             | 22   |
|        | ICTを活用した保健体育の授業づくり講座               | 11月4日                             | 21   |
|        | 実践力を高める技術科講座（情報・エネルギー変換編）          | 7月30日                             | 8    |
|        | 家庭科を担当する先生のための基礎・基本講座（調理編）         | 8月7日                              | 7    |
|        | 実践的・体験的な学習の充実を図るための家庭科講座（消費生活・環境編） | 11月12日                            | 10   |
| 教育相談系  | 学校教育相談基礎講座                         | 7月2日                              | 20   |
|        | 学校教育相談実践講座                         | 6月22日<br>10月5日～10月6日<br>2月4日～2月5日 | 9    |
|        | 予防・開発的教育相談講座                       | 6月15日                             | 27   |
| 情報教育系  | 校務処理に生かす表計算活用講座                    | 10月14日                            | 31   |
|        | 授業力向上のための ICT 活用基礎講座（義務系）          | 11月11日                            | 21   |
|        | 授業力向上のための ICT 活用基礎講座（県立系）          | 11月2日                             | 21   |
|        | グループウェアで活用する G Suite 実践講座          | 7月22日                             | 23   |
|        | ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座                | 8月17日                             | 15   |
| 教科外教育系 | 「考え、議論する」小学校道徳科授業づくり講座             | 6月23日                             | 11   |
|        | 「考え、議論する」中学校道徳科授業づくり講座             | 7月3日                              | 16   |
|        | 子どもたちが支え合い、高め合う学級をつくる学級活動講座        | 8月17日                             | 27   |
|        | 放射線・防災教育指導力向上講座                    | 8月6日                              | 12   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（救急処置編）             | 資料代替                              | 9    |

### 3 指導主事派遣等

令和2年度の指導主事派遣の概要は次のとおりである。

（ ）内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣件数は、指導主事派遣件数に含む。

指導主事派遣件数 74件（24件減）

（内訳）小 学 校 28件（5件増）

中 学 校 12件（4件増）

高 等 学 校 7件（5件減）

教育委員会等 19件（6件増）

各種教育団体等 8件（34件減）

「出前講座」での指導主事派遣件数 54件

（内訳）小 学 校 24件

中 学 校 10件

高 等 学 校 5件

教育委員会等 14件

各種教育団体等 1件

## 第4節 情報教育事業

### 1 研修講座の概要

小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

#### (1) ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

ア グループウェアで活用する G Suite 実践講座

#### (2) 授業実践講座（小・中・高・特支）

ア 授業力向上のための ICT 活用基礎講座

イ ワークショップで学ぶ情報モラル講座

#### (3) 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

ア 校務処理に生かす表計算活用講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報や情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月6日に「基礎から学ぶ表計算入門講座」、8月1日に一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、小・中学生対象の「子どものためのロボットワークショップ」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止と研修受講者および関係者の健康と安全を最優先に考慮し、開催を中止した。

また、GIGAスクール構想に対応したICT環境整備や、個別最適化と創造性を育む視点からの授業づくりについて理解を深めるために、10月20日と12月4日に「校長のためのPC一人一台時代におけるICT活用講座」を実施した。

## 2 施設利用概況

基本研修の教科別研修では、「教科指導におけるICT活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等ICT機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下のとおりであった。

### パソコン研修室利用状況

| 利用区分     | 講座数  | 利用日数 | 実人数 | 延べ人数 |
|----------|------|------|-----|------|
| 教育センター研修 | 19   | 19   | 292 | 292  |
| 講座       | 基本研修 | 7    | 59  | 59   |
|          | 専門研修 | 12   | 233 | 233  |
|          | 職能研修 | 0    | 0   | 0    |
| 教育庁研修    | 6    | 8    | 157 | 243  |
| 合計       | 25   | 27   | 449 | 535  |

## 第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。令和2年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

### 1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は115日、電話相談日数は243日であった。

| 種別   | 対象 | 幼    | 小   | 中  | 高   | 一般 | 教員 | 計   |
|------|----|------|-----|----|-----|----|----|-----|
|      |    | 来所相談 | 件数  | 0  | 2   | 3  | 3  | 0   |
|      | 人数 | 0    | 2   | 5  | 3   | 0  | 0  | 10  |
| 電話相談 | 回数 | 4    | 106 | 97 | 275 | 63 | 4  | 549 |

### 2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

| 種別   | 対象 | 知能学業 | 性格行動 | 身体神経 | 進路適性 | 教育一般 | その他 | 計   |
|------|----|------|------|------|------|------|-----|-----|
|      |    | 来所相談 | 件数   | 0    | 6    | 1    | 1   | 0   |
|      | 人数 | 0    | 6    | 1    | 3    | 0    | 0   | 10  |
| 電話相談 | 回数 | 1    | 61   | 12   | 46   | 237  | 192 | 549 |

## 3 地区別来所相談件数

| 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 県外 | 計 |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----|---|
| 1  | 6  | 0  | 0  | 0   | 0  | 0   | 1  | 8 |

## 4 月別相談件数・回数

| 種別   | 月  | 4    | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|      |    | 来所相談 | 件数 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 3  | 1  | 1  | 0  | 3   |
|      | 人数 | 0    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 3  | 1  | 3  | 0  | 3  | 0  | 10  |
| 電話相談 | 回数 | 62   | 48 | 62 | 48 | 33 | 45 | 39 | 51 | 43 | 39 | 36 | 43 | 549 |

## 第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

### 1 教育図書・教育資料の収集

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 教育図書購入冊数                | 80冊  |
| 寄贈教育図書等（DVD等を含む、教科書は除く） | 4冊   |
| 定期刊行図書購入冊数              | 26冊  |
| 研究紀要等寄贈冊数               | 138冊 |
| 恵贈定期刊行物数                | 30冊  |

### 2 教育資料の刊行

|           |             |
|-----------|-------------|
| 研究紀要      | 第50集        |
| 所報ふくしま「窓」 | 第179号～第180号 |

### 付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。令和2年度は研修者なし。





# 第13章 福島県特別支援教育センター

## 第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・教育研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第6次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校等に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

### 1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センターでの相談受理件数は176件（昨年度比100.0%）、延べ件数は604件（昨年度比109.8%）であった。障がい種別による相談実件数では、発達障がいの相談が最も多く50.7%、続いてその他（医師による診断のない者）が、32.3%であった。これらを合わせると実件数の83.0%を占めている。知的障がいに関する相談は約10.3%であり、合わせると実件数全体の93.3%を占める。相談者は、本人、保護者、教員、関係機関等である。

その他、学校等のニーズに応じて学校・地域等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、教職員が適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言や、ケース検討会、校内研修会等の開催・運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

### 2 教職員研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和2年度福島県公立学校教職員現職計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

特別支援学校の基本研修においては、初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱと教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小・

中学校や高等学校、特別支援学校等の教員を対象とする職能研修では、特別支援学級等新任担当教員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会など、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者総数は延べ578名（初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ、経験者研修Ⅱ）であった。職能研修は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止になる研修もあり、受講者総数は延べ222名（特別支援学級等新任担当教員研修会（地区別のみ）、特別支援学級担当教員（経験三年）研修会、特別支援学校養護教諭研修会、通級指導教室担当教員研修会）、そして、専門研修講座（16講座）についても、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会場収容人数を30名に制限したことにより、総受講者は延べ402名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（8講座）の聴講者総数は24名で、自主研修講座（1講座）の参加者総数は5名であった。

### 3 調査研究・教育研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

#### (1) 調査研究

「通常の学級等における合理的配慮の充実に向けた調査研究～児童生徒一人一人に応じた合理的配慮に関する実践的な取組～」

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説総則編には、「障害のある児童生徒などの指導は、担任を含む全ての教師間において、個々の児童生徒に対する配慮等の必要性を共通理解すると共に教師の連携に努める必要がある」ことが明示されている。各学校においては、教職員が障がいのある児童生徒本人や保護者と合意形成や情報提供を図り、合理的配慮の提供を推進していくことが求められている。

平成30年度に、福島県教育委員会が実施した「発達障がいの可能性がある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」によると、本人又は保護者との合意形成のもと、合理的配慮が提供されている割合は、特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち30.7%にとどまっていることが明らかになった。

合意形成の上での合理的配慮の充実が求められていることから、令和2年度は、児童生徒一人一人に応じた合理的配慮の目的及び内容の検討、合理的配慮の評価・見直しを進めるためのケース会議の在り方について研究協力校と共同で研究を行った。

## (2) 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～(三年次)」

平成 29 年 4 月、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が改訂され、小・中学校に準じた改善が図られるとともに「学びの連続性を重視した対応」の一つとして、知的障がいのある児童生徒のための各教科の整理と充実が図られた。

それを受けて、平成 30 年度より文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」及び福島県教育委員会「特別支援学校教科指導充実事業」の一環として取り組んできた研究である。県内の県立特別支援学校(知的障がい)と連携・協力し、授業研究や共通課題の協議など、各教科の指導の充実に係る取組を推進することを通して、新学習指導要領の趣旨の理解啓発、指導方法や体制づくりの検討など、県全体で研究を深め、その成果を指導の改善に生かすことを目指してきた。

令和 2 年度は最終年次として、これまでの成果と課題を踏まえてさらに研究を深めるとともに、各教科の指導の充実に向けたポイントや各学校の指導事例をまとめた実践事例集の作成に取り組んできた。

### 4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実を目指して広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Web サイトによる紹介等を推進した。

なお、3 月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は 6,920 冊、定期刊行物 6 種、教育資料数 4,915 点である。

### 5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Web サイトでも情報提供に努めた。

### 6 情報教育事業

専門研修講座を中心に、GIGA スクール構想の実現を踏まえた特別支援教育における ICT 活用に関する研修の企画運営を行った。障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るための ICT 活用を推進できるよう努めた。

## 第 2 節 教育相談事業

### 1 相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の障がい種別は次のとおりである。

- 視覚障がいにかかわる相談
- 聴覚障がいにかかわる相談
- 知的障がいにかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 病弱・身体虚弱にかかわる相談
- 言語障がいにかかわる相談
- 情緒障がい(場面緘黙等)にかかわる相談
- 発達障がいにかかわる相談
- その他(医師による診断のない者)の相談

### 2 形態

#### (1) センターでの相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、新型コロナウイルス感染症防止に努めながら、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容等によっては電話のみによる相談も行った。

#### (2) 要請を受けての学校・地域支援

困難な事例や特に必要な場合には保育所・幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から支援要請を受けて学校等に出向き、現地においての授業参観やケース会議を通しての相談を行った。

### 3 現状と課題

特別支援教育の校内体制については、各学校において特別支援教育の校内委員会や教育相談・進路指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが組織として機能してきたと考える。本センターの教育相談においては、そのような学校・地域等の組織とどのように連携し、学校等の支援体制の充実に寄与していくのか、さらに検討が必要である。

相談の主訴は、幼児については、就学に関連した多様な学びの場の情報提供についてが多く、小学生では、養育や学習面についての相談が多い。また、小学生から高校生までの幅広い年齢層で、学校生活への不適應による、「登校しぶり」「不登校」の相談や、「合理的配慮」についての相談がある。子どもが困難さを感じている背景を探り、適切な支援を考える必要から、関係者によるケース会議を開催する必要もある。また、小学校高学年から高校生については、自己理解を促す相談も重ねていく必要があり、大切にしている点でもある。

<年齢・学校別相談件数>

| 年齢・学校      |     | 乳幼児(歳) |    | 小学校(学年) |    |    |    |     |    | 中学校(学年) |    |    | 高等学校(学年) |    |    | 一般<br>他 | 計   |
|------------|-----|--------|----|---------|----|----|----|-----|----|---------|----|----|----------|----|----|---------|-----|
|            |     | 0～4    | 5  | 1       | 2  | 3  | 4  | 5   | 6  | 1       | 2  | 3  | 1        | 2  | 3  |         |     |
| センター<br>相談 | 実件数 | 8      | 16 | 8       | 13 | 10 | 13 | 23  | 15 | 14      | 9  | 13 | 13       | 6  | 6  | 9       | 176 |
|            | 延件数 | 14     | 25 | 44      | 34 | 58 | 35 | 117 | 48 | 82      | 16 | 40 | 38       | 10 | 32 | 11      | 604 |

<障がい種別相談件数>

| 障がい種       |     | 視覚<br>障がい | 聴覚<br>障がい | 知的<br>障がい | 肢<br>体<br>不<br>自<br>由 | 病<br>弱<br>虚<br>弱 | 言<br>語<br>障<br>が<br>い | 情<br>緒<br>障<br>が<br>い | 発<br>達<br>障<br>が<br>い | その他 | 計   |
|------------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|-----|
| センター<br>相談 | 実件数 | 2         | 8         | 20        | 7                     | 5                | 1                     | 1                     | 69                    | 63  | 176 |
|            | 延件数 | 5         | 11        | 62        | 13                    | 10               | 1                     | 1                     | 306                   | 195 | 604 |

<地区別相談件数>

| 地区  | 県北  | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | その他 | 計   |
|-----|-----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 延件数 | 184 | 327 | 33 | 30 | 0   | 2  | 11  | 17  | 604 |

### 第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上を目指し、講座内容の一層の充実を図った。

- 専門研修講座を16講座設け、そのうち8講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- 講義、演習、協議という流れで進めることで、理論から実践へ内容を展開することができ、研修者の理解を深めることができた。演習での話し合い活動や協議では、新

型コロナウイルス感染防止に配慮し、受講者同士の感覚が密にならないよう工夫して実施した。

- 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- 調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

#### 1 教職員の研修講座

##### (1) 専門研修

| 講 座 名                                                                         | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 発達障がいの教育Ⅰ 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応                                            | 7月1日   | 30      |
| 発達障がいの教育Ⅱ 発達障がいのある児童生徒のライフステージに応じた支援を考える                                      | 9月23日  | 12      |
| 特別支援教育の充実Ⅰ 障がいのある子どもを支える保護者や関係機関との連携                                          | 9月29日  | 29      |
| 特別支援教育の充実Ⅱ<br>通常の学級に在籍する多様な児童生徒が共に学ぶための指導の充実 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりと合理的配慮～ | 8月3日   | 28      |
| 特別支援教育の充実Ⅲ 多様な学びを支えるアセスメント                                                    | 7月9日   | 21      |
| 特別支援教育の充実Ⅳ<br>生徒の進路実現と生涯にわたる支援の充実 ～生涯にわたる支援のために～                              | 8月27日  | 30      |
| 特別支援教育の充実Ⅴ チーム力向上のための知識・理論 ～チームづくりのヒント：0JL～                                   | 10月1日  | 20      |
| 特別支援教育実践力アップⅠ 自立活動の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえて～                                       | 7月3日   | 30      |
| 特別支援教育実践力アップⅡ<br>知的障がい教育における各教科の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえて(算数編)～                     | 7月14日  | 32      |
| 特別支援教育実践力アップⅢ<br>特別支援学校における重度・重複障がいのある児童生徒の理解と授業づくり                           | 7月7日   | 22      |
| 特別支援教育実践力アップⅣ<br>特別支援学校における授業力向上 ～新学習指導要領を踏まえた目標と評価～                          | 9月17日  | 29      |
| 特別支援教育実践力アップⅤ<br>チーム力向上のためのメンタルヘルス                                            | 10月6日  | 25      |

| 講 座 名                                                                         | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 特別支援教育実践力アップⅥ<br>特別支援教育に活かすICT機器やデジタル教材 ～合理的配慮の充実に向けて～                        | 9月10日  | 31      |
| 特別支援教育実践力アップⅦ<br>連続性のある多様な学びのための小・中学校、高等学校、特別支援学校の連携<br>～切れ目のない支援のための学校間の引継ぎ～ | 7月27日  | 29      |
| 特別支援教育実践力アップⅧ 特別支援学級の学級経営 ～教育課程と授業づくり～                                        | 8月7日   | 19      |
| 幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携 ～子どもの発達を支える～                                            | 9月15日  | 15      |
| 計                                                                             |        | 402     |

(他に公開講座に24名、自主研修講座に5名が参加)

## (2) 基本研修

| 研 修 名                       | 期日及び期間                         | 受講者数(人) |
|-----------------------------|--------------------------------|---------|
| 特別支援学校初任者研修一般研修             | 4月15日～16日                      | 75      |
| 特別支援学校初任者研修カウンセリング研修        | 6月10日～11日                      | 71      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊一次研修           | 7月29日～30日(1班)<br>7月30日～31日(2班) | 66      |
| 特別支援学校初任者研修教育課程別研修          | 9月9日                           | 65      |
| 特別支援学校初任者研修学部別研修            | 11月11日                         | 64      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊二次研修           | 2月3日～5日                        | 65      |
| 特別支援学校2年次教員フォローアップ研修教科等指導研修 | 8月20日                          | 58      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅰ全体研修            | 6月16日～17日(1班)<br>6月18日～19日(2班) | 42      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ共通研修            | 6月23日～24日(1班)<br>6月25日～26日(2班) | 36      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ教科等指導研修         | 1月12日～13日(1班)<br>1月14日～15日(2班) | 36      |
| 計                           |                                | 578     |

## (3) 職能研修

| 研 修 名                   | 期日及び期間                   | 受講者数(人)  |
|-------------------------|--------------------------|----------|
| 特別支援学級等新任担当教員研修会        | (共通) 4月<br>(地区別) 10月～11月 | 中止<br>80 |
| 特別支援学級担当教員(経験三年)研修会     | (地区別) 9月                 | 59       |
| 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会  | (地区別) 6月                 | 中止       |
| 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会   | 5月15日                    | 中止       |
| 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会 | 5月24日                    | 中止       |
| 特別支援学校養護教諭研修会           | 8月21日                    | 24       |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月15日                    | 59       |
| 計                       |                          | 222      |

## 第4節 調査研究・教育研究事業

### 1 調査研究

「通常の学級等における合理的配慮の充実に向けた調査研究」～児童生徒一人一人に応じた合理的配慮に関する実践的な取組～

## (1) 調査研究の趣旨と目的

平成30年度に、本県が実施した「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」によると、小・中学校及び、義務教育学校の通常の学級及び高等学校（通信制は除く）に在籍し、学習面や行動面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が一定数おり、その内、本人又は保護者との合意形成のもと、合理的配慮が提供されている割合は30.7%であることが明らかになった。

それを受けて令和元年度に実施した実践研究により、以下の3つの大切なことが分かった。

- ・合理的配慮提供計画を作成し、年間の計画に位置付け、教職員で共有すること。
- ・合理的配慮の理解のための教職員の研修を行うこと。
- ・合理的配慮の理解のために児童生徒や保護者に説明を行うこと。

一方で、一人一人の具体的な提供内容の充実が課題となった。

そこで、令和2年度は、以下の目的で実践研究を行うこととした。

- ・通常の学級等に在籍する特別な支援が必要な児童生徒一人一人に応じた合理的配慮の提供ができるように、障がいに応じた取組の在り方について研究し、各学校における指導・支援の充実を目指す。
- ・研究協力校での取組を広く紹介し、各地域での合理的配慮の提供に向けた取組の促進を目指す。

## (2) 研究の実際

### ア 研究協力校との実践研究

研究協力校 喜多方市立松山小学校（会津地区）  
南相馬市立原町第三中学校（相双地区）  
福島県立修明高等学校（県南地区）

#### (ア) 合理的配慮の提供に向けた教職員の研修や提供計画の自校化

研究協力校の要請に応じて、当センター所員が、合理的配慮について説明する機会を設けた。また、「合理的配慮リーフレット事例編（令和2年3月発行）福島県教育委員会」を参考に、研究協力校各校で合理的配慮提供計画を作成した。

#### (イ) 児童生徒一人一人に応じた合理的配慮の目的及び内容の検討

特別支援教育コーディネーターや担任、児童生徒に関わる先生方でケース会議を開き、実態把握の方法を、視点を絞った話し合いや授業参観、実態に関する気づきの回覧など、校種により工夫して実施し、必要な支援策の検討を行った。

#### (ウ) 合理的配慮の評価・見直し

ケース会議で検討した支援策を実践して気づいたことや改善策を出し合い、児童生徒の実態に適した合理的配慮を見直した。

### イ 調査研究推進会議の実施

宮城学院女子大学教育学部教育学科教授 梅田真理先生を調査研究アドバイザーに迎え、年2回の調査研究推進会議を開催し、研究協力校との取組の進め方やケース会議の実態把握の視点や在り方について研究を行った。

#### ウ アンケートの実施（合理的配慮、ケース会議についての質問紙調査）

6月と11月に研究協力校3校にアンケートを実施し、合理的配慮とケース会議について実態把握や意識調査を行った。

### エ 研究成果等の情報発信

合理的配慮のためのケース会議の在り方について、リーフレット「合理的配慮の提供のために やってみよう！ケース会議～校内での効果的な話し合いに向けて～（令和3年3月）」を発行し、県内全ての市町村立学校、国立学校、県立学校、私立学校に配付するとともに、Webサイトにも掲載して周知と取組の促進を図った。

## (3) 研究のまとめ

### ア 研究協力校との実践研究

#### (ア) 学校に応じた合理的配慮の提供計画の作成（自校化）

- 学校規模や実態に応じ、担任中心の少人数、全職員、生徒指導部教育相談係などメンバーを工夫し、組織的にケース会議を運営することができた。
- ケース会議開催にあたっては、特別支援教育コーディネーターを中心に複数の運営メンバーを配置し、相談しながら開催することが効果的であり、持続可能と考えられた。
- 合理的配慮の提供計画見直しの際には、特別支援学校のセンター的機能を活用することが有効であると言える。

#### (イ) 児童生徒一人一人に応じた合理的配慮の目的及び内容の検討

- 検討の際は、付箋等を活用して児童生徒の困難な点を可視化し、情報の収集や項目分けなどで多くの情報を整理・共有することができた。また、教職員間での情報共有ができたことで、実態を多面的に捉えるとともに、必要な支援内容を確認して実施することができた。
- ケース会議の充実と効率化のためには、話し合いの方向性を事前に定めることや、必要な資料や児童生徒の学びの様子が分かる資料の活用も有効である。
- 進行役は、会議の設定の仕方や進め方のコーディネーター力の向上も図る必要がある。

#### (ウ) 合理的配慮の評価・見直し

- 合理的配慮の3観点11項目で提供内容の評価・見直しを行い、見直しの必要な項目や必要のない項目を整理することができた。また、評価・見直しの過程で、児童生徒の行動の変容や課題を克服する姿を捉え直すことで、児童生徒理解を深めることができた。

- 評価・見直しにおいては、有効な配慮は継続し、また、成長により不要となった場合や効果が見られない場合は、再度、児童生徒の困難な点の背景要因から検討することが必要である。

#### イ 今後の取組に向けて

##### (ア) 合理的配慮の提供を考えるケース会議のもち方の提案

- ケース会議の前に、できるだけ多くの視点で情報を収集し、丁寧な実態把握を行うこと。
- 特別支援教育コーディネーターを中心とし、児童生徒にかかわる少人数によるケース会議を実施し、支援策を決定し、全体へ共有すること。
- 同様に取組の情報収集をし、少人数によるケース会議で支援策を評価し、見直していくこと。

##### (イ) 丁寧な実態把握

##### (ウ) 合理的配慮の内容の充実のための情報発信

#### ウ おわりに

児童生徒一人一人に応じた合理的配慮が提供されることは、すべての児童生徒がもてる力を最大限に発揮しながら「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現にとって極めて重要である。

今後も県内すべての学校において合理的配慮の提供が一層推進されるように、合理的配慮に関する理解を促すための研修の充実や情報発信に引き続き取り組んでいく。

## 2 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～(三年次)」

### (1) 研究の趣旨と目的

新学習指導要領では、小・中学校等に準じた改善が図られるとともに、インクルーシブ教育システムの推進を踏まえて、小・中学校等の教育課程との連続性を重視した改善が図られた。その中で、「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」（以下、知的障がいのある児童生徒のための各教科）においては、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されるとともに、各学部や各段階、幼稚園や小・中学校の各教科等とのつながりに留意した充実が図られている。

そこで、新学習指導要領を踏まえた実践研究により、知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実を図り、児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上に資することを目的に本研究を設定した。

本研究を通して、各教科の指導に係る各教員の指導力の向上や、児童生徒の学びの充実、学びの連続性の実現、各学校のカリキュラム・マネジメントの充実など、特別支援学校の授業や教育課程の改善・充実が期待される。

### (2) 研究の経過

ア 「『学びの履歴』シート〔2020年版〕」の発信と活用  
本シートを参考に自校用のシートを作成したり、指導内容表を活用し、児童生徒一人一人の学習状況を記入したりするなど、教科の目標や内容に即した学習状況を把握し、授業や教育課程へ生かそうとする取組が見られるようになった。

#### イ 各教科の指導と評価の充実に向けた授業研究

##### (ア) 研究協力校連絡協議会における協議

- 目標設定や評価の具体的な手続きについての研修が必要であるとともに、個人の研修のみに頼るものではなく、教育課程や年間指導計画と連動したシステムとしての明確化が必要であることが挙げられた。

##### (イ) 実践協力校の取組

###### ○ 福島県立会津支援学校の取組

- ・ 「授業シート」を活用して授業づくりのポイントや課題を明確化する。
- ・ 学部ごとに教科別小グループを編成し、全体研究日にグループごとに協議を行う。
- ・ 作成した「授業シート」をデータベース化する。
- ・ 小学部国語科（教科別の指導）の授業実践

###### ○ 福島県立たむら支援学校の取組

- ・ クラスシート・プラン（単元計画、本時の計画）
- ・ クラスシート・チェック（評価・改善、事後検討会で使用）
- ・ クラスシート・まとめ（記録、事例集）
- ・ 小学部各教科等を合わせた指導（生活単元学習）の授業実践

#### ウ カリキュラム・マネジメントの充実を目指した実践研究

##### (ア) 研究協力校連絡協議会における協議

- いずれの学校においても各教科の内容を履修するための具体的な方策について課題を感じている。年間指導計画のモデルを作成し、卒業までを見通した指導内容の配列を具体的に検討する取組も見られる。知的障がいの程度などの実態の違いや、教科の枠組みを越えた教科等横断的な資質・能力の育成なども考慮した教育課程の編成や指導計画の作成が必要である。

##### (イ) 実践協力校の取組

###### ○ 相馬支援学校の取組

- ・ 校内研究・校内研修「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの充実」
- ・ 「教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践する」ことをコンセプトにした単元案の作成
- ・ 「教員同士が学び合い、本時の授業力・単元構想力を高める」ことをコンセプトにした単元研究会の実施

エ 各教科の指導の充実に係る実践事例集の作成  
本研究の研究協力校 10 校と当センターが連携・協力し、各教科の指導の充実にに向けたポイントをまとめるとともに、できるだけ幅広い教科の種類、子どもの姿が見える実践事例集として編集した。

オ 教育研究に係るアンケートの実施と分析

(ア) アンケートの概要

- 期間：令和 2 年 10 月～11 月
- 対象：研究協力校 10 校（各校代表者 1 名が記入）
- 内容：自校の新学習指導要領の実施状況等
- 方法：4 段階評価及び記述式

(イ) アンケート結果と考察（抜粋）

- 学習指導要領の具体的な改訂内容の把握及び授業づくりの際の学習指導要領の活用に対しては、高い評価を示している。
- カリキュラム・マネジメントについてはどの学校も取り組んでいるが、半数の学校が体制づくりやスケジュールの課題を挙げている。
- 多くの学校で評価について課題を感じていることが推察される。特に、単元における評価計画や評価規準の設定方法、主体的に学習に取り組む態度の評価など、評価に係わる具体的な手続きや体制づくりについて今後の整備と充実が必要であると考えられる。
- 小学部 6 年間、中学部 3 年間、高等部 3 年間を見通した指導計画については、すべての学校で課題となる事項であると考えられる。年間指導計画や単元配列のモデルを作成するなどの取組も見られることから、各校の好事例をモデルとした取組や研究が必要であると考えられる。

### (3) 研究のまとめ

ア 成果

(ア) 新学習指導要領の趣旨についての理解啓発

- 新学習指導要領の趣旨の理解が広がり、各校で新学習指導要領を活用した研修や、各教科の目標・内容を踏まえた授業改善を積極的に進めることができた。
- これまでの研究成果や研究協力校の具体的な実践事例をまとめ、発信することができた。

(イ) 教育課程の編成や指導方法の工夫改善に向けた方策の検討（研究協力校との取組）

- 各学校において、各教科の指導と評価の充実を目指した授業研究やカリキュラム・マネジメントを踏まえた年間指導計画の工夫と改善等を進めるとともに、研究協力校連絡協議会において、各学校の取組についての情報共有と共通課題についての協議を行い、新学習指導要領に係る実践研究を深めることができた。
- 研究協力校を対象にしたアンケート結果を基に、本研究 3 年間の成果と今後の課題を明確にすることができた。

(ウ) 児童生徒の学びの連続性を確保するためのシステムの構築

- 児童生徒の学習状況を的確に捉えることや、連続性のある教育課程や指導計画に向けた改善を図ることなど、系統性や連続性を重視する志向が高まった。

イ 課題

(ア) 各学部・各段階・教科ごとの具体的な指導事例をデータベース化すること。

(イ) 評価の具体的な手続きや児童生徒の学習評価・指導改善に関わる研修を充実させること。

(ウ) 教科等横断的な視点及び卒業までを見通した教育課程・指導計画の改善・充実を図ること。

## 3 長期研究員制度による研究

平成 29 年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、各自が研究テーマを設定して、計画、実践、評価をして二年次に研究をまとめ、発表・報告を行うこととしている。令和 2 年度は 4 名が研究に取り組み、福島県特別支援教育センター研究発表会では二年次の 2 名が研究のまとめを発表し、一年次の 2 名がポスター発表で中間報告した。また、研究成果を「研究紀要」にまとめた。

## 第 5 節 教育図書・資料の収集・提供事業

### 1 教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度 219 冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は 6,920 冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が 2,006 冊、その他の図書が 4,914 冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等）に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は 6 種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した 478 冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

## 第 6 節 広報・啓発事業

### 1 所報「特別支援教育」(73 号)

(1) 内容

ア 巻頭言

「福島県特別支援教育の未来の幕開け」

福島県立聴覚支援学校 校長 小檜山 宗浩

イ 特集「幼児児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を目指して」

(ア) 教育研究から「3年間の実践研究を振り返って」

(イ) 調査研究から「一人一人に応じた合理的配慮の内容の充実に向けて」

ウ 研修ノート

(ア) 研修講座から「個の実態把握に基づいた自立活動の指導目標と指導内容の設定」

(イ) 学校教育指導委員から

エ 随想

(ア) 各学校の先生方から

(イ) 2年間の長期研究を通して

オ 研修報告

(ア) 国立特別支援教育総合研究所での研修から

(イ) 福島大学教職大学院での研修から

カ 教育相談

(ア) 相談者の思いに寄り添った教育相談

キ インフォメーション

(ア) コロナ禍の中で～令和2年度教員研修を振り返って

(イ) 子どもたちの学びの充実に向けて

ク 編集後記

## (2) 規格、ページ等

ア 規格A4判

イ ページ数30ページ

ウ Webサイトで公開

エ 各関係機関へ配付

## 2 研究紀要「第34号」

### (1) 内容

ア 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の充実」(三年次)～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～

イ 調査研究

「通常の学級等における合理的配慮の充実に向けた調査研究」～児童生徒一人一人に応じた合理的配慮に関する実践的な取組～

ウ 長期研究員研究

○ 「対人関係に困難さを抱える児童の背景をとらえた支援の在り方」～児童の行動の見方の整理と支援策の検討～(一年次)

○ 「特別な教育的支援を必要とする子どもに『できた』という実感を生み出す指導・支援の在り方～達成可能な目標づくりの支援と『できた』を実感できる場面の意図的設定～」(一年次)

○ 「困難さに寄り添う通常の学級における算数科授業づくり～つまずきの背景をとらえた指導の工夫と個別の配慮～」(二年次)

○ 「特別な教育的支援を必要とする児童に対する効果的な生徒指導の在り方～児童の思いや願いに視点をあてた児童理解を通して～」(二年次)

## (2) 規格、ページ、部数

ア 規格A4判

イ ページ数70ページ

ウ Webサイトで公開

エ 各関係機関へ配付

## 第7節 情報教育事業

### 1 ICT活用支援

専門研修講座において、「特別支援教育に活かすICT機器やデジタル教材－合理的配慮の充実に向けて－」を実施し、講義や教材・支援機器・ICT等の活用についての演習を行い、特別支援教育における教材・支援機器等の活用促進と実践力や専門性の向上を図った。

また、初任者研修の基本研修において、情報モラルに関する講義を実施した。

### 2 情報機器活用

専門研修講座を中心に、支援機器に関する情報提供やWebカメラ等の貸出を行った。

### 3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

広報・啓発事業担当者と協力し、「合理的配慮の提供のために やってみよう！ケース会議～校内での効果的な話し合いに向けて～」をWebサイトに掲載し、「教材・支援機器ポータル」等、適宜新しい情報の追加を行った。

○ 本センターWebサイトアクセス件数2,030,538件

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)





---

---

## 令和2年度実績 教育年報

発行 令和4年3月24日  
編集発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町2-16  
TEL (024) 521-7759

---

---